前期博士課程科目

※【休】の表示がある科目は履修できないので注意すること。
※入学年度によって履修できる科目・標準履修年次が異なります。
入学時に配布された履修の手引きと本冊子P1を参照のこと。

■哲学歴史学専攻

科目名欄　「☆」～2019年度入学生　履修可能　「★」2020～入学生　履修可能。

科目名	開講期･曜日･時限	教員名	単位数	備考	授業コード	科目ナンバー
人間文化学研究Ⅰ	後月4	仲原	2		LM00010010	LAGEN1501
人間文化学研究Ⅱ	後火1	仁木･平田･北村	2		LM00020010	LAGEN1502
哲学研究	前水4	佐金	2		LM01010010	LAPHL2501
哲学研究演習	後水4	佐金	2		LM01020010	LAPHL2502
西洋哲学史研究	前木4	(加藤)	2	学部共通	LM01260010	LAPHL2503
西洋哲学史研究演習	前火2	高梨	2		LM01270010	LAPHL2504
倫理学研究	前火4	土屋	2		LM01280010	LAPHL2505
倫理学研究演習	後火4	土屋	2		LM01290010	LAPHL2506
美学研究	前木3	高梨	2		LM01130010	LAPHL2507
美学研究演習	後木3	高梨	2		LM01140010	LAPHL2508
宗教学研究	前月3	仲原	2		LM01300010	LAPHL2509
宗教学研究演習	後月3	仲原	2		LM01310010	LAPHL2510
論理学･科学哲学研究Ⅰ		【休】	2		LM01170010	LAPHL2511
論理学･科学哲学研究Ⅱ		【休】	2		LM01180010	LAPHL2512
哲学総合研究Ⅰ	前金2	仲原･高梨･土屋･佐金	2		LM01200010	LAPHL2513
哲学総合研究Ⅱ	後金2	仲原･高梨･土屋･佐金	2		LM01210010	LAPHL2514
哲学研究指導Ⅰ	前金1	高梨･仲原	2		LM01220010	LAPHL3601
哲学研究指導Ⅱ	後金1	高梨･仲原	2		LM01230010	LAPHL3602
修士論文(哲学)	通年集中	仲原･高梨	0		LM18000010	
日本史学研究Ⅰ	前火2	磐下	2		LM02010010	LAJPH2501
日本史学研究演習1	後火2	磐下	2		LM02020010	LAJPH2502
日本史学研究Ⅱ	前集中	仁木	2		LM02030010	LAJPH2503
日本史学研究演習2	後月2	仁木	2		LM02040010	LAJPH2504
日本史学研究Ⅲ	前水2	齊藤	2		LM02050010	LAJPH2505
日本史学研究演習3	後水3	齊藤	2		LM02060010	LAJPH2506
日本史学研究Ⅳ	前火3	佐賀	2		LM02070010	LAJPH2507
日本史学研究演習4	後火3	佐賀	2		LM02080010	LAJPH2508
日本史学研究Ⅴ	前集中	(吉田(歓))	2	学部共通	LM02090010	LAJPH2509
日本史学研究Ⅵ	後水1	(海原)	2	学部共通	LM02100010	LAJPH2510
考古学研究	前木2	岸本	2		LM02110010	LAJPH2511
考古学研究演習	後木2	岸本	2		LM02120010	LAJPH2512
日本史学総合研究Ⅰ	前月1	岸本･仁木･佐賀･磐下･齊藤	2		LM02130010	LAJPH2513
日本史学総合研究Ⅱ	後月1	岸本･仁木･佐賀･磐下･齊藤	2		LM02140010	LAJPH2514
日本史学研究指導Ⅰ	前金1	岸本･仁木･佐賀	2		LM02150010	LAJPH3601
日本史学研究指導Ⅱ	後金1	岸本･仁木･佐賀	2		LM02160010	LAJPH3602
修士論文(日本史)	通年集中	岸本･仁木･佐賀	0		LM18000020	
東洋史学研究Ⅰ	前水5	平田	2		LM03010010	LAWHE2501
東洋史学研究演習1	後水5	平田	2		LM03020010	LAWHE2502
東洋史学研究Ⅱ	前水4	平田	2		LM03030010	LAWHE2503
東洋史学研究演習2	後水4	平田	2		LM03040010	LAWHE2504
東洋史学研究Ⅲ	前木3	渡辺	2		LM03050010	LAWHE2505
東洋史学研究演習3	後木3	渡辺	2		LM03060010	LAWHE2506
東洋史学研究Ⅳ	前火3	上野	2		LM03070010	LAWHE2507
東洋史学研究演習4	後火3	上野	2		LM03080010	LAWHE2508
東洋史学研究Ⅴ	前集中	(大野)	2	学部共通	LM03090010	LAWHE2509
東洋史学研究Ⅵ	後集中	(辻(明))	2	学部共通	LM03100010	LAWHE2510
東洋史学総合研究Ⅰ	前火5	平田･渡辺･上野･濱本	2		LM03130010	LAWHE2511
東洋史学総合研究Ⅱ	後火5	平田･渡辺･上野･濱本	2		LM03140010	LAWHE2512
東洋史学研究指導Ⅰ	前木5	平田･渡辺	2		LM03150010	LAWHE3601
東洋史学研究指導Ⅱ	後木5	平田･渡辺	2		LM03160010	LAWHE3602
修士論文(東洋史)	通年集中	平田･渡辺	0		LM18000030	
世界史学研究	前水2	濱本	2	学部共通	LM03170010	LAGEM2501
世界史学研究演習	後水2	濱本	2		LM03180010	LAGEM2502
西洋史学研究Ⅰ		【休】	2		LM04010010	LAWEW2503
西洋史学研究演習1	前水2	(足立)	2		LM04020010	LAWEW2504

西洋史学研究Ⅱ	前木4	草生	2		LM04030010	LAWEW2505
西洋史学研究演習2	後木4	草生	2		LM04040010	LAWEW2506
西洋史学研究Ⅲ	前火3	草生	2		LM04050010	LAWEW2507
西洋史学研究演習3	後火3	北村	2		LM04060010	LAWEW2508
西洋史学研究Ⅳ	前月2	北村	2		LM04070010	LAWEW2509
西洋史学研究演習4	後月2	北村	2		LM04090010	LAWEW2510
西洋史学研究Ⅴ	後月3	(図師)	2	学部共通	LM04100010	LAWEW2511
西洋史学研究Ⅵ		【休】	2		LM04110010	LAWEW2512
西洋史学総合研究Ⅰ	前火5	北村・草生	2		LM04130010	LAWEW2513
西洋史学総合研究Ⅱ	後火5	北村・草生	2		LM04140010	LAWEW2514
西洋史学研究指導Ⅰ	前月1	北村・草生	2		LM04150010	LAWEW3601
西洋史学研究指導Ⅱ	後月1	北村・草生	2		LM04160010	LAWEW3602
修士論文(西洋史)	通年集中	北村・草生	0		LM18000040	

■人間行動学専攻

科目名	開講期・曜日・時限	教員名	単位数	備考	授業コード	科目ナンバー
人間行動学研究Ⅰ	後月3	(進藤)	2	学部共通		
人間行動学研究Ⅱ	前集中	(高橋)	2	学部共通	LM00040010	LBGEN1502
人間行動学研究Ⅲ	後集中	(西村)	2	学部共通	LM00050010	LBGEN1503
人間行動学研究Ⅳ	前金2	(大場)	2	学部共通	LM00060010	LBGEN1504
社会学基礎問題研究Ⅰ	前火4	石田	2		LM05010010	LBSOC2501
社会学基礎問題研究演習1	後火4	石田	2		LM05020010	LBSOC2502
社会学基礎問題研究Ⅱ		【休】	2		LM05030010	LBSOC2503
社会学基礎問題研究演習2		【休】	2		LM05040010	LBSOC2504
社会学特殊問題研究Ⅰ	前水4	伊地知	2		LM05050010	LBSOC2505
社会学特殊問題研究演習1	後水3	伊地知	2		LM05060010	LBSOC2506
社会学特殊問題研究Ⅱ	前木3	川野	2		LM05070010	LBSOC2507
社会学特殊問題研究演習2	後木4	川野	2		LM05080010	LBSOC2508
社会学特殊問題研究Ⅲ	前火3	平山	2		LM05090010	LBSOC2509
社会学特殊問題研究演習3	後火3	平山	2		LM05100010	LBSOC2510
社会学特殊問題研究Ⅳ		【休】	2		LM05110010	LBSOC2511
社会学特殊問題研究Ⅴ	後水1	(本郷)	2	学部共通	LM05120010	LBSOC2512
社会学総合研究Ⅰ	前火5	石田・伊地知・川野・平山	2		LM05140010	LBSOC2513
社会学総合研究Ⅱ	後火5	石田・伊地知・川野・平山	2		LM05150010	LBSOC2514
社会学研究指導Ⅰ	前月5	石田・伊地知・川野	2		LM05170010	LBSOC3601
社会学研究指導Ⅱ	後月5	石田・伊地知・川野	2		LM05180010	LBSOC3602
修士論文(社会学)	通年集中	石田・伊地知・川野	0		LM18000050	
心理学基礎問題研究	前月2	山	2		LM06010010	LBPSY2501
心理学基礎問題研究演習	後月2	山	2		LM06020010	LBPSY2502
実験心理学研究	前月4	川邉	2		LM06030010	LBPSY2503
実験心理学研究演習	後月4	川邉	2		LM06040010	LBPSY2504
心理学特殊問題研究Ⅰ	前火3	佐伯	2		LM06050010	LBPSY2505
心理学特殊問題研究演習1	後火3	佐伯	2		LM06060010	LBPSY2506
心理学特殊問題研究Ⅱ	前木3	橋本	2		LM06070010	LBPSY2507
心理学特殊問題研究演習2	後木3	橋本	2		LM06080010	LBPSY2508
心理学特殊問題研究Ⅲ		【休】	2		LM06090010	LBPSY2509
心理学特殊問題研究Ⅳ		【休】	2		LM06100010	LBPSY2510
心理学総合研究Ⅰ	前火5	山・川邉・佐伯・橋本	2		LM06110010	LBPSY2511
心理学総合研究Ⅱ	後火5	山・川邉・佐伯・橋本	2		LM06120010	LBPSY2512
心理学研究指導Ⅰ	前月5	山・川邉	2		LM06130010	LBPSY3601
心理学研究指導Ⅱ	後月5	山・川邉	2		LM06140010	LBPSY3602
修士論文(心理学)	通年集中	山・川邉	0		LM18000060	
教育学基礎問題研究	前金5	(柏木)	2		LM07010010	LBEDU2501
教育学基礎問題研究演習	後金5	(柏木)	2		LM07020010	LBEDU2502
学校教育学研究Ⅰ	前火1	島田	2		LM07030010	LBEDU2503
学校教育学研究演習1	後火2	島田	2		LM07040010	LBEDU2504
学校教育学研究Ⅱ	前木5	(森)	2		LM07050010	LBEDU2505
学校教育学研究演習2	後木5	(森)	2		LM07060010	LBEDU2506
教育学特殊問題研究Ⅰ	前火3	辻野	2		LM07070010	LBEDU2507
教育学特殊問題研究演習1	後月4	辻野	2		LM07080010	LBEDU2508
教育学特殊問題研究Ⅱ	前月1	添田	2		LM07090010	LBEDU2509

教育学特殊問題研究演習2	後月1	添田	2		LM07100010	LBEDU2510
教育学総合研究Ⅰ	前金2	添田・辻野・島田	2		LM07110010	LBEDU2511
教育学総合研究Ⅱ	後金2	添田・辻野・島田	2		LM07120010	LBEDU2512
教育学研究指導Ⅰ	前水2	添田	2		LM07130010	LBEDU3601
教育学研究指導Ⅱ	後水4	添田	2		LM07140010	LBEDU3602
修士論文(教育学)	通年集中	添田	0		LM18000070	
地理学基礎問題研究	前火3	山﨑	2		LM08010010	LBGEO2501
地理学基礎問題研究演習	後火3	山﨑	2		LM08020010	LBGEO2502
地理情報論研究	前木3	木村	2		LM08030010	LBGEO2503
地理情報論研究演習	前木4	木村	2		LM08040010	LBGEO2504
人文地理学特殊問題研究Ⅰ	後月2	水内	2		LM08050010	LBGEO2505
人文地理学特殊問題研究演習1	前月2	水内	2		LM08060010	LBGEO2506
人文地理学特殊問題研究Ⅱ	前水4	菅野	2		LM08070010	LBGEO2507
人文地理学特殊問題研究演習2	後水4	菅野	2		LM08080010	LBGEO2508
人文地理学特殊問題研究Ⅲ	前火2	祖田	2		LM08090010	LBGEO2509
人文地理学特殊問題研究演習3	後木4	祖田	2		LM08100010	LBGEO2510
地理学総合研究Ⅰ	前木5	水内・山﨑・祖田・木村・菅野	2		LM08130010	LBGEO2511
地理学総合研究Ⅱ	後木5	水内・山﨑・祖田・木村・菅野	2		LM08140010	LBGEO2512
地理学研究指導Ⅰ	前月5	水内・山﨑・祖田	2		LM08150010	LBGEO3601
地理学研究指導Ⅱ	後月5	水内・山﨑・祖田	2		LM08160010	LBGEO3602
修士論文(地理学)	通年集中	水内・山﨑・祖田	0		LM18000080	

■言語文化学専攻

科目名欄　「☆」～2019年度入学生　履修可能　「★」2020～入学生　履修可能。

科目名	開講期・曜日・時限	教員名	単位数	備考	授業コード	科目ナンバー
言語文化学研究Ⅰ		【休】	2		LM00070010	LCGEN1501
言語文化学研究Ⅱ	前火2	山崎(雅)	2		LM00080010	LCGEN1502
言語文化学研究Ⅲ	後火1	大岩本	2		LM00090010	LCGEN1503
言語文化学研究Ⅳ		【休】	2		LM00100010	LCGEN1504
国文学研究Ⅰ	前月4	久堀	2		LM09010010	LCJPN2501
国文学研究演習1	後月4	久堀	2		LM09020010	LCJPN2502
国文学研究Ⅱ	前木4	小林	2		LM09030010	LCJPN2503
国文学研究演習2	後木4	小林	2		LM09040010	LCJPN2504
国文学研究Ⅲ	前木3	山本	2		LM09050010	LCJPN2505
国文学研究演習3	後水3	山本	2		LM09060010	LCJPN2506
国文学研究Ⅳ	前月3	奥野	2		LM09070010	LCJPN2507
国文学研究演習4	後月3	奥野	2		LM09080010	LCJPN2508
国語学研究	前月2	丹羽	2		LM09190010	LCJPN2509
国語学研究演習	後月2	丹羽	2		LM09200010	LCJPN2510
国語国文学研究	前水2	(佐野)	2	学部共通	LM09210010	LCJPN2511
国語国文学研究演習	後水2	(佐野)	2	学部共通	LM09220010	LCJPN2512
国語国文学総合研究Ⅰ	前火5	丹羽・小林・久堀・奥野・山本	2		LM09130010	LCJPN2513
国語国文学総合研究Ⅱ	後火5	丹羽・小林・久堀・奥野・山本	2		LM09140010	LCJPN2514
国語国文学研究指導Ⅰ	前月5	丹羽・小林・久堀	2		LM09150010	LCJPN3601
国語国文学研究指導Ⅱ	後月5	丹羽・小林・久堀	2		LM09160010	LCJPN3602
修士論文(国語国文学)	通年集中	丹羽・小林・久堀	0		LM18000090	
中国文学研究	前木3	高橋	2		LM10210010	LCCHN2501
中国文学研究演習	後木3	高橋	2		LM10220010	LCCHN2502
中国文化学研究	前火4	張	2		LM10050010	LCCHN2503
中国文化学研究演習	後火4	張	2		LM10060010	LCCHN2504
中国語学研究	前月3	大岩本	2		LM10230010	LCCHN2505
中国語学研究演習	後月3	大岩本	2		LM10240010	LCCHN2506
中国文献文化学研究Ⅰ		【休】	2		LM10250010	LCCHN2507
中国文献文化学研究演習1		【休】	2		LM10260010	LCCHN2508
中国文献文化学研究Ⅱ		【休】	2		LM10270010	LCCHN2509
中国語応用研究	後金1	張・大岩本	2		LM10310010	LCCHN2510
中国語中国文学総合研究Ⅰ	前金2	張・大岩本・高橋	2		LM10130010	LCCHN2511
中国語中国文学総合研究Ⅱ	後金2	張・大岩本・高橋	2		LM10140010	LCCHN2512
中国語中国文学研究指導Ⅰ	前水4	張・大岩本	2		LM10150010	LCCHN3601
中国語中国文学研究指導Ⅱ	後水4	張・大岩本	2		LM10160010	LCCHN3602
修士論文(中文)	通年集中	張・大岩本	0		LM18000100	
英文学研究Ⅰ		【休】	2		LM11010010	LCENG2501

英文学研究演習1		【休】	2		LM11020010	LCENG2502
英文学研究Ⅱ	前木4	田中(孝)	2		LM11030010	LCENG2503
英文学研究演習2	後木4	田中(孝)	2		LM11040010	LCENG2504
英文学研究Ⅲ	前火4	内丸	2		LM11050010	LCENG2505
英文学研究演習3	後木3	内丸	2		LM11060010	LCENG2506
米文学研究	前水4	古賀	2		LM11070010	LCENG2507
米文学研究演習	後水4	古賀	2		LM11080010	LCENG2508
英米文化学研究	前月3	リチャーズ	2		LM11090010	LCENG2509
英米文化学研究演習	後月4	リチャーズ	2		LM11100010	LCENG2510
英語学研究Ⅰ	前木2	豊田	2		LM11110010	LCENG2511
英語学研究演習1	後火4	豊田	2		LM11120010	LCENG2512
英語学研究Ⅱ	前集中	(藤川)	2	学部共通	LM11130010	LCENG2513
英語学研究演習2		【休】	2		LM11230010	LCENG2514
英米言語文化論		【休】	2		LM11140010	LCENG2515
英語英米文学総合研究Ⅰ	前金1	田中(孝)・豊田・リチャーズ・古賀・内丸	2		LM11150010	LCENG2516
英語英米文学総合研究Ⅱ	後金2	田中(孝)・豊田・リチャーズ・古賀・内丸	2		LM11160010	LCENG2517
英語英米文学研究指導Ⅰ	前金2	田中(孝)・豊田	2		LM11170010	LCENG3601
英語英米文学研究指導Ⅱ	後金1	田中(孝)・豊田	2		LM11180010	LCENG3602
修士論文(英文)	通年集中	田中(孝)・豊田	0		LM18000110	
ドイツ語フランス語圏言語文化研究Ⅰ		【休】	2		LM13210010	LCDFX2501
ドイツ語フランス語圏言語文化研究Ⅱ	前集中	(中條)	2	学部共通	LM13220010	LCDFX2502
ドイツ語圏文学研究Ⅰ	前木4	髙井	2		LM13230010	LCDFD2501
ドイツ語圏文学研究演習1	後木4	髙井	2		LM13240010	LCDFD2502
ドイツ語圏文学研究Ⅱ	後月4	長谷川	2		LM13250010	LCDFD2503
ドイツ語圏文学研究演習2	後木2	長谷川	2		LM13260010	LCDFD2504
ドイツ語圏文化学研究		【休】	2		LM13270010	LCDFD2505
ドイツ語圏文化学研究演習	後火4	長谷川	2		LM13280010	LCDFD2506
ドイツ語学研究		【休】	2		LM12090010	LCDFD2507
ドイツ語学研究演習	前金3	(神竹)	2		LM12100010	LCDFD2508
フランス語圏文学研究	前火3	原野	2		LM13290010	LCDFF2501
フランス語圏文学研究演習	後火3	原野	2		LM13300010	LCDFF2502
フランス語圏文化学研究	前水2	白田	2		LM13310010	LCDFF2503
フランス語圏文化学研究演習	後水3	白田	2		LM13320010	LCDFF2504
フランス語学研究	後木4	福島	2		LM13090010	LCDFF2505
フランス語学研究演習	前木4	福島	2		LM13100010	LCDFF2506
フランス語圏言語文化論Ⅰ	後水4	原野	2		LM13330010	LCDFF2507
フランス語圏言語文化論Ⅱ	前木2	白田	2		LM13340010	LCDFF2508
ヨーロッパ言語文化学研究	後火2	[エルトレ]	2		LM13350010	LCDFX2503
多文化学研究		【休】	2		LM13360010	LCDFX2504
地域社会文化学研究Ⅰ		【休】	2		LM13370010	LCDFX2505
地域社会文化学研究Ⅱ	後水2	(岩本(和))	2	学部共通	LM13380010	LCDFX2506
ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究Ⅰ	前金2	福島・髙井・白田・原野・長谷川	2		LM13390010	LCDFX2507
ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究Ⅱ	後金2	福島・髙井・白田・原野・長谷川	2		LM13400010	LCDFX2508
ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅰ	前月5	髙井・福島・白田	2		LM13410010	LCDFX3601
ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅱ	後月5	髙井・福島・白田	2		LM13420010	LCDFX3602
修士論文(独仏)	通年集中	髙井・福島・白田	0		LM18000120	
言語応用学研究Ⅰ	前火4	山崎(雅)	2		LM14210010	LCLNG2501
言語応用学研究演習1	後火4	山崎(雅)	2		LM14220010	LCLNG2502
言語応用学研究Ⅱ	前木3	田中(一)	2		LM14230010	LCLNG2503
言語応用学研究演習2	後水4	田中(一)	2		LM14240010	LCLNG2504
言語応用学研究Ⅲ	前木2	辻(香)	2		LM14250010	LCLNG2505
言語応用学研究演習3	後水3	辻(香)	2		LM14260010	LCLNG2506
言語応用学研究Ⅳ	前火3	(井狩)	2		LM14270010	LCLNG2507
言語応用学研究演習4	後火3	(井狩)	2		LM14280010	LCLNG2508
言語応用学総合研究Ⅰ	前金1	山崎(雅)・田中(一)・辻(香)・小倉	2		LM14290010	LCLNG2509
言語応用学総合研究Ⅱ	後金1	山崎(雅)・田中(一)・辻(香)・小倉	2		LM14300010	LCLNG2510
言語応用学研究指導Ⅰ	前金2	山崎(雅)・田中(一)	2		LM14310010	LCLNG3601
言語応用学研究指導Ⅱ	後金2	山崎(雅)・田中(一)	2		LM14320010	LCLNG3602
修士論文(言応)	通年集中	山崎(雅)・田中(一)	0		LM18000130	

■文化構想学専攻

科目名欄　「☆」～2019年度入学生　履修可能　「★」2020～入学生　履修可能。

科目名 (読替科目)		開講期・曜日・時限	教員名	単位数	備考	授業コード	科目ナンバー
文化構想学研究a(表現文化)	★	前水2	野末・高島・増田・海老根	2		LM00130010	LEGEN1501
文化構想学研究b(アジア文化)	★	前月2	松浦・多和田・堀	2		LM00140010	LEGEN1502
文化構想学研究c(文化資源)	★	後火5	小田中・菅原・天野・沼田	2		LM00150010	LEGEN1503
テクスト文化論研究	★	後木4	野末	2		LM19010010	LEART2501
テクスト文化論研究演習	★	前木2	野末	2		LM19020010	LEART2502
比較表現論研究	★	後木2	高島	2		LM19030010	LEART2503
比較表現論研究演習	★	前木4	高島	2		LM19040010	LEART2504
ポピュラー文化論研究	★	前火2	増田	2		LM19050010	LEART2505
ポピュラー文化論研究演習	★	後火2	増田	2		LM19060010	LEART2506
表象文化構造論研究	★	前火3	海老根	2		LM19070010	LEART2507
表象文化構造論研究演習	★	後火3	海老根	2		LM19080010	LEART2508
表現文化学特別講義a	★	前集中	(山中)	2	学部共通	LM19090010	LEART2509
表現文化学特別講義b	★	後集中	(木村(覚))	2	学部共通	LM19100010	LEART2510
表現文化学総合研究Ⅰ	★	前金1	高島・野末・増田	2		LM19110010	LEART2511
表現文化学総合研究Ⅱ	★	後金2	高島・野末・増田	2		LM19120010	LEART2512
表現文化学研究指導Ⅰ	★	前金3	野末・高島・増田	2		LM19130010	LEART3601
表現文化学研究指導Ⅱ	★	後金3	野末・高島・増田	2		LM19140010	LEART3602
修士論文(表文)	★	通年集中	野末・高島・増田	0		LM18000160	
アジア文化構想学研究演習	★	後水4	松浦・多和田・堀	2		LM20010010	LEASA2501
アジア地域文化創造論研究	★	前木3	松浦	2		LM20020010	LEASA2502
アジア地域文化創造論研究演習	★	後木3	松浦	2		LM20030010	LEASA2503
アジア共生文化政策論研究	★	前水3	多和田	2		LM20040010	LEASA2504
アジア共生文化政策論研究演習	★	後水3	多和田	2		LM20050010	LEASA2505
アジア比較文化実践論研究	★	前水2	堀	2		LM20060010	LEASA2506
アジア比較文化実践論研究演習	★	後水2	堀	2		LM20070010	LEASA2507
アジア文化学特別講義a	★	前水4	(シュラトフ)	2		LM20080010	LEASA2508
アジア文化学特別講義b	★	後金3	(王)	2		LM20090010	LEASA2509
アジア文化学総合研究Ⅰ	★	前金1	松浦・多和田・堀	2		LM20100010	LEASA2510
アジア文化学総合研究Ⅱ	★	後金1	松浦・多和田・堀	2		LM20110010	LEASA2511
アジア文化学研究指導Ⅰ	★	前月1	松浦・多和田・堀	2		LM20120010	LEASA3601
アジア文化学研究指導Ⅱ	★	後月1	松浦・多和田・堀	2		LM20130010	LEASA3602
修士論文(アジア)	★	通年集中	松浦・多和田・堀	0		LM18000170	
国際文化資源論研究	★	前火4	小田中	2		LM21010010	LECRS2501
国際文化資源論研究演習	★	後火4	小田中	2		LM21020010	LECRS2502
芸術文化資源論研究	★	前月4	菅原	2		LM21030010	LECRS2503
芸術文化資源論研究演習	★	後月4	菅原	2		LM21040010	LECRS2504
観光文化資源論研究	★	前木4	天野	2		LM21050010	LECRS2505
観光文化資源論研究演習	★	後木4	天野	2		LM21060010	LECRS2506
社会実践文化資源論研究	★	前水5	沼田	2		LM21070010	LECRS2507
社会実践文化資源論研究演習	★	後水5	沼田	2		LM21080010	LECRS2508
文化資源学特別講義a	★	前金3	(木川)	2	学部共通	LM21090010	LECRS2509
文化資源学特別講義b	★	後月2	(福田(一))	2	学部共通	LM21100010	LECRS2510
文化資源学総合研究Ⅰ	★	前金1	小田中・菅原・天野・沼田	2		LM21110010	LECRS2511
文化資源学総合研究Ⅱ	★	後金1	小田中・菅原・天野・沼田	2		LM21120010	LECRS2512
文化資源学研究指導Ⅰ	★	前木1	小田中・菅原	2		LM21130010	LECRS3601
文化資源学研究指導Ⅱ	★	後木1	小田中・菅原	2		LM21140010	LECRS3602
修士論文(文化資源)	★	通年集中	小田中・菅原	0		LM18000180	

◆共通科目

比較文化交流論Ⅰ		前集中	(KORNATOWSKI)	2	学部共通	LM17010010	LXGEN2501
比較文化交流論Ⅱ			【休】	2		LM17020010	LXGEN2502
国際都市文化論Ⅰ			【休】	2		LM17030010	LXGEN2503
国際都市文化論Ⅱ			【休】	2		LM17040010	LXGEN2504
国際都市社会論Ⅰ			【休】	2		LM17050010	LXGEN2505
国際都市社会論Ⅱ			【休】	2		LM17060010	LXGEN2506

授業科目名	科目NO.	LAGEN1501	授業コード	LM00010010
人間文化学研究Ⅰ Advanced Studies in Human and Culture Ⅰ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	仲原 孝			

●科目の主題

哲学の基本的な研究態度を身につけるとともに、受講者各自が主体的に問題を立て、必要な文献を探索して読解し、それを使って研究論文を構築するまでのプロセスを実践的に学ぶ。

●到達目標

受講者各自が哲学的な研究論文を構築する技能を身につけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

今年はカントの『純粋理性批判』をとりあげ、それを原書講読しながら、受講者が各自の問題意識に応じたテーマを設定し、それについての研究論文的レポートを作成するところまでを指導する。

授業は原則として対面授業で行なう。ただし、感染拡大などのゆえにやむなく遠隔授業に切り替えることもありうるので、大学からの通知に常に注意しておくこと。感染が判明したなどの理由で対面授業に出席できなくなった受講生は、すみやかにサポートセンターへ届け出て必要な指示を受けること。

授業計画は次のとおり。

第1回 オリエンテーション
第2回 原書講読 (1)
第3回 原書講読 (2)
第4回 原書講読 (3)
第5回 原書講読 (4)
第6回 原書講読 (5)
第7回 中間研究発表と講評
第8回 資料探索とレポート構築とのための指示
第9回 原書ないし資料講読 (1)
第10回 原書ないし資料講読 (2)
第11回 原書ないし資料講読 (3)
第12回 原書ないし資料講読 (4)
第13回 原書ないし資料講読 (5)
第14回 最終研究発表と講評
第15回 レポートへの評価。論文構成上の指導

●事前・事後学習の内容

毎回、その回の授業に関する要約の作成と、次回までに準備しておくべき課題とを指示するので、それを適切に果たしてから授業に臨むこと。随時、作成した要約や、課題についての報告を、レポートの形で提出するよう求める。

●評価方法

担当課題をどの程度適切に果たしたか、授業時の議論にどの程度積極的に参加したか、要求されたレポートは適切であったか、を総合的に考慮して評価する。

●受講生へのコメント

欠席・遅刻は大幅に減点する。特段の理由なく欠席した者には単位を認めないので注意すること。

●参考文献・教材

必要な資料は印刷して授業中に配布する。

授業科目名	科目NO.	LAGEN1502	授業コード	LM00020010
人間文化学研究Ⅱ Advanced Studies in Human and Culture Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	北村　昌史／仁木　宏／平田　茂樹			

●科目の主題

歴史学の意義と研究法

●到達目標

各受講生が歴史研究を行うに際して、専門とする分野に限定されない広い視野を養う。

●授業内容・授業計画

人間文化を歴史的に把握する意義を、理念・学史・方法の視点から検討する。日本史、東洋史、西洋史を横断し、広く「歴史とは何か」を考え、歴史的世界に規定された人間文化の併存と現代社会における人間文化の統合について理解を深め、現代社会において歴史学研究を行なう意味を確認する。授業は、受講者の報告を受けて進める。

第1回 ガイダンス
第2回 歴史とは何か①
第3回 歴史とは何か②
第4回 歴史学の歴史―日本―①
第5回 歴史学の歴史―日本―②
第6回 歴史学の歴史―中国―①
第7回 歴史学の歴史―中国―②
第8回 歴史学の歴史―ヨーロッパ―①
第9回 歴史学の歴史―ヨーロッパ―②
第10回 現代歴史学の方法①
第11回 現代歴史学の方法②
第12回 現代歴史学の方法③
第13回 現代歴史学の方法④
第14回 現代歴史学の方法⑤
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

事前に指示された文献を読んでおくこと。授業を通して得られたことを総合レポートにまとめること。

●評価方法

平常点（出席、報告・レポート）。

●受講生へのコメント

具体的な履修方法については指導教員の指示に従うこと。

●参考文献・教材

プリント配布。

授業科目名	科目NO.	LAPHL2501	授業コード	LM01010010	
哲学研究 Advanced Studies in PhilosophyAdvanced Studies in Philosophy				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	佐金 武				

●科目の主題

哲学の諸問題について、テキストの読解を軸に哲学研究を行う。

哲学研究に必要な文献の調べ方・読み方・まとめ方、そして発表や議論の仕方などを実践的に学ぶ。

●到達目標

哲学研究に必要とされる、高度な探求能力の涵養と問題意識の掘りさげを目指す。

●授業内容・授業計画

受講生の希望と必要に応じて、初回の授業でいくつかのオプションを提示する。

特に希望がない場合、次のテキストにしたがって、物理学(physics)と形而上学(metaphysics)の関係について考察する。

Tim Maudlin (2012) Philosophy of Physics: Space and Time, Princeton University Press.

第1回 導入:物理学を哲学する

第2回 第1章Classical Accounts of Space and Timeの講読(1)

第3回 第1章Classical Accounts of Space and Timeの講読(2)

第4回 第2章Evidence for Spacial and Temporal Structureの講読(1)

第5回 第2章Evidence for Spacial and Temporal Structureの講読(2)

第6回 第3章Eliminating Unobservable Structureの講読(1)

第7回 第3章Eliminating Unobservable Structureの講読(2)

第8回 第4章Special Relativityの講読(1)

第9回 第4章Special Relativityの講読(2)

第10回 第5章The Physics of Measurementの講読(1)

第11回 第5章The Physics of Measurementの講読(2)

第12回 第6章Genaral Relativityの講読(1)

第13回 第6章Genaral Relativityの講読(2)

第14回 第7章The Direction and Topology of Timeの講読(1)

第15回 第7章The Direction and Topology of Timeの講読(1)

●事前・事後学習の内容

授業で取り上げたいテーマや内容など、何か提案がないか各自で検討しておくこと。

●評価方法

授業内でのパフォーマンスと課題の達成度により評価する。

●受講生へのコメント

積極的に議論に参加し、自らの問題意識を明確にしていくことを期待する。

●参考文献・教材

授業中に提示する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL2502	授業コード	LM01020010	
哲学研究演習 Advanced Seminar in PhilosophyAdvanced Seminar in Philosophy				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	佐金 武				

●科目の主題

哲学の諸問題について、テキストの読解を軸に哲学研究を行う。

哲学研究に必要な文献の調べ方・読み方・まとめ方、そして発表や議論の仕方などを実践的に学ぶ。

●到達目標

哲学研究に必要とされる、高度な探求能力の涵養と問題意識の掘りさげを目指す。

●授業内容・授業計画

受講生の希望と必要に応じて、初回の授業でいくつかのオプションを提示する。

特に希望がない場合、次のテキストにしたがって、物理学(physics)と形而上学(metaphysics)の関係について考察する。

Tim Maudlin (2007) The Metaphysics within Physics, Oxford University Press.

第1回 導入:物理学と形而上学の関係を考える

第2回 第1章A Modest Proposal Concerning Laws, Counterfactuals, and Explanationsの講読(1)

第3回 第1章A Modest Proposal Concerning Laws, Counterfactuals, and Explanationsの講読(2)

第4回 第2章Why Be Humean?の講読(1)

第5回 第2章Why Be Humean?の講読(2)

第6回 第3章Suggestions from Physics for Deep Metaphysicsの講読(1)

第7回 第3章Suggestions from Physics for Deep Metaphysicsの講読(2)

第8回 第4章On the Passing of Timeの講読(1)

第9回 第4章On the Passing of Timeの講読(2)

第10回 第5章Causation, Counterfactuals, and the Third Factorの講読(1)

第11回 第5章Causation, Counterfactuals, and the Third Factorの講読(2)

第12回 第6章The Whole Ball of Waxの講読(1)

第13回 第6章The Whole Ball of Waxの講読(2)

第14回 エピローグA Remark on the Method of Metaphysicsの講読

第15回 まとめとディスカッション

●事前・事後学習の内容

授業で取り上げたいテーマや内容など、何か提案がないか各自で検討しておくこと。

●評価方法

授業内でのパフォーマンスと課題の達成度により評価する。

●受講生へのコメント

積極的に議論に参加し、自らの問題意識を明確にしていくことを期待する。

●参考文献・教材

授業中に提示する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL2503	授業コード	LM01260010	
西洋哲学史研究 Advanced Studies in the History of Western Philosophy				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	加藤　憲治				

●科目の主題

哲学的古典をフランス語（あるいは英語）で精読することによって、哲学的基礎知識を習得し、西洋哲学の思考方法に慣れ親しむ。

●到達目標

フランス語（あるいは英語）文献読解能力の向上と西洋哲学史の潮流を把握することを目的とする。

●授業内容・授業計画

この授業は、対面で行なう予定です。

デカルトの『方法序説』(1637)は、正確には『理性をよく導き、諸学問において真理を探究するための方法序説』という表題をもつ哲学的古典です。

この書物は「我思う、ゆえに我あり」という一節を含んでいることで有名ですが、デカルトの学問的自叙伝でもあります。しかし、この書物は単なる自伝ではなく、学者にだけではなく万人に向けられた学問論を意図していました。

だからこそラテン語ではなく一般人向けにフランス語で書かれたのです。

さらに、『方法序説』は現代においても哲学的諸問題(自我論、心身問題など)を提起し続けているテキストでもあります。この授業では、このテキストから抜粋しながら読解していきます。

第1回　デカルト哲学と『方法序説』への導入
第2回　諸学問の考察(1)
第3回　諸学問の考察(2)
第4回　方法の規則(1)
第5回　方法の規則(2)
第6回　道徳の規則(1)
第7回　道徳の規則(2)
第8回　形而上学の基礎(1)――方法的懐疑
第9回　形而上学の基礎(2)――「我思う、ゆえに我あり」
第10回　形而上学の基礎(3)――神の存在
第11回　形而上学の基礎(4)――幾何学の真理と神
第12回　形而上学の基礎(5)――神の認識と懐疑の解除
第13回　自然学の諸問題
第14回　自然研究公刊の是非

●事前・事後学習の内容

フランス語（あるいは英語）文献読解能力を向上させるためには、
この演習の予習・復習をしっかりやることが求められる。
演習内容を包括的に理解するためには『方法序説』全体を
翻訳（日本語）で読んでおくことが望ましい。

●評価方法

平常点によって評価する。
平常点は、出席状況、演習に取り組む態度、議論への参加から総合的に判定する。

●受講生へのコメント

これからフランス語を習得しようとする者の参加を歓迎する。英訳での参加も可。
デカルトのテキストは慣れないととっつきにくいところがあります。
しかし、じっくりと付き合うことで、文章の構成の仕方など、
論文を書く上で参考になります。

●参考文献・教材

R.Descartes, Discours de la Méthode
(Discourse on the Method)
プリントを配布する

授業科目名	科目NO.	LAPHL2504	授業コード	LM01270010
西洋哲学史研究演習 Advanced Seminar in the History of Western Philosophy			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	高梨　友宏			

●科目の主題

カントの目的論について概観する。

●到達目標

Immanuel Kantの Kritik der Urteilskraft,1790（判断力批判） の第2部「目的論的判断力の批判」におけるカントの目的論の概要を把握することを目指す。またこのことを踏まえて、カントの目的論と美学との関係、批判哲学体系における『判断力批判』の位置づけ、カントの目的論の哲学史上の位置づけと意義、等に関して、二次文献も視野に入れながら検討を加えたい。

●授業内容・授業計画

概ね以下のようなプランに沿って進める予定。ただしあくまで予定なので、実際にはこの通りに進められない場合があることをあらかじめ了承願いたい。なお、この主題を扱うのは半期のみとなるため、多くの時間を講述に割くことになるが、テキストの重要箇所については独語原文を呈示し、演習形式を導入する予定。

第1回 カント目的論についての概説(1):客観的合目的性と主観的合目的性

第2回 カント目的論についての概説(2):分析論①

第3回 カント目的論についての概説(3):分析論②

第4回 カント目的論についての概説(4):分析論③

第5回 カント目的論についての概説(5):弁証論①

第6回 カント目的論についての概説(6):弁証論②

第7回 カント目的論についての概説(7):弁証論③

第8回 カント目的論についての概説(8):方法論①

第9回 カント目的論についての概説(9):方法論②

第10回 カント目的論についての概説(10):方法論③

第11回 カントの目的論の諸問題(1):目的論と美学の関係

第12回 カントの目的論の諸問題(2):『判断力批判』の体系的意義①

第13回 カントの目的論の諸問題(3):『判断力批判』の体系的意義②

第14回 哲学史上におけるカントの目的論の位置付けについて(1)

第15回 哲学史上におけるカントの目的論の位置付けについて(2)

●事前・事後学習の内容

事前学習 講述部分については、事前に配布する関連資料を読んで授業に臨まれたい。原書訳読演習部分については、訳読担当者を事前に決めるが、その日訳読を担当しない人も、必ず訳読準備をして授業に臨むこと。

事後学習 本研究演習で扱う『判断力批判』第2部は第1部「美的判断力の批判」（いわゆる「カント美学」）の知識を必ずしも前提しなくとも、独立の文献として読めるが、本研究演習では、カントの目的論を彼の「美学」との関連でも捉えたいので、美学についての講師の不十分な講述に拘わらず、第1部のテキストを授業と並行して計画的に

●評価方法

平常点による評価。

●受講生へのコメント

・独語原文の訳読を導入する場合があるので、受講者については独語中級程度の既修を前提に、授業を進める。

・授業中のディスカッションを歓迎。積極的な姿勢で臨むことを希望する。

●参考文献・教材

必要な教材、テキストなどは、コピーして配布する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL2505	授業コード	LM01280010	
倫理学研究 Advanced Studies in Ethics				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	土屋　貴志				

●科目の主題

現代英米倫理学の基本文献を原語で読み進めながら解説する。

●到達目標

現代倫理学の主要問題について基礎的知識と展望を得るとともに、倫理学を研究するために必要な英語力を身に付ける。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で実施する。テキストの課題部分に関する質疑応答をもとに解説する。

具体的には下記のように進める予定であるが、必要に応じて変更する可能性もある。

1. 序論
2. 第1章
3. 第1章(続き)
4. 第2章
5. 第2章(続き)
6. 第3章
7. 第3章(続き)
8. 第4章
9. 第4章(続き)
10. 第5章
11. 第5章(続き)
12. 第6章
13. 第6章(続き)
14. 第7章
15. 第7章(続き)

●事前・事後学習の内容

事前学習として、テキストの課題部分を精読し、内容の要点と疑問点を発表できるよう準備してくること。
事後学習として、講義内容を踏まえて、テキストを読み直すこと。

●評価方法

毎回の授業準備における達成度を総合し平常点として評価する（100%）。

●受講生へのコメント

内容の要点と論理を正確に把握することを重視する。全体を平板に訳すのではなく、重要な箇所を見極めて、アウトラインをしっかりつかむ読み方を心がけること。そのためには、重要箇所を正確に理解し翻訳できる語学力が前提になるので、日頃から英語力の向上に努めてほしい。

●参考文献・教材

下記の文献をテキストの候補とするが、受講者と相談の上で、これ以外のテキストを読むこともありうる。
B. Eggleston & D. E. Miller (eds.), The Cambridge Companion to Utilitarianism, Cambridge University Press, 2014.
参考文献については授業中に紹介する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL2506	授業コード	LM01290010	
倫理学研究演習 Advanced Seminar in Ethics				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	土屋　貴志				

●科目の主題

「倫理学研究」に引き続き、現代英米倫理学の基本文献を原語で読む。

●到達目標

現代倫理学の主要問題について基礎的知識と展望を得るとともに、倫理学を研究するために必要な英語力を身に付ける。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で実施する。テキストの課題部分に関する質疑応答を行う。

具体的には下記のように進める予定であるが、必要に応じて変更する可能性もある。

1. 第8章
2. 第8章(続き)
3. 第9章
4. 第9章(続き)
5. 第10章
6. 第10章(続き)
7. 第11章
8. 第11章(続き)
9. 第12章
10. 第12章(続き)
11. 第13章
12. 第13章(続き)
13. 第14章
14. 第14章(続き)
15. まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習として、テキストの課題部分を精読し、内容の要点と疑問点を発表できるよう準備してくること。
事後学習として、授業での検討内容を踏まえ、テキストを読み直すこと。

●評価方法

毎回の授業準備における達成度を総合し平常点として評価する（100%）。

●受講生へのコメント

内容の要点と論理を正確に把握することを重視する。全体を平板に訳すのではなく、重要な箇所を見極めて、アウトラインをしっかりつかむ読み方を心がけること。そのためには、重要箇所を正確に理解し翻訳できる語学力が前提になるので、日頃から英語力の向上に努めてほしい。

なお「倫理学研究」を前期に履修しておくことが望ましい。

●参考文献・教材

下記の文献をテキストの候補とするが、受講者と相談の上で、これ以外のテキストを読むこともありうる。

B. Eggleston & D. E. Miller (eds.), The Cambridge Companion to Utilitarianism, Cambridge University Press, 2014.

参考文献については授業中に紹介する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL2507	授業コード	LM01130010	
美学研究 Advanced Studies in Aesthetics				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	高梨　友宏				

●科目の主題

カント美学について理解し、その諸論点を吟味する。

●到達目標

Immanuel Kant Kritik der Urteilskraft, 1790（判断力批判） の論点を整理して、第1部「美的判断力の批判」におけるいわゆる「カント美学」の概要を把握したうえで、実際にテキストを読みながら、そこで論じられる内容に関して、他の『純粋理性批判』や『実践理性批判』における関連事項も参照しつつ、吟味を加える。これらのプロセスを通じて、「カント美学」の総合的理解を目指す。

●授業内容・授業計画

できるかぎり、以下のプランに沿って進めたい。ただし、必ずしもこのプラン通りにならない可能性がある点、了承願いたい。

第1回 導入

第2回 趣味判断の諸相(1):四つの契機

第3回 趣味判断の諸相(2):アプリオリな総合判断

第4回 趣味判断の諸相(3):趣味の体系的意義

第5回 天才論

第6回 崇高論(1):美学史における意義

第7回 崇高論(2):現代との関連

第8回 目的論(1):主観的合目的性と客観的合目的性

第9回 目的論(2):目的論的世界観へ

第10回 総括:目的論としての美学

第11回『判断力批判』第一序論の独語原書講読演習(以下、演習と略記)(1)

第12回 演習(2)

第13回 演習(3)

第14回 演習(4)

●事前・事後学習の内容

事前学習 :講述部分については、事前に配布する関連資料を読んで授業に臨まれたい。原書訳読演習部分については、訳読担当者を事前に決めるが、その日訳読を担当しない人も、必ず訳読準備をして授業に臨むこと。

事後学習 : 前年度から読み続けているテキストであるため、演習部分では前年度の続きから読み進めることになる。本演習で既読のテキスト箇所については、講師の講述に拘わらず、少なくとも翻訳書を用いて独習されたい（本来の「事後学習」の意味には当たらないが）。

●評価方法

平常点による評価。

●受講生へのコメント

ドイツ語原書の講読演習も含むので、受講に当たってはドイツ語中級程度の読解力が条件となる。

授業中のディスカッションを歓迎。積極的な姿勢で臨むことを希望する。

●参考文献・教材

適宜コピー等を配布する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL2508	授業コード	LM01140010
美学研究演習 Advanced Seminar in Aesthetics			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	高梨 友宏			

●科目の主題

Immanuel Kant Kritik der Urteilskraft, 1790（判断力批判）の「第一序論」に関する研究演習。原文を読みながら、カント美学の諸問題について考える。

●到達目標

できるだけ先まで進むように努力し、「カント美学」の総合的理解を深めたい。ただし、参加者間の議論を重視し、毎回できる限り疑問を払拭しながら、読み進めることとしたい。

●授業内容・授業計画

「第一序論」に関して、前期「美学研究」で読んだ箇所以降を読む。ドイツ語原文の読解と、内容に関する議論にほとんどの時間を充てる予定。

第1回 導入

第2回『判断力批判』の独語原書講読演習（以下、演習と略記）(1)

第3回 演習(2)

第4回 演習(3)

第5回 演習(4)

第6回 演習(5)

第7回 演習(6)

第8回 演習(7)

第9回 演習(8)

第10回 演習(9)

第11回 演習(10)

第12回 演習(11)

第13回 演習(12)

第14回 演習(13)

●事前・事後学習の内容

事前学習：講述部分については、事前に配布する関連資料を読んで授業に臨まれたい。原書訳読演習部分については、訳読担当者を事前に決めるが、その日訳読を担当しない人も、必ず訳読準備をして授業に臨むこと。

事後学習：本演習は、本年度前期「美学研究」と連続する科目であるため、前期に読んだ箇所の続きから読み進めることになる。本演習で既読のテキスト箇所については、講師の講述に拘わらず、少なくとも翻訳書を用いて独習されたい（本来の「事後学習」の意味には当たらないが）。

●評価方法

平常点による評価。

●受講生へのコメント

受講に当たっては、ドイツ語中級程度の読解力が必要。また前期に開講する「美学研究」もあわせて受講することが望ましい。

●参考文献・教材

テキストや参考文献については適宜コピーを配布する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL2509	授業コード	LM01300010
宗教学研究 Advanced Studies in Religious Problems			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	仲原　孝			

●科目の主題

宗教学・宗教哲学の基礎的文献を原書講読する。さらに、当該文献に関する出席者の研究発表の機会も随時もうける予定である。

●到達目標

外国語の文献を正確に読解した上で、それに関する研究を行なうために必要な手法を修得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

ハイデガーの主著『存在と時間』を原書により研究的に読解しながら、そこに含まれる哲学的問題について、議論の中で思考を深めることを目指す。

授業計画は以下の通り。今期は「世界」の分析を中心に読解・検討する。

授業計画は以下のとおり。

第1回 §14 (1)
第2回 §14 (2)
第3回 §14 (3)
第4回 §15 (1)
第5回 §15 (2)
第6回 §15 (3)
第7回 §16 (1)
第8回 §16 (2)
第9回 §16 (3)
第10回 §17 (1)
第11回 §17 (2)
第12回 §17 (3)
第13回 §18 (1)
第14回 §18 (2)
第15回 §18 (3)

●事前・事後学習の内容

毎回、その回の授業に関する要約の作成と、次回までに準備しておくべき課題とを指示するので、それを適切に果たしてから授業に臨むこと。作成した要約や、課題についての報告を、随時レポートの形で提出するよう求める。

●評価方法

担当課題をどの程度適切に果たしたか、授業時の議論にどの程度積極的に参加したか、要求されたレポートは適切であったか、を総合的に考慮して評価する。

●受講生へのコメント

欠席・遅刻は大幅に減点する。特段の理由なく欠席した者には単位を認めないので注意すること。

●参考文献・教材

テキストは、Martin Heidegger: Sein und Zeit, Max Niemeyer Verlagを使用する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL2510	授業コード	LM01310010	
宗教学研究演習 Advanced Seminar in Religious Problems				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	仲原　孝				

●科目の主題

宗教学・宗教哲学の基礎的文献を原書講読する。さらに、当該文献に関する出席者の研究発表の機会も随時もうける予定である。

●到達目標

外国語の文献を正確に読解した上で、それに関する研究を行なうために必要な手法を修得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

前期の「宗教学研究」に引きつづき、ハイデガーの『存在と時間』を原書講読する。後期は「内存在」の分析論のところを講読する。

授業計画は以下の通り。

第1回 §28 (1)
第2回 §28 (2)
第3回 §29 (1)
第4回 §29 (2)
第5回 §30 (1)
第6回 §30 (2)
第7回 §31 (1)
第8回 §31 (2)
第9回 §32 (1)
第10回 §32 (2)
第11回 §33 (1)
第12回 §33 (2)
第13回 §34 (1)
第14回 §34 (2)
第15回 §34 (3)

●事前・事後学習の内容

毎回、その回の授業に関する要約の作成と、次回までに準備しておくべき課題とを指示するので、それを適切に果たしてから授業に臨むこと。作成した要約や、課題についての報告を、随時レポートの形で提出するよう求める。

●評価方法

担当課題をどの程度適切に果たしたか、授業時の議論にどの程度積極的に参加したか、要求されたレポートは適切であったか、を総合的に考慮して評価する。

●受講生へのコメント

欠席・遅刻は大幅に減点する。特段の理由なく欠席した者には単位を認めないので注意すること。

●参考文献・教材

テキストは、Martin Heidegger: Sein und Zeit, Max Niemeyer Verlagを使用する(初回授業時にテキストのコピーを配布する）。

授業科目名	科目NO.	LAPHL2513	授業コード	LM01200010
哲学総合研究Ⅰ Comprehensive Studies in Philosophy Ⅰ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	仲原 孝／土屋 貴志／佐金 武／高梨 友宏			

●科目の主題

哲学研究に要する基本的事項を総合的に研究、講義する。

●到達目標

哲学研究を行うための基本的な方法の習得を目標とする。

●授業内容・授業計画

総合研究Ⅰでは、研究のために必要な基本的事項を、哲学の様々な領域(哲学、哲学史、倫理学、宗教哲学、美学)にわたって教授する。問題領域に応じて、資料収集から問題点の設定に至るまで幅広く指導する一方で、適宜、研究発表会を開催し、発表の仕方、論文の書き方についての具体的な指導も行う。

●事前・事後学習の内容

毎回、その回の授業に関する要約の作成と、次回までに準備しておくべき課題とを指示するので、それを適切に果たしてから授業に臨むこと。随時、作成した要約や、課題についての報告を、レポートの形で提出するよう求める。

●評価方法

担当課題をどの程度適切に果たしたか、授業時の議論にどの程度積極的に参加したか、要求されたレポートは適切であったか、を総合的に考慮して評価する。

●受講生へのコメント

積極的に質問し、自分自身の問題意識を明確にするよう努めること。

●参考文献・教材

適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL2514	授業コード	LM01210010
哲学総合研究Ⅱ Comprehensive Studies in Philosophy Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	仲原　孝／土屋　貴志／佐金　武／高梨　友宏			

●科目の主題

哲学研究に要する基本的事項を総合的に研究、講義する。

●到達目標

哲学研究を行うための基本的な方法の習得を目標とする。

●授業内容・授業計画

総合研究Ⅱでは、各受講生の研究テーマに応じて、個別的指導を含め、具体的な研究の進め方を教授する。受講生の研究経過について適宜報告を求め、議論を深めながら、研究を行う。

●事前・事後学習の内容

毎回、その回の授業に関する要約の作成と、次回までに準備しておくべき課題とを指示するので、それを適切に果たしてから授業に臨むこと。随時、作成した要約や、課題についての報告を、レポートの形で提出するよう求める。

●評価方法

担当課題をどの程度適切に果たしたか、授業時の議論にどの程度積極的に参加したか、要求されたレポートは適切であったか、を総合的に考慮して評価する。

●受講生へのコメント

積極的に質問し、自分自身の問題意識を明確にするよう努めること。

●参考文献・教材

適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LAPHL3601	授業コード	LM01220010
哲学研究指導Ⅰ Supervision of Master's Thesis in Philosophy Ⅰ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	仲原 孝／高梨 友宏			

●科目の主題

修士論文は、2年間にわたる学修の成果である。修士論文の執筆は、2年次の「哲学研究指導1」（前期）、「哲学研究指導2」（後期）の指導を受けることによって薦める。

前期の「哲学研究指導1」では、1年次までの学修に基づき、修士論文の執筆計画を立て、修士論文構想発表会・修士論文中間発表会などの機会を柱としながら、修士論文に必要な知識・技能を身につける。

●到達目標

(1) 修士論文執筆計画を立て実行する
(2) 問題意識を整理し、研究課題の学術的意義を提示する
(3) 研究目的に応じた適確な課題を設定する
(4) 研究課題に応じた適切な研究方法を計画する
(5) 研究課題に応じた先行研究の読み込みを行う
(6) 研究課題に応じた実験結果、調査結果、文献資料を蓄積する
(7) 修士論文研究に関わる研究倫理について考える

●授業内容・授業計画

第1回 オリエンテーション
修士論文とは何か（確認）
哲学の方法論（確認）
修士論文研究・執筆計画について
修士論文の評価規準・基準について

第2～5回 修士論文構想発表会（連続4コマ）
テーマに関する問題意識の整理
予想される（期待している）結論
研究方法の目処
同学年他学年の学生、複数の教員との質疑応答から学ぶ

第6回 研究計画に即して研究倫理を考える

第7回 先行研究の読み込み

第8回 「先行研究の整理」の意義と方法

第9回 修士論文の章立て

第10回 文献分析の方法

第11～14回 修士論文中間発表会（連続4コマ）
問題意識の提示
論証しようとしていること（仮の結論）
論証のための方法とその目処
章立て
これからの課題

第15回 修士論文中間発表会のふりかえり

●事前・事後学習の内容

第1回　修士論文計画を立てて提出する。修士論文構想発表会の準備を行い、レジュメを作成する。
第2～5回　修士論文構想発表会の議論を踏まえ、自分の修士論構想を練り直す。
第6回　自分の研究計画に即して研究倫理を考え、研究倫理の観点から研究計画を練り上げる。
第7回　研究課題に応じた先行研究の読み込みを計画し、読み込んだ結果を発表する。
第8回　自分の修士論文に必要な「先行研究の整理」を行ってみる。
第9回　修士論文の章立てを考える
第10回　修士論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。
第11～14回

●評価方法

修士論文中間発表会、発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題をどの程度適切に果たしたかによって評価する。

●受講生へのコメント

修士論文は2年間の修士課程の集大成である。広義の哲学（哲学史・宗教学・倫理学・美学などを含む）の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

「哲学研究指導1」の演習を基盤としながら、修士論文に主体的に取り組み、修士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

.特に指定しない。

授業科目名	科目NO.	LAPHL3602	授業コード	LM01230010
哲学研究指導Ⅱ Supervision of Master's Thesis in Philosophy Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	仲原 孝／高梨 友宏			

●科目の主題

修士論文は、2年間にわたる学修の成果である。修士論文の執筆は、2年次の「哲学研究指導1」（前期）、「哲学研究指導2」（後期）の指導を受けることによって薦める。

後期の「哲学研究指導2」では、修士論文の仕上げに向けて、修士論文中間発表会などの機会を柱としながら、修士論文に必要な知識・技能を身につける。

●到達目標

(1) 修士論文の評価基準を知る
(2) 執筆途上において、その時点の自分の修士論文を評価基準に準拠して点検する
(3) 点検の結果を踏まえ、修士論文計画・執筆計画を修正しながら修士論文を完成させる

●授業内容・授業計画

第1回 修士論文の進捗状況の報告

第2回 修士論文の評価基準の確認

第3～6回 修士論文中間発表会（4コマ連続）

完成に向けての執筆方針の確認

（研究方法論、課題設定、先行研究の整理、章立て等）

完成に向けての研究・執筆計画

第7回 修士論文中間発表会の振り返り

第8回 問題意識と学術的意義を扱う部分についての点検

第9回 研究目的に応じた課題設定を扱う部分について点検

第10回 研究手法の説明を扱う部分についての点検

第11回 先行研究を扱う部分についての点検

第12回 実験結果、調査結果、文献分析を扱う部分についての点検

第13回 論理の組み立てや一貫性に関する点検

第14回 学術論文としての表現、表記法等に関する点検

第15回 研究倫理の側面からの修士論文の点検

●事前・事後学習の内容

第1回 修士論文研究進捗状況の報告レジュメ提出
第2回 修士論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。
第3回 修士論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の修士論研究・執筆計画を練り直す。
第7回 完成までの期間の研究・執筆計画を立てる
第8回 点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。
第9回 点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。
第10回 点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研

●評価方法

修士論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題をどの程度適切に果たしたかに応じて評価する。

「哲学研究指導2」の評価は、「修士論文」の評価と同時期に行われるが、後者が論文の内容そのものの質を評価するのに対して、前者は、論文作成過程の学修状況が評価の対象となる。ただし、仮に「修士論文」が不可となった場合は、「哲学研究指導2」も不可となる。

●受講生へのコメント

修士論文は2年間の修士課程の集大成である。広義の哲学（哲学史・宗教学・倫理学・美学などを含む）の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機

能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。
「哲学研究指導1」の演習を基盤としながら、修士論文に主体的に取り組み、修士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

特に指定しない。

授業科目名	科目NO.		授業コード	LM18000010
修士論文（哲学） Master's Thesis			単位数	
授業形態	担当教員名			
演習	仲原　孝／高梨　友宏			

●科目の主題

文学研究科では、修士論文を通しての学修を重視しており、ディプロマポシシーで定める学修成果を学生が修めることができるよう、修士課程の2年間をとおし、授業科目における指導のほか、専修ごとの修士論文ガイダンス、修士論文構想発表会、修士論文中間発表会など、学生どうしが切磋琢磨できる機会を設け、あわせて、きめこまかな個別指導を行う。

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆は、2年次の「哲学研究指導1」「哲学研究指導2」の指導を受けながら進める

●到達目標

修士論文の審査基準は次のとおりであり、これを到達目標とする。

（1）修士論文は、哲学分野おける一定の研究成果を示すものでなければならない。

（2）（評価基準）修士論文は以下の各項目について、哲学分野における十分な水準を満たさなければならない。

(a) 研究課題（テーマ）の学術的意義
明確な問題意識に基づき、哲学分野における研究の学術的意義が述べられていること。

(b) 研究課題の的確性
研究目的に応じた的確な課題が設定されていること。

(c) 研究方法の妥当性
研究を遂行する上で、適切な研究手法がもちいられていること。

(d) 先行研究との関連
当該専門分野における主たる先行研究を踏まえたものであること。

(e) 資料利用の適切性
論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などが適切にもちいられていること。

(f) 論旨の一貫性
論旨が論理的に組み立てられ、一貫して展開されていること。

(g) 学術論文としての体裁
表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、哲学分野の慣例に従ったものであること。

(h) 研究倫理の遵守
研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、哲学分野が定める研究上守るべき倫理基準が満たされていること。

（3）（論文の体裁）修士論文は、論を展開する上で、哲学分野の特性に応じた十分な分量でなければならない。

●授業内容・授業計画

各回の授業内容の記述は「修士論文」にそぐわないので省略する。なお、「修士論文」に連動するものとして、「哲学研究指導1」「哲学研究指導2」のシラバスを参照すること。

●事前・事後学習の内容

「修士論文」にそぐわないので省略する

●評価方法

修士論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学研究科内規」にしたがい、研究科教授会において当該専攻の教員から主査1名、副査2名を審査員として選出した上で審査をおこなう。

2月に実施する面接試験の日時は、各専修から通知する。

修士論文審査については、文学研究科が定める「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがって実施する。

●受講生へのコメント

「修士論文」および「哲学研究指導1」は、修士論文を提出する年度の前期に、「哲学研究指導2」は後期の履修登録期間中に、Web履修登録すること。

修士論文は2年間の博士前期課程の集大成である。広義の哲学（哲学史・宗教学・倫理学・美学などを含む）の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

●参考文献･教材

各自が参考文献一覧を作成することになる。

授業科目名	科目NO.	LAJPH2501	授業コード	LM02010010
日本史学研究Ⅰ Advanced Studies in Japanese History Ⅰ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	磐下 徹			

●科目の主題

古記録の読解

●到達目標

平安後期の貴族である源俊房の日記『水左記』の読解を通し、古記録読解に必要な基本知識やスキルを身につける。
あわせて、古代から中世への転換期にあたる、11世紀後半～12世紀にかけての政治・社会・文化に対する理解を深める。

●授業内容・授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 『水左記』解題

第3回 『水左記』治暦5年(延久元年)正月条の発表

第4回 『水左記』同年2月条(前半)の発表

第5回 『水左記』同年2月条(後半)と4月条の発表

第6回 『水左記』延久6年(承保元年)11月条の発表

第7回 『水左記』同年12月条(前半)の発表

第8回 『水左記』同年12月条(後半)の発表

第9回 『水左記』承保2年正月条の発表

第10回 『水左記』同年7月条と8月条の発表

第11回 『水左記』同年9月条の発表

第12回 『水左記』同年10月1～2日条の発表

第13回 『水左記』同年10月3日条の発表

第14回 まとめ

＊上記はあくまで目安で、講読の進度によって計画は変更されることもある。

『水左記』の記事を2～3日分ずつ割り振り、その読解と記述内容に関する考察を発表してもらう。

本年度は治暦5年(延久元年)から読み進める。

●事前・事後学習の内容

講読範囲を事前に精読し、関連する先行研究などに目を通しておくこと。
また事後は、講読範囲を振り返りその内容をよく復習しておくこと。
講義で紹介された参考文献に、各自の判断で適宜目を通しておくこと。

●評価方法

平常点で評価。
発表内容（80%）と発表回以外の授業参加態度（20%）で判定する。

●受講生へのコメント

幅広い視野を持ちながら発表・討議に参加してほしい。

●参考文献・教材

必要に応じて配布・指示する。

授業科目名	科目NO.	LAJPH2502	授業コード	LM02020010	
日本史学研究演習1 Advanced Seminar in Japanese History 1				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	磐下　徹				

●科目の主題

日本古代史の研究発表

●到達目標

研究発表とそれにもとづく討議を行い、各自の研究の深化をはかる

●授業内容・授業計画

第1回　ガイダンス

第2回　発表①　報告者①による報告

第3回　発表②　報告者①による再報告

第4回　発表③　報告者②よる報告

第5回　発表④　報告者②による再報告

第6回　発表⑤　報告者③による報告

第7回　発表⑥　報告者③による再報告

第8回　発表⑦　報告者④による報告

第9回　発表⑧　報告者④による再報告

第10回　発表⑨　報告者⑤による報告

第11回　発表⑩　報告者⑤による再報告

第12回　発表⑪　報告者⑥による報告

第13回　発表⑫　報告者⑥による再報告

第14回　まとめ

＊学修効果を高めるため、受講者の状況に応じて計画は変更されることもある。

受講者が自分の取り組んでいるテーマについての研究発表を行い、それにもとづき討議を進める。

討議内容を踏まえて再報告を実施する。

●事前・事後学習の内容

事前に報告者によって示される参考文献や資料を読んでおくこと。

事後は演習中の議論を踏まえ、追加で参考文献にあたるなどして理解を深めておくこと。

●評価方法

平常点で評価。

発表内容（80%）と発表回以外の授業参加態度（20%）で判定する。

●受講生へのコメント

幅広い視野を持ちながら発表・討議に積極的に臨んでほしい

●参考文献・教材

必要があれば適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LAJPH2503	授業コード	LM02030010
日本史学研究Ⅱ Advanced Studies in Japanese History Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	仁木 宏			

●科目の主題

中世文書の読解能力を高めるとともに、中世社会を考察する基本的力量を身につける。

●到達目標

戦国時代の各地の戦国大名や地域権力が発給した法令を素材にする。文書を読解した上で、その歴史的意義や背景、関連する文書・事項などについて総合的に検討し、報告することで、中世史研究能力を涵養する。

戦国時代の社会的特質を多面的に考察し、中世社会の本質を解明する。

●授業内容・授業計画

佐藤進一・百瀬今朝雄編『中世法制史料集』第5巻・武家家法Ⅲを輪読する。

第1回　ガイダンス。担当の割り振り

第2回　三好氏の文書

第3回　赤松氏の文書

第4回　毛利氏の文書

第5回　長宗我部氏の文書

第6回　大友氏の文書

第7回　島津氏の文書

第8回　六角氏の文書

第9回　浅井氏の文書

第10回　斎藤氏の文書

第11回　織田氏の文書

第12回　今川氏の文書

第13回　後北条氏の文書

第14回　武田氏の文書

第15回　まとめ

●事前・事後学習の内容

担当者は、テキストの読み下し、現代語訳をおこなうとともに、歴史的背景を説明するためのレジメを準備する。授業中に指摘された点を復習し、次回の報告に備える。（くりかえし）

●評価方法

担当回の報告内容、ならびに史料をめぐる議論における発言によって評価する。

●受講生へのコメント

毎回、地図を用意することを求める。歴史（地理）環境の中で法の本質を読みとる工夫をしてほしい。

●参考文献・教材

『中世法制史料集』第5巻（上述）

授業科目名	科目NO.	LAJPH2504	授業コード	LM02040010
日本史学研究演習2 Advanced Seminar in Japanese History　2			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	仁木　宏			

●科目の主題

各人の研究内容について、史資料をもとに発表し、関連する文書・事項などについても総合的に検討し、報告する能力を養う。

●到達目標

史資料をもとに実証的に研究を進めるとはどういうことか。具体的な事例の中で学ぶ。

●授業内容・授業計画

毎回、1～2人ずつ、順番に報告してゆく。初めの4回分で、中世史専攻の院生が報告し、次の3回分で、他の時代専攻の院生が報告する。これを2度くり返す。以下は仮の順番であり、第1回の授業時に指示する。

第1回 中世史専攻院生の報告
第2回 中世史専攻院生の報告
第3回 中世史専攻院生の報告
第4回 中世史専攻院生の報告
第5回 中世以外の時代を専攻する院生の報告
第6回 中世以外の時代を専攻する院生の報告
第7回 中世以外の時代を専攻する院生の報告
第8回 中世史専攻院生の報告
第9回 中世史専攻院生の報告
第10回 中世史専攻院生の報告
第11回 中世史専攻院生の報告
第12回 中世以外の時代を専攻する院生の報告
第13回 中世以外の時代を専攻する院生の報告
第14回 中世以外の時代を専攻する院生の報告
第15回まとめ

●事前・事後学習の内容

担当者は、報告するために史料収集・読解をおこない、レジメを用意する。事後には、指摘された点を再度確認する。

●評価方法

担当回の報告内容が、いかにオリジナルなものであるか、説得性をもつかを評価する。
担当回以外の授業中の発言内容も評価対象に入れる。

●受講生へのコメント

担当回の報告が不十分である場合、「宿題」として、次回、あらためてよりレベルの高い報告を求めることになる。
本授業での報告の経験を、学会部会報告や学術専門誌投稿などにつなげてほしい。

●参考文献・教材

特になし。

授業科目名	科目NO.	LAJPH2505	授業コード	LM02050010
日本史学研究Ⅲ Advanced Studies in Japanese History Ⅲ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	齊藤　紘子			

●科目の主題

近世都市史研究の最新成果を学ぶ

●到達目標

①日本史の研究を進める上で不可欠となる学術論文の読み方を習得する。
②最新の都市史研究の成果を理解し、今後の研究方向や課題などについて考える力をつける。

●授業内容・授業計画

近世都市における＜医療と社会＞をめぐる問題について、海原亮『近世医療の社会史　知識・技術・情報』（吉川弘文館）などを取り上げて輪読していく。

予定としては以下の通りだが、変更することもあり得る。

第1回　導入・授業の進め方
第2回　輪読①
第3回　輪読②
第4回　輪読③
第5回　輪読④
第6回　輪読⑤
第7回　輪読⑥
第8回　輪読⑦
第9回　小括と論点整理
第10回　関連論文の輪読①
第11回　関連論文の輪読②
第12回　関連論文の輪読③
第13回　関連論文の輪読④
第14回　全体のまとめ

●事前・事後学習の内容

授業で扱う章について、全員が事前に精読しておく。報告者はレジュメを準備し、内容理解と論点・疑問点を具体的に示すこと。その他の受講生には、事前の予習を踏まえて、各々の読み方や見解について発言を求める。

●評価方法

授業参加態度（40%）、発表および発表レジュメ（40%）、期末レポート（20%）の総合評価。

●受講生へのコメント

取り上げる論文については時間をかけて丁寧に読んでほしい。

●参考文献・教材

主要なテキストは、海原亮『近世医療の社会史　知識・技術・情報』吉川弘文館、2007年、同『江戸時代の医師修行学問・学統・遊学』吉川弘文館（歴史文化ライブラリー）、2014年など。関連論文については授業内で提示する。

授業科目名	科目NO.	LAJPH2506	授業コード	LM02060010	
日本史学研究演習3 Advanced Seminar in Japanese History 3				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	齊藤　紘子				

●科目の主題

近世都市史料研究

●到達目標

①最新の都市史研究の成果と今後の課題について認識を深める。

②研究動向を踏まえ、自ら立てた問いや課題に対して、史料読解を通じて実証的に解明・検証する力を身につける。

●授業内容・授業計画

大坂・京都・堺など幕府畿内直轄都市の近世史料から、各自の関心に沿う町触や仲間に関する史料など数点を選び、史料研究報告を行う。

予定としては以下の通りだが、変更することもあり得る。

第1回　授業の進め方

第2回　研究史把握①

第3回　研究史把握②

第4回　研究史把握③

第5回　研究史把握④

第6回　史料研究報告1巡目①

第7回　史料研究報告1巡目②

第8回　史料研究報告1巡目③

第9回　史料研究報告1巡目④

第10回　史料研究報告2巡目①

第11回　史料研究報告2巡目②

第12回　史料研究報告2巡目③

第13回　史料研究報告2巡目④

第14回　総括報告・討論

●事前・事後学習の内容

論文輪読では、授業で扱う章について、全員が事前に精読しておく。報告者はレジュメを準備し、内容理解と論点・疑問点を具体的に示すこと。その他の受講生には、事前の予習を踏まえて、各々の読み方や見解について発言を求める。史料研究報告では、受講生各々が史料を選択し、解釈・論点を整理したレジュメを作成し、発表する。授業での討論を踏まえて再報告と総括報告を行い、期末レポートを作成する。

●評価方法

授業参加態度（40%）、発表および発表レジュメ（40%）、期末レポート（20%）の総合評価。

●受講生へのコメント

前期「日本史学研究Ⅲ」との連続性を意識して受講してほしい。

●参考文献・教材

授業内で紹介する。

授業科目名	科目NO.	LAJPH2507	授業コード	LM02070010
日本史学研究Ⅳ Advanced Studies in Japanese History Ⅳ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	佐賀　朝			

●科目の主題

「近現代地域社会史研究の再検討」をテーマに、近年の主要な研究成果について批判的に検討する。

都市社会史、医療社会史、自由民権運動史、総力戦体制史、戦後社会運動史などに目配りをしながら、近年の研究成果を取り上げ、批判的に吟味するとともに、研究課題を探りたい。

各研究分野から、いくつかの論文や著作を取り上げ、一つ一つの論文を可能な限り精読していく。

●到達目標

近年の研究成果を批判的に検討することを通じて、史料に即して研究を深化させる方向性を明らかにし、課題を整理することを目ざす。

●授業内容・授業計画

主要成果を論文単位で取り上げる(1回に1～2本)。受講生が順番に報告(要約・論評)を担当し、全員で合評する。

第1回　ガイダンス・打ち合わせ
第2回　論文の検討と討論(その1)
第3回　論文の検討と討論(その2)
第4回　論文の検討と討論(その3)
第5回　論文の検討と討論(その4)
第6回　論文の検討と討論(その5)
第7回　論文の検討と討論(その6)
第8回　論文の検討と討論(その7)
第9回　論文の検討と討論(その8)
第10回　論文の検討と討論(その9)
第11回　論文の検討と討論(その10)
第12回　論文の検討と討論(その11)
第13回　論文の検討と討論(その12)
第14回　論文の検討と討論(その13)
第15回　まとめ

●事前・事後学習の内容

事前に配布される論文テキストは精読のうえ授業に出席すること。

取り上げる論文は、相互に関連するものが多いため、事後も随時、各論文の論点や課題を整理しながら、授業での討議に参加すること。

●評価方法

授業における報告や発言、レポートなどを総合的に評価する。

●受講生へのコメント

日本史学研究演習4とあわせて受講してください。

●参考文献・教材

授業のなかで随時、提示する。

授業科目名	科目NO.	LAJPH2508	授業コード	LM02080010
日本史学研究演習4 Advanced Seminar in Japanese History 4			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	佐賀　朝			

●科目の主題

「近現代地域史研究の実践」をテーマに、近現代の大阪（都市・農村を含め）を主な対象に、地域史研究を実践的に学ぶ。

受講生が各自でテーマを設定し、近現代の地域史料を用いた研究報告を実践し、全員で質疑・討論を行う形で進める。

●到達目標

多様な史料にもとづいて地域の社会構造を明らかにするための視点や方法の修得をめざす。

●授業内容・授業計画

扱う史料や報告内容・報告順などについては、第1回目に受講生と相談のうえ決める。

必要に応じて、授業で取り上げた地域のフィールドワーク（まち歩き）なども実施する。

第1回 ガイダンス

第2回 報告その 1

第3回 報告その 2

第4回 報告その 3

第5回 報告その 4

第6回 報告その 5

第7回 報告その 6

第8回 報告その 7

第9回 報告その 8

第10回 報告その 9

第11回 報告その10

第12回 報告その11

第13回 報告その12

第14回 報告その13

第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

受講生は、各自の関心と課題設定に沿って、取り上げるべき史料や先行研究を随時、収集し精読・検討しながら報告の準備を行うとともに、報告後も次の報告や学期末の最終レポートに向けて先行研究や史料の検討を継続的に行うこととする。

●評価方法

授業における報告や発言、レポートなどを総合的に評価する。

●受講生へのコメント

日本史学研究Ⅳとあわせて受講してください。

●参考文献・教材

授業のなかで随時、提示する。

授業科目名	科目NO.	LAJPH2509	授業コード	LM02090010
日本史学研究Ⅴ Advanced Studies in Japanese History Ⅴ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	吉田　歓			

●科目の主題

「古代の都城と地方拠点」

日本の古代国家は平城京をはじめとする都城を建設していったが、そのモデルとなったのが中国の都城である。この講義では、中国の都城の展開過程と韓半島諸国の都をたどりながら日本の都城について検討する。あわせて地方に誕生した拠点についても取り上げる。

●到達目標

古代の東アジア世界に展開した都の歴史について理解する。あわせて広い視野で歴史を捉えることを目指す。

●授業内容・授業計画

授業については対面で行う。

第1回 ガイダンス

第2回 中国の都城(先秦から秦漢)

第3回 中国の都城(魏晋南北朝)

第4回 中国の都城(隋唐)

第5回 藤原京の誕生

第6回 大極殿の誕生

第7回 平城京の諸問題

第8回 平安京へ

第9回 韓半島の都城

第10回 渤海の都城

第11回 国府と城柵

第12回 中国の都城の変質

第13回 平安京の変質

第14回 まとめ(中世都市へ)

第15回 試験

●事前・事後学習の内容

事前学習

配布したプリントなどに目を通して辞典などでわからないことを調べておく。

事後学習

講義の内容を見直して理解を深める。

●評価方法

受講態度と試験を総合的に評価。受講態度30%、試験70%を目安とする。

●受講生へのコメント

講義の内容を理解するだけではなく、自分なりの問題意識を持ってみてください。

●参考文献・教材

プリントなどを配布する。

参考文献

妹尾達彦『長安の都市計画』講談社、木下正史『藤原京』中央公論新社

授業科目名	科目NO.	LAJPH2510	授業コード	LM02100010
日本史学研究VI Advanced Studies in Japanese History VI			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	海原　亮			

●科目の主題

近世都市大坂の社会と文化・学問

●到達目標

都市社会の文化・学問をめぐる諸問題について、史料に即しながら、歴史的文脈のなかで理解できるようになることを目標とする

●授業内容・授業計画

・授業内容

都市大坂をおもな素材として、近世社会における文化・学問の動向を検討する。「天下の台所」「商人の町」といったイメージの強い大坂だが、鎖国＝海禁体制を原則とする当時、国際的な物流拠点として大いに栄えた側面も見逃すことはできない。そのことが、大坂の文化・学問に独自の色合いを加えたからである。

講義にあたっては、毎回、具体的な史料をとりあげ、それに即して受講生と一緒に考えていきたい。外国人がみた大坂の様子、異国の影響を多分にうけた都市民衆の生活、信仰の側面、出版文化・医学の展開など、テーマは多彩なものとする予定。なお本講義では、近年、学界で盛んにおこなわれている「社会＝文化構造」論の方法に学び、あらたな「文化史」「学問史」の構築をめざしていきたい。

・授業計画

第1回 「社会＝文化構造」論で近世の都市文化を考える

第2～3回 朝鮮通信使がみた大坂／公儀の対外政策と文化交流

第4回 参府オランダ人と大坂／銅吹所住友の記録

第5～6回 銅がむすぶ世界／長崎と大坂

第7～8回 人びとの信仰をめぐる都市文化／京都嵯峨清涼寺の大坂出開帳

第9回 異国文化獲得のツールとしての書籍／都市文人・木村蒹葭堂

第10回 出版文化の隆盛と大坂の学問／医学書の普及

第11～12回 「町人の学問」～大坂学問史の特質／西洋知識の流入

第13～14回 幕末の牛痘種痘／予防医学のはじめ

第15回 試験

●事前・事後学習の内容

毎回の授業で事前・事後学習のポイントと課題を提示する

●評価方法

小レポートと学期末試験により評価する

●受講生へのコメント

本講義を通じて、正しい歴史理解は必要だが、微細な史実のひとつひとつについて暗記することは全く求めない。鍵となる概念を講義のなかで確実に理解し、大まかな歴史の流れをつかめばよい。歴史を自分で調べるテクニックや、文化史研究の基本的な手法を身につけたい。また、史料の精読を通じ、生活のあらゆる場面に歴史の蓄積があることを知り、そこから何かを学ぶ姿勢を大切にしてほしい（成績評価にあたっても、以上の姿勢を重視する予定である）

●参考文献・教材

教科書は使用しない。毎回、史料レジュメを配布する。（参考書）：海原亮「世界のなかの近世文化」（荒野泰典編『日本の対外関係』第６巻、吉川弘文館、２０１０年）

授業科目名	科目NO.	LAJPH2511	授業コード	LM02110010
考古学研究 Advanced Studies in Archaeology			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	岸本　直文			

●科目の主題

修士論文の研究内容を固めることを意識し、各自の研究テーマに即して関連ある考古学的成果を取り上げ、先行研究について理解を深める。

●到達目標

各自の研究テーマとしている時代や地域あるいは分野についての考古学研究について、先行研究の成果を学習し、どういった研究があるのか、どのような資料があるのか、研究上の課題は何かといった点を整理する。

●授業内容・授業計画

3回程度の発表を予定する。その内容について参加者で討論し、そのなかから次回の発表について考えていく。

第1回 受講者の研究テーマによる考古学的課題の指導

第2回 受講者の研究についての発表と質疑(1)

第3回 受講者の研究についての発表と質疑(2)

第4回 受講者の研究についての発表と質疑(3)

第5回 受講者の研究テーマによる考古学的課題の設定

第6回 先行研究の把握(1)

第7回 先行研究の把握(2)

第8回 先行研究の把握(3)

第9回 先行研究の把握(4)

第10回 先行研究を踏まえての課題設定の相談

第11回 研究課題の整理(1)

第12回 研究課題の整理(2)

第13回 研究課題の整理(3)

第14回 研究課題の整理(4)

第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

発表に際して、1回ごとに取り組む課題を十分に計画し、それにむかって準備すること。発表に際して、冒頭で、自分の目的意識と今回の発表内容の選択について説明すること。発表後、質疑をふまえ発表内容について振り返り、理解や認識について整理しておくこと。

●評価方法

発表内容、質疑への参加状況を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

修士論文を意識し、発表機会を生かして自分の研究を深めていくよう、意欲的に取り組んでほしい。

●参考文献・教材

とくになし。必要に応じて参考文献を示す。

授業科目名	科目NO.	LAJPH2512	授業コード	LM02120010	
考古学研究演習 Advanced Studies and Seminar in Archaeology				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	岸本　直文				

●科目の主題

考古学研究を承けて、各自の研究テーマに即して関連ある考古学的課題を設定し、研究発表を通じて、考古学的な肉付けをすることを主題とする。

●到達目標

各自の研究テーマについて、地理情報など空間的な分析や、具体の遺跡や遺物の検討により、考古学的な観点を加味した総合化を試みる。

●授業内容・授業計画

設定した考古学的課題について、関連する考古資料を取り上げ、関係する遺跡や遺物の先行研究に学びつつ、発掘調査報告書などを用いて独自に吟味し研究発表を行う。その内容について参加者で討論し、そのなかから次回の発表について考えていく。3回の発表を予定している。

第1回 受講者との課題に関する指導
第2回 受講者の発表1回目(1)
第3回 受講者の発表1回目(2)
第4回 受講者の発表1回目(3)
第5回 受講者の発表1回目(4)
第6回 和泉市合同調査の検討(1)
第7回 受講者の発表2回目(1)
第8回 受講者の発表2回目(2)
第9回 受講者の発表2回目(3)
第10回 受講者の発表2回目(4)
第11回 和泉市合同調査の検討(2)
第12回 受講者の発表3回目(1)
第13回 受講者の発表3回目(2)
第14回 受講者の発表3回目(3)
第15回 受講者の発表3回目(4)

●事前・事後学習の内容

発表に際して、1回ごとに取り組む課題を十分に計画し、それにむかって準備すること。発表に際して、冒頭で、自分の目的意識と今回の発表内容の選択について説明すること。発表後、質疑をふまえ発表内容について振り返り、理解や認識について整理しておくこと。

●評価方法

発表内容質疑への参加状況を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

修士論文を意識し、発表機会を生かして自分の研究を深めていくよう、意欲的に取り組んでほしい。途中、和泉市合同調査の成果についての検討の場を設けることがある。

●参考文献・教材

とくになし。必要に応じて参考文献を示す。

授業科目名	科目NO.	LAJPH2513	授業コード	LM02130010
日本史学総合研究Ⅰ Comprehensive Studies in Japanese History Ⅰ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	仁木 宏／齊藤 紘子／岸本 直文／磐下 徹／佐賀 朝			

●科目の主題

日本史学研究法（研究計画立案）。

●到達目標

日本史学研究法の基礎を学び、考古学から古代・中世・近世・近現代にわたる日本史の総合的な研究遂行能力を養成することをめざす。

●授業内容・授業計画

受講生各自が研究テーマの設定と研究計画を立案する基礎能力を獲得するため、担当教員が分担して各時代・分野の研究状況について講ずる。その上で、受講生の関心にしたがっていくつかの研究テーマを設定し、それに関する専門書や学術論文の体系的かつ批判的検討を行う。

●事前・事後学習の内容

受講生は、各自の関心と課題設定に沿って、取り上げるべき先行研究を収集し精読しながら報告の準備を行う。報告後も研究史と課題の整理を行い、学期末の最終レポートとして、自らの研究計画を提出することとする。

●評価方法

平常点（出席と研究報告・レポート）。

●受講生へのコメント

具体的な履修方法については指導教員の指示に従うこと。

●参考文献・教材

必要な資料はコピー等で配付する。
参考文献は授業時間に指示する。

授業科目名	科目NO.	LAJPH2514	授業コード	LM02140010
日本史学総合研究Ⅱ Comprehensive Studies in Japanese History Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	仁木　宏／齊藤　紘子／岸本　直文／磐下　徹／佐賀　朝			

●科目の主題

日本史学研究法（史料）。

●到達目標

日本史学研究法を史料の点から論じ、考古学から古代・中世・近世・近現代にわたる日本史の基礎的な史料分析能力を養成することをめざす。

●授業内容・授業計画

受講生が日本史の研究能力の基盤をなす史料分析能力を広く身につけるため、担当教員が分担して各時代・分野の史資料の特徴について講ずる。その上で、受講生の関心を考慮して対象史料を選定し、具体例を通じて各時代・分野の歴史史料の調査・読解・分析の基礎能力の高度化をはかる。

●事前・事後学習の内容

受講生は、各自の関心と課題設定に沿って、取り上げるべき一次史料を収集・分析して報告の準備を行う。報告後も関連史料の収集・分析を行い、学期末の最終レポートとして、自らの研究ノートを提出することとする。

●評価方法

平常点（出席と研究報告・レポート）。

●受講生へのコメント

日本史学総合研究Ⅰを履修していることが望ましい。
具体的な履修方法については指導教員の指示に従うこと。

●参考文献・教材

必要な資料はコピー等で配付する。
参考文献は授業時間に指示する。

授業科目名	科目NO.	LAJPH3601	授業コード	LM02150010	
日本史学研究指導Ⅰ Supervision of Master's Thesis in Japanese History Ⅰ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	仁木 宏／岸本 直文／佐賀 朝				

●科目の主題

日本史に関する修士論文作成の指導を行う。

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「日本史学研究指導1」（前期）、「日本史学研究指導2」（後期）の指導によって完成させる。

前期の「日本史学研究指導1」では、1年次までの学修に基づき、修士論文の執筆計画を立て、修士論文中間発表会の機会を柱としながら、修士論文に必要な知識、技能を修士論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1) 修士論文執筆計画を立て実施する
(2) 問題意識を整理し、研究課題の学術的意義を提示する
(3) 研究目的に応じた適確な課題を設定する
(4) 研究課題に応じた適切な研究方法を計画する
(5) 研究課題に応じた先行研究の読み込みを行う
(6) 研究課題に応じた調査結果、文献資料を蓄積する
(7) 修士論文研究に関わる研究倫理について考える

●授業内容・授業計画

第1回 オリエンテーション;修士論文とは何か(確認)、日本史学の方法論(確認)、修士論文研究・執筆計画について、修士論文の評価規準について

第2～5回 修士論文構想発表会(連続4コマ);テーマに関する問題意識の整理。予想される(期待している)結論。研究方法の目処。同学年他学年の学生、複数の教員との質疑応答から学ぶ

第6回 研究計画に即して研究倫理を考える

第7回 先行研究の読み込み

第8回 「先行研究の整理」の意義と方法

第9回 修士論文の章立て

第10回 調査、文献分析の計画と結果の予想

第11～14回 修士論文中間発表会―章立ての仮決定のために―(連続4コマ);問題意識の提示。論証しようとしていること(仮の結論)。論証のための方法とその目処。章立て。これからの課題

●事前・事後学習の内容

毎回、課題の準備と復習を行う。

●評価方法

修士論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

●受講生へのコメント

修士論文は長丁場の取り組みであり、山もあれば谷もある。そこを乗り越えて頑張ってほしい。

●参考文献・教材

プリント配布。

授業科目名	科目NO.	LAJPH3602	授業コード	LM02160010	
日本史学研究指導Ⅱ Supervision of Master's Thesis in Japanese History Ⅱ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	仁木　宏／岸本　直文／佐賀　朝				

●科目の主題

日本史に関する修士論文作成の指導を行う。

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「日本史学研究指導1」（前期）、「日本史学研究指導2」（後期）の指導によって完成させる。

後期の「日本史学研究指導2」では、修士論文の仕上げに向けて、修士論文中間発表会の機会を柱としながら、修士論文に必要な知識、技能を修士論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1) 修士論文の評価規準を知る
(2) 執筆途上において、その時点の自分の修士論文を評価規準に準拠して点検する
(3) 点検の結果を踏まえ、修士論文計画・執筆計画を修正しながら修士論文を完成させる

●授業内容・授業計画

第1回　修士論文の進捗状況の報告

第2回　修士論文の評価基準の確認

第3～6回　修士論文中間発表会（4コマ連続）；完成に向けての執筆方針の確認（研究方法論、課題設定、先行研究の整理、章立て等）。完成に向けての研究・執筆計画

第7回　修士論文中間発表会の振り返り

第8回　問題意識と学術的意義を扱う部分についての点検

第9回　研究目的に応じた課題設定を扱う部分について点検

第10回　研究手法の説明を扱う部分についての点検

第11回　先行研究を扱う部分についての点検

第12回　調査結果、文献分析を扱う部分についての点検

第13回　論理の組み立てや一貫性に関する点検

第14回　学術論文としての表現、表記法等に関する点検

●事前・事後学習の内容

修士論文の準備を進める。

●評価方法

修士論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

「日本史学研究指導Ⅱ」の評価は、「修士論文」の評価と同時期に行われるが、後者が論文の内容そのものの質が評価されるのに対して、前者は、論文作成過程の学修状況が評価の対象となる。ただし、仮に「修士論文」が不可となった場合は、「日本史学研究指導Ⅱ」も不可となる。

●受講生へのコメント

修士論文は長丁場の取り組みであり、山もあれば谷もある。そこを乗り越えて頑張ってほしい。

●参考文献・教材

プリント配布。

授業科目名	科目NO.		授業コード	LM18000020
修士論文（日本史） Master's Thesis			単位数	
授業形態	担当教員名			
演習	仁木 宏／岸本 直文／佐賀 朝			

●科目の主題

日本史学専修では、修士論文を通しての学修を重視しており、ディプロマポリシーで定める学修成果を学生が修めることができるよう、修士課程の2年間をとおし、授業科目における指導のほか、専修独自の修士論文中間発表会など、学生どうしが切磋琢磨できる機会を設け、あわせて、きめこまかな個別指導を行う。

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「日本史学研究指導1」「日本史学研究指導2」の指導によって完成させる。

●到達目標

修士論文の審査基準は次のとおりであり、これを到達目標とする。

（1）修士論文は、日本史学分野における一定の研究成果を示すものでなければならない。

（2）（評価基準）修士論文は以下の各項目について、日本史学分野における十分な水準を満たさなければならない。

(a) 研究課題（テーマ）の学術的意義
明確な問題意識に基づき、日本史学分野における研究の学術的意義が述べられていること。

(b) 研究課題の的確性
研究目的に応じた的確な課題が設定されていること。

(c) 研究方法の妥当性
研究を遂行する上で、適切な研究手法がもちいられていること。

(d) 先行研究との関連
当該専門分野における主たる先行研究を踏まえたものであること。

(e) 資料利用の適切性
論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などが適切にもちいられていること。

(f) 論旨の一貫性
論旨が論理的に組み立てられ、一貫して展開されていること。

(g) 学術論文としての体裁
表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、日本史学分野の慣例に従ったものであること。

(h) 研究倫理の遵守
研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、日本史学分野が定める研究上守るべき倫理基準が満たされていること。

（3）（論文の体裁）修士論文は、論を展開する上で、日本史学分野の特性に応じた十分な分量でなければならない。

●授業内容・授業計画

修士論文は個別指導をうける。

●事前・事後学習の内容

個別指導の前後に自習する。

●評価方法

修士論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学研究科内規」にしたがい、研究科教授会において当該専攻の教員から主査1 名、副査2名を審査員として選出した上で審査をおこなう。

２月に実施する面接試験の日時は、各専修から通知する。

修士論文審査については、文学研究科が定める「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがって実施する。

●受講生へのコメント

日本史学専修においては、修士論文を重視しており、前期博士課程の学修成果を発揮するべくつとめてほしい。

●参考文献・教材

授業中に適宜、指示する。

授業科目名	科目NO.	LAWHE2501	授業コード	LM03010010	
東洋史学研究Ⅰ Advanced Studies in Oriental History Ⅰ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	平田　茂樹				

●科目の主題

中国史の主要な研究成果を学び、研究方法の習得を目指す。

●到達目標

日本の中国史研究は世界的に見て、極めて高い水準を有しています。これまでの先駆的な研究成果をたどりつつ、どのような研究視角からどのように研究を進めていくのかを習得することを目指していきます。

●授業内容・授業計画

日本の主要な研究成果を紹介し、その研究方法の習得を目指していきます。

1. イントロダクション:現在の中国史研究の状況
2. 内藤湖南の中国史研究
3. 桑原隲蔵の中国史研究
4. 加藤繁の中国史研究
5. 宮崎市定の中国史研究
6. 仁井田陞の中国史研究
7. 曽我部静雄の中国史研究
8. 周藤吉之の中国史研究
9. 西嶋定生の中国史研究
10. 宇都宮清吉の中国史研究
11. 谷川道雄の中国史研究
12. 斯波義信の中国史研究
13. 渡辺信一郎の中国史研究
14. まとめ

●事前・事後学習の内容

毎回、事前に読むべき論文を渡し、内容の理解に努めさせる。授業終了後においては、事前に予習した内容と授業の内容とを突き合わせ、正しい理解ができているのかを確認するために小レポートを提出させる。

●評価方法

レポート（100%）

●受講生へのコメント

研究史をたどることは自己の研究の視野を広げる上で、不可欠な作業です。しっかり予習をし、授業に臨むようにしてください。

●参考文献・教材

毎回、所定論文を配布。

授業科目名	科目NO.	LAWHE2502	授業コード	LM03020010	
東洋史学研究演習1 Advanced Seminar in Oriental History 1				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	平田　茂樹				

●科目の主題

中国史の各種史料についてその特徴を捉えるとともに、読解方法を習得することを目指す。

●到達目標

中国史の史料は、時代、領域において多様性を有し、基本的に取り扱える能力を有することが不可欠です。本授業では各種史料を読み解くことを目標として、演習形式で授業を進めていく。目標としては、中国史研究を進める上で高度な読解能力を身につけることを目指す。

●授業内容・授業計画

1. イントロダクション：中国史の史料概観
2. 正史
3. 実録
4. 会要
5. 起居注
6. 時政記
7. 公文書
8. 墓誌銘、神道碑、行状
9. 日記
10. 手紙
11. 筆記
12. 小説
13. 記、題跋、序
14. まとめ

●事前・事後学習の内容

授業では担当を決め、順番に史料を読み進めていきます。担当者は事前に十分な予習をし、レジュメを作成し、授業に臨むこととなります。

その他の受講者も同様に史料について十分な予習を行い、授業内での討論に臨めるように準備を行います。

授業後においては、授業内で示した課題について取り組み、定期的にその成果をレポートとして提出してもらいます。

●評価方法

出席（30%）報告内容（70%）

●受講生へのコメント

毎回の取り組みが重要ですので、弛まず授業に臨むようにしてください。

●参考文献・教材

毎回配布。

授業科目名	科目NO.	LAWHE2503	授業コード	LM03030010
東洋史学研究Ⅱ Advanced Studies in Oriental History Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	平田　茂樹			

●科目の主題

「南宋政治社会史研究」

●到達目標

宋代には数多くの文集が残されており、当時の政治や社会の実態を読み解く上での重要な史料となっている。今回は劉克荘『後村先生大全集 』他の史料を読み解く作業を通じて、南宋後半期の政治・社会の実態を解析して行く。

●授業内容・授業計画

『劉後村大全集』を主たるテキストとし、担当を決め、順次、史料を読んでいくとともに、宋代政治・社会の構造について講義する。

第1回 宋代史概観

第2回 劉克荘とは？

第3回 理宗時代の政治

第4回「題跋」の選読1

第5回「題跋」の選読2

第6回「題跋」の選読3

第7回「題跋」の選読4

第8回「題跋」の選読5

第9回「題跋」の選読6

第10回「題跋」の選読7

第11回「題跋」の選読8

第12回「墓誌銘」の選読9

第13回「墓誌銘」の選読10

第14回 宋代社会のネットワークとコミュニケーション

●事前・事後学習の内容

毎回、授業で読む箇所を指定するので、事前に当該箇所を予習する。事後は、授業で講じたポイントを振り返るとともに、紹介した論文を読み、理解を深める。

●評価方法

出席と授業への取り組み（50%）、報告（50%）。

●受講生へのコメント

文集を読んでいくことを通じて、漢文読解方法を身につけるとともに、宋代の政治・社会構造の変化について学ぶことを目指してください。

●参考文献・教材

テキストはプリント配布。

参考文献は、『世界歴史大系中国史3　五代－元』（山川出版社）、平田茂樹『宋代政治構造研究』（汲古書院）。

授業科目名	科目NO.	LAWHE2504	授業コード	LM03040010	
東洋史学研究演習2 Advanced Seminar in Oriental History 2				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	平田　茂樹				

●科目の主題

呂中「皇朝中興大事記」選読。

●到達目標

宋代には数多くの歴史評論の史料が残されており、当時の政治実態を読み解く上での重要な史料となっている。今回は南宋の呂中が書き残した『皇朝中興大事記』を読み解く作業を通じて、南宋前半期の政治の実態を解明して行く。

●授業内容・授業計画

『皇朝中興大事記』をテキストとし、担当を決め、順次、史料を読んでいくとともに、南宋初期の政治構造について講義する。

第1回　ガイダンス
第2回　『皇朝中興大事記』第一部選読
第3回　『皇朝中興大事記』第二部選読
第4回　『皇朝中興大事記』第三部選読
第5回　『皇朝中興大事記』第四部選読
第6回　『皇朝中興大事記』第五部選読
第7回　『皇朝中興大事記』第六部選読
第8回　『皇朝中興大事記』第七部選読
第9回　『皇朝中興大事記』第八部選読
第10回　『皇朝中興大事記』第九部選読
第11回　『皇朝中興大事記』第十部選読
第12回　『皇朝中興大事記』第十一部選読
第13回　『皇朝中興大事記』第十二部選読
第14回　『皇朝中興大事記』第十三部選読

●事前・事後学習の内容

毎回、授業で読む箇所を指定するので、当該箇所を予習する。事後は授業で講じたポイントを振り返るとともに、紹介した論文を読むことを通じて、理解を深める。。

●評価方法

平常点（100%）

●受講生へのコメント

白文の漢文史料を読んでいくことを通じて、漢文読解方法を身につけるとともに、宋代の政治構造の変化について学ぶことを目指してください。

●参考文献・教材

テキストはプリント配布。参考文献は、『世界歴史大系中国史3　五代－元』（山川出版社）、平田茂樹『宋代政治構造研究』（汲古書院）。

授業科目名	科目NO.	LAWHE2505	授業コード	LM03050010
東洋史学研究Ⅲ Advanced Studies in Oriental History Ⅲ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	渡辺　健哉			

●科目の主題

王国維『蒙韃備録箋證』選読

●到達目標

『蒙韃備録箋證』を選読することを通じて、高度な漢文史料読解能力を身につけるとともに、史料を通じて問題を発見し、それを分析する能力を身につけることを目指す。

●授業内容・授業計画

第01回　ガイダンス
第02回『蒙韃備録箋證』(1)
第03回『蒙韃備録箋證』(2)
第04回『蒙韃備録箋證』(3)
第05回『蒙韃備録箋證』(4)
第06回『蒙韃備録箋證』(5)
第07回『蒙韃備録箋證』(6)
第08回『蒙韃備録箋證』(7)
第09回『蒙韃備録箋證』(8)
第10回『蒙韃備録箋證』(9)
第11回『蒙韃備録箋證』(10)
第12回『蒙韃備録箋證』(11)
第13回『蒙韃備録箋證』(12)
第14回　総括と討論

●事前・事後学習の内容

本授業では中国近世史に関連する研究論文（日本語・中国語）をしばしば紹介するので、事前に授業で読む史料について予習をするとともに、それらの論文を講読しておく。また授業の終了後、受講生は関連論文及び授業内容について振り返り、理解を深める。

●評価方法

平常点（100%）

●受講生へのコメント

本授業では中国近世史および北アジア史の様々な課題を扱います。受講生自身がそれぞれの専門に照らして自ら各種問題について調べ、意見を述べられるようにしてください。

●参考文献・教材

プリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LAWHE2506	授業コード	LM03060010	
東洋史学研究演習3 Advanced Seminar in Oriental History 3				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	渡辺　健哉				

●科目の主題

王国維『黒韃事略箋證』選読

●到達目標

中国近世の史料に関する理解力と分析力を身につけるため、王国維『黒韃事略箋證』を選読していく。また同時に、モンゴルの風土を実際に目にした南宋の使者の記録を通じて、異文化理解も学ぶ。

●授業内容・授業計画

第01回　ガイダンス
第02回『黒韃事略箋證』(1)
第03回『黒韃事略箋證』(2)
第04回『黒韃事略箋證』(3)
第05回『黒韃事略箋證』(4)
第06回『黒韃事略箋證』(5)
第07回『黒韃事略箋證』(6)
第08回『黒韃事略箋證』(7)
第09回『黒韃事略箋證』(8)
第10回『黒韃事略箋證』(9)
第11回『黒韃事略箋證』(10)
第12回『黒韃事略箋證』(11)
第13回『黒韃事略箋證』(12)
第14回　総括と討論

●事前・事後学習の内容

事前に関連の史料を調べておくこと。事後には授業で討論したポイントを振り返り、遊牧社会についての理解を深める。

●評価方法

平常点(100%)

●受講生へのコメント

史料に基づいて論理を構成する能力を身につけるようにしてください。

●参考文献・教材

プリント配付

授業科目名	科目NO.	LAWHE2507	授業コード	LM03070010	
東洋史学研究Ⅳ Advanced Studies in Oriental History Ⅳ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	上野　雅由樹				

●科目の主題

オスマン帝国の対外関係と外国人の処遇に関する英文研究文献を輪読する。

●到達目標

西アジア史分野の高度な専門文献で論じられている内容を正確に説明でき、その内容について批判的な観点から疑問点を提示できる。

●授業内容・授業計画

この授業では、オスマン帝国の対外関係と外国人の処遇に関する研究文献を輪読する。

1. ガイダンス
2. 14, 15世紀の条約体制
3. 境域地帯
4. 奴隷制と地中海
5. 戦争と境界地帯の人々
6. 18世紀における領事権限
7. オスマンのローマ
8. アジャムのアルメニア人
9. 対イラン関係
10. オスマン臣民と捕虜
11. オスマン国籍をめぐって
12. 巡礼とカピチュレーション
13. 中央アジア出身者と近代オスマン帝国
14. 移動制限と通行証

●事前・事後学習の内容

事前に課題文献を読み、疑問点や問題点を整理しておくこと。事後学習として、各回の読解内容を読み返し、自身の理解を整理すること。

●評価方法

演習形式で行うため、平常点のみで評価する。

●受講生へのコメント

講読文献で扱われている内容を自分の興味関心に引き付けて読んでいって下さい。

●参考文献・教材

講読文献は配布する。参考文献として以下のものをあげる。

Can, Low, Schull, Zens eds., The Subjects of Ottoman International Law (Indiana University Press, 2020).

Heywood, Parve eds., The Treaties of Carlowitz (1699) (Leiden: Brill, 2020).

授業科目名	科目NO.	LAWHE2508	授業コード	LM03080010	
東洋史学研究演習4 Advanced Seminar in Oriental History 4				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	上野　雅由樹				

●科目の主題

近世オスマン帝国のギリシア正教徒に関する英文文献を輪読する。

●到達目標

近世西アジア史に関する高度な専門文献で論じられている内容を正確に説明できる、その内容について批判的な観点から疑問点を提示できる。

●授業内容・授業計画

近世オスマン帝国の正教徒に関する文献を輪読する。

1. ガイダンス
2. テッサリア
3. コンスタンティノープルからイスタンブルへ
4. イスラム帝国のキリスト教徒
5. 大ギリシア世界
6. ギリシア人と17世紀の危機
7. 他者と生きる
8. 総主教の勝利
9. オスマン宮廷とギリシア啓蒙
10. ミッレト制再考
11. オスマンの征服方法と正教会
12. 聖職者徴税請負制
13. 徴税請負制と正教会
14. ギリシア人エリート

●事前・事後学習の内容

事前学習として、報告者が取り上げる箇所に事前に目を通して内容を確認し、疑問点をあげておくこと。事後学習として、取り上げられた箇所を再読し、各自の理解を再確認すること。

●評価方法

演習形式の授業であるため、平常点のみで評価する。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

Molly Greene, The Edinburgh History of the Greeks, 1453 to 1768 (Edinburgh University Press, 2015).
Tom Papademetriou, Render unto the Sultan (Oxford University Press, 2015).

授業科目名	科目NO.	LAWHE2509	授業コード	LM03090010
東洋史学研究Ⅴ Advanced Studies in Oriental History Ⅴ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	大野　晃嗣			

●科目の主題

中国の近世王朝である明朝について、その官僚制度・文書システムについて理解を深める。

●到達目標

明王朝の国家体制を支える多様な制度がそれぞれ相互に関連していることを学び、加えて基本的な文書を読むスキルを身につけることによって、自分で問題を発見し探究できるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第一回　オリエンテーション(授業の進め方、予習などについて説明を行う)

第二回　明朝史概説

第三回　明代官僚制度(中央官制)

第四回　明代官僚制度(地方官制)

第五回　明朝文書行政の解説(1):基本構造

第六回　明朝文書行政の解説(2):史料用語の理解　第七回　明代法制史と法制史文書の解説

第八回　法制史文書読解と発表

第九回　法制史文書読解と討論

第十回　明代外交文書の解説

第十一回　外交文書読解と発表

第十二回　外交文書読解と討論

第十三回　明朝の制度と清朝の制度(1)

第十四回　明朝の制度と清朝の制度(2)

●事前・事後学習の内容

第一回の授業時に、史料を配布する。その史料を自分で読んだ上で、授業に臨むこと。また授業後は読解した内容と講義で説明した知識とを自分で結びつけて、理解を定着させること。

●評価方法

平常点（出席状況と発表内容）

●受講生へのコメント

歴史を研究をする上では多様な知識が必要になること、また手元にある漢和辞典だけでは史料を読むことはできないことを学んでいただければ、と思います。

●参考文献・教材

特になし

授業科目名	科目NO.	LAWHE2510	授業コード	LM03100010	
東洋史学研究VI Advanced Studies in Oriental History VI				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	辻 明日香				

●科目の主題

前近代イスラーム期エジプト社会の変容について、コプト教会の歴史を中心に論じる

●到達目標

多様で多層的な中東社会に関する理解を深める

●授業内容・授業計画

第1回イントロダクション

第2回古代末期エジプトのキリスト教徒(1)

第3回古代末期エジプトのキリスト教徒(2)

第4回アラブのエジプト支配とコプト教会の成立(1)

第5回アラブのエジプト支配とコプト教会の成立(2)

第6回ファーティマ朝下のエジプト社会

第7回改宗と言語交替

第8回政権に仕える人々、教会に仕える人々

第9回十字軍と中東のキリスト教徒(1)

第10回十字軍と中東のキリスト教徒(2)

第11回マムルーク朝下の生存戦略(1)

第12回マムルーク朝下の生存戦略(2)

第13回聖人崇敬のあり方:イスラームとキリスト教、ユダヤ教

第14回現代におけるディアスポラ

第15回定期試験

●事前・事後学習の内容

授業前に西アジア史の流れを復習しておくこと。配布資料は事前に内容を確認し、授業に臨んでください。

●評価方法

試験で評価する。

●受講生へのコメント

中東のキリスト教徒は、２千年ほどの歴史を有し、そのうちの1400年ほど、イスラーム教徒と共存してきました。本講義では、中東のキリスト教徒とはどのような人々で、イスラーム教徒、ひいてはイスラーム文明と歴史的にどのように関わってきたのかということを、エジプトのコプト教会信徒の歴史を中心に見ていきます。また、古代末期にはキリスト教社会であったエジプトがイスラーム社会に変容していった過程を考察します。

●参考文献・教材

テキスト：特になし。参考文献：三代川寛子編『東方キリスト教諸教会：基礎データと研究案内』明石書店、2017年。

授業科目名	科目NO.	LAWHE2511	授業コード	LM03130010	
東洋史学総合研究Ⅰ Comprehensive Studies in Oriental History Ⅰ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	平田　茂樹／濱本　真実／上野　雅由樹／渡辺　健哉				

●科目の主題

東洋史学の特徴を理解し、その長所を生かした研究について考える。

●到達目標

それぞれの研究テーマに即して、研究目的や方法を明確化する。

●授業内容・授業計画

東洋史学を総合的に理解するよう、基本的諸問題および史学史について、担当教員がそれぞれの専門分野にしたがって講ずる。あわせて、研究目的・方法を明確にし、修士論文の研究テーマの設定と研究計画の立案ができるよう、受講生にレポートや研究報告を求め、それに基づく討論を行う。

●事前・事後学習の内容

担当報告者は、事前に報告内容を準備させる。また、授業終了後、個別に報告者に指導を行い、課題について指示を与えて、取り組ませる。

●評価方法

出席（30%）と報告内容（70%）

●受講生へのコメント

自分の研究テーマだけでなく、ほかの受講生のテーマにも関心をもって、ディスカッションに参加できるようにしてください。

●参考文献・教材

随時紹介する。

授業科目名	科目NO.	LAWHE2512	授業コード	LM03140010	
東洋史学総合研究Ⅱ Comprehensive Studies in Oriental History Ⅱ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	平田　茂樹／濱本　真実／上野　雅由樹／渡辺　健哉				

●科目の主題

受講生各自が研究テーマの特徴を理解したうえで、研究に取り組むことを考える。

●到達目標

研究状況の把握や史料収集方法に関する能力を高められるようにする。

●授業内容・授業計画

東洋史学の研究手法を総合的に理解するよう、基本的な専門書・論文の収集・読解・分析の仕方を、担当教員がそれぞれの専門分野にしたがって講ずる。あわせて、受講生各自のテーマにかんする史料の所在の確認・収集の仕方を指導し、受講生各自のレポートに基づいて、より高度な基礎能力を獲得できるよう討論を行う。終了時に、研究計画書の提出を求める。

●事前・事後学習の内容

担当報告者は、事前に報告内容を準備させる。また、授業終了後、個別に報告者に指導を行い、課題について指示を与えて、取り組ませる。

●評価方法

出席（30%）と報告内容（70%）

●受講生へのコメント

自分の研究テーマだけでなく、ほかの受講生のテーマにも関心をもって、ディスカッションに参加できるようにしてください。

●参考文献・教材

随時紹介する。

授業科目名	科目NO.	LAWHE3601	授業コード	LM03150010	
東洋史学研究指導Ⅰ Supervision of Master's Thesis in Oriental History Ⅰ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	平田　茂樹／渡辺　健哉				

●科目の主題

それぞれの研究計画に基づき史料の収集・読解・分析を行う。その際、史料解析の問題点を指摘し、データの整理の仕方を会得するよう努める。

●到達目標

修士論文の作成に必要とされる史料解析能力を習得させる。

●授業内容・授業計画

学生は研究テーマに応じて、授業並びに授業以外においても適宜、教員の指導を受ける。

●事前・事後学習の内容

報告担当者は入念な準備を行うと共に、授業終了後は、教員の個人指導を受け、その指示に従い、課題に取り組むようにさせる。

●評価方法

出席（30%）と報告内容（70%）

●受講生へのコメント

自分の研究テーマを相対化できるよう、幅広い知見をもってください。

●参考文献・教材

随時紹介する。

授業科目名	科目NO.	LAWHE3602	授業コード	LM03160010	
東洋史学研究指導Ⅱ Supervision of Master's Thesis in Oriental History Ⅱ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	平田　茂樹／渡辺　健哉				

●科目の主題

論文の構成、執筆上の問題点などを指摘しながら、論文の完成度を高める。

●到達目標

論文の完成に至るまで、緊密な個別指導と報告会を通じての共同指導を行う。

●授業内容・授業計画

学生はその研究テーマに応じて、授業（報告会）並びに授業以外も適宜、教員の指導を受ける。

●事前・事後学習の内容

報告担当者は入念な準備を行うと共に、授業（報告会）終了後は、教員の個人指導を受け、その指示に従い、課題に取り組むようにさせる。

●評価方法

出席（30%）と報告内容（70%）

●受講生へのコメント

自分の研究テーマを相対化できるよう、幅広い知見をもってください。

●参考文献・教材

随時紹介する。

授業科目名	科目NO.	LAGEM2501	授業コード	LM03170010
世界史学研究 Lecture on World History			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	濱本 真実			

●科目の主題

19世紀から20世紀はじめにかけて、アジアの覇権をめぐって大英帝国とロシア帝国は「グレート・ゲーム」と呼ばれる争いを繰り広げた。南下政策をとるロシアと、英領インドとの間にあった中央アジアは、この「グレート・ゲーム」の主要な舞台の一つである。授業では、この対立を背景に中央アジアを訪れた様々な英国人による旅行記を輪読形式で読み、英文史料を正確に読み解く力を養う。また、当時の中央アジアの状況と英露の角逐について理解を深めるとともに、「旅行記」というジャンルの史料の扱い方について学ぶことも目的とする。

●到達目標

英語の史料を正確に読み解くことができる。また、史料批判を意識しながら、史料を読むことができる。

●授業内容・授業計画

第1回 英露の「グレート・ゲーム」についての解説と、本授業で取り上げる英国人による中央アジア旅行記の説明

第2回 1831-1833年にインドから中央アジアのブハラ・アミール国に旅したアレクサンダー・バーンズの旅行記A. Burnes, Travels into Bokhara; being the account of a journey from India to Cabool, Tartary, and Persia, London, 1834など、英国人による19世紀前半の中央アジア旅行記の講読(1)。

第3回 英国人による19世紀前半の中央アジア旅行記の講読(2)

第4回 英国人による19世紀前半の中央アジア旅行記の講読(3)

第5回 英国人による19世紀前半の中央アジア旅行記の講読(4)

第6回 英国人による19世紀前半の中央アジア旅行記の講読(5)

第7回 英国人による19世紀前半の中央アジア旅行記の講読(6

第8回 1860-70年代に新疆に成立したヤークーブ・ベク政権についての解説

第9回 冒険家であり外交官でもあったロバート・ショウの1871年の新疆南部への旅行記R. B. Shaw, A Visit to High Tartary, Yarkund, and Kashgar, London, 1871 など、英国人による19世紀後半の新疆南部・中央アジア関連記録の講読(1

第10回 19世紀後半の新疆南部・中央アジア関連記録の講読(2)

第11回 19世紀後半の新疆南部・中央アジア関連記録の講読(3)

第12回 19世紀後半の新疆南部・中央アジア関連記録の講読(4)

第13回 19世紀後半の新疆南部・中央アジア関連記録の講読(5)

第14回 19世紀後半の新疆南部・中央アジア関連記録の講読(6)

第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

第１回事前学習 グレート・ゲームについて参考文献を読んで疑問点を整理しておく。
第２～7回事前学習 講読予定の部分を精読して授業に臨む。
第8回事前学習　 ヤークーブ・ベク政権について、参考文献を読んで疑問点を整理しておく。
第９～14回事前学習 講読予定の部分を精読して授業に臨む。
第15回事後学習 授業で講読した旅行記の記述をもとに、史料批判の方法と重要性について考察する。

●評価方法

毎回の授業での輪読で、英語の文章を正確に読み解くことができているかを評価し、レポートを含め総合的に評価する。

●受講生へのコメント

英和辞典を必ず持参すること。

●参考文献･教材

毎回、講読する部分のプリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LAGEM2502	授業コード	LM03180010	
世界史学研究演習 Seminar on World History				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	濱本 真実				

●科目の主題

帝政末期からソ連時代初期にロシア帝国・ソ連を訪れた欧米人による様々な英語の記録を輪読形式で読む。この時代の史料を正確に理解するためには、第一次世界大戦、ロシア革命、革命後の内戦等について、広範な知識が必要である。このため、随時日本語と英語の概説書や論文を参照しながら、輪読を進める。授業を通じて、史料を批判的に読む方法を身につけるとともに、20世紀初頭のロシアと中央ユーラシアの歴史に関して、幅広い知識を獲得することを目指す。

●到達目標

時代背景と専門的な研究を踏まえたうえで、英語の史料を正確に読み解き、史料の重要な部分を探りだすことができる。

●授業内容・授業計画

第1回 授業の方針についての説明、および、ロシア帝国末期から革命、ソ連初期の歴史に関する概説

第2回 池田嘉郎(編)『世界戦争から革命へ』所収の論文等をもとに、ロシア革命前後の歴史について、専門家の議論を辿る。

第3回 小松久男『激動の中のイスラーム:中央アジア近現代史』等の中央ユーラシア近現代史に関する概説書や、論文をもとに、ロシア革命前後の中央ユーラシア史について学ぶ。

第4回 ロシアにおける1917年の10月革命後、中央アジアのタシュケントに、情報収集のために中国のカシュガルから潜入したイギリス人フレデリック・ベイリーの旅行記F. M. Bailey, Mission to Tashkent, London (1946)等、英語の旅行記の輪読形式での講読(1)

第5回 英語の旅行記の輪読形式での講読(2)

第6回 英語の旅行記の輪読形式での講読(3)

第7回 英語の旅行記の輪読形式での講読(4)

第8回 英語の旅行記の輪読形式での講読(5)

第9回 英語の旅行記の輪読形式での講読(6)

第10回 英語の旅行記の輪読形式での講読(7)

第11回 英語の旅行記の輪読形式での講読(8)

第12回 英語の旅行記の輪読形式での講読(9)

第13回 英語の旅行記の輪読形式での講読(10)

第14回 英語の旅行記の輪読形式での講読(11)

第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

第１回事前学習 ロシア革命について参考文献を読んで疑問点を整理しておく。

第２回事前学習 授業で扱う論文をあらかじめ読んで疑問点を整理しておく。

第3回事前学習 中央ユーラシア近現代史ついて参考文献を読んで疑問点を整理しておく。

第4～14回 事前学習 講読予定の章を精読して授業に臨むとともに、関連する事柄についての研究文献を授業前に独自に調査する。

第15回事後学習 授業で扱った史料の位置づけについて考察する。

●評価方法

毎回の授業での輪読で、英語の文章を正確に読み解くことができているかを評価し、レポートを含め総合的に評価する。

●受講生へのコメント

英語論文の講読の回には、必ず英和辞典を持参すること。

●参考文献･教材

毎回、授業で扱う論文や、講読する部分のプリントを配布する。

授業科目名	科目NO.		授業コード	LM18000030
修士論文（東洋史） Master's Thesis			単位数	
授業形態	担当教員名			
演習	平田　茂樹／渡辺　健哉			

●科目の主題

文学研究科では、修士論文を通しての学修を重視しており、ディプロマポシシーで定める学修成果を学生が修めることができるよう、修士課程の2年間をとおし、授業科目における指導のほか、専修ごとの修士論文ガイダンス、修士論文構想発表会、修士論文中間発表会など、学生どうしが切磋琢磨できる機会を設け、あわせて、きめこまかな個別指導を行う。

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「東洋史学研究指導1」「東洋史学研究指導2」の指導によって完成させる。

●到達目標

修士論文の審査基準は次のとおりであり、これを到達目標とする。

（1）修士論文は、東洋史学分野における一定の研究成果を示すものでなければならない。

（2）（評価基準）修士論文は以下の各項目について、東洋史学分野における十分な水準を満たさなければならない。

(a) 研究課題（テーマ）の学術的意義
明確な問題意識に基づき、東洋史学分野における研究の学術的意義が述べられていること。

(b) 研究課題の的確性
研究目的に応じた的確な課題が設定されていること。

(c) 研究方法の妥当性
研究を遂行する上で、適切な研究手法がもちいられていること。

(d) 先行研究との関連
当該専門分野における主たる先行研究を踏まえたものであること。

(e) 資料利用の適切性
論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などが適切にもちいられていること。

(f) 論旨の一貫性
論旨が論理的に組み立てられ、一貫して展開されていること。

(g) 学術論文としての体裁
表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、東洋史学分野の慣例に従ったものであること。

(h) 研究倫理の遵守
研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、東洋史学分野が定める研究上守るべき倫理基準が満たされていること。

（3）（論文の体裁）修士論文は、論を展開する上で、東洋史学分野の特性に応じた十分な分量でなければならない。

●授業内容・授業計画

各回の授業内容の記述は「修士論文」にそぐわないので省略する。なお、「修士論文」に連動するものとして、「東洋史学研究指導1」「東洋史学研究指導2」のシラバスを参照すること。

●事前・事後学習の内容

事前・事後学習の内容は「修士論文」にそぐわないので省略する。なお、「修士論文」に連動するものとして、「東洋史学研究指導1」「東洋史学研究指導2」のシラバスを参照すること。

●評価方法

修士論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学研究科内規」にしたがい、研究科教授会において当該専攻の教員から主査1 名、副査2名を審査員として選出した上で審査をおこなう。

２月に実施する面接試験の日時は、各専修から通知する。

修士論文審査については、文学研究科が定める「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがって実施する。

●受講生へのコメント

「修士論文」および「東洋史学研究指導1」は、修士論文を提出する年度の前期に、「東洋史学研究指導2」は後期の履修登録期間中にWeb履修登録すること。

修士論文は2年間の博士前期課程の集大成である。履修モデルとしての東洋史学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

●参考文献・教材指定しない

授業科目名	科目NO.	LAWEW2504	授業コード	LM04020010
西洋史学研究演習1 Advanced Seminar in Western History 1			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	足立　広明			

●科目の主題

古代末期のジェンダーとパブリック・エージェンシー（公的主体）

●到達目標

地中海世界のジェンダー規範が古代末期にどのように変化したか、女性を主体として理解する。

●授業内容・授業計画

授業内容：古代地中海世界はギリシアの古典作品やローマの法学、それにキリスト教といった西洋世界の規範となる文かを生みだした。そのため、どうしても現代的な視点から史料を見てしまうことが多い。しかし、それらの史料を生み出した社会は現代とは異なった価値観を持ち、異なった形で編成されていたことを知らなければならない。ジェンダーに注目した場合、古代地中海世界は極めて家父長制的な社会であるというほかないが、近代の価値基準からすると社会的従属と性別分業を強調するかのような徳目で女性の公的指導力が賞賛される場合も多くの碑文で確認できる。

本講義では、このような古代社会における女性の公的指導力の在り方に注目し、それがキリスト教の台頭する古代末期にどのように変容しつつ継承されていったのかを各種の史料や先行研究からたどっていく。

第1回 ガイダンス

第2−3回 ヘレニズム世界の女性とエージェンシー

第4−5回 ローマ世界の女性とエージェンシー

第5回 旧約聖書の女性観

第6−7回 新約聖書の女性観

第8−10回 女性使徒テクラと自己洗礼

第10回 女性巡礼エゲリア

第11−14回 古代末期の女性修道者と巡礼

第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

講義時に指示された内容を予復習する。

●評価方法

平常点60パーセント。レポート40パーセント。

●受講生へのコメント

上述の授業計画は目安であり、受講者の専攻と関心により外国語テキストの講読、研究発表も取り入れてよい。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LAWEW2505	授業コード	LM04030010
西洋史学研究Ⅱ Advanced Studies in Western History Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義／演習	草生　久嗣			

●科目の主題

中世東地中海における文化的諸問題について、とりあげつつ、大学院における研究活動基盤を構築する。
受講者の希望も踏まえ、「書物・メディア論」・「宮廷文化論」・「地方行政論」・「政治教会問題」などを主テーマとして取り上げ、それぞれについての基本文献の検討・議論をもとに考察を深めてゆく。

●到達目標

身近ではなかった地域・テーマについても、基礎文献およびその研究手法、プレゼンについて習熟することにより、その研修成果を各自の研究展開に役立てる。

●授業内容・授業計画

参加者の意向によって、各回の内容や順序に入れ替わりが生ずることがある。

また、別曜日の個別指導回をもって固定回に代えることがある。

第1回 イントロダクション：中世東地中海のキリスト教社会

第2回 歴史文化概観I：古代末期史・初期ビザンツ史の論点

第3回 歴史文化概観II：研究動向について

第4回 歴史文化概観III：古典と新進の研究について

第5回 思想文化概観I：一神教世界史の論点

第6回 思想文化概観II：研究動向について

第7回 思想文化概観III：正統と異端

第8回 メディア論I：木簡、パピルス、獣皮紙、紙

第9回 メディア論II：アレクサンドリア図書館、宮廷書庫、個人コレクション

第10回 メディア論III："Bookmen"と知識人

第11回 メディア論IV：勅撰大叢書プロジェクト論

第12回 異端学I：異端とは何か

第13回 異端学II：異端党派論

第14回 異端学III：異端カタログ

●事前・事後学習の内容

各回において、文献の収集および検討、レジュメとしてのアウトプットの用意が求められる。その作法については、授業内で解説を行う。

●評価方法

平常点とレポートによる。

●受講生へのコメント

受講者の語学力にあわせ、英語に限らない外国語文献を検討するが、最低限、英語資料の丁寧な読解が報告担当者に求められる。

●参考文献・教材

授業中に指定する。

授業科目名	科目NO.	LAWEW2506	授業コード	LM04040010	
西洋史学研究演習2 Advanced Seminar in Western History 2				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	草生　久嗣				

●科目の主題

中世東地中海世界における異端問題（ビザンツ史特論）

●到達目標

中世ヨーロッパ・ビザンツの信仰・社会について理解するカギを、史料の講読を通じて学ぶ。

●授業内容・授業計画

西洋中世史・ビザンツ史・中世異端史の最新有力論考や古典とされている文献を選択し、東方ビザンツ世界を題材としたものについて講読してゆく。担当者はその資料の精読・翻訳・要約を行って授業に臨む。（ただし、参加者の専門・意向に合わせた内容調整あり）

第1回 ガイダンス

第2回 (1)ビザンツ帝国の内と外

第3回 (1.1)『帝国統治論』(コンスタンティノス7世)

第4回 (1.2)"Byzantine Theocracy"から"Byzantine Commonwealth"、"Byzantine Republic"まで

第5回 (1.3)まとめ

第6回 (2)ビザンツ帝国の異端対策

第7回 (2.1)ユスティニアノス帝の対異端政策(和田廣)

第8回 (2.2) How to Read Heresiology? (A.カメロン)

第9回 (2.3)まとめ

第10回 (3)二元論異端ーガイド

第11回 (3.1)異端の源流(ストヤノフ)

第12回 (3.2)カタリ派(渡邊昌美)

第13回 (3.3)まとめ

第14回 総括プレゼン

●事前・事後学習の内容

各回、担当者は指定された読書報告を行い、参加者はそれに合わせた情報補足や議論の整理を行う。課題となる文献は、必要なものが議論の流れにあわせて補われていく予定。テキストの内容把握にとどまらず、学会動向・技術的な知見も習得してもらう。

●評価方法

参加の姿勢および報告、提出課題に対する評価

●受講生へのコメント

西洋のキリスト教異端問題は、これまで西ヨーロッパにおける事例を軸に検討されてきましたが、同時期の東方世界、ビザンツ正教会世界にあっては別質の特徴ある姿をとっていました。思想・信仰に対する審判や弾圧、差別を再生産してゆく異端レッテルの機能など、歴史人類学および歴史社会学にもおよぶテーマとして扱うことで、ビザンツ帝国史研究に従来とは異なった形でアプローチしていこうと思います。

●参考文献・教材

検討対象文献：参照箇所などは授業中に指示する

・Dimitri Obolensky, 'The principles and methods of Byzantine diplomacy,' in Byzantium and the Slavs: Collected Studies, 1994, pp. 1–22.

・Anthony Kaldellis, Romanland: Ethnicity and Empire in Byzantium, 2019.

・和田廣「ユスティニアヌス1世帝の異端迫害政策に

授業科目名	科目NO.	LAWEW2507	授業コード	LM04050010	
西洋史学研究Ⅲ Advanced Studies in Western History Ⅲ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義／演習	草生　久嗣				

●科目の主題

史料読解の理論と実践

●到達目標

文字で書かれたテクストとして歴史史料も文学作品も大きな違いはない。史料を読解する上での様々なアプローチの仕方を「文学批評理論」に学び、受講生各人のテーマに沿った史料読解に実践的に活かす。

●授業内容・授業計画

石原千秋ほか著『読むための理論―文学・思想・批評』、世織書房、1992年、ならびに富山太佳夫『文化と精読　新しい文学入門』名古屋大学出版会、2003年を教科書に用いて、毎回、授業前半は教科書の指定箇所の要約と論評、後半は受講生の史料読解のプレゼンテーションを行う。

第1回　授業の進め方についての説明
第2回　教科書の要約と論評;史料読解
第3回　教科書の要約と論評;史料読解
第4回　教科書の要約と論評;史料読解
第5回　教科書の要約と論評;史料読解
第6回　教科書の要約と論評;史料読解
第7回　教科書の要約と論評;史料読解
第8回　教科書の要約と論評;史料読解
第9回　教科書の要約と論評;史料読解
第10回　教科書の要約と論評;史料読解
第11回　教科書の要約と論評;史料読解
第12回　教科書の要約と論評;史料読解
第13回　教科書の要約と論評;史料読解
第14回　教科書の要約と論評;史料読解
第15回　教科書の要約と論評;史料読解

●事前・事後学習の内容

受講生は教科書の各回の指定箇所を予習する。教科書担当の報告者は同箇所の要約と論評をレジュメA3×3-4枚にまとめる。史料読解担当の報告者は史料原文とその和訳ならびに註解をレジュメA3×3-4枚にまとめる。

●評価方法

平常点（「報告・発表」など授業への参加態度）：100%

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

石原千秋ほか著『読むための理論―文学・思想・批評』、世織書房、1992年
富山太佳夫『文化と精読　新しい文学入門』名古屋大学出版会、2003年

授業科目名	科目NO.	LAWEW2508	授業コード	LM04060010	
西洋史学研究演習3 Advanced Seminar in Western History 3				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	北村　昌史				

●科目の主題

民衆史・マイクロヒストリーの困難と可能性

●到達目標

残された史料から民衆が生きた微細な歴史を復元する上での困難と可能性を学び、受講生各人のテーマに沿った史料読解に実践的に活かす。

●授業内容・授業計画

カルロ・ギンズブルグ著、上村忠男訳『歴史を逆なでに読む』、みすず書房、2003年;横山源之助『日本の下層社会』岩波文庫、1985年;小板橋二郎『ふるさとは貧民窟なりき』風媒社、1993年;開沼博『「フクシマ」論　原子力ムラはなぜ生まれたのか』、青土社、2011年;清原悠「「ムラの欲望」とは何かー開沼博『「フクシマ」論』における「ムラ」と戦後日本の位置ー」、『ソシオロゴス』8号、2012年;ピエール・ブルデュー編著、荒井文雄・櫻本陽一監訳『世界の悲惨』、藤原書店、2019年を教科書に用いて、毎回、授業前半は教科書の指定箇所の要約と論評、後半は受講生の史料読解のプレゼンテーションを行う。

第1回　授業の進め方についての説明
第2回　教科書の要約と論評;史料読解
第3回　教科書の要約と論評;史料読解
第4回　教科書の要約と論評;史料読解
第5回　教科書の要約と論評;史料読解
第6回　教科書の要約と論評;史料読解
第7回　教科書の要約と論評;史料読解
第8回　教科書の要約と論評;史料読解
第9回　教科書の要約と論評;史料読解
第10回　教科書の要約と論評;史料読解
第11回　教科書の要約と論評;史料読解
第12回　教科書の要約と論評;史料読解
第13回　教科書の要約と論評;史料読解
第14回　教科書の要約と論評;史料読解
第15回　教科書の要約と論評;史料読解

●事前・事後学習の内容

受講生は教科書の各回の指定箇所を予習する。教科書担当の報告者は同箇所の要約と論評をレジュメA3×3-4枚にまとめる。史料読解担当の報告者は史料原文とその和訳ならびに註解をレジュメA3×3-4枚にまとめる。

●評価方法

平常点（「報告・発表」など授業への参加態度）：100%

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

カルロ・ギンズブルグ著、上村忠男訳『歴史を逆なでに読む』、みすず書房、2003年；横山源之助『日本の下層社会』、

岩波文庫、1985年；小板橋二郎『ふるさとは貧民窟なりき』、風媒社、1993年；開沼博『「フクシマ」論　原子力ムラはなぜ生まれたのか』、青土社、2011年；清原悠「「ムラの欲望」とは何か」、『ソシオロゴス』8号、2012年；ピエール・ブルデュー編著、荒井文雄・櫻本陽一監訳『世界の悲惨』、藤原書店、2019年

授業科目名	科目NO.	LAWEW2509	授業コード	LM04070010	
西洋史学研究Ⅳ Advanced Studies in Western History Ⅳ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	北村　昌史				

●科目の主題

西洋近現代史をめぐる諸問題。前半3分の2は受講生の語学力や関心に応じて、英語ないしはドイツ語の研究書をもとに討論を行う授業をおこない、その後参加者による自由発表をおこなう。

●到達目標

高度な研究書を読み込んで議論を展開する能力を身につけ、自由発表によりその能力を実践する。

●授業内容・授業計画

研究書は未定。研究書ないしは論文を読む際には、毎回担当者を決めレジュメを作成してきていただいて、それをもとに報告していただく。それを受けて出席者で討論する。自由発表は受講生が現在関心を持っているテーマについて報告していただく。

第1回 ガイダンス
第2回 英語ないしはドイツ語の研究書
第3回 英語ないしはドイツ語の研究書
第4回 英語ないしはドイツ語の研究書
第5回 英語ないしはドイツ語の研究書
第6回 英語ないしはドイツ語の研究書
第7回 英語ないしはドイツ語の研究書
第8回 英語ないしはドイツ語の研究書
第9回 英語ないしはドイツ語の研究書
第10回 英語ないしはドイツ語の研究書
第11回 自由発表
第12回 自由発表
第13回 自由発表
第14回 自由発表

●事前・事後学習の内容

前半3分の2の事前学習は、予習をして、自分なりに内容を整理し、事後学習は、授業で議論された研究手法や歴史的事実について文献やインターネットなどで確認すること。自由発表の回については具体的な内容は指示できないが、他人の報告を聞いて自分の研究について様々な角度から見つめなおすこと。

●評価方法

平常点：100%。

●受講生へのコメント

研究書に基づいて討論する授業では予習は必須。自由発表では、出席者は必ず質問すること。自分で授業を作るぐらいの気概で授業に出席すること。

●参考文献・教材

授業で適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LAWEW2510	授業コード	LM04090010	
西洋史学研究演習4 Advanced Seminar in Western History 4				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	北村　昌史				

●科目の主題

西洋史をめぐる諸問題。歴史研究の土台である「史料」について検討する。担当教員および受講生が現在取り組んでいる史料をそれぞれ紹介し、その史料の持つ研究上の可能性を議論する。

●到達目標

「史料」のもつ可能性と限界についての議論を通じて、「史料」から何がわかるかについての感覚を身につける。

●授業内容・授業計画

担当教員がまず自分の「史料」をいくつか紹介し、それを受けて受講生による「史料」の紹介を行う。

第1回 ガイダンス
第2回 担当教員が検討している史料
第3回 担当教員が検討している史料
第4回 担当教員が検討している史料
第5回 担当教員が検討している史料
第6回 受講生が検討している史料
第7回 受講生が検討している史料
第8回 受講生が検討している史料
第9回 受講生が検討している史料
第10回 受講生が検討している史料
第11回 受講生が検討している史料
第12回 受講生が検討している史料
第13回 受講生が検討している史料
第14回 総括的議論
第15回 総括的議論

●事前・事後学習の内容

事前・事後学習については、他人の「史料」をめぐる議論を聞いて自分の研究を様々な角度から見つめなおしてほしい。

●評価方法

平常点：100%。

●受講生へのコメント

授業を自分が作るくらいの気概で臨んでほしい。

●参考文献・教材

とくになし。

授業科目名	科目NO.	LAWEW2511	授業コード	LM04100010	
西洋史学研究Ⅴ Advanced Studies in Western History Ⅴ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	図師　宣忠				

●科目の主題

中世ヨーロッパにおける紛争と裁判

●到達目標

①歴史的な知識の習得：中世ヨーロッパ社会の歴史過程について基本的な知識を習得する。

②歴史学的なまなざしの獲得：歴史的な史料の性質を踏まえて、そこから読み取れる内容について判断できるようになるとともに、歴史を学ぶ意味について考えを深める。

③法的思考の涵養：法の根本的な価値や考え方を理解し、社会的判断力を培う。

●授業内容・授業計画

本授業については基本対面を予定しているが、状況によって遠隔に切り替える場合がある。

第1回　イントロダクション：中世とは何か？

第2回　中世における記憶と記録

第3回　紛争のなかのヨーロッパ中世

第4回　紛争と紛争解決1：神判・宣誓・決闘裁判

第5回　紛争と紛争解決2：フェーデと神の平和

第6回　紛争と紛争解決3：中世都市と暴力

第7回　中世におけるキリスト教と異端

第8回　異端審問と権力1：異端審問とは何か？

第9回　異端審問と権力2：審問記録の作成・保管・利用

第10回　ジャンヌ・ダルク裁判1：ジャンヌ・ダルクとその時代

第11回　ジャンヌ・ダルク裁判2：審問記録を読む

第12回　近世への展望1：国王裁判と恩赦嘆願

第13回　近世への展望2：魔女裁判と拷問による自白

第14回　まとめ：中世史とは何か？

●事前・事後学習の内容

事前学習：授業前に、次回の講義に関する資料を本授業のWebサイトに掲出する。あらかじめ内容を確認しておくこと。

事後学習：授業後に、講義内容について小レポートを課す。授業内容を振り返り、講義の要点をまとめておくこと。

●評価方法

レポート 70%

授業中の課題 30%

●受講生へのコメント

この講義では、中世ヨーロッパの紛争や裁判に関するトピックを取り上げて、「メディアとコミュニケーション」という観点を通じて具体的に検討していく。現代の日本社会との比較を通じて、過去の社会のあり方について理解を深めたい。過去のヨーロッパ社会を生きた人々は、日常的な争いや諍いにどのように対処していたのだろうか。紛争と紛争解決のあり方は、その時代の社会の構造や人々の価値観を映し出す。紛争の記録や裁判記録など関連する史料を読み解きながら、当時の社会について学んでいくとともに、それによって私たちの当たり前に受け取って

●参考文献・教材

必要に応じて資料を配布する。授業の各トピックに関する参考文献は授業中に提示するが、さしあたり次の文献を参照。

参考書：上垣豊編『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2020年

授業科目名	科目NO.	LAWEW2513	授業コード	LM04130010	
西洋史学総合研究Ⅰ Comprehensive Studies in Western History Ⅰ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	北村　昌史／草生　久嗣				

●科目の主題

西洋史学研究法の基礎を学ぶ

●到達目標

参考図書の使い方、文献探索・収集の方法、史料読解法などについての基本的な技術を習得することをめざす。

●授業内容・授業計画

西洋史学に関する基本的な問題について、担当教員がそれぞれの専門分野におけるテーマ(「ビザンツ史」、「近・現代ドイツ社会史」など)について、総合的に講じる。それと並行して各種研究方法について概説し、歴史資料の扱いについても講じる。また受講生からレポートや研究報告を求め、それに基づく討論をする。

●事前・事後学習の内容

担当教員の指示する文献を事前に通読しておくこと。

●評価方法

平常点（出席と研究報告）。

●受講生へのコメント

具体的な履修方法については指導教員の指示に従うこと。

●参考文献・教材

必要な資料はコピー等で配付する。
参考文献は授業時間に指示する。

授業科目名	科目NO.	LAWEW2514	授業コード	LM04140010	
西洋史学総合研究Ⅱ Comprehensive Studies in Western HistoryⅡ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	北村　昌史／草生　久嗣				

●科目の主題

西洋史研究法をより具体的に論じる。

●到達目標

西洋史学総合研究Ⅰで学んだ西洋史学研究法を各自の研究テーマに適用しつつ、修士論文作成へ向けて準備作業を進める。

●授業内容・授業計画

担当教員がそれぞれの専門分野における個別的テーマ(「ビザンツ帝国における異端問題」「19世紀ベルリン都市史」など)を取り上げて、研究史・研究方法について具体的に講じる。それと並行して受講生から、予定している修士論文のテーマとその概要について、あるいはそれに関わる研究について報告を求め、それに基づく討論をする。終了時に、研究計画書の提出を求める。

●事前・事後学習の内容

担当教員の指示する文献を事前に通読しておくこと。

●評価方法

平常点（出席と研究報告）

●受講生へのコメント

西洋史学総合研究1を履修していることが望ましい。
具体的な履修方法については指導教員の指示に従うこと。

●参考文献・教材

必要な資料はコピー等で配付する。
参考文献は授業時間に指示する。

授業科目名	科目NO.	LAWEW3601	授業コード	LM04150010	
西洋史学研究指導Ⅰ Supervision of Master's Thesis in Western History Ⅰ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	北村　昌史／草生　久嗣				

●科目の主題

西洋史学に関する修士論文作成の指導を行なう。

●到達目標

学界が要求する水準の論文を完成することを目指す。

●授業内容・授業計画

論文テーマの設定、文献・史料の調査・収集、史料の分析、主題とそれを論じる研究方法の適合性、論文の構成、主題に即した論述の一貫性、論文の形式的な統一など、修士論文作成に必要な事項について指導し、論文完成に至らしめる。学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

（草生久嗣教授） 主に、古代から中世にかけての研究テーマに関わる修士論文の研究指導を行なう。

（北村昌史教授） 主に、近代から現代にかけての研究テーマに関わる修士論文の研究指導を行なう。

●事前・事後学習の内容

報告前に資料の作成法について教員の指導を受けること。報告後は報告内容に対する教員の指摘に従って論文内容を再考すること。

●評価方法

平常点（出席と研究報告）。

●受講生へのコメント

論文内容とともに口頭によるプレゼンテーションの方法にも工夫してほしい。

●参考文献・教材

随時指示。

授業科目名	科目NO.	LAWEW3602	授業コード	LM04160010	
西洋史学研究指導Ⅱ Supervision of Master's Thesis in Western History Ⅱ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	北村　昌史／草生　久嗣				

●科目の主題

西洋史学に関する修士論文作成の指導を行なう。

●到達目標

学界が要求する水準の論文を完成することをめざす。

●授業内容・授業計画

論文テーマの設定、文献・史料の調査・収集、史料の分析、主題とそれを論じる研究方法の適合性、論文の構成、主題に即した論述の一貫性、論文の形式的な統一など、修士論文作成に必要な事項について指導し、論文完成に至らしめる。学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

（草生久嗣教授）主に、古代から中世にかけての研究テーマに関わる修士論文の研究指導を行なう。

（北村昌史教授）主に、近代から現代にかけての研究テーマに関わる修士論文の研究指導を行なう。

●事前・事後学習の内容

報告前に資料の作成法について教員の指導を受けること。報告後は報告内容に対する教員の指摘に従って論文内容を再考すること。

●評価方法

平常点（出席と研究報告）。

●受講生へのコメント

論文内容とともに口頭によるプレゼンテーションの方法にも工夫してほしい。

●参考文献・教材

随時指示。

授業科目名	科目NO.		授業コード	LM18000040	
修士論文（西洋史） Master's Thesis				単位数	
授業形態	担当教員名				
演習	北村　昌史／草生　久嗣				

●科目の主題

文学研究科では、修士論文を通しての学修を重視しており、ディプロマポシシーで定める学修成果を学生が修めることができるよう、修士課程の2年間をとおし、授業科目における指導のほか、専修ごとの修士論文ガイダンス、修士論文構想発表会、修士論文中間発表会など、学生どうしが切磋琢磨できる機会を設け、あわせて、きめこまかな個別指導を行う。

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「西洋史学研究指導1」「西洋史学研究指導2」の指導によって完成させる。

●到達目標

修士論文の審査基準は次のとおりであり、これを到達目標とする。

（1）修士論文は、西洋史学分野における一定の研究成果を示すものでなければならない。

（2）（評価基準）修士論文は以下の各項目について、西洋史学分野における十分な水準を満たさなければならない。

【規準ごとの基準は現在教務委員会等で検討中であるので、以下は規準のみの記述】

(a) 研究課題（テーマ）の学術的意義

明確な問題意識に基づき、西洋史学分野における研究の学術的意義が述べられていること。

(b) 研究課題の的確性

研究目的に応じた的確な課題が設定されていること。

(c) 研究方法の妥当性

研究を遂行する上で、適切な研究手法がもちいられていること。

(d) 先行研究との関連

当該専門分野における主たる先行研究を踏まえたものであること。

(e) 資料利用の適切性

論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などが適切にもちいられていること。

(f) 論旨の一貫性

論旨が論理的に組み立てられ、一貫して展開されていること。

(g) 学術論文としての体裁

表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、西洋史学分野の慣例に従ったものであること。

(h) 研究倫理の遵守

研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、西洋史学分野が定める研究上守るべき倫理基準が満たされていること。

（3）（論文の体裁）修士論文は、論を展開する上で、西洋史学分野の特性に応じた十分な分量でなければならない。

●授業内容・授業計画

なお、「修士論文」に連動するものとして、「西洋史学研究指導1」「西洋史学研究指導2」のシラバスを参照すること。

●事前・事後学習の内容

なお、「修士論文」に連動するものとして、「西洋史学研究指導1」「西洋史学研究指導2」のシラバスを参照すること。

●評価方法

修士論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学研究科内規」にしたがい、研究科教授会において当該専攻の教員から主査1 名、副査2名を審査員として選出した上で審査をおこなう。

２月に実施する面接試験の日時は、各専修から通知する。

修士論文審査については、文学研究科が定める「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがって実施する。

●受講生へのコメント

「修士論文」および「西洋史学研究指導1」は、修士論文を提出する年度の前期に、「西洋史学研究指導2」は後期の履修登録期間中にWeb履修登録すること。

修士論文は2年間の博士前期課程の集大成である。履修モデルとしての西洋史学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

●参考文献･教材

指定しない。

授業科目名	科目NO.	LBGEN1501	授業コード	LM00030010
人間行動学研究Ⅰ Advanced Studies in Human Behavioral Sciences Ⅰ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	進藤 雄三			

●科目の主題

「すべての歴史は現代史である」との観点から、社会学史の中から、何が現代の社会学にとって枢要な課題・対象であるのか提示する。

社会学史の伝統の中から抽出された根本課題を素材に、社会学史における諸見解を配置することが本講義の主題である。

●到達目標

以下の３項目を講義の到達目標とする。

１）社会学の歴史において、何が重要な問題として提起され、研究され、現在に至っているのかを理解する。

２）また、その問題自体が、どのような経緯・変遷を経て現在に至っているのかを理解する。

３）その上で、現代の問題に対し、どのような処方が可能であるのかについての知見を習得する。

●授業内容・授業計画

以下15回の講義計画にしたがって授業を進める。

第1講　オリエンテーション

第2講　1) ミクロ:自己、他者、社会

1 私とは何か:問い自体の問題

2 「私」を現在においてどのように問うか:社会学的問題設定

3 現代的文脈理解のキーワード:個人化

第3講　2) メゾ:家族、教育、労働市場

1 家族、教育、労働市場をとらえる視点

2 現代的関心の契機:個人化」論のリバイバル(1980s～)

3 何が起きているのか？

第4講　3) マクロ:グローバリゼーション・インパクト

1 現代という時代のキーワード:　グローバリゼーション

2 現代をとらえる視点:グローバリゼーション・インパクト』解題

3 Back to the Future

第5講　現代社会論への視角:資本主義の現在

1 資本主義とは何か

2 資本主義システムの現代像

3 現代社会をとらえる視点

第6講　メディア・インパクト

1 現代社会のメルクマール

2 現代社会におけるメディア論

3 メディア・インパクト

第7講　格差社会の背景

1 なぜ「格差社会」なのか

2 「格差社会」論の論点

3 格差社会論の学術的系譜

第8講 福祉国家の現在とその背景（小レポート1）

1 なぜ福祉国家か

2 福祉国家の起源

3 福祉国家をどうとらえるか

4 現在の争点のパラドクス

第9講 エスニシティ、ジェンダー、年齢

1 なぜこの三つか

2 ジェンダー論の系譜

3 エスニシティ論の系譜

4 エイジング論の系譜

5 「社会」の構築性根拠:「他者」の発見

第10講 ケア論と正義論

1 なぜケア論なのか

2 正義論の概要

3 ケア論の概要

4 再度、なぜケア論、正義論なのか

第11講 社会学的認識を問う:科学哲学と科学社会学（小レポート2）

1 社会学史における社会学的認識

2 科学哲学の系譜

3 現代社会の科学的認識とは何か？

4「近代社会」論再考

第12講 日常性の社会学

1「日常性の社会学」の誕生

2 社会的リアリティのとらえ方

3 日常性の社会学と認識論的転換の融合？

4 日常性の社会学

第13講 アイデンティティ

1 アイデンティティとは何か？

2 現代的文脈

3 社会学的解釈

4 個人化とアイデンティティ

第14講 社会学の問い

1 ミクロとマクロ:個人と社会

2 現代社会理解のキーワード

3 属性カテゴリーの復権？

第15講 0121 Coda: Last Class

個人と社会:ジンメルとデュルケムの着想

近代社会の構造的問題:自由・平等・友愛、民主主義と全体主義

●事前・事後学習の内容

事前学習：特段の事前学習は要請しない。

事後学習：講義後、プリント・資料などによりつつ、適宜検索などで理解を確認しておくこと。各講義の冒頭で各講義の復習時間を取るので、それを活用して欲しい。

●評価方法

授業の参加度10、コメント20、小レポート（２回）20、期末レポート50の100点満点で評価する。コメントは評価対象となることに留意。

●受講生へのコメント

小レポートを２回、および期末レポート１回を課します。毎回の講義後コメントを要請しますが、評価対象となることに留意しておいてください。講義を、レポー作成のテーマを意識しつつ聴講してください。

●参考文献･教材

特段の教科書は使用せず、配布プリントに基づいて講義をします。各回の講義で、随時関連文献を紹介します。

授業科目名	科目NO.	LBGEN1502	授業コード	LM00040010
人間行動学研究Ⅱ Advanced Studies in Human Behavioral Sciences Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	高橋 阿貴			

●科目の主題

なぜ私たちは喜び、悲しみ、怒り、憂鬱になるのでしょう。また、人によって怒りやすい人とそうでない人もいます。そのような違いはどうしてうまれるのでしょう。「こころ」の理解を目指す行動神経科学の分野はどんどん発展してきており、情動に関わる生物学的な基盤が明らかになりつつあります。本講義では、情動や社会性など様々な行動について、どのような脳領域そして神経回路が関与するのか(行動神経科学)に加えて、行動が遺伝するしくみ(行動遺伝学)、ホルモンが中枢神経系に作用して行動に影響を与えるしくみ(行動神経内分泌学)、免疫系

●到達目標

行動に関わる生物学的な基礎についての幅広い知識に加えて、より実践的・発展的な研究知見に触れることで、広い視野からの思考力と理解力を持ち、自分で研究を進める基礎を構築する。

●授業内容・授業計画

主に以下の内容で予定しています。ただし、順番を変更したり、要望に応じて特定のトピックを深めたりする可能性があります。

第1回 情動・感情
第2回 行動神経科学(1)
第3回 行動神経科学(2)
第4回 行動神経科学(3)
第5回 行動遺伝学(1)
第6回 行動遺伝学(2)
第7回 行動遺伝学(3)
第8回 行動神経内分泌学(1)
第9回 行動神経内分泌学(2)
第10回 行動神経内分泌学(3)
第11回 精神神経免疫学(1)
第12回 精神神経免疫学(2)
第13回 精神神経免疫学(3)
第14回 今後の課題と展望

●事前・事後学習の内容

事前学習として、参考書籍の中で興味があるものを参照しておくと、本講義の理解が深まると思います。本講義では、様々な論文からの知見も紹介していきますので、事後学習として、講義の中で興味を持った論文を実際に読んでみることで理解を深めてください。

●評価方法

講義への出席状況と提出された小テストもしくはレポートを総合的に考慮して評価する予定です。配点は授業中に説明します。

●受講生へのコメント

質問やコメントなど、積極的な授業参加を歓迎します。

●参考文献・教材

講義では資料を配布する予定です。参考書籍は以下をご参照ください。

1) Biopsychology (5th ed.), John P.J. Pinel, 2002.
2) How genes influence behavior, Jonathan Flint, Ralph J. Greenspan, Kenneth S. Kendler, 2010.
3) 脳とホルモンの行動学、近藤・小川・菊水・富原・山田(編)、2010年、西村書店
4) Psychoneuroimmunology (2nd

授業科目名	科目NO.	LBGEN1503	授業コード	LM00050010
人間行動学研究Ⅲ Advanced Studies in Human Behavioral Sciences Ⅲ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	西村　拓生			

●科目の主題

思想史研究と教育の現実

●到達目標

教育実践にとって思想を学ぶことの意義を理解すること。

●授業内容・授業計画

担当教員が行ってきた「美と教育」に関する研究と物語り論的な臨床教育学研究を紹介することを通して、思想史研究と教育の現実とのつながりを考える。

第1回:問いの所在――思想史研究と教育の現実

第2回:「美と教育」という問題――思想史的概観

第3回:ポストモダンの時代の「美と教育」

第4回:プリズムとしてのシラー『美育書簡』

第5回:シラー解釈の諸相

第6回:仮象としての美

第7回:仮象論と物語り論

第8回:教育の物語り論の文脈――ポスト冷戦期教育学と臨床教育学

第9回:物語り論の理論――リクールを中心に

第10回:物語り論的授業研究の試み

第11回:物語りと公共性

第12回:公共性と美――シラーとハーバーマス

第13回:物語りの彼岸

第14回:おわりに――実践において生成する理念

●事前・事後学習の内容

事前学習：集中講義の各ユニット毎に、事前に配布した文献を読んでおくこと。　　事後学習：集中講義の各ユニット毎に、講義内容に関する自分の理解をまとめた上で、疑問点、感想を書いてミニレポートとして提出すること。

●評価方法

最終レポート（１００％）

●受講生へのコメント

「美」と「物語り」をキーワードに、教育の思想（史）研究と現実との往還の中で考えてきたことをお話ししたいと思っています。いくつかある「引き出し」の中から何を取り上げるのかは、初回に受講者の皆さんの関心をお聞きして決めます。

●参考文献・教材

テキスト

特に使用しない

参考書・参考資料等

・『教育思想史コメンタール』教育思想史学会、2010年

・矢野智司・鳶野克己編『物語の臨界――「物語ること」の教育学』世織書房、2003年

・皇紀夫編『「人間と教育」を語り直す――教育研究へのいざない』ミネルヴァ書房、2012年

・西村拓生『教育哲学の現場――物語りの此岸から』東京大学出版会、2013年

・西村拓生『「美と教育」という謎――プリズムとしてのシラー『美育書簡』』東京大学出版会、2021年

授業科目名	科目NO.	LBGEN1504	授業コード	LM00060010
人間行動学研究Ⅳ Advanced Studies in Human Behavioral Sciences Ⅳ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	大場　茂明			

●科目の主題

異なる文化をもって発展してきた諸地域を、近代ナショナリズムの所産である「国民国家」の枠を越えて、経済的・政治的に統合しようという未曾有の試みが行われているEUの現状と課題を扱う。

●到達目標

欧州統合が「ひとつのヨーロッパ」を目標としているのと同時に、実は多様な地域・住民で構成される「いくつものヨーロッパ」を目指す試みであることを、順次取り上げるトピックの学習を通じて理解する。あわせて、欧州統合の拡大と深化が域内諸地域に及ぼした影響や、イギリスのEU離脱やユーロ圏の債務・財政危機、大量の難民流入など、近年ヨーロッパが直面している様々な問題とその背景についての知見を深め、地域問題に対する思考力を身につけることができる。

●授業内容・授業計画

本講義では、①欧州統合の拡大と深化の過程、②経済・政治統合をめぐる諸問題、③EU域内の地域格差（成長地域、旧工業地域、発展途上地域）に焦点を絞って、人口・経済力ともに域内最大の加盟国であるドイツを中心としたヨーロッパの実情について講述する。

第1回 欧州統合の歴史

第2回 EUの組織

第3回 経済統合の過程;転機にあるEURO

第4回 EU域内の地域格差

第5回 EU地域政策の展開

第6回 外国人とは誰か？（1）同化・編入・統合

第7回 外国人とは誰か？（2）ドイツにおける移民たち

第8回 政治統合への道

第9回 ヨーロッパの都市景観 （スライド上映）

第10回 ドイツにおける産業構造の転換と地域間格差

第11回 ドイツの成長地域:バイエルン州

第12回 ドイツの旧工業地域:ルール地域

第13回 ドイツの発展途上地域:旧東ドイツ地域

第14回 ドイツの都市居住とまちづくり （ビデオ上映）

第15回 本講義のまとめ

●事前・事後学習の内容

各回授業終了時に、次回の講義内容を予告するとともに、主要項目を3～4個のキーワードで示す。必ず事前にそれらの内容を確認し、授業に臨むこと。また、各自講義の要点を整理するなど、復習を欠かさないようにすること。

●評価方法

（1）到達目標の達成度について評価をおこなう。

（2）評価方法は、学期末に提出してもらう論述形式のレポートによる（100%）

（3）合格（単位修得）のための最低基準は、講義内容に即して論理的な記述が出来ていることである。

●受講生へのコメント

本講義では、スライドやビデオの上映、担当教員自身の現地での体験を織り込みながら、ヨーロッパの風景や日常生活を多少なりとも実感してもらえるよう工夫する。単にEUに関する知見を深めるのみならず、受講者が自らヨーロッパを訪れてみたくなるような授業を展開して行きたい。

●参考文献･教材

テキスト：使用しない。毎回、最新情報を交えた講義資料を用意する。
参考書：授業時に適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC2501	授業コード	LM05010010
社会学基礎問題研究Ⅰ Advanced Studies on Basic Issues in Sociology Ⅰ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	石田　佐恵子			

●科目の主題

映像社会学、文化社会学、カルチュラル・スタディーズに関係する専門領域について、学説研究や理論、方法などについて幅広く学ぶ。

●到達目標

社会学的研究の問題設定について、報告や討論を通じて、各自の考えを深める。受講生は大学院生として必須の主体的な文献・情報収集の能力、学会発表における報告スタイル、プレゼンテーション能力を身につけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

映像社会学、文化社会学、カルチュラル・スタディーズ等を主題とした最新のテキストを講読する。後半には、各自の関心に従って報告と討議を行う。

第1回 ガイダンス(報告・発表スケジュールの決定)

第2回文献・資料の探し方と大学院における学修方法について

第3回 基本文献の購読(1)

第4回 基本文献の購読(2)

第5回 基本文献の購読(3)

第6回 基本文献の購読(4)

第7回 基本文献の購読(5)

第8回 基本文献の購読(6)

第9回 各自の関心に基づく報告と議論(1)

第10回 各自の関心に基づく報告と議論(2)

第11回 各自の関心に基づく報告と議論(3)

第12回 各自の関心に基づく報告と議論(4)

第13回 各自の関心に基づく報告と議論(5)

第14回 各自の関心に基づく報告と議論(6)

第15回 レポートの作成と提出について

●事前・事後学習の内容

事前学習:課題図書のみならず、関連図書を十分に読み、報告者はレジュメを用意してくること。報告者以外の参加 者は討議に参加する準備を整えてくること。

事後学習:議論となったさまざまな論点について、自分なりのノートを作成し、自らの研究展開に活かす。

●評価方法

毎回の出席、参加態度、報告水準、および学期末のレポートによる。

●受講生へのコメント

受講生には、毎回の予習と復習、インターネットの積極的な活用、掲示板での議論など、熱心な参加を求める。

＊特記事項＊

この授業は、遠隔（双方型）で実施する可能性がある。遠隔と対面の混在スタイルをとる予定。可能な日には対面で行い、学生同士の交流機会を確保する。

●参考文献・教材

テキスト:開講時に相談の上、決定する。 参考書:随時指示する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC2502	授業コード	LM05020010
社会学基礎問題研究演習1 Seminar on　Basic Issues in Sociology 1			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	石田　佐恵子			

●科目の主題

ミクロな社会理論、特に、文化社会学、映像社会学、メディア文化研究に関係する専門領域について、学説研究や理論、方法などについて幅広く学ぶ。

●到達目標

修士論文のテーマ設定を意識しながら、各自の関心領域についての知識を深める。演習の後半には、それぞれの関心に応じた個人報告を求める。学会発表における報告スタイル、プレゼンテーション能力を身につける。

●授業内容・授業計画

映像社会学・メディア文化研究等を主題とした最新のテキストを講読する。後半には、各自の関心に従って報告と討議を行う。

第1回 ガイダンス(報告・発表スケジュールの決定)

第2回 映像社会学・メディア文化研究に関する基本文献の購読(1)

第3回 映像社会学・メディア文化研究に関する基本文献の購読(2)

第4回 映像社会学・メディア文化研究に関する基本文献の購読(3)

第5回 映像社会学・メディア文化研究に関する基本文献の購読(4)

第6回 映像社会学・メディア文化研究に関する基本文献の購読(5)

第7回 映像社会学・メディア文化研究に関する基本文献の購読(6)

第8回 学会発表における報告スタイルについて

第9回 各自の関心に基づく報告と議論(1)

第10回 各自の関心に基づく報告と議論(2)

第11回 各自の関心に基づく報告と議論(3)

第12回 各自の関心に基づく報告と議論(4)

第13回 各自の関心に基づく報告と議論(5)

第14回 各自の関心に基づく報告と議論(6)

第15回 レポートの作成と提出

●事前・事後学習の内容

事前学習:課題図書のみならず、関連図書を十分に読み、報告者はレジュメを用意してくること。報告者以外の参加 者は討議に参加する準備を整えてくること。

事後学習:議論となったさまざまな論点について、自分なりのノートを作成し、自らの研究展開に活かす。

●評価方法

毎回の出席、参加態度、報告水準、および学期末のレポートによる。

●受講生へのコメント

受講生には、毎回の予習と復習、インターネットの積極的な活用、掲示板での議論など、熱心な参加を求める。

＊特記事項＊

この授業は、遠隔（双方型）で実施する可能性がある。遠隔と対面の混在スタイルをとる予定。可能な日には対面で行い、学生同士の交流機会を確保する。

●参考文献・教材

テキスト:開講時に相談の上、決定する。 参考書:随時指示する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC2505	授業コード	LM05050010	
社会学特殊問題研究Ⅰ Advanced Studies on Specific Issues in Sociology Ⅰ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	伊地知　紀子				

●科目の主題

質的調査の理論と実践技法について基礎と応用力を会得することを目的としている。

●到達目標

フィールドワーク、参与観察法、インタビュー調査、ライフヒストリー分析、エスノグラフィーといった質的社会調査の手法と実践について事例を踏まえながら演習形式で学習する。

●授業内容・授業計画

第1回　質的調査とフィールドワーク

第2回　対象選定と倫理

第3回　調査者と被調査者

第4回　対話と分析(1)

第5回　対話と分析(2)

第6回　参与観察(1)

第7回　参与観察(2)

第8回　インタビュー調査(1)

第9回　インタビュー調査(2)

第10回　ライフヒストリー(1)

第11回　ライフヒストリー(2)

第12回　エスノグラフィー(1)

第13回　エスノグラフィー(2)

第14回　質的調査の課題と可能性

第15回　まとめ

●事前・事後学習の内容

取り上げる文献を熟読すること。

●評価方法

平常点、学期末のレポートによる。

●受講生へのコメント

受講生には、熱心な参加を求める。

●参考文献・教材

テキスト：開講時に相談の上、決定する。

参考書：随時指示する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC2506	授業コード	LM05060010
社会学特殊問題研究演習1 Seminar on Specific Issues inSociology 1			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	伊地知　紀子			

●科目の主題

エスノグラフィを学ぶ。

●到達目標

社会学、人類学などで蓄積されてきたエスノグラフィを購読し、理論、方法、記述などについて幅広く学ぶ。

●授業内容・授業計画

秀逸なエスノグラフィを丹念に読み解くことで、修士論文の方向性を模索し課題設定へと進める。後半には受講生各自の関心にもとづいた報告をする。

第1回 ガイダンス

第2回 エスノグラフィの購読(1)

第3回 エスノグラフィの購読(2)

第4回 エスノグラフィの購読(3)

第5回 エスノグラフィの購読(4)

第6回 エスノグラフィの購読(5)

第7回 エスノグラフィの購読(6)

第8回 エスノグラフィの課題と可能性について

第9回 受講生の報告と議論(1)

第10回 受講生の報告と議論(2)

第11回 受講生の報告と議論(3)

第12回 受講生の報告と議論(4)

第13回 受講生のと議論(5)

第14回 レポートの作成と提出

第15回まとめ

●事前・事後学習の内容

授業で取り上げるテキストについては関連文献も含めて熟読すること。

●評価方法

学期末のレポートによる。

●受講生へのコメント

受講生には、毎回の予習と復習、演習での議論への熱心な参加を求める。

●参考文献・教材

テキスト：開講時に相談の上、決定する。

参考書：随時指示する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC2507	授業コード	LM05070010	
社会学特殊問題研究Ⅱ Advanced Studies on Specific Issues in Sociology Ⅱ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	川野　英二				

●科目の主題

多変量解析に関する演習

●到達目標

計量論文を読み書きするために必要な多変量解析の基本的な技法を習得する。

●授業内容・授業計画

この授業は可能であれば対面で行なうが、必要に応じて遠隔（標準手順：同時双方向）により実施する。

遠隔の場合、授業はTeamsのクラスとZoomをもちいて行なうので、つねに良好な接続環境で受講することが望ましい。

WebClassでの受講にあたっては、WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照し、受講の準備および当日の受講を行うこと。

授業は統計ソフトウェアRとRStudioを使用し、実習形式で行う。授業では、各分析についての説明を行ったのち、ソフトウェアを用いて実際にデータの分析を行う。

1 統計ソフトRとRStudioの使用法
2 ソフトウェアを使った統計学の復習1
3 ソフトウェアを使った統計学の復習2
4 重回帰分析の復習1
5 重回帰分析の復習2
6 ロジスティック回帰分析1
7 ロジスティック回帰分析2
8 多項ロジット分析
9 順序ロジット分析
10 マルチレベル分析1
11 マルチレベル分析2
12 マルチレベル分析3
13 社会的ネットワーク分析1
14 社会的ネットワーク分析2
15 社会的ネットワーク分析3

●事前・事後学習の内容

事前学習：課題図書・文献を読む。
事後学習：課題をおこなう。

●評価方法

平常点
課題の提出

●受講生へのコメント

本授業は専門社会調査士認定科目（I）に相当するもので、学部で社会調査士資格を取得していることを前提としたカ

リキュラムである。
本授業を履修するさいには、担当教員に事前相談すること。

●参考文献･教材

【教科書】テキスト・資料は授業中に配布する。

【参考書】今井耕介ほか『社会科学のためのデータ分析入門（上）（下）』2018年 岩波書店
浅野正彦ほか『Rによる計量政治学 』2018年 オーム社
松村 優哉 『RユーザのためのRStudio[実践]入門―tidyverseによるモダンな分析フローの世界』2018年 技術評論社

授業科目名	科目NO.	LBSOC2508	授業コード	LM05080010
社会学特殊問題研究演習2 Seminar on Specific Issues in Sociology 2			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	川野　英二			

●科目の主題

社会学理論と経験的研究

●到達目標

最新の社会学理論とそれに対応した経験的研究の手法を身につけ、自分の研究テーマに応用する。

●授業内容・授業計画

この授業は可能であれば対面で行なうが、必要に応じて遠隔（標準手順：同時双方向）により実施する。

遠隔の場合、授業はTeamsのクラスとZoomをもちいて行なうので、つねに良好な接続環境で受講することが望ましい。

WebClassでの受講にあたっては、WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照し、受講の準備および当日の受講を行うこと。

現代の社会学理論は経験的な研究法と切り離すことはできない。この授業ではこれまでの社会学理論のアプローチを復習し、最新の社会学理論とそれに対応した経験的研究の方法論を身につけることを目的とする。具体的には、分析社会学、関係社会学、プラグマティック社会学等の主要な文献を読み、そこで用いられている多変量解析、ネットワーク分析、言説分析などの調査法・研究法について検討を行ない、自らの研究テーマに応用することを検討する。

第1回 ガイダンス
第2回 社会学理論の復習
第3回 社会学理論の復習
第4回 社会調査法の復習
第5回 社会調査法の復習
第6回 分析社会学の基礎
第7回 分析社会学の方法
第8回 分析社会学の方法
第9回 関係社会学の基礎
第10回 関係社会学の方法
第11回 関係社会学の方法
第12回 プラグマティック社会学の基礎
第13回 プラグマティック社会学の方法
第14回 プラグマティック社会学の方法
第15回 研究テーマへの応用

●事前・事後学習の内容

事前学習：指定した文献を読む
事後学習：学習した方法を復習し身につける

●評価方法

平常点、提出物(論文・レポートなど)

●受講生へのコメント

最新の社会学理論と方法を学んで自らの研究テーマに応用するため、積極的に文献を読み、新たな手法を身につける

意欲が必要である。

●参考文献･教材

テキスト・資料は授業中に配布する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC2509	授業コード	LM05090010	
社会学特殊問題研究Ⅲ Advanced Studies onSpecific Issues in Sociology Ⅲ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	平山　亮				

●科目の主題

家族研究の展開

●到達目標

社会学における家族研究の、ここ10年ほどの動向をいくつかのテーマにしぼって振り返り、各テーマに関する主要な争点や議論の展開を説明できる。

●授業内容・授業計画

※この授業は対面で行う予定ですが、諸事情を鑑みて遠隔に変わる可能性もあります。

英語論文を講読します。

担当者による報告と、それを踏まえたディスカッションを中心に運営します。

第01回　ガイダンス、各回の担当者の決定

第02回　家族研究におけるインターセクショナル・アプローチ①

第03回　家族研究におけるインターセクショナル・アプローチ②

第04回　分析枠組みとしてのアンビバレンス①

第05回　分析枠組みとしてのアンビバレンス②

第06回　家族政策と両立支援①

第07回　家族政策と両立支援②

第08回　国境を越えた家族実践①

第09回　国境を越えた家族実践②

第10回　保健研究とのインターフェース①

第11回　保健研究とのインターフェース②

第12回　方法に関するトレンド①

第13回　方法に関するトレンド②

第14回　方法に関するトレンド③

第15回　各自の研究計画にどのように繋げるか

●事前・事後学習の内容

事前学習：テキストの指定範囲を読み、議論に積極的に参加できるよう、該当部分に対する自分の意見や立場を明確にしておく。

事後学習：議論のなかであがった論点を踏まえて自分の考えをもう一度整理した上で、自身の今後の研究に役立てられるようノートにまとめておく。

●評価方法

発表を含む担当役割の遂行（35%）、議論への貢献（35%）、学期末のレポート（30%）で評価します。

●受講生へのコメント

参加者の人数や問題関心に応じて、内容や進め方を変更する場合があります。

●参考文献・教材

教科書：候補となる論文を初回にいくつか提示します。履修生の関心にあわせて、相談の上で決定しましょう。

参考書：各回の内容に関連する論文や書籍をその都度紹介します。

授業科目名	科目NO.	LBSOC2510	授業コード	LM05100010	
社会学特殊問題研究演習3 Seminar on Specific Issues inSociology 3				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	平山　亮				

●科目の主題

調査企画・設計に関する演習

●到達目標

社会調査の企画・設計・実施を行い、分析・集計するための実践的な知識と能力を習得する。

●授業内容・授業計画

※この授業は対面で行う予定ですが、諸事情を鑑みて遠隔に変わる可能性もあります。

社会調査の一連の流れに沿って、社会調査におけるデータ収集と分析の技法を解説する。本授業では量的調査と質的調査の企画と設計を扱う。授業ではデータ分析用のソフトウェアを使った実習も行う。受講者は、授業の進行に合わせて、自身の調査企画案を構想することが求められる。

第01回　調査の企画と調査倫理
第02回　仮説構成
第03回　調査対象・方法の設定
第04回　統計ソフトウェアの使用法
第05回　サンプリングの実際と課題
第06回　サンプルサイズと標本誤差
第07回　尺度構成法
第08回　質問文の作成と調査票の構成
第09回　調査票の作成実習
第10回　実査、データの入力
第11回　調査データの整理(1):エディティング、コーディング
第12回　調査データの整理(2):クリーニング、コードブックの作成
第13回　集計とグラフ作成
第14回　クロス集計表の作成とエラボレーション
第15回　報告書の作成

●事前・事後学習の内容

事前学習：次回の授業で扱う教科書の範囲を読んでおく。
事後学習：統計ソフトの使い方を含め、授業で扱った一連の手続きを復習しておく。

●評価方法

平常点（40%）と学期末のレポート（60%）で評価する。

●受講生へのコメント

本授業は専門社会調査士認定科目(H)に相当する。

●参考文献・教材

教科書：初回の授業時に提示します。
参考書：各回の内容に関連する論文や書籍をその都度紹介します。

授業科目名	科目NO.	LBSOC2512	授業コード	LM05120010	
社会学特殊問題研究Ⅴ Advanced Studies on Specific Issues inSociology Ⅴ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	本郷　正武				

●科目の主題

社会運動論

●到達目標

社会運動論の分析概念や基本的な考え方を身に付けることで、一見すると暴力的な現象と捉えられがちな社会運動を違った角度からみることができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

本講義は対面を基本とする。

第1回 イントロダクション

第2回「第一の近代」の生起

第3回「第一の近代」のゆらぎ

第4回 公害反対運動

第5回 公害問題の理解

第6回 薬害エイズ

第7回 薬害概念の普及

第8回 ハンセン病と隔離政策

第9回 脱施設化と脱制度化

第10回 反五輪運動

第11回 祝賀資本主義

第12回 チェルノブイリ原発事故

第13回 生物学的市民権

第14回 現代の社会運動

第15回 試験

●事前・事後学習の内容

講義の理解度を確認するための「まとめ（小テスト）」を随時おこなうので、こまめに講義内容の復習と論点の整理を心がけること。

●評価方法

試験（60%）、まとめ（40%）、コメントペーパーの内容が優れているものには加点する。

●受講生へのコメント

講義で紹介した概念や理論を駆使して、身の回りで起きた出来事や社会現象の謎解きをしてみること。うまくいかない場合は、質問やコメントペーパーのかたちで言葉にしてみること。

●参考文献・教材

教科書は使用しない。授業で講義レジュメを配布する。

（参考書）：長谷川公一編，2020，『社会運動の現在 市民社会の声』有斐閣．濱西栄司ほか，2020，『問いからはじめる社会運動論』有斐閣．これらの他にも講義中に随時紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC2513	授業コード	LM05140010
社会学総合研究Ⅰ Comprehensive Studies in Sociology Ⅰ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	川野　英二／石田　佐恵子／伊地知　紀子／平山　亮			

●科目の主題

社会学の修士論文作成の準備を行う。

修士論文は２年間にわたる学修の成果である。

１年次の「社会学総合研究１」（前期）、「社会学総合研究２」（後期）において十分な指導を受け、主題の確定、調査設計、研究・分析方法などについて具体的な計画を練る。

年間を通じて、中間報告会、および、論文報告会での報告と討議などの機会を活かしながら、修士論文執筆に必要な知識、技能を身につける。社会学の研究を行う上で必要となる基本的事項を担当教員全員で総合的に指導する。

●到達目標

修士論文執筆に必要な知識、技能を身につける。

●授業内容・授業計画

社会学の理論、およびフィールド・ワークの方法、ならびにデータ処理のための分析法に関する広範な知識の技能を、基本的な課題において総合的に把握し、展開するために、担当教員がそれぞれの専門分野におけるテーマを取り上げて講じる。また、受講生からレポートや研究報告を求め、それに基づく討論によって理解を深める。

●事前・事後学習の内容

事前学習：レジュメを作成しておく。

事後学習：指摘された点を確認する。

●評価方法

受講生による研究報告を評価の主な対象とする。

●受講生へのコメント

受講生による活発な議論を望む。

●参考文献・教材

随時指示する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC2514	授業コード	LM05150010
社会学総合研究Ⅱ Comprehensive Studies in Sociology Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	川野　英二／石田　佐恵子／伊地知　紀子／平山　亮			

●科目の主題

社社会学の修士論文作成の準備を行う。

修士論文は２年間にわたる学修の成果である。

１年次の「社会学総合研究１」（前期）、「社会学総合研究２」（後期）において十分な指導を受け、主題の確定、調査設計、研究・分析方法などについて具体的な計画を練る。

年間を通じて、中間報告会、および、論文報告会での報告と討議などの機会を活かしながら、修士論文執筆に必要な知識、技能を身につける。社会学の研究を行う上で必要となる基本的事項を担当教員全員で総合的に指導する。

●到達目標

修士論文執筆に必要な知識、技能を身につける。

●授業内容・授業計画

社会学の理論と方法に関する広範な知識と技能を、特定の個別課題において総合的に把握し、展開するために、担当教員がそれぞれの専門分野におけるテーマを取り上げて講じる。また、受講生からレポートや研究報告を求め、それに基づく討論によって理解を深める。これと並行して、受講生から予定している修士論文のテーマとその概要についての報告を求め、それに基づき討論を行う。

●事前・事後学習の内容

事前学習：レジュメを作成しておく。

事後学習：指摘された点を確認しておく。

●評価方法

受講者による研究報告を評価の主な対象とする。

●受講生へのコメント

受講生の積極的な討論を望む。

●参考文献・教材

随時指示する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC3601	授業コード	LM05170010
社会学研究指導Ⅰ Supervision of Master's Thesis in Sociology Ⅰ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	川野　英二／石田　佐恵子／伊地知　紀子			

●科目の主題

社会学の修士論文作成の指導を行う。
修士論文は２年間にわたる学修の成果である。
２年次の「社会学研究指導１」（前期）、「社会学研究指導２」（後期）において十分な指導を受け、完成させる。
年間を通じて、中間報告会、および、論文報告会での報告と討議などの機会を活かしながら、修士論文執筆に必要な知識、技能を身につける。

●到達目標

修士論文の作成・完成をめざす。

●授業内容・授業計画

学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受け、修論執筆の進行状況について報告する。また、少なくとも1回は修論の中間報告を行い、教員全員からの指導を受ける。

●事前・事後学習の内容

事前学習：レジュメを作成しておく
事後学習：指摘点を確認しておく

●評価方法

学生による研究報告を主な評価対象とする。

●受講生へのコメント

積極的な関与が望まれる。

●参考文献・教材

随時指示する。

授業科目名	科目NO.	LBSOC3602	授業コード	LM05180010
社会学研究指導Ⅱ Supervision of Master's Thesis in Sociology Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	川野　英二／石田　佐恵子／伊地知　紀子			

●科目の主題

社会学の修士論文作成の指導を行う。
修士論文は２年間にわたる学修の成果である。
２年次の「社会学研究指導１」（前期）、「社会学研究指導２」（後期）において十分な指導を受け、完成させる。
年間を通じて、中間報告会、および、論文報告会での報告と討議などの機会を活かしながら、修士論文執筆に必要な知識、技能を身につける。

●到達目標

こうした研究遂行の指導を通して、修士論文の完成をめざす。

●授業内容・授業計画

学生はその研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受け、修論執筆の進行状況について報告する。また、最終的な段階においては、論文報告会で修論の内容を報告し、教員全員からの指導を受ける。

●事前・事後学習の内容

事前学習：レジュメを作成しておく。
事後学習：指摘された点を確認する。

●評価方法

学生による研究報告を主な評価対象とする。

●受講生へのコメント

積極的な参与が求められる。

●参考文献・教材

随時指示する。

授業科目名	科目NO.		授業コード	LM18000050	
修士論文（社会学） Master's Thesis				単位数	
授業形態	担当教員名				
演習	川野　英二／石田　佐恵子／伊地知　紀子				

●科目の主題

社会学専修では、修士論文作成を通しての学修を重視している。

修士論文は２年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、２年次の「社会学研究指導１」「社会学研究指導２」での指導を受けつつ完成させる。

●到達目標

修士論文の到達目標は、修士論文としての審査基準を満たすことである。

社会学専修の修士論文の審査基準は次の通り。

（１）社会学分野における一定の研究成果を示すもの

（２）社会学分野における評価基準（研究課題の学術的意義、研究課題の明確性、研究方法の妥当性、先行研究との関連、資料利用の適切性、論旨の一貫性、学術論文としての体裁、研究倫理の遵守、など）を満たすもの

（３）口述試験において十分な質疑応答を行える

●授業内容・授業計画

第1回　ガイダンス

第2回　テーマについて(1)

第3回　テーマについて(2)

第4回　方法論について(1)

第5回　方法論について(2)

第6回　先行文献レビュー(1)

第7回　先行文献レビュー(2)

第8回　先行文献レビュー(3)

第9回　事例分析(1)

第10回　事例分析(2)

第11回　事例分析(3)

第12回　最終報告(1)

第13回　最終報告(2)

第14回　最終報告(3)

第15回　社会学の分野における卒業論文の完成と提出

●事前・事後学習の内容

事前学習:社会学の分野における修士論文の完成と提出　事後学習:口述試験

●評価方法

社会学の分野における修士論文を評価の対象とする。修士論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学研究科内規」にしたがい、研究科教授会において当該専攻の教員から主査1 名、副査2名を審査員として選出した上で審査をおこなう。 ２月に実施する面接試験の日時は、各専修から通知する。 修士論文審査については、文学研究科が定める「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがって実施する。

●受講生へのコメント

「修士論文」および「社会学論文指導」は、修士論文を提出する年度の前期と後期の履修登録期間中にWeb履修登録すること。

修士課程の必要単位をすべて習得し、十分な研究指導を受けること。

●参考文献・教材

随時指示する。

授業科目名	科目NO.	LBPSY2501	授業コード	LM06010010	
心理学基礎問題研究 Advanced Studies of Fundamental Topics in Psychology				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	山　祐嗣				

●科目の主題

以下のテキストを読むことによって、進化心理学、文化心理学、認知心理学と科学的思考を理解することを目的とする。

●到達目標

心理学における重要な研究や最先端の研究は多くは英語で書かれている。本講では、英文の論文を読む訓練と、さらには科学的思考についての心理学研究に触れることを目標とする。

●授業内容・授業計画

1回目　最初に、科学的心理学のパラダイムに触れ、次いで、Carruthers, P., Stich, S., & Siegal, M. (eds.), (2002). The cognitive basis of science.の以下の章を受講生による発表形式で読み進める。第1回 Outline of cognitive, evolutionary, and cultural psychology.

2回目　Introduction: What makes science possible?

3回目　Human evolution and the cognitive basis of science.

4回目　Modular and cultural factors in biological understanding.

5回目　The roots of scientific reasoning.

6回目　Understanding the role of cognition in science.

7回目　Thinking about causality.

8回目　The passionate scientist.

9回目　Social psychology and the theory of science.

10回目　研究発表

11回目　研究発表

12回目　研究発表

13回目　研究発表

14回目　研究発表

●事前・事後学習の内容

自分の担当の章はレジメを作成して発表する。

●評価方法

授業中の発表・討論にもとづく平常点とする。

●受講生へのコメント

単にテキストを読むだけではなく、そこで引用されたあるいは各自の研究と関連する論文を併せて読むことが推奨される。

●参考文献・教材

テキスト：Carruthers, P., Stich, S., & Siegal, M. (eds.), (2002). The cognitive basis of science. Cambridge, UK: Cambridge University Press.

授業科目名	科目NO.	LBPSY2502	授業コード	LM06020010	
心理学基礎問題研究演習 Advanced Seminar on Fundamental Topics in Psychology				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	山　祐嗣				

●科目の主題

認知心理学、進化心理学、文化心理学の代表的な以下の論文を読むことによって、基本的な概念、研究法を理解する。

●到達目標

心理学における重要な研究や最先端の研究は多くは英語で書かれている。本講では、英文の論文を読む訓練と、さらには代表的な研究に触れることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1回　認知心理学・進化心理学・文化心理学イントロダクション

第2回　Cummins, D. D.(1998)

第3回　Cummins, D. D.(1998)

第4回　Markovits, H.,& Barrouillet, P.(2002)

第5回　Markovits, H.,& Barrouillet, P.(2002)

第6回　Markus,H.R.andKitayama,S.(1991)

第7回　Markus,H.R.andKitayama,S.(1991)

第8回　Nisbett, R. E., Peng, K., Choi, I. ,& Norenzayan,A.(2001)

第9回　Nisbett, R. E., Peng, K., Choi, I. ,& Norenzayan,A.(2001)

第10回　Yama (2018)

第11回　Yama (2018)

第12回　Yama (2016)

第13回　Yama (2016)

第14回　研究発表

授業では、各論文毎に受講者を割り当て、レジュメ発表と討議を行う。紹介する文献について、精読したのち、わかりやすいレジュメを用意する。

●事前・事後学習の内容

授業では、各論文毎に受講者を割り当て、レジュメ発表と討議を行う。紹介する文献について、精読したのち、わかりやすいレジュメを用意する。。

●評価方法

授業中の発表と討論にもとづく平常点とする。

●受講生へのコメント

単に割り当てられた論文を読むだけではなく、自分の研究テーマと関連する論文も読み、興味の範囲を広げていくことが望まれる。

●参考文献・教材

・Cummins, D. D. (1998). Social norms and other minds; The evolutionary roots of higher cognition. In D. D. Cummins & C. Allen (Eds.), The evolution of mind. New York: Oxford University Press, pp. 30-50.

・Markovits H, Barrouillet P (2002) The development o

授業科目名	科目NO.	LBPSY2503	授業コード	LM06030010	
実験心理学研究 Advanced Studies in Experimental Psychology				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	川邉　光一				

●科目の主題

生理心理学・行動神経科学に関する基礎的なテキストの通読により、脳・神経系についての生物学的知識と、様々な精神機能・行動と脳・神経系の関係を学ぶ。

●到達目標

上記主題の内容を学ぶことにより、生理心理学・行動神経科学の基礎を習得する。

●授業内容・授業計画

本授業は対面にて実施する。

テキストの各章について担当者を決め、その内容について発表してもらう。また、適宜その内容についての解説を加える。

第1回　オリエンテーション
第2回　テキスト講読(1)
第3回　テキスト講読(2)
第4回　テキスト講読(3)
第5回　テキスト講読(4)
第6回　テキスト講読(5)
第7回　テキスト講読(6)
第8回　テキスト講読(7)
第9回　テキスト講読(8)
第10回　テキスト講読(9)
第11回　テキスト講読(10)
第12回　テキスト講読(11)
第13回　テキスト講読(12)
第14回　テキスト講読(13)

●事前・事後学習の内容

受講者全員が、当日発表が予定されるテキストの各章に授業前に目を通しておくこと。授業後は授業で論点となった点を踏まえ、テキストやその内容に関連する文献を読むこと。

●評価方法

平常点により評価する。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

テキスト　授業中に指定する。
参考書　Carlson, N. R.（泰羅雅登・中村克樹監訳）（2013）『神経科学テキスト―脳と行動』（第４版）　丸善
Bear, M. F., et al.（加藤宏司他監訳）（2007）『神経科学―脳の探求』　西村書店
Kandel, E. R., et el. (eds.)（金澤一郎・宮下保司監訳）（2014）『カンデル神経科学』　丸善

授業科目名	科目NO.	LBPSY2504	授業コード	LM06040010	
実験心理学研究演習 Advanced Seminar:Advanced Studiesin Experimental Psychology				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	川邉　光一				

●科目の主題

生理心理学・行動神経科学に関するより専門的なテキストの通読により、精神機能や行動と脳・神経系の関係を学ぶ。

●到達目標

精神機能や行動と脳・神経系の関係について理解を深める。

●授業内容・授業計画

本授業は対面にて実施する(予定)。

テキストの各章について担当者を決め、その内容について発表してもらう。また、適宜その内容についての解説を加える。

第1回　オリエンテーション
第2回　テキスト講読(1)
第3回　テキスト講読(2)
第4回　テキスト講読(3)
第5回　テキスト講読(4)
第6回　テキスト講読(5)
第7回　テキスト講読(6)
第8回　テキスト講読(7)
第9回　テキスト講読(8)
第10回　テキスト講読(9)
第11回　テキスト講読(10)
第12回　テキスト講読(11)
第13回　テキスト講読(12)
第14回　テキスト講読(13)

●事前・事後学習の内容

受講者全員が、当日発表が予定されるテキストの各章に授業前に目を通しておくこと。授業後は授業で論点となった点を踏まえ、テキストやその内容に関連する文献を読むこと。

●評価方法

平常点により評価する。

●受講生へのコメント

本演習の受講には脳・神経系についての生物学的知識が必要となるので、前期の「実験心理学研究」とともに受講するのが望ましい。

●参考文献・教材

テキスト　授業中に指定する。
参考書　Carlson, N. R.（泰羅雅登・中村克樹監訳）（2013）『神経科学テキスト―脳と行動』（第４版）　丸善
Bear, M. F., et al.（加藤宏司他監訳）（2007）『神経科学―脳の探求』　西村書店
Kandel, E. R., et el. (eds.)（金澤一郎・宮下保司監訳）（2014）『カンデル神経科学』　丸善

授業科目名	科目NO.	LBPSY2505	授業コード	LM06050010	
心理学特殊問題研究Ⅰ Advanced Studies in Selected Topicsin Psychology Ⅰ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	佐伯 大輔				

●科目の主題

ヒトや動物における「判断」、「意思決定」、「選択行動」の研究は、心理学、経済学、生物学等の研究分野においてなされてきた。この授業では、主に、学習心理学や認知心理学における研究を取り上げ、これまでに提案された理論とデータについて概観する。

●到達目標

ヒトや動物を対象とした「判断」、「意思決定」、「選択行動」の研究に関する知識を深め、研究対象や接近法の異なる研究領域間で、どのようにして理論やデータの比較ができるのかを理解することが到達目標である。

●授業内容・授業計画

主に以下の章立てで講義を進める。

第1回 はじめに

第2回 確実状況下の意思決定(1):Luceの選択公理

第3回 確実状況下の意思決定(2):多属性効用理論

第4回 不確実状況下の判断(1):ヒューリスティックとバイアス

第5回 不確実状況下の判断(2):基礎生起率判断の誤り

第6回 不確実状況下の意思決定(1):期待効用理論

第7回 不確実状況下の意思決定(2):プロスペクト理論

第8回 学習理論に基づく選択行動研究

第9回 マッチング法則

第10回 自己制御選択と遅延割引

第11回 リスク選択と確率割引

第12回 選択行動における遅延と確率の関係

第13回 協力選択と社会割引

第14回 行動経済学

第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習:「参考文献」に上げた書籍の該当部分を読んでおく。

事後学習:授業内容について理解が不十分な点を復習する。

●評価方法

授業への出席と学期末のレポートにより成績評価を行う。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

参考文献

広田すみれ・増田真也・坂上貴之［編著］(2018)『心理学が描くリスクの世界:行動的意思決定入門 第3版』 慶應義塾大学出版会

Rachlin, H. (1989) Judgment, decision, and choice: A cognitive/behavioral synthesis. New York: Freeman.

坂上貴之［編］(2009)『意思決定と経済の心理学』 朝倉書店

佐伯大輔［著］(2011)『価値割引の心理学―動物行動から経済現象まで―』 昭和堂

高橋

授業科目名	科目NO.	LBPSY2506	授業コード	LM06060010	
心理学特殊問題研究演習1 Advanced Seminar in Selected Topicsin Psychology 1				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	佐伯　大輔				

●科目の主題

現代の行動主義について解説がなされているHoward Rachlinの“Introduction to modern behaviorism”を読み、心理学における行動主義の考え方や、そこから発展した学習研究についての知識を学ぶ。

●到達目標

行動主義の考え方について学ぶことを通して、学習心理学が他の心理学研究分野とどのような関係にあるのかを理解することが到達目標である。

●授業内容・授業計画

テキストを輪読形式で読んでいく。各受講者には、毎回の授業において、該当部分をその場で訳出することが求められる。

第1回 オリエンテーション

第2回 Cartesian Dualism

第3回 The Mind: Introspection, Innate Ideas, Principles of Association

第4回 The Mind: Visual Distance, Meaning, Mental Chemistry, Studies of Sensation

第5回 The Mind: Intensity of Sensation, Quality of Sensations

第6回 The Mind: Secondary Laws of Association

第7回 The Body: Nervous Conduction, The Reflex Arc

第8回 The Body: Complex Behavior

第9回 The Relation of Physiological Psychology to Mental Psychology: Molarism

第10回 The Relation of Physiological Psychology to Mental Psychology: Gestalt Psychology

第11回 The Relation of Physiological Psychology to Mental Psychology: Behavioral Molarism

第12回 The Relation of Physiological Psychology to Mental Psychology: Functionalism

第13回 Classical Conditioning: Pavlov's Experiments

第14回 Classical Conditioning: Elements of Classical Conditioning

第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習：次に授業で訳す部分を読み、理解する。

事後学習：授業内容について理解が不十分な点を復習する。

●評価方法

出席と授業での発表により評価する。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

テキスト

Rachlin, H. (1991) Introduction to modern behaviorism (3rd edition). New York: Freeman.

授業科目名	科目NO.	LBPSY2507	授業コード	LM06070010
心理学特殊問題研究Ⅱ Advanced Studies in Selected Topics in Psychology Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	橋本　博文			

●科目の主題

前期の「心理学特殊問題研究Ｂ」の内容を踏まえ、人間社会における不平等問題について、下記のテキストを講読しながら考察を深める。受講生全員で下記のテキストを輪読しながら、毎回、特定のトピックに焦点をあて討論する。

●到達目標

人間社会にみられる不平等問題について多角的かつ体系的にまとめられた英語の学術書を精読することにより、心理学の修士論文を作成するために必要な文献読解力と組織的な研究計画を立案するための素養を培う。

●授業内容・授業計画

(1)導入:不平等をめぐる理論的視座

(2)スティグマと社会的不平等

(3)社会的正義と不平等

(4)差異と社会的不平等

(5)支配と社会的不平等

(6)言語と社会的不平等

(7)社会資本と社会的不平等

(8)社会化と社会的不平等

(9)アイデンティティと社会的不平等

(10)情動と社会的不平等

(11)イデオロギーと社会的不平等

(12)学校における社会的不平等

(13)職場における社会的不平等

(14)近隣地域における社会的不平等

(15)まとめ

●事前・事後学習の内容

発表者を含む受講者全員が、毎回の授業に関係するテキストの各章に事前に目を通し、質問事項を考えてくるように指示する。授業内容の発展的理解のために、事後に関連文献を入手し各自読んでおくように指示する。

●評価方法

上記の「到達目標」の達成度について評価を行う。評価は、授業中の発表と討論にもとづく平常点により行う。授業でとりあげた諸概念、諸理論に基づいた議論ができることを評価基準とする。

●受講生へのコメント

少人数の授業であるため、受講者の積極的な議論を期待する。

●参考文献・教材

McLeod, J. D., Lawler, E. J. ， & Schwalbe, M. (2015) Handbook of the Social Psychology of Inequality. Springer

授業科目名	科目NO.	LBPSY2508	授業コード	LM06080010	
心理学特殊問題研究演習2 Advanced Seminar in Selected Topicsin Psychology 2				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義／演習	橋本　博文				

●科目の主題

人間は自分を取り巻く社会的世界の成り立ちや、そこに生起する事象をどのように認識し理解しているのだろうか。また、それは人々にどのような感情を喚起し行動を引き起こすことになるのだろうか。これらは心理学全体に通底する問いである。このような問いに答えることを中心的学問課題としているのが社会的認知研究である。社会的認知研究は、成立当初は純粋に認知レベルの問題に焦点があてられていたが、今日では扱う問題も多岐にわたり理論も格段に深化した。本授業では、例年、社会的認知研究のこれまでの展開を踏まえ、当該分野の最新動向を把握

●到達目標

偏見と差別をめぐる問題に焦点をあて、偏見や差別が生起する心理学的メカニズムへの理解を深めることを通して、心理学専修の院生が修士論文を作成するに際し必要となる高度な専門的知識の習得を図る。

●授業内容・授業計画

(1)偏見・差別をめぐる心理学の理論

(2)ステレオタイプと社会的アイデンティティ

(3)公正とシステム正当化

(4)偏見・差別をめぐる政治性

(5)集団間情動とその淵源

(6)偏見の低減と解消

(7)人種・民族をめぐる偏見と差別

(8)移民をめぐる偏見と差別

(9)障害をめぐる偏見と差別

(10)ジェンダーをめぐる偏見と差別

(11)セクシャリティをめぐる偏見と差別

(12)リスク・原発をめぐる偏見と差別

(13)高齢者をめぐる偏見と差別

(14)犯罪をめぐる偏見と差別

(15)まとめ

●事前・事後学習の内容

前週の授業時に次回の授業内容に関係するテキスト内の該当箇所を事前に読んでおくように指示する。また、授業内容の発展的理解のために関連する英語文献を入手し、読んでおくように指示する。

●評価方法

上記の「到達目標」の達成度について評価を行う。評価は、授業中の発表と討論にもとづく平常点により行う。授業でとりあげた諸概念、諸理論に基づいた議論ができることを評価基準とする。

●受講生へのコメント

少人数による授業であるので受講生の活発な議論を期待したい。

●参考文献・教材

北村英哉・唐沢　穣（著）(2018)　偏見や差別はなぜ起こる？　心理メカニズムの解明と現象の分析　ちとせプレス

授業科目名	科目NO.	LBPSY2511	授業コード	LM06110010	
心理学総合研究Ⅰ Comprehensive Studies in Psychology Ⅰ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	山　祐嗣／川邉　光一／佐伯　大輔／橋本　博文				

●科目の主題

心理学の各研究分野における基本的事項について理解を深める。

●到達目標

学術的テーマについて、各人が発表したり積極的に討論に参加することによって、プレゼンテーション能力の向上を図り、意見交換を行えるようなスキルを習得させる。

●授業内容・授業計画

担当教員全員で総合的に指導する。受講生が研究発表を行い、各発表内容に対して担当教員がそれぞれの専門分野の観点からテーマについて解説し、受講生全員と討論を行う。自分の専門分野のみならず他分野の研究内容の理解を図るとともに、自ら研究発表を行い討論することにより、互いに質問し批評し合う訓練の場としたい。

●事前・事後学習の内容

発表者は、発表内容に関するレジメを準備し、そのほかの受講者は、発表テーマについて予備知識を得て質問事項を考えておくように指示する。授業時に受けたコメントや議論の内容を受講者全員が次回の発表に生かすように指示する。

●評価方法

平常点により評価する。

●受講生へのコメント

積極的に発言することを期待する。

●参考文献・教材

特に使用しない。課題文献は適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LBPSY2512	授業コード	LM06120010	
心理学総合研究Ⅱ Comprehensive Studies in PsychologyⅡ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	山　祐嗣／川邉　光一／佐伯　大輔／橋本　博文				

●科目の主題

各研究分野の実験、調査などの研究方法やデータ解析法についての理解を深める。

●到達目標

学術的テーマについて、積極的に討論に参加し、意見交換を行えるようなスキルを習得させる。

●授業内容・授業計画

担当教員が全員で総合的に指導する。各担当教員がそれぞれの専門分野における方法論を具体的な事例を取り上げて解説するとともに、受講生にも研究発表を行わせ、討論を通して、自分の専門分野のみならず他分野の研究方法やデータ解析法への理解を深める。自ら研究発表を行い討論することにより、互いに質問し批評しあう訓練の場としたい。

●事前・事後学習の内容

発表者は、発表内容に関するレジメを準備し、そのほかの受講者は、発表テーマについて予備知識を得て質問事項を考えておくように指示する。授業時に受けたコメントや議論の内容を受講者全員が次回の発表に生かすように指示する。

●評価方法

平常点により評価する。

●受講生へのコメント

積極的に発言することを期待する。

●参考文献・教材

特に使用しない。

授業科目名	科目NO.	LBPSY3601	授業コード	LM06130010
心理学研究指導Ⅰ Supervision of Master's Thesis in Psychology Ⅰ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	山　祐嗣／川邉　光一			

●科目の主題

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「心理学研究指導1」（前期）、「心理学研究指導2」（後期）の指導によって完成させる。

前期の「心理学研究指導1」では、1年次までの学修に基づき、修士論文の執筆計画を立て、修士論文構想発表会、修士論文中間発表会といった機会を柱としながら、修士論文に必要な知識、技能を修士論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1) 修士論文執筆計画を立て実施する
(2) 問題意識を整理し、研究課題の学術的意義を提示する
(3) 研究目的に応じた適確な課題を設定する
(4) 研究課題に応じた適切な研究方法を計画する
(5) 研究課題に応じた先行研究の読み込みを行う
(6) 研究課題に応じた実験結果、調査結果、文献資料を蓄積する
(7) 修士論文研究に関わる研究倫理について考える

●授業内容・授業計画

1オリエンテーション

修士論文とは何か(確認)

心理学の方法論(確認)

修士論文研究・執筆計画について

修士論文の評価規準・基準について2研究計画発表

テーマに関する問題意識の整理

予想される(期待している)結論

研究方法の目処

同学年他学年の学生、複数の教員との質疑応答から学ぶ3456. 研究倫理7先行研究の読み込み8「先行研究の整理」の意義と方法9修士論文の章立て10実験、調査、文献分析の計画と結果の予想11実験・調査計画発表

—章立ての仮決定のために—(連続4コマ)

問題意識の提示

論証しようとしていること(仮の結論)

論証のための方法とその目処

章立て

これからの課題12131415実験・調査実施への準備

●事前・事後学習の内容

受講者は、研究テーマに関連する文献や研究計画の発表、研究結果の中間報告を行うため、事前にレジメを準備する。授業時に受けたコメントや議論の内容を次回の発表に生かすようにする。

●評価方法

研究発表等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

●受講生へのコメント

修士論文は2年間の前期博士課程の集大成である。履修モデルとしての心理学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

「心理学研究指導1」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、修士論文に主体的に取り組み、修士課程を集大成させてほしい。

●参考文献･教材

適宜、紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBPSY3602	授業コード	LM06140010	
心理学研究指導Ⅱ Supervision of Master's Thesis in Psychology Ⅱ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	山　祐嗣／川邉　光一				

●科目の主題

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「心理学研究指導1」（前期）、「心理学研究指導2」（後期）の指導によって完成させる。

後期の「心理学研究指導2」では、修士論文の仕上げに向けて、実験・調査結果発表会といった機会を柱としながら、修士論文に必要な知識、技能を修士論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1) 実験や調査により得られた成果を体系立てて提示し、先行研究と関連づけながら論旨の一貫した論文を作成できるようにする。

(2) 修士論文の評価規準と基準を知る

(3) 執筆途上において、その時点の自分の修士論文を評価基準に準拠して点検する

(4) 点検の結果を踏まえ、修士論文計画・執筆計画を修正しながら修士論文を完成させる

●授業内容・授業計画

1修士論文の進捗状況の報告2修士論文の評価基準の確認3実験・調査発表（4コマ連続）

完成に向けての執筆方針の確認

（研究方法論、課題設定、先行研究の整理

章立て等）

完成に向けての研究・執筆計画4567実験・調査発表から論文へ8問題意識と学術的意義を扱う部分についての点検9研究目的に応じた課題設定を扱う部分について点検10研究手法の説明を扱う部分についての点検11先行研究を扱う部分についての点検12実験結果、調査結果、文献分析を扱う部分についての点検13論理の組み立てや一貫性に関する点検14学術論文としての表現、表記法等に関する点検15研究倫理の側面からの修士論文の点検

修士論文作成全体を通しての振り返り

●事前・事後学習の内容

受講者は、研究テーマに関連する文献や研究計画の発表、研究結果の中間報告を行うため、事前にレジメを準備する。授業時に受けたコメントや議論の内容を次回の発表に生かすようにする。

●評価方法

修士論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

「心理学研究指導2」の評価は、「修士論文」の評価と同時期に行われるが、後者が論文の内容そのものの質が評価されるのに対して、前者は、論文作成過程の学修状況が評価の対象となる。ただし、仮に「修士論文」が不可となった場合は、「心理学研究指導2」も不可となる。

●受講生へのコメント

修士論文は2年間の前期博士課程の集大成である。履修モデルとしての心理学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

「心理学研究指導2」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、修士論文に主体的に取り組み、前期博士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

適宜、紹介する。

授業科目名	科目NO.		授業コード	LM18000060
修士論文（心理学） Master's Thesis			単位数	
授業形態	担当教員名			
演習	山　祐嗣／川邉　光一			

●科目の主題

文学研究科では、修士論文を通しての学修を重視しており、ディプロマポシシーで定める学修成果を学生が修めることができるよう、前期博士課程の2年間をとおし、授業科目における指導のほか、専修ごとの修士論文ガイダンス、修士論文構想発表会、修士論文中間発表会など、学生どうしが切磋琢磨できる機会を設け、あわせて、きめこまかな個別指導を行う。

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「心理学研究指導Ⅰ」「心理学研究指導Ⅱ」の指導によって完成させる。

●到達目標

修士論文の審査基準は次のとおりであり、これを到達目標とする。

（1）修士論文は、心理学分野における一定の研究成果を示すものでなければならない。

（2）（評価基準）修士論文は以下の各項目について、心理学分野における十分な水準を満たさなければならない。

(a) 研究課題（テーマ）の学術的意義
明確な問題意識に基づき、心理学分野における研究の学術的意義が述べられていること。

(b) 研究課題の的確性
研究目的に応じた的確な課題が設定されていること。

(c) 研究方法の妥当性
研究を遂行する上で、適切な研究手法がもちいられていること。

(d) 先行研究との関連
当該専門分野における主たる先行研究を踏まえたものであること。

(e) 資料利用の適切性
論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などが適切にもちいられていること。

(f) 論旨の一貫性
論旨が論理的に組み立てられ、一貫して展開されていること。

(g) 学術論文としての体裁
表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、心理学分野の慣例に従ったものであること。

(h) 研究倫理の遵守
研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、心理学分野が定める研究上守るべき倫理基準が満たされていること。

（3）（論文の体裁）修士論文は、論を展開する上で、心理学分野の特性に応じた十分な分量でなければならない。

●授業内容・授業計画

適宜、修士論文の研究課題のために行った実験・調査のデータをまとめ、修士論文の構成と論述の仕方などを具体的に指導する。そして、最終的に修士論文を完成させる。

なお、学生は、各自の研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

〔川邉光一教授〕 主に、精神の基礎をなす神経心理学的基盤など、生理心理学の分野に関する博士論文の指導を行う。

〔山　祐嗣教授〕 主に、思考と推論、認知の文化差など、認知心理学の分野に関する修士論文の指導を行う。

●事前・事後学習の内容

受講者は、修士論文研究のテーマに関連する文献や研究計画の発表、研究結果の報告を行い、論文の執筆を行う。授業時に受けたコメントや議論の内容を論文に生かすようにする。

●評価方法

修士論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学研究科内規」にしたがい、研究科教授会において当該専攻の教員から主査1 名、副査2名を審査員として選出した上で審査をおこなう。

２月に実施する面接試験の日時は、各専修から通知する。

修士論文審査については、文学研究科が定める「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがって実施する。

●受講生へのコメント

「修士論文」および「心理学研究指導Ⅰ」は、修士論文を提出する年度の前期に、「心理学研究指導Ⅱ」は後期の履修登録期間中にWeb履修登録すること。

修士論文は2年間の博士前期課程の集大成である。履修モデルとしての心理学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

●参考文献･教材

受講生各自必要な文献を探したり、教員が適宜紹介したりする。

授業科目名	科目NO.	LBEDU2501	授業コード	LM07010010
教育学基礎問題研究 Advanced Studies of Fundamental Problems in Education			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	柏木 敦			

●科目の主題

（1）設定した各テーマに関する知識を身につける。

（2）各テーマに関わる歴史的資料の読解能力を身につける。

●到達目標

（1）日本の学校教育制度の見方や知識を「研究」の水準で身につける。

（2）教育事実に関わる歴史的史料を読解する能力を身につける。

●授業内容・授業計画

この講義は遠隔で行う。

日本の教育を形づくっている事柄についていくつかのテーマを設定し、史的考察を試みる。今日の学校教育の中で「当たり前」として受け止められていること、ここ数年、特徴的に現れていると受け止められがちなことなどが、いつ、どのような形で学校教育の中で一般化していったのか、設定した各テーマに関わる研究論文や史料を読み解きながら実証的に考察してゆく。

授業計画

第1回:オリエンテーション

第2回:日本近代における学校をめぐる諸研究

第3回:近代学校制度と「学齢」の登場 「学齢児童」とは(1)

第4回:何故「学齢」は満6歳から満14歳までなのか?「学齢児童」とは(2)

第5回:等級制下における進級方法 等級制から学年制へ(1)

第6回:学年制と試験?等級制から学年制へ(2)

第7回:「教室」の望ましい形とは?学校建築史(1)

第8回:「教室」の規定 学校建築史(2)

第9回:学校事件に関する諸研究

第10回:児童の問題行動 学校における問題行動(1)

第11回:「懲戒」を巡る事件 学校における問題行動(2)

第12回:日本近代の教員養成に関する諸研究

第13回:教育実習はいつ、どのように始まったのか

第14回:大正期の教育実習日誌を読む

定期試験

●事前・事後学習の内容

事前学習：各回の課題となる研究論文、史料を読み込んでおくこと。

事後学習：講義中に用いた史料について、くずし字辞典などを用いながら自分なりに読み直しておくこと。

●評価方法

授業の主題および受講生の問題関心に関連したレポート：80%、授業への参加（発言など）：20%。

●受講生へのコメント

歴史的な用語理解、文書判読能力を養うので、くずし字辞典、漢和辞典、国語辞典に慣れておくことが望ましい。

●参考文献・教材

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

岩下誠・三時眞貴子・倉石一郎・姉川雄大『問いからはじめる教育史』有斐閣、2020年。
佐藤秀夫『教育の文化史』（１、学校の構造）、（２、学校の文化）、阿吽社。
女子学習院編『女子学習院五十年史』女子学習院、1935年。
中村紀久二『国定修身教科書　　複刻 解説』大空社、1990年永芳弘武・中村紀久二・加藤宗晴 編『教科書検定総覧』（小学校篇、中学校篇、高等学校篇）小宮山書店、1968年～1970年
パイインターナショナル『世界の美しい学校』パイインターナショナル

授業科目名	科目NO.	LBEDU2502	授業コード	LM07020010	
教育学基礎問題研究演習 Advanced Seminar:Studies of Fundamental Problems in Education				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	柏木 敦				

●科目の主題

設定した各テーマを軸に、履修者の興味関心の対象を明確にして基礎的な研究手法を身につける。

●到達目標

自己のテーマに関わる歴史的視点を養い、研究到達点の確認、課題設定方法、研究論文作成に関わる基礎的な技術などを習得する。

●授業内容・授業計画

この講義は遠隔で行う。

日本近代の教育制度政策史に関する諸研究を検討し、教育史研究における研究到達点、課題設定方法、研究論文作成に関わる基礎的な技術などを習得する。それらの作業を通して、履修者の課題意識、方法意識を明確にすることを本演習の目的とする。

第1回:オリエンテーション

第2回:「学制」成立および展開に関する研究

第3回: 教育令制定、改正に関する研究

第4回: 諸学校令に関する研究

第5回: 日本の中等教育制度成立に関する研究

第6回: 日本の中等教育制度政策の展開に関する研究

第7回: 日本の高等教育制度成立に関する研究

第8回:日本の高等教育制度政策の展開に関する研究

第9回: 大正自由教育に関する研究

第10回: 大正期教育政策に関する研究

第11回: 戦時期における教育政策に関する研究

第12回: 学童疎開に関する研究

第13回: 戦後日本の教育制度政策に関する研究

第14回:現代教育史研究の動向と展望

定期試験

●事前・事後学習の内容

事前学習：各回のテーマ、対象時期の研究に関する調査（文献・資料収集）

事後学習：授業で扱ったテーマと自己の研究課題との関連性について検討し、レポートおよび論文の内容に関連づける。

●評価方法

受講者各自の問題意識に基づくレポート：80%、授業参加の程度：20%。

●受講生へのコメント

国立国会図書館デジタルライブラリーの利用方法を自分なりに会得しておくこと。

●参考文献・教材

参考書・参考資料等

石川松太郎『藩校と寺子屋』（教育社歴史新書）教育社、1978年。

下司晶・丸山英樹・青木栄一『教育研究の新章』（教育学年報11）、世織書房、2019年。

成城学園教育研究所編『教育問題研究』（復刻版）、龍渓書舎、1970-1991年

東京茗渓会『東京茗渓会雑誌』第１巻～第20巻（復刻）、現代情報社

日本図書センター『文部時報』（復刻版第Ⅲ期、全14巻）、同前『文部時報』（復刻版第Ⅳ期、全12巻）、同前『文

部時報』（復刻版第Ⅴ期、全12巻）、2014年～～2015年。
文部省普通学務局『

授業科目名	科目NO.	LBEDU2503	授業コード	LM07030010	
学校教育学研究Ⅰ Advanced Studies on Education Practices in Schools Ⅰ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	島田　希				

●科目の主題

わが国における授業研究の蓄積と海外における広がり、さらには授業研究を基盤とした学校づくりや授業研究の方法論的特徴に関して考察を深める。

●到達目標

①わが国における授業研究の歴史・実態・今日的課題や海外における広がりについて説明することができる。
②授業研究を基盤とした学校づくりに関するキーコンセプトについて説明することができる。
③上記①②をふまえた上で、授業研究の方法論および教育?法学研究としての今後の展開について考えをまとめることができる。

●授業内容・授業計画

わが国における授業研究の取り組みやその広がりについて検討することを通して、「専門的な学習共同体」としての学校について考察を深めていく。なお、以下に挙げる参考文献を中心に関連文献を読み進めるとともに、受講生相互によるディスカッションを中心に進めていく。教材となる文献を丁寧に読み解くこと、さらには、ディスカッションへの積極的な参加を求める。

第1回:オリエンテーション
第2回:わが国における授業研究の蓄積
第3回:わが国における授業研究の特色
第4回:わが国における授業研究の実態
第5回:わが国における授業研究の今日的課題
第6回:海外における授業研究の広がり①米国における展開
第7回:海外における授業研究の広がり②アジアにおける展開
第8回:海外における授業研究の広がり③北欧における展開
第9回:授業研究を基盤とした学校づくり
第10回:授業研究を基盤とした学校づくりを実現する好事例の分析
第11回:授業研究の方法論に関する理論的考察
第12回:授業研究の方法論に関する実践的動向
第13回:教育方法学研究としての授業研究の展開と展望
第14回:まとめ

●事前・事後学習の内容

授業中に紹介・配付する資料や参考文献を授業の事前・事後に読むほか、関連する文献等を自ら収集し、授業内容のさらなる理解に努めること。

●評価方法

授業時の発表、ディスカッションへの参加、小レポート(60%)と期末レポート(40%)により、総合評価する。

●受講生へのコメント

以下に挙げる教材を読み進めるとともに、受講生相互によるディスカッションを中心に進めていく。
教材となる文献を丁寧に読み解くこと、さらには、ディスカッションへの積極的な参加を求める。

●参考文献・教材

テキスト
・特になし
参考書・参考資料等
・日本教育方法学会編（2009）『日本の授業研究―授業研究の歴史と教師教育＜上巻＞』学文社.

・日本教育方法学会編（2009）『日本の授業研究―授業研究の方法と形態＜下巻＞』学文社.
・日本教育工学会監修/水越敏行・吉崎静夫・木原俊行・田口真奈（2012）『授業研究と教育工学』ミネルヴァ書房.
・日本教育工学会監修/小柳和喜雄・柴田好章（2017）『Lesson Study（レッスンスタディ）』ミネルヴァ書房.

授業科目名	科目NO.	LBEDU2504	授業コード	LM07040010	
学校教育学研究演習1 Advanced Seminar on Education Practices in Schools 1				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	島田　希				

●科目の主題

学校教育学研究Ⅰの内容をふまえつつ、授業研究に関わる先行研究の検討を行う。授業研究に関する様々な研究アプローチにふれることを通じて、その方法論的特徴について考察する。さらに、わが国における授業研究の継続・発展に関わる要因およびそれを実現するための外部ネットワークの構築やそれを実現するツールの開発について考察を深める。

●到達目標

①わが国における授業研究に関する先行研究の特徴について説明することができる。
②授業研究の継続・発展を促す要因について説明することができる。
③授業研究の継続・発展を実現する外部ネットワーク構築の必要性やそれを促すツールの開発について説明することができる。

●授業内容・授業計画

わが国における授業研究に関わる先行研究のレビュー通じて、その全体像や特徴について考察を深めていく。なお、以下に挙げる教材を中心に読み進めるとともに、受講生相互によるディスカッションを中心に進めていく。教材となる文献献を丁寧に読み解くこと、さらには、ディスカッションへの積極的な参加を求める。

第1回:オリエンテーション
第2回:行動主義的アプローチによる授業研究の方法論的特徴
第3回:認知主義的アプローチによる授業研究の方法論的特徴
第4回:社会構成主義的アプローチによる授業研究の方法論的特徴
第5回:教育工学的アプローチによる授業研究の方法論的特徴
第6回:質的アプローチによる授業研究の方法論的特徴
第7回:アクションリサーチとしての授業研究の方法論的特徴
第8回:授業研究の継続・発展を促す分散型リーダーシップの発揮
第9回:授業研究の継続・発展を促すグループアイデンティティの構築
第10回:授業研究の継続・発展を促す必要なリソースの確保と活用
第11回:授業研究の継続・発展を実現する外部ネットワーク構築の必要性
第12回:授業研究の継続・発展を実現する外部ネットワーク構築の好事例の分析
第13回:授業研究の継続・発展を実現する外部ネットワーク構築を促すツール、研修の開発
第14回:まとめ

●事前・事後学習の内容

授業中に紹介・配付する資料や参考文献を授業の事前・事後に読むほか、関連する文献等を自ら収集し、授業内容のさらなる理解に努めること。

●評価方法

授業時の発表、ディスカッションへの参加、小レポート(60%)と期末レポート(40%)により、総合評価する。

●受講生へのコメント

以下に挙げる教材を読み進めるとともに、受講生相互によるディスカッションを中心に進めていく。教材となる文献を丁寧に読み解くこと、さらには、ディスカッションへの積極的な参加を求める。

●参考文献・教材

テキスト
・特になし
参考書・参考資料等
・日本教育方法学会編（2009）『日本の授業研究―授業研究の歴史と教師教育＜上巻＞』学文社.

・日本教育方法学会編（2009）『日本の授業研究―授業研究の方法と形態＜下巻＞』学文社.
・水越敏行・木原俊行・田口真奈・吉崎静夫著/日本教育工学会監修（2012）『授業研究と教育工学』ミネルヴァ書房.
・木原俊行・寺嶋浩介・島田希編著/日本教育工学会監修（2016）『教育工学的アプローチによる教師教育―学び続ける教師を育てる・支える』ミネルヴァ書房.

授業科目名	科目NO.	LBEDU2505	授業コード	LM07050010	
学校教育学研究Ⅱ Advanced Studies on Education Practices in Schools Ⅱ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	森 久佳				

●科目の主題

教育方法学の主要研究領域の一つである「教師教育」に関する基本的素養を養うことで、教育方法学に関する専門的な知見の基礎を身につける。

●到達目標

(1) 教師教育の研究に関する基本的素養を身につける
(2) 教師教育の研究動向について理解する
(3) 教師教育の観点から教育方法学に対する専門的な理解を深める

●授業内容・授業計画

指定したテキストの講読を中心に、テキストの内容についての発表と、それに基づいた対話的な議論を通して、教育方法学に関する専門的な知見の習得及び深化を図る。また、学修の状況に応じて、関連文献の講読も行う。

第1回:オリエンテーション(授業の進め方等についての説明)
第2回:教師に求められる資質について(テキストⅠ)
第3回:教師が育つ条件(テキストⅡ)
第4回:我が国における教師教育改革の動向と求められる専門家像①(テキストⅢ)
第5回:我が国における教師教育改革の動向と求められる専門家像②(テキストⅢ)
第6回:我が国における教師教育改革の動向と求められる専門家像③(テキストⅢ)
第7回:教師教育の目標と対象(テキストⅣ)
第8回:学校環境と教師教育(テキストⅣ)
第9回:大学・大学院と教師教育(テキストⅣ)
第10回:わが国の教師をめぐる課題と背景(テキストⅤ)
第11回:教職の歴史的・文化的特質と課題(テキストⅤ)
第12回:わが国の教師たちのアイデンティティの特質と課題(テキストⅤ)
第13回:教師教育をめぐる研究動向と課題①:教師レジリエンスの観点から
第14回:教師教育をめぐる研究動向と課題②:多忙化と働き方改革の観点から
定期試験は実施しない

●事前・事後学習の内容

課題文献の事前講読と背景情報等の検討。

●評価方法

平常点40%(授業への参加状況、発表の様子)と期末レポート(60%)による。

●受講生へのコメント

入念な予習と活発な議論を期待します。

●参考文献・教材

<テキスト>【テキストⅠ】:諸富祥彦(2013)『教師の資質:できる教師とダメ教師は何が違うのか?』朝日新書.【テキストⅡ】:今津孝次郎(2012)『教師が育つ条件』岩波新書.【テキストⅢ】:佐藤学(2015)『専門家として教師を育てる:教師教育改革ののグランドデザイン』岩波書店.【テキストⅣ】:今津孝次郎(2017)『新版 変動社会の教師教育』名古屋大学出版会.【テキストⅤ】:久冨善之(2017)『日本の教師、その12章:困難から希望への途を求めて』新日本出版社.
<参考文献>日本教育方法学会編(201

授業科目名	科目NO.	LBEDU2506	授業コード	LM07060010
学校教育学研究演習2 Advanced Seminar on EducationPractices in Schools 2			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	森 久佳			

●科目の主題

教育方法学の主要研究領域の一つである「教師教育」に関する国際的な研究動向を理解するため、また、英語で論文を執筆することも念頭に置きながら、英語による研究論文の講読を行い、教育方法学に関する専門的な知見を身につける。

●到達目標

(1) 教師教育をテーマとする研究論文（英語）を講読するための基本的素養を身につける
(2) 教師教育の国際的な研究動向について理解する
(3) 教師教育の観点から教育方法学に対する専門的な理解を深める

●授業内容・授業計画

指定したテキストの講読を中心に、テキストの内容についての発表と、それに基づいた対話的な議論を通して、教育方法学に関する専門的な知見の習得及び深化を図る。また、学修の状況に応じて、関連文献の講読も行う。

授業計画

第1回　オリエンテーション（授業の進め方等についての説明）
第2回　教師に求められる資質・能力について①：その背景と課題
第3回　教師に求められる資質・能力について②：研究アプローチの検討を中心に
第4回　教職における同僚性①：その背景と課題
第5回　教職における同僚性②：専門的な共同体（Professional Learning Communityのアプローチの検討を中心に）
第6回　教職における多忙化①：その背景と課題
第7回　教職における多忙化②：有益な取組みに関する検討を中心に
第8回　教職と教師レジリエンス①：その背景と課題
第9回　教職と教師レジリエンス②：教職の専門性・専門職性の観点から
第10回　教職と教師エージェンシー①：その背景と課題
第11回　教職と教師エージェンシー②：教職の専門性・専門職性の観点から
第12回　教師教育をめぐる今日的課題①：チームの観点から
第13回　教師教育をめぐる今日的課題②：教職の業務と働き方改革の観点から
第14回　教師教育をめぐる今日的課題③：研究のアプローチの展望
定期試験は実施しない

●事前・事後学習の内容

課題文献の事前講読と背景情報等の検討。

●評価方法

平常点40%（授業への参加状況、発表の様子）と期末レポート（60%）による。

●受講生へのコメント

入念な予習と活発な議論を期待します。

●参考文献・教材

＜テキスト＞
以下の研究雑誌（英語）に掲載されている諸論文を取り上げて講読する。
Teaching and Teacher Education: An International Journal of Research and Studies. (Elsevier).Journal of Curriculum Studies.

(Taylor & Francis).
＜参考文献＞﨑村耕二（2017）『最新　英語論文によく使う表現　基本編』創元社．迫桂・徳永聡子（2012）『英語論文の書き方入門』慶應義塾大

授業科目名	科目NO.	LBEDU2507	授業コード	LM07070010
教育学特殊問題研究Ⅰ Advanced Studies in Special Educational Fields Ⅰ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	辻野　けんま			

●科目の主題

マクロな公教育制度の法制をミクロな教育の営みとのかかわりにおいてとらえ、研究課題が諸研究とどのようにかかわるか見出し深めることができる。

●到達目標

自ら公教育の課題設定ができ、それをマクロな制度的視点から探求できる。

●授業内容・授業計画

公教育のあり方に関して、関連研究に学びつつ討議を通じて思考を深め、現代社会における教育を捉える視角を磨いていく。 本授業では、受講者それぞれの研究関心を加味しつつ文献を選定し、毎回の授業において文献講読、発表、討議、という流れ構成する。各回の授業テーマは以下の内容を含むものとし、状況にあわせてとりあげる順序等を調整する。

第1回:オリエンテーション
第2回:公教育の基本理念
第3回:公教育の制度特性
第4回:学校教育と学校外教育
第5回:公教育と私教育
第6回:教職員の職務と専門性
第7回:学校特別権力関係論
第8回:就学義務と教育義務
第9回:学校と地域社会
第10回:社会教育と国家
第11回:教育と福祉
第12回:教育政策と子ども
第13回:グローバル化と教育政策
第14回:国民国家と公教育
定期試験は実施しない。

●事前・事後学習の内容

毎回の授業にあたり事前に文献読解および報告資料作成を課す。

●評価方法

授業での発表、討議およびレポートを総合し評価する。

●受講生へのコメント

本演習では、様々な 角度から教育経営研究に触れ、読み進め討議を重ねる。それを通じて、受講者各自の研究関心をマクロな教育経営からとらえ直すことを目指す。

●参考文献・教材

テキスト
授業資料は事前に配布し、あらかじめ課題を出す。授業は課題を終えて参加している前提で進める。
参考書・参考資料等
参考資料等は授業内で適宜紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBEDU2508	授業コード	LM07080010	
教育学特殊問題研究演習1 Advanced Seminar in Special Educational Fields 1				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	辻野　けんま				

●科目の主題

マクロな公教育制度の法制をミクロな教育の営みとのかかわりにおいてとらえ、研究課題を深める。

●到達目標

現代社会を特徴づける事象を捉えながら、公教育の課題を教育行政・制度の観点から考え、自分なりの見解を論理的に構成したり生産的に議論したりできる。

●授業内容・授業計画

現在、日本では、少子高齢化や人口減少がローカルな地域社会の退廃や消滅を進行させる一方で、政治・経済、科学技術、自然環境、国際平和をはじめ様々な領域で国境を超えたグローバル化が急速に拡大している。このような状況下において、国民国家が構築してきた近代教育制度は社会の変容に十分に対応しきれず、ときにその限界さえ露呈させつつある。その一方で、変動する社会の中でもそこに惑わされすぎずに公教育が安定して築いてきた価値もあるだろう。そこで本授業では、ポスト国民国家時代における「公教育の正当性」と、そこにおける「教員の専門性」について教育行政学的な観点から考察を深めていく。

授業計画

本授業では、(A)「公教育制度の概観」、(B)「教育行政と学校経営」、(C)「教育の権利と責任」というテーマ領域について、4～5回ずつの授業を行い、各回では文献講読、報告、討議を重ねていく。

第1回:公教育を行政・制度から捉える視角
第2回:公教育制度の概観I:「学力」政策
第3回:公教育制度の概観II:教育の公共性と私事化
第4回:公教育制度の概観III:教職専門性
第5回:公教育制度の概観IV:公教育経営
第6回:総括的討議—公教育の制度的課題—
第7回:教育行政と学校経営I:学校内外の「連携」
第8回:教育行政と学校経営II:学校選択と学校参加
第9回:教育行政と学校経営III:私学行政
第10回:教育行政と学校経営IV:就学義務と不登校
第11回:総括的討議—教育経営の課題—
第12回:教育の権利と責任I:教育権論争
第13回:教育の権利と責任II:教育裁判
第14回:教育の権利と責任III:公教育と国民国家
定期試験は実施しない。

●事前・事後学習の内容

授業資料は事前に配布し、毎回の授業は文献を事前に読了している前提で議論を進める。

●評価方法

レポートと授業内での発表等を総合し評価する。

●受講生へのコメント

本演習では学校教育を中心とする公教育論について、マクロな制度とミクロな実践との関係を読み解くため、様々な

角度から文献講読を重ねていきます。

●参考文献･教材

テキストは指定しない。参考教材は授業内で適宜紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBEDU2509	授業コード	LM07090010	
教育学特殊問題研究Ⅱ Advanced Studies in Special Educational Fields Ⅱ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	添田　晴雄				

●科目の主題

文字言語と音声言語の視点から日本と西洋の学習文化を比較研究する。

●到達目標

方法論としての比較教育を考える。文字言語と音声言語の視点から学級活動の話合い活動を分析する。

●授業内容・授業計画

第1回:オリエンテーション

第2回:文字言語・音声言語からみた授業分析併置比較(分析方法)

第3回:文字言語・音声言語からみた授業分析併置比較(分析結果・考察)

第4回:日本の学級活動の話合いにおける書字随伴型学習(学級会の特徴)

第5回:日本の学級活動の話合いにおける書字随伴型学習(三段階討議法)

第6回:日本の学級活動の話合いにおける書字随伴型学習(比べ合い)

第7回:日本の学級活動の話合いにおける書字随伴型学習(板書)

第8回:日本の学級活動の話合いにおける書字随伴型学習(学級会ノート)

第9回:アメリカの話合いにおける書字随伴型学習

第10回:日本の近世における書字随伴型学習(手習塾とは)

第11回:日本の近世における書字随伴型学習(手習塾の学習内容)

第12回:日本の近世における書字随伴型学習(手習塾の学習方法)

第13回:西洋の中世・近代における音声中心型学習(レシテーション)

第14回:西洋の中世・近代における音声中心型学習(口頭試験)

レポート

●事前・事後学習の内容

テキストを精読し、論点を提示して根拠にもとづてい議論する準備をする。

●評価方法

レポートおよび授業中において、比較教育文化的視点にたち、日本の特別活動が果たす役割についても考察しているかどうかを評価する。

●受講生へのコメント

テキストを足がかりにして、自分で仮説をたて論証してください。

●参考文献・教材

テキスト

添田晴雄『文字と音声の比較教育文化史研究』東信堂、2019年

参考書・参考資料等

特になし

授業科目名	科目NO.	LBEDU2510	授業コード	LM07100010	
教育学特殊問題研究演習2 Advanced Seminar in Special Educational Fields 2				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	添田　晴雄				

●科目の主題

文字言語と音声言語の視点から日本と西洋の学習文化を比較研究する

●到達目標

方法論としての比較教育を考える。文字言語と音声言語の視点から日本と西洋の学習文化を比較研究する。

●授業内容・授業計画

第1回:日本の文字教育観

第2回:西洋の文字教育観

第3回:日本の文字教育観と西洋の文字教育観の比較

第4回:アメリカの国語授業における書字随伴型学習

第5回:アメリカの数学授業における書字随伴型学習

第6回:アメリカの国語・数学授業における書字随伴型学習の比較

第7回:文字言語・音声言語から見た西洋教育移入期関係比較(関係比較とは)

第8回:文字言語・音声言語から見た西洋教育移入期関係比較(机・椅子等の導入)

第9回:文字言語・音声言語から見た西洋教育移入期関係比較(掛図・教科書等の導入)

第10回:文字言語・音声言語から見た西洋教育移入期関係比較(カリキュラムの変遷)

第11回:学習・教育文化関係比較研究における「モノ」(石盤の普及)

第12回:学習・教育文化関係比較研究における「モノ」(練習帳の普及)

第13回:学習・教育文化関係比較研究と「深層構造」と「表層構造」(原理)

第14回:学習・教育文化関係比較研究と「深層構造」と「表層構造」(考察)

レポート

●事前・事後学習の内容

テキストを精読し、論点を提示して根拠にもとづてい議論する準備をする。

●評価方法

レポートおよび授業中において、比較教育文化的視点にたち、日本の特別活動が果たす役割についても考察しているかどうかを評価する。

●受講生へのコメント

テキストを足がかりにして、自分で仮説をたて論証してください。

●参考文献・教材

テキスト

添田晴雄『文字と音声の比較教育文化史研究』東信堂、2019年

参考書・参考資料等

特になし

授業科目名	科目NO.	LBEDU2511	授業コード	LM07110010	
教育学総合研究Ⅰ Comprehensive Studies in Education Ⅰ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	添田　晴雄／辻野　けんま／島田　希				

●科目の主題

教育思想や制度、内容や方法に関する基本的・総合的な問題について、担当教員がそれぞれの専門分野におけるテーマを取り上げて講ずるとともに、受講生も研究発表を行い、討論を通して、教育学における論文作成に必要な基本的事項の理解を深める。

●到達目標

教育学研究を行う上で必要となる基本的な事項と研究方法を学ぶ。

●授業内容・授業計画

授業計画

第1回:オリエンテーション(担当:柏木、添田、森、辻野、島田)

第2回:教育学の全体像(担当:柏木、添田、森、辻野、島田)

第3回:学術情報の探索的検索と収束的検索(担当:添田)

第4回:論文執筆における具体的描写と抽象的描写の往還(担当:添田)

第5回:教育史研究における実証(担当:柏木)

第6回:教育史研究における対象設定および時期区分(担当:柏木)

第7回:教育制度の概観とガバナンスの構造(担当:辻野)

第8回:義務教育の権利的側面と権力的側面(担当:辻野)

第9回:教職の専門職性と専門性をめぐる議論(担当:森)

第10回:専門家としての教職の資質・力量形成(担当:森)

第11回:教育方法学研究における授業研究の位置づけ(担当:島田)

第12回:授業研究とカリキュラム研究の接点(担当:島田)

第13回:教育学をめぐる今日的課題への示唆(担当:柏木、添田、森、辻野、島田)

第14回:まとめ(担当:柏木、添田、森、辻野、島田)

●事前・事後学習の内容

’

●評価方法

研究報告による（100%）。

●受講生へのコメント

’

●参考文献・教材

テキスト

日本教育方法学会編『教育方法学研究ハンドブック』学文社、2014年。

日本教師教育学会編『教師教育研究ハンドブック』学文社、2017年。

参考書・参考資料等

米田俊彦「個人情報の保護と利用に関する委員会中間報告会」『教育学研究』第73巻第２号、日本教育学会、2006年。

佐藤秀夫「日本近代教育史に関する研究資料の考察──制度政策関係の官制文書史料を中心として──」『日本の教育史学』第13集、教育史学会、1970年。

授業科目名	科目NO.	LBEDU2512	授業コード	LM07120010
教育学総合研究Ⅱ Comprehensive Studies in Education Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	添田　晴雄／辻野　けんま／島田　希			

●科目の主題

教育学の各分野について実証的な手法を学び、また討論や資料調査、その分析手法などを習得する。

●到達目標

各種の研究方法や研究資料・文献の取り扱いについて担当教員が概説するとともに、受講生に研究報告を求め、討論を行う。

●授業内容・授業計画

授業計画

第1回:オリエンテーション(担当:柏木、添田、森、辻野、島田)

第2回:教育学の各分野における研究手法の全体像(担当:柏木、添田、森、辻野、島田)

第3回:教育政策、教育行政文書に関する概説(担当:柏木)

第4回:教育関係雑誌、学校文書に関する概説(担当:柏木)

第5回:比較研究における比較妥当性(担当:添田)

第6回:比較研究における差異化志向と一般化志向(担当:添田)

第7回:公教育経営におけるマクロ・レベル―メゾ・レベル―ミクロ・レベルの層化(担当:辻野)

第8回:公教育経営の全体構造からみる研究課題の再定位(担当:辻野)

第9回:子どもの貧困問題をめぐる教職の課題と展望(担当:森)

第10回:教職における働き方改革の動向と課題(担当:森)

第11回:教育方法学研究における「語り」の扱いとその留意点(担当:島田)

第12回:アクションリサーチとしての教育方法学研究(担当:島田)

第13回:教育学各分野における研究手法の特徴と今日的課題(担当:柏木、添田、森、辻野、島田)

第14回:まとめ(担当:柏木、添田、森、辻野、島田)

'

●事前・事後学習の内容

'

●評価方法

研究報告による（100%）。

●受講生へのコメント

'

●参考文献・教材

＜テキスト＞【テキストⅠ】:諸富祥彦（2013）『教師の資質:できる教師とダメ教師は何が違うのか？』朝日新書.【テキストⅡ】:今津孝次郎（2012）『教師が育つ条件』岩波新書.【テキストⅢ】:佐藤学（2015）『専門家として教師を育てる:教師教育改革ののグランドデザイン』岩波書店.【テキストⅣ】:今津孝次郎（2017）『新版　変動社会の教師教育』名古屋大学出版会.【テキストⅤ】:久冨善之（2017）『日本の教師、その12章:困難から希望への途を求めて』新日本出版社.

＜参考文献＞日本教育方法学会編（201

授業科目名	科目NO.	LBEDU3601	授業コード	LM07130010	
教育学研究指導Ⅰ Supervision of Master's Thesis in Education Ⅰ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	添田　晴雄				

●科目の主題

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「教育学研究指導1」（前期）、「教育学研究指導2」（後期）の指導によって完成させる。

前期の「教育学研究指導1」では、1年次までの学修に基づき、修士論文の執筆計画を立て、修士論文構想発表会、修士論文中間発表会といった機会を柱としながら、修士論文に必要な知識、技能を修士論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1) 修士論文執筆計画を立て実施する
(2) 問題意識を整理し、研究課題の学術的意義を提示する
(3) 研究目的に応じた適確な課題を設定する
(4) 研究課題に応じた適切な研究方法を計画する
(5) 研究課題に応じた先行研究の読み込みを行う
(6) 研究課題に応じた実験結果、調査結果、文献資料を蓄積する
(7) 修士論文研究に関わる研究倫理について考える

●授業内容・授業計画

第1回:オリエンテーション

修士論文とは何か(確認)

教育学の方法論(確認)

修士論文研究・執筆計画について

修士論文の評価規準・基準について

第2回～第5回:修士論文構想発表会(連続4コマ)

テーマに関する問題意識の整理

予想される(期待している)結論

研究方法の目処

同学年他学年の学生、複数の教員との質疑応答から学ぶ

第6回:研究計画に即して研究倫理を考える

第7回:先行研究の読み込み

第8回:「先行研究の整理」の意義と方法

第9回:修士論文の章立て

第10回～第14回:修士論文中間発表会―章立ての仮決定のために―(連続4コマ)

問題意識の提示

論証しようとしていること(仮の結論)

論証のための方法とその目処

章立て

これからの課題

●事前・事後学習の内容

事前学習
第１回：修士論文計画を立てて提出する。
第２回～第５回：修士論文構想発表会の準備を行う。

第６回：自分の研究計画に即して研究倫理を考え、研究倫理の観点から研究計画を練り上げる。
第７回：研究課題に応じた先行研究の読み込みを計画し、読み込んだ結果を発表する。
第８回：自分の修士論文に必要な「先行研究の整理」を行ってみる。
第９回：修士論文の章立てを考える。
第10回～第14回：これまでの作業を確認しながら発表準備を行う。
事後学習
第１回：修士論文構想発表会の準備を行い、レジュメを作成する。
第

●評価方法

修士論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

●受講生へのコメント

修士論文は2年間の修士課程の集大成である。履修モデルとしての教育学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

「教育学研究指導1」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、修士論文に主体的に取り組み、修士課程を集大成させてほしい。

●参考文献･教材

特に指定しない。

授業科目名	科目NO.	LBEDU3602	授業コード	LM07140010
教育学研究指導Ⅱ Supervision of Master's Thesis in Education Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	添田　晴雄			

●科目の主題

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「教育学研究指導1」（前期）、「教育学研究指導2」（後期）の指導によって完成させる。

後期の「教育学研究指導2」では、修士論文の仕上げに向けて、修士論文中間発表会といった機会を柱としながら、修士論文に必要な知識、技能を修士論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1) 修士論文の評価規準と基準を知る
(2) 執筆途上において、その時点の自分の修士論文を評価基準に準拠して点検する
(3) 点検の結果を踏まえ、修士論文計画・執筆計画を修正しながら修士論文を完成させる

●授業内容・授業計画

第1回:修士論文の進捗状況の報告

第2回:修士論文の評価基準の確認

第3回～第6回:修士論文中間発表会(4コマ連続)

完成に向けての執筆方針の確認(研究方法論、課題設定、先行研究の整理章立て等)

完成に向けての研究・執筆計画

第7回:修士論文中間発表会の振り返り

第8回:問題意識と学術的意義を扱う部分についての点検

第9回:研究目的に応じた課題設定を扱う部分について点検

第10回:研究手法の説明を扱う部分についての点検

第11回:先行研究を扱う部分についての点検

第12回:実験結果、調査結果、文献分析を扱う部分についての点検

第13回:論理の組み立てや一貫性に関する点検

第14回:学術論文としての表現、表記法等に関する点検

●事前・事後学習の内容

事前学習
第１回：修士論文研究進捗状況の報告レジュメを作成・提出する。
第２回：修士論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。
第３回～第６回：修士論文中間発表を行い、他の発表者の発表および議論の内容も検討する。
第７回：完成までの期間の研究・執筆計画を立てる。
第８回：点検の対象になる部分を執筆する。
第９回：点検の対象になる部分を執筆する。
第10回：点検の対象になる部分を執筆する。
第11回：点検の対象になる部分を執筆する。
第12回：点検の対象になる部分を執筆する。
第13回：点検の対象になる

●評価方法

修士論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

「教育学研究指導2」の評価は、「修士論文」の評価と同時期に行われるが、後者が論文の内容そのものの質が評価されるのに対して、前者は、論文作成過程の学修状況が評価の対象となる。ただし、仮に「修士論文」が不可となった場合は、「教育学研究指導2」も不可となる。

●受講生へのコメント

修士論文は2年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしての教育学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学

修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

「教育学研究指導2」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、修士論文に主体的に取り組み、学士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

特に指定しない。

授業科目名	科目NO.		授業コード	LM18000070
修士論文（教育学） Master's Thesis			単位数	
授業形態	担当教員名			
演習	添田　晴雄			

●科目の主題

文学研究科では、修士論文を通しての学修を重視しており、ディプロマポシシーで定める学修成果を学生が修めることができるよう、修士課程の2年間をとおし、授業科目における指導のほか、専修ごとの修士論文ガイダンス、修士論文構想発表会、修士論文中間発表会など、学生どうしが切磋琢磨できる機会を設け、あわせて、きめこまかな個別指導を行う。

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「教育学研究指導1」「教育学研究指導2」の指導によって完成させる。

●到達目標

修士論文の審査基準は次のとおりであり、これを到達目標とする。

（1）修士論文は、教育学分野における一定の研究成果を示すものでなければならない。

（2）（評価基準）修士論文は以下の各項目について、教育学分野における十分な水準を満たさなければならない。

(a) 研究課題（テーマ）の学術的意義
明確な問題意識に基づき、教育学分野における研究の学術的意義が述べられていること。

(b) 研究課題の的確性
研究目的に応じた的確な課題が設定されていること。

(c) 研究方法の妥当性
研究を遂行する上で、適切な研究手法がもちいられていること。

(d) 先行研究との関連
当該専門分野における主たる先行研究を踏まえたものであること。

(e) 資料利用の適切性
論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などが適切にもちいられていること。

(f) 論旨の一貫性
論旨が論理的に組み立てられ、一貫して展開されていること。

(g) 学術論文としての体裁
表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、教育学分野の慣例に従ったものであること。

(h) 研究倫理の遵守
研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、教育学分野が定める研究上守るべき倫理基準が満たされていること。

（3）（論文の体裁）修士論文は、論を展開する上で、教育学分野の特性に応じた十分な分量でなければならない。

●授業内容・授業計画

※各回の授業内容の記述は「修士論文」にそぐわないので省略する。なお、「修士論文」に連動するものとして、「教育学研究指導1」「教育学研究指導2」のシラバスを参照すること。

●事前・事後学習の内容

「修士論文」に連動する「教育学研究指導1」「教育学研究指導2」の事前・事後学習を参照しつつ、論文作成を進めること。

●評価方法

修士論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学研究科内規」にしたがい、研究科教授会において当該専攻の教員から主査1 名、副査2名を審査員として選出した上で審査をおこなう。

２月に実施する面接試験の日時は、各専修から通知する。

修士論文審査については、文学研究科が定める「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがって実施する。

●受講生へのコメント

「修士論文」および「教育学研究指導1」は、修士論文を提出する年度の前期に、「教育学研究指導2」は後期の履修登録期間中にWeb履修登録すること。

修士論文は2年間の博士前期課程の集大成である。履修モデルとしての教育学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

●参考文献・教材　指定しない。

授業科目名	科目NO.	LBGEO2501	授業コード	LM08010010	
地理学基礎問題研究 Advanced Studies of Fundamental Problems in Geography				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	山﨑　孝史				

●科目の主題

この科目は地理学という学問がどのような課題と方法を持つのかについて、19世紀初頭における近代地理学成立以来の発展過程を振り返りながら、考察することを目的とします。とりわけ1950年代以降の英語圏の地理学における諸スクールの研究分野と基本概念について詳細に検討します。特に今年度の地理学基礎問題研究は「コンタクトゾーンとしての境界都市」をテーマに、沖縄県沖縄市コザ地区を事例に軍事化された都市の境界性について歴史地誌的観点から考察します。授業形式は原則的に対面型としますが、新型コロナ感染の状況に応じて双方向型の

●到達目標

今年度の地理学基礎問題研究は、シンシア・エンローの軍事化、レイチェル・ウッドワードの軍事化された景観（批判軍事地理学）、マリー＝ルイーズ・プラットのコンタクトゾーンの概念ともとに、米軍駐留都市を政治地理学的にとらえうる視角を見出します。まず米軍の国外駐留を米国による覇権維持を支える機構の一つとしてとらえ、「ホスト」地域社会との関係、そこへの影響の地理的顕現を分析し、そこから米軍駐留都市がもつ「境界性」を理解する視座を獲得します。これらのプロセスは、新型コロナの感染拡大が終息に向かうようであれば、学期末に実施する沖縄県沖縄市コザ地区でのフィールドワークを通して補完されます。もし、実施できない場合は後期の地理学基礎問題研究演習に移す可能性があります。

●授業内容・授業計画

第1回 イントロダクション

第2回 ジェンダー研究における軍事化概念①

第3回 ジェンダー研究における軍事化概念②

第4回 ジェンダー研究における軍事化概念③

第5回 批判軍事地理学の視点①

第6回 批判軍事地理学の視点②

第7回 批判軍事地理学の視点③

第8回 コンタクトゾーンとしての基地の街①

第9回 コンタクトゾーンとしての基地の街②

第10回 コンタクトゾーンとしての基地の街③

第11回 沖縄市フィールドワーク

第12回 沖縄市フィールドワーク

第13回 沖縄市フィールドワーク

第14回 沖縄市フィールドワーク

●事前・事後学習の内容

事前学習として課題に関連する参考文献を読み、コメントを事前に提出した上で、授業に臨む必要があります。授業の成果は事後学習としてフィールドワークの実施とレポート作成にフィードバックすることになります。

●評価方法

各週の課題提出（30点）、演習中の論題提起（10点）、フィールドワーク参加（40点）、期末レポート（30点）から評価され、総点が60点以上を合格とします。フィールドワークを実施できない場合は、各週の課題提出（60点）、演習中の論題提起（10点）、期末レポート（40点）とします。

●受講生へのコメント

課題文献は各自でダウンロードないしコピーしていただきます。沖縄市フィールドワークは9月に実施予定ですが、実際可能性も含めた詳細は学期の初めにお知らせします。シラバス等詳細は教員ホームページ「政治地理のページ」ないしWebClassの該当ページを参照してください。

●参考文献・教材

シンシア・エンロー（上野千鶴子・佐藤文香訳）『策略―女性を軍事化する国際政治』（岩波書店、2006年）、田中雅一編『軍隊の文化人類学』（風響社、2015年）ほか必要な文献は授業開始時に指示します。

授業科目名	科目NO.	LBGEO2502	授業コード	LM08020010	
地理学基礎問題研究演習 Advanced Seminar:Studies of Fundamental Problems in Geography				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	山﨑 孝史				

●科目の主題

この科目は地理学という学問がどのような課題と方法を持つのかについて、19世紀初頭における近代地理学成立以来の発展過程を振り返りながら、考察することを目的とします。とりわけ1950年代以降の英語圏の地理学における諸スクールの研究分野と基本概念について詳細に検討します。特に今年度の地理学基礎問題研究演習は2021年11月に明石書店から刊行予定のロバート・サック著（山崎孝史監訳）『人間の領域性―その理論と歴史（仮題）』を用い、領域性の理論と用法について考察します。授業形式は原則的に対面型としますが、新型コロナ感

●到達目標

サック『人間の領域性』は人文地理学および政治地理学のネオ古典として以下のような価値を持っています（山﨑孝史 2007「ロバート・D・サック 『人間の領域性―その理論と歴史』 部分翻訳にあたって」『空間・社会・地理思想』11, pp. 90-91 ）。サックの所論は，画定された空間（領域）を権力 やコントロールの基礎とする社会事象を説明するの に有効であり，領土や行政区画など政治領域の問題 を具体的に考える上で不可欠である。Progress in Human Geography 誌は 2000 年に本書を古典とし て評価する記事を掲載しているが，コメンタリーを 寄せたのは John Agnew と Anssi Paasi という政治 地理学者であった。『人間の領域性』が公刊された 1980 年代は， 英語圏における政治地理学の理論的展開において重 要な時期である。ピーター･テイラーが 1970 年代の ウォーラーステインの世界システム論に立脚した政 治地理学の理論的視角を確立し，ロ バート・ジョンストンらが選挙地理学研究を精緻化 させ，そしてジョン・アグ ニューが構造化理論を政治地理学的な場所論に援用 したのは，全て 1980 年代である。『人間の領域性』は，これら著作と並んで 1980 年 代以降の英語圏政治地理学の発展に対して非常に重 要な理論的貢献をなした。その意味で『人間の領域 性』は政治地理学を志す者にとっては必読書である。

本演習では、こうした「人間の領域性」の歴史展開と現代的意味を翻訳書の精読を通して理解することを目指します。

●授業内容･授業計画

第1回 イントロダクション

第2回 人間の領域性とは何か

第3回 人間の領域性に関する諸研究

第4回 空間分離主義と人文地理学の転回

第5回『人間の領域性』第1章

第6回『人間の領域性』第2章

第7回『人間の領域性』第3章

第8回『人間の領域性』第4章

第9回『人間の領域性』第5章

第10回『人間の領域性』第6章

第11回『人間の領域性』の現代的評価

第12回 領域性の実例①

第13回 領域性の実例②

第14回 領域性の実例③

●事前･事後学習の内容

事前学習として課題に関連する参考文献を読み、コメントを事前に提出した上で、授業に臨む必要があります。事後学習として各回の議論をもとに期末レポートの執筆を準備します。

●評価方法

各週の課題項目へのコメント提出（50点）、討論への参加・論題提起（20点）、期末レポート（30点）から評価され、総点が60点以上を合格とします。

●受講生へのコメント

課題項目の入手方法は初回の演習時に指示します。シラバス等詳細は教員ホームページ「政治地理のページ」と

WebClassの該当授業を参照してください。

●参考文献・教材

ロバート・サック著（山﨑孝史監訳）『人間の領域性―その理論と歴史（仮題）』明石書店、2021年刊行予定。

授業科目名	科目NO.	LBGEO2503	授業コード	LM08030010
地理情報論研究 Advanced Studies in Geographical Information			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	木村　義成			

●科目の主題

地理情報と言えば、何か特殊な分野に聞こえるが、Google MapやYahoo Mapに代表されるように、地理情報は、誰にとっても身近にアクセスでき、日々の生活の中で役立つ情報となっている。近年のIT技術の進展により、地理情報は、GIS（地理情報システム）で管理・分析できるようになり、GPS（全地球測位システム）で高精度の位置情報を取得できるようになった。カーナビゲーションは、それらの一例である。

●到達目標

本科目の到達目標は、自身の研究対象に対して自身でわかりやすい地図の作成や、空間分析ができるようになることである。

本講義では、地理情報の取得・分析方法を中心に説明を行う。また、地理情報がどのような分野で、どのように活用されているかについて数多く紹介する。

●授業内容・授業計画

以下のような内容を想定している。第1回のイントロダクションは、必ず受講すること。

第1回 ・イントロダクション

第2回 ・GIS (Geographic Information System)とは？

第3回 ・GPS (Global Positioning System)とは？

第4回 ・地理情報の取得方法①

第5回 ・地理情報の取得方法②

第6回 ・地理情報の取得方法③

第7回 ・地理情報の管理方法

第8回 ・地理情報の表現方法

第9回 ・地理情報を用いた空間分析法①

第10回 ・地理情報を用いた空間分析法②

第11回 ・地理情報を用いた空間分析法③

第12回 ・地理情報科学からみた研究例①

第13回 ・地理情報科学からみた研究例②

第14回 ・地理情報科学からみた研究例③

第15回 ・総括

●事前・事後学習の内容

本科目はGIS（地理情報システム）に関する実習を含むため、特に事後学習を求める。

事後学習としては、実習で説明した内容についてGISを用いて自分で地図製作や空間分析を行えるように課題を課す。

●評価方法

講義中の小課題やレポート等から総合的に評価する。

評価の比率は、小課題提出が30%、レポート提出が70%を想定している。

●受講生へのコメント

地理情報の技術的な側面のみならず、地理情報の活用事例を中心に判り易く説明するので受講されたい。

地理情報論研究演習と必ず同時に受講すること。

また、第1回のイントロダクションは必ず参加すること。参加していない場合は、受講を許可しないことがある。

●参考文献・教材

講義の中で、定義参考文献を紹介する。

なお、自習書としては以下の文献を推薦する。

浅見泰司、他編著『地理情報科学―GISスタンダード』古今書院
マーク・モンモニア著『地図は嘘つきである』晶文社
Paul A. Longley, et al. 『Geographic Information Systems and Science』John Wiley & Sons

授業科目名	科目NO.	LBGEO2504	授業コード	LM08040010	
地理情報論研究演習 Advanced Studies of Geographical Information				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	木村　義成				

●科目の主題

本演習の目的は修士論文や学術論文を作成していく上で必要な技術と知識を習得することである。
主にGISを用いて自身で論文で用いる地図や、諸現象の空間分析を行えるようにしてもらう。

●到達目標

本科目の到達目標は、地理情報を扱う研究を理解し、学会発表や修士論文などの論文におけるマップの作成や空間分析を自身で行えることである。

●授業内容・授業計画

地理学教室所有のGISやGPSを利用した演習・実習を行う。

本演習は「地理情報論研究」と並行して開講されるので、必ず合わせて受講すること。

第1回 ・イントロダクション
第2回 ・空間データの作成と編集①
第3回 ・空間データの作成と編集②
第4回 ・空間データの作成と編集③
第5回 ・空間データの作成と編集④
第6回 ・各種マップの作成①
第7回 ・各種マップの作成②
第8回 ・各種マップの作成③
第9回 ・各種マップの作成④
第10回 ・空間解析①
第11回 ・空間解析②
第12回 ・空間解析③
第13回 ・空間データの統合利用①
第14回 ・空間データの統合利用②
第15回 ・総括

●事前・事後学習の内容

本科目はGIS（地理情報システム）に関する実習を含むため、特に事後学習を求める。
事後学習としては、実習で説明した内容についてGISを用いて自分で地図製作や空間分析を行えるように課題を課す。

●評価方法

演習という講義の性格上、出席点を最重視する。

●受講生へのコメント

同時に「地理情報論研究」を必ず受講すること。演習だけの受講は認めない。
また、第1回のイントロダクションには、必ず参加すること。参加していない場合は、受講を許可しないことがある。

●参考文献・教材

教材・参考文献については、随時紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBGEO2505	授業コード	LM08050010	
人文地理学特殊問題研究 I Advanced Studies in Selected Topics in Human Geography I				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	水内 俊雄				

●科目の主題

都市社会・政治地理学の実践：日本の都市を中心に、繁栄と衰退という分極化を示しつつも、さまざまなグラデーションで都市が近年変容している実態を肌身で感じてもらう授業である。フィールドワークも多用するが、前半は都市地域における生活困窮問題、住宅貧困問題、特にホームレス問題にどのように接近し、観察し、関係者と接し、問題の改善にあたっての仕組みづくり、施策づくりの後方支援に関与することを、国内外のフィールドも紹介しながら、身につけてゆくことをめざす。とくに脱ホームレス支援、居住福祉支援というフィールドに焦点をあてて

●到達目標

水内自身が、脱ホームレス支援のNPOの理事として活動しているが、その活動の意味と課題を実感してもらうような講義をめざしている。そのために、現場の支援者（NPO、社会的企業ほか）にも講義に登場してもらいながら、受講生の率直な意見をフィードバックする形で、対話型の授業もめざしたい。脱ホームレス支援は、総合的な生活支援に他ならない。そうしたスキルやモチベーションを少しでも学んでもらいたい。教科書や一般書籍ではなかなか得られない事実が満載であるので、みなさんの生き方や就職のありかたを考える上でも大いに参考になることを期待している。

●授業内容・授業計画

この授業は、対面で行う(予定)。

前半は、座学を中心に、生活困窮者問題と都市問題の関わりについて、社会保障、セーフティネットの再編と関連させながら課題の摘出を行う。特にホームレス問題やインナーシティ問題に具体の状況を紹介しながら、現状の最前線を知ってもらう。後半は、実際に地域に出てフィールドワークを行い、特に支援の現場に焦点をあて、現場の声や地域状況を肌で感じてもらう。水内が関係する企画の紹介も行い、自主的に参加してもらう機会も提供する。

第1回 セーフティネットの重荷と大学生として、大学としてわれわれが考えるべきこと

第2回 セーフティネットのほころび:その1 ホームレス問題とハウスレス問題

第3回 新しいホームレス、ネットカフェ難民、派遣切り、ワーキングプア、そして生活困窮者問題

第4回 脱ホームレス支援が居住福祉支援につながる実践事例の紹介:その1

第5回 脱ホームレス支援が居住福祉支援につながる実践事例の紹介:その2

第6回 居住福祉の支援と社会的不動産、NPOとの関係

第7回 社会的企業、NPO論と都市論との関係の整理

第8回 居住福祉の支援は都市再生につながるその実例紹介

第9回 現場訪問その1寄せ場、簡易宿所集中地域における脱ホームレス支援の実態

第10回 現場訪問その2:中間施設としての無料低額宿泊所の役割とNPOの機能

第11回 現場訪問その3:NPOによる支援付住宅という中間施設を用いた脱ホームレス支援

第12回 現場訪問その4:脱ホームレス支援におけるアフターケア支援の実態

第13回 現場訪問その5:アートを生かした新しいまちづくり現場

第14回 現場訪問その6:社会的不動産業による新しいまちづくり現場

第15回 現場訪問その7:社会的企業による新しいまちづくり現場

●事前・事後学習の内容

●評価方法

授業やフィールドワーク毎のミニレポートによる平常点とする。

●受講生へのコメント

現場感覚を養ってもらうために、ゲストスピーカーや関連するプログラムへの参加、あるいはフィールドワークを行うので、体を動かして、目を動かして、五感を働かせて、問題に対処してもらう。大学での講義スタイルから少々異なるので、好奇心あふれる探究心の持ち主が授業参加してくれるとうれしい。

●参考文献･教材

『モダン都市の系譜―地図から読み解く社会と空間―』（ナカニシヤ出版）を参考書として紹介しておく。

授業科目名	科目NO.	LBGEO2506	授業コード	LM08060010
人文地理学特殊問題研究演習1 Advanced Seminar: Selected Topics in Human Geography 1			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	水内　俊雄			

●科目の主題

都市社会・政治地理学の実践：広義の都市問題に取り組む社会的企業、NPO研究に関する演習でもある。都市地域における生活困窮問題、住宅貧困問題、ホームレス問題、インナーシティでのまちづくり、中山間地域の生活継続や就労問題にどのように接近し、観察し、関係者と接し、問題の改善にあたっての仕組みづくり、施策づくりの後方支援に関与することを、国内外のフィールドワークに参加しながら、身につけてゆくことをめざす。関連する都市論やNPO研究の論文や著書の輪読も行う。

●到達目標

都市社会問題や地域問題に関心を有する受講生向けに構想された演習である。もちろん修士論文や投稿論文につながることをめざしていると同時に、こうした都市社会問題や地域問題に対する研究者としてのアプローチに触れたいという受講生にも門戸は開いている。実践的でアクティブな研究スタイルをシェアし、理論面でのフォローアップも兼ね備え、そしてネットワークのひろがる環境を享受してもらうことを目標としている。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で行う。

水内が進めているプロジェクトにマッチングする受講生の指向を育成する演習をきめ細かく行う。そのプロジェクトとは、戦略的研究プロジェクト「自治体・ NPOと協働する都市困窮地域のリジェネレーションと参加型GIS実践」、水内を代表とする科研プロジェクト「東アジアの広義のホームレス支援に基づく包摂型都市生成と支援の地理学の構築」、「自治体・NPOと協働する都市困窮地域の再成と居住福祉ビジネスの社会化」、COCプラスプロジェクト「紀伊半島地域の再生：命と生活のインフラプロジェクト」に連動した演習をおこなう。生活支援、居住支援NPO研究も学ぶことにもなる。演習と直結することになるフィールドワークについては、受講生の関心を十分に尊重しながら、国内は、全国のホームレス支援やまちづくりの現場や、紀伊半島の中山間地域、国外は、韓国内大都市、香港、台北のいずれかを選択してもらう予定である。あわせて後期の研究Ｉも連動してとることを勧める。授業計画はプロジェクト毎に記しているが、受講生の関心を優先する柔軟な授業計画となることをも付記しておきたい。

第1回 大きくは都市や地域再生にかかわる具体的な実践を身近に取り込みつつ、かつ研究者としてどのようにこうした事象に有機的に関わってゆくかの切磋琢磨の機会ともしたい。このかかわり方についてそれぞれのプロジェクトについて相談の上演習で主体的に取り組むガイダンスとする

第2回 都市研究プラザ公募型共同研究プロジェクト「レジリエンスからイノベーションによるサービスハブ地域賦活過程の都市理論研究」の紹介

第3回 上記研究プロジェクトについて具体的なテーマ設定

第4回 対象地域のフィールドワーク その1

第5回 対象地域のフィールドワーク その2

第6回 科研プロジェクト「 仕事・住まい・福祉が連携するサービスハブによるハウジングセーフティネットの構想」の紹介

第7回 上記科研プロジェクトについて具体的なテーマ設定

第8回 対象地域のフィールドワーク その1

第9回 対象地域のフィールドワーク その2

第10回 科研プロジェクト「 分極化する都市空間におけるレジリエントな地域再成と包容力ある都市論の構

想」の紹介

第11回 上記科研プロジェクトについて集中フィールドワーク設定に関するディスカッション

第12回 紀伊半島プロジェクト「中山間地域多生業アーカイブプロジェクト」の紹介

第13回 上記プロジェクトについてテーマ設定

第14回 上記プロジェクトについての集中フィールドワーク設定に関するディスカッション その1

第15回 上記プロジェクトについての集中フィールドワーク設定に関するディスカッション その2

●事前・事後学習の内容

’

●評価方法

集中フィールドワークへの参加や、その報告書や論文、書籍の一部執筆をもって、評価とする。したがって平常点評価となる。

●受講生へのコメント

都市問題研究や教員の科研プロジェクト、研究プロジェクトと連動しておこなうので、通常時間以外の国内外のフィールドワークにも参加することが前提となるので、調査時間のフレキシブルさに対応できる体制をとっておくこと。フル参加を前提としているので、主体的参加を期待しています。

●参考文献・教材

演習時に指示する。

授業科目名	科目NO.	LBGEO2507	授業コード	LM08070010	
人文地理学特殊問題研究Ⅱ Advanced Studies in Selected Topics in Human Geography Ⅱ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	菅野　拓				

●科目の主題

貧困、地域の衰退、差別、災害復興など、様々な社会的課題、特に都市問題に焦点をあて、それがどのように解決されるのかを、様々な事例や研究動向を踏まえ検討する。検討にあたってはフィールドトリップやゲストスピーカーといった形で、様々な活動者に登場いただき、理論と現場の往復運動を行う。検討する理論は、地理学関係はもちろん、サードセクター論、社会運動論、比較政治経済学など、広く諸学から、現代社会を理解するうえで重要なものを取り上げる。さらに、社会的課題の解決に対して研究・研究者とはどのような役割を果たすべきか、また、

●到達目標

社会的課題の解決を検討する際に用いることができるいくつかの理論やフレームワークを修得するとともに、それらを用いて現場で起こっていることを部分的にでも抽象化して論じることができるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1回:イントロダクション

第2回:理論・実践・実際:なにが違うのか

第3回:「メジャー」な理論1

第4回:「メジャー」な理論2

第5回:フィールドトリップ1:反差別とコミュニティディベロップメント

第6回:フィールドトリップ2:当事者運動

第7回:様々な事例検討1

第8回:様々な事例検討2

第9回:フィールドワークの基礎技法1:予備調査と質問設計

第10回:フィールドワークの基礎技法2:インタビュー

第11回:フィールドトリップ3:ボランティア

第12回:フィールドトリップ4:サードセクター

第13回:「メジャー」な理論3

第14回:「メジャー」な理論4

●事前・事後学習の内容

理論と現場の往復運動を行うために、指示する文献や自らの関心がある文献を中心に、常になんらかの書物・論文を読むことで、新しい理論の習得をめざし、現場の状況を抽象的に考えられる状況に自らを置くこと。

●評価方法

講義でのディスカッション内容やフィールドトリップごとに実施するミニレポートなどによる平常点で評価する。

●受講生へのコメント

書を持って街に出る。書物だけ、現場だけとならずに往復し続ける知的好奇心や知的体力がある人が授業参加してくれると嬉しい。

●参考文献・教材

必要に応じ授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LBGEO2508	授業コード	LM08080010	
人文地理学特殊問題研究演習2 Advanced Seminar: Selected Topics in Human Geography 2				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	菅野　拓				

●科目の主題

貧困、地域の衰退、差別、災害復興など、様々な社会的課題、特に都市問題に焦点をあて、実際にそれらが解決される現場に入り、フィールドワークの技能を修得する。その際、現場の状況を部分的にでも抽象化して検討するための理論を修得し、身体化していく。さらに、授業の中で、教員が実施する調査プロジェクトも紹介するので、関心があるものに自主的に参画することで、社会的課題の解決とそれを研究することの最先端を味わってほしい。

●到達目標

様々なフィールドで研究を行うための技能を身につける。

●授業内容・授業計画

第1回:イントロダクション

第2回:試行的フィールドワーク1:生活者としての教員へのインタビュー

第3回:試行的フィールドワーク2:活動者としての教員へのインタビュー

第4回:フィールドワークの技法1:どのような調査を行うべきか

第5回:フィールドワークの技法2:仮説は必要か、仮説がはずれたときはどのように軌道修正すべきか

第6回:フィールドワークの技法3:様々なセクターに存在するルールや規範1

第7回:フィールドワークの技法4:様々なセクターに存在するルールや規範2

第8回:フィールドの検討1

第9回:フィールドの検討2

第10回:フィールドワーク1

第11回:フィールドワーク2

第12回:フィールドワーク3

第13回:フィールドワーク4

第14回:フィールドワーク5

●事前・事後学習の内容

理論と現場の往復運動を行うために、指示する文献や自らの関心がある文献を中心に、常になんらかの書物・論文を読むことで、新しい理論の習得をめざし、現場の状況を抽象的に考えられる状況に自らを置くこと。

●評価方法

演習でのディスカッション内容やフィールドワークの内容による平常点で評価する。

●受講生へのコメント

フィールドワーカーとしての現場感覚を養いながら、様々な現在進行形の現場に飛び込むことになる。新しいものごとを受け止め、面白いと感じられる、好奇心旺盛な人が授業参加してくれるとうれしい。

●参考文献・教材

必要に応じ授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LBGEO2509	授業コード	LM08090010
人文地理学特殊問題研究Ⅲ Advanced Studies in Selected Topics in Human Geography Ⅲ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	祖田　亮次			

●科目の主題

本授業では、「災害」や「環境問題」といったテーマを通じて、人間－環境関係について考察するものである。近年、自然災害や環境問題を人文・社会科学的観点から捉えなおそうという試みが活発になっている。地理学においても、従来の自然地理学的な災害研究・環境研究だけではなく、災害や環境問題を社会的・文化的な側面から考察する必要性が指摘されている。このような観点から人間－環境関係を捉えようとする研究は、地理学の本来的な姿勢であると同時に、1980年代以降活発に議論されてきた政治生態学の考え方と通じるものがある。本授業では

●到達目標

災害、環境といった視点から、地理学の人間－環境関係論を理解できるようになる。

●授業内容・授業計画

＊この授業は対面とオンラインを組み合わせて行う予定である。

この授業では、教員側からいくつかの話題提供を行いつつ、学生が指示された国内外の文献を読み、それを紹介することで、積極的な議論の場を設けたい。こうした作業を通して、研究を行う上でのフレームワークの作り方についても学べるようにしたい。

第1回 イントロダクション
第2回 話題提供1
第3回 話題提供2
第4回 フィールド・トリップ
第5回 日本語文献講読1
第6回 日本語文献講読2
第7回 日本語文献講読3
第8回 日本語文献講読4
第9回 フィールド・トリップ
第10回 英語文献講読1
第11回 英語文献講読2
第12回 英語文献講読3
第13回 フィールド・トリップ
第14回 フィールド・トリップ
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

事前・事後の学習としては、論文の検索と選定、それらの読解、およびレジュメの作成のほか、具体的な事例について自ら調査するという作業も含まれる。

●評価方法

この授業では、数回の課題提出および発表を求める。評価は、発表、数回の課題提出、フィールド・トリップへの参加、および最終レポートを総合的に判断して行う。

●受講生へのコメント

幅広い対象に目を向ける努力をしてもらいたい。

●参考文献・教材

授業中に紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBGEO2510	授業コード	LM08100010	
人文地理学特殊問題研究演習3 Advanced Seminar: Selected Topics in Human Geography 3				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	祖田　亮次				

●科目の主題

この授業では、地理学の独自性と、隣接諸分野との関係性について、具体的な文献の読解を通じて考察する。

●到達目標

地理学は、経済学や文化人類学、社会学、政治学、都市工学など、多様な分野との接点を持つが、それら隣接分野との異同について、各学生の専門分野の立場から発表を行い、それをもとに議論する。そうした議論を通じて、自分自身の研究のオリジナリティを自覚できるようにする。

●授業内容・授業計画

＊この授業は対面とオンラインを組み合わせて行う。

各学生は、まず、地理学の主要雑誌を広くレビューし、自身の研究が学界内においてどのような位置づけにあるのかを発表する。次に、教員が指定した地理学雑誌のなかから、特に重要な最新の論文を選定し、その要旨を紹介したうえで、論点を提示する。さらに、隣接他分野における類似の成果と比較しながら、地理学的な意味について考察する。

第1回 イントロダクション
第2回 文献選定1
第3回 文献選定2
第4回 文献の要旨発表、論点提示、議論1
第5回 文献の要旨発表、論点提示、議論2
第6回 文献の要旨発表、論点提示、議論3
第7回 文献の要旨発表、論点提示、議論4
第8回 文献の要旨発表、論点提示、議論5
第9回 文献の要旨発表、論点提示、議論6
第10回 文献の要旨発表、論点提示、議論7
第11回 文献の要旨発表、論点提示、議論8
第12回 文献の要旨発表、論点提示、議論9
第13回 文献の要旨発表、論点提示、議論10
第14回 文献の要旨発表、論点提示、議論11
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

事前・事後の学習としては、論文の検索と選定、それらの読解、およびレジュメの作成のほか、具体的な事例について自ら調査した内容を発表するための準備作業も含まれる。

●評価方法

発表の内容、形式、および議論への参加を総合して評価する。

●受講生へのコメント

幅広い対象に目を向ける努力をしてもらいたい。

●参考文献・教材

授業中に紹介する。

授業科目名	科目NO.	LBGEO2511	授業コード	LM08130010
地理学総合研究Ⅰ Comprehensive Studies in Geography Ⅰ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	祖田　亮次／水内　俊雄／山﨑　孝史／木村　義成／菅野　拓			

●科目の主題

地表上の空間と景観にかかわる諸問題の総合的および分析的研究を志向する地理学について、基礎的素養を深める。

●到達目標

本科目では、地理学に関する個別的テーマを取り上げて講義し、地理学研究に対する知見を深めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

＊この授業は対面を基本としつつ、状況に応じてオンラインで行う場合もある。

地理学の個別的テーマ（都市構造、国土開発、景観変遷、社会運動、グローバル化、地理情報システムなど）に関する講義のほか、受講生からレポートや報告を求め、それに基づいた討論を行う。

第1回　授業の進め方

第2回～第4回　グローバル化と都市構造の変化

第5回～第7回　国土開発と社会運動

第8回～第10回　経済活動と景観変遷

第11回～第14回　地理情報システムの利用

第15回　まとめ

●事前・事後学習の内容

受講に際しては、担当教員の指示に基づき、指定された文献を精読するなど、事前に十分な準備を行った上で臨むこと。また、授業の終了後には、講義の要点や指摘されたコメントを整理し、復習を欠かさないようにすること。

●評価方法

（1）到達目標の達成度について評価をおこなう。

（2）評価方法は、期末レポート（60%）、質問など議論への参加状況（40%）による。

（3）合格（単位修得）のための最低基準は、講義内容に即して論理的なレポートが作成出来るとともに、議論に積極的に参加することである。

●受講生へのコメント

受講者は、日ごろから地理学的想像力を養い、社会のさまざまの部分で生起している問題や事象について注視することが求められる。

●参考文献・教材

授業中に適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LBGEO2512	授業コード	LM08140010	
地理学総合研究Ⅱ Comprehensive Studies in Geography Ⅱ			単位数	2単位	
授業形態	担当教員名				
講義	祖田　亮次／水内　俊雄／山﨑　孝史／木村　義成／菅野　拓				

●科目の主題

地表上の空間と景観にかかわる諸問題の総合的および分析的研究を志向する地理学について、基礎的素養を深める。

●到達目標

本科目では、地理学に関する個別的テーマを取り上げて講義し、修士論文作成に向けて地理学研究に対する知見を深めることを目標とする。

●授業内容・授業計画

＊この授業は対面を基本としつつ、状況に応じてオンラインで行う場合もある。

地理学の個別的テーマ（都市構造、国土開発、景観変遷、社会運動、グローバル化、地理情報システムなど）に関する講義のほか、受講生から予定している修士論文のテーマと研究成果について報告を求め、それに基づいた討論を行う。

第1回　授業の進め方

第2回～第3回　グローバル化と都市構造の変化

第4回～第5回　国土開発と社会運動

第6回～第7回　経済活動と景観変遷

第8回～第9回　地理情報システムの利用

第10回～第14回　修士論文構想の発表と検討

第15回　まとめ

●事前・事後学習の内容

受講に際しては、担当教員の指示に基づき、指定された文献を精読するなど、事前に十分な準備を行った上で臨むこと。また、授業の終了後には、講義の要点や指摘されたコメントを整理し、復習を欠かさないようにすること。

●評価方法

（1）到達目標の達成度について評価をおこなう。

（2）評価方法は、期末レポート（60%）、質問など議論への参加状況（40%）による。

（3）合格（単位修得）のための最低基準は、講義内容に即して論理的なレポートが作成出来るとともに、議論に積極的に参加することである。

●受講生へのコメント

受講者は、日ごろから地理学的想像力を養い、社会のさまざまの部分で生起している問題や事象について注視することが求められる。

●参考文献・教材

授業中に適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LBGEO3601	授業コード	LM08150010	
地理学研究指導Ⅰ Supervision of Master's Thesis in Geography Ⅰ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	祖田　亮次／山﨑　孝史／水内　俊雄				

●科目の主題

地理学の各分野に関する修士論文作成の指導を行う。

●到達目標

内外の先行研究の検討を行いながら、自らの研究課題を具体的に絞り込む。

●授業内容・授業計画

＊この授業は対面とオンラインの組み合わせで行う。

設定した研究課題に対する内外の先行研究のレヴューを行いながら、立案した調査計画に基づいて、文献収集やフィールドワークを実施し、得られた知識の整理、検討とデータの分析を行う。受講者は、その研究テーマに応じて、主担・副担の研究指導教員の指導を受けるものとする。

第1回　授業の進め方

第2回～第6回　研究テーマに関する先行研究の整理

第7回～第10回　研究課題の設定

第11回～第14回　調査実施計画の作成

第15回　まとめ

●事前・事後学習の内容

受講に際しては、研究指導教員の指示に基づき、事前に十分な準備を行った上で臨むこと。また、指導の終了後には、指摘されたコメントをもとに研究計画の修正を行い、次回の報告に備えること。

●評価方法

研究テーマに関する先行研究の整理、研究課題の設定、調査実施計画など、研究の進捗状況に基づき、総合的に評価する。

●受講生へのコメント

所定の在学年源内に修士論文を提出できるよう計画を立てて、着実に研究を進めていってほしい。

●参考文献・教材

必要に応じて、授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LBGEO3602	授業コード	LM08160010	
地理学研究指導Ⅱ Supervision of Master's Thesis in Geography Ⅱ			単位数	2単位	
授業形態	担当教員名				
演習	祖田　亮次／山﨑　孝史／水内　俊雄				

●科目の主題

地理学の各分野に関する修士論文作成の指導を行う。

●到達目標

研究の中間報告に基づき、テーマと研究方法の適合性、論文の構成など、論文作成に必要な事項について議論し、修士論文を完成させる。

●授業内容・授業計画

＊この授業は対面とオンラインを組み合わせて行う予定である。

研究指導Ⅰに引き続き、立案した調査計画に基づいて、文献収集やフィールドワークを実施し、得られた知識の整理、検討とデータの分析を行う。受講者は、その研究テーマに応じて、主担当・副担当の研究指導教員の指導を受けるものとする。

第1回　授業の進め方

第2回～第5回　調査計画の発表と検討

第6回～第10回　調査結果の整理とデータ分析

第11回～第14回　調査結果の発表と検討

第15回　まとめ

●事前・事後学習の内容

受講に際しては、研究指導教員の指示に基づき、事前に十分な準備を行った上で臨むこと。また、指導の終了後には、指摘されたコメントをもとに研究計画の修正を行い、次回の報告に備えること。

●評価方法

研究テーマに関する先行研究の整理、研究課題の設定、調査実施計画など、研究の進捗状況に基づき、総合的に評価する。

●受講生へのコメント

所定の在学年限内に修士論文を提出できるよう計画を立てて、着実に研究を進めていってほしい。

●参考文献・教材

必要に応じて授業中に指示する

授業科目名	科目NO.		授業コード	LM18000080
修士論文（地理学） Master's Thesis			単位数	
授業形態	担当教員名			
演習	祖田　亮次／山﨑　孝史／水内　俊雄			

●科目の主題

地理学の分野における修士論文

●到達目標

地理学の分野における修士論文の完成と提出

●授業内容・授業計画

＊この授業は対面とオンラインを組み合わせて行う。

地理学の分野における修士論文の作成と提出

●事前・事後学習の内容

事前学習:地理学の分野における修士論文の作成と提出
事後学習:口述試験

●評価方法

地理学の分野における修士論文を評価の対象とする

●受講生へのコメント

修了に必要なすべての単位を修得し、修士論文作成において指導教員から十分な指導を受けること

●参考文献・教材

使用しないが、参考文献等については担当教員より適宜紹介する。

授業科目名	科目NO.	LCGEN1502	授業コード	LM00080010	
言語文化学研究Ⅱ Introduction to Language and Culture Ⅱ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	山崎　雅人				

●科目の主題

本講義は、初めてこの学問に接する人が、多岐に渡る言語学の知識を取得することで、その知的な面白さを感じ取れるように、言語学を構成するさまざまな分野を理解することを主題とする。

●到達目標

受講生が言語学の基本概念に関する知識を習得することを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

テキストは、受講生の既存の知識を確認しながら理解が深まるように工夫された自作教材を用いる。そこでは、受講者は与えられた課題への自分の考えをまずまとめ、後に解説を聞くことで自分の考えの当否を確認しながら、言語研究の基礎的知識を獲得してゆく。

第1回　言語学への招待　その1
第2回　言語学への招待　その2
第3回　構造について　その1
第4回　構造について　その2
第5回　研究方法について　その1
第6回　研究方法について　その2
第7回　比較言語学　その1
第8回　比較言語学　その2
第9回　類型論　その1
第10回　類型論　その2
第11回　記号論
第12回　社会言語学
第13回　心理言語学
第14回　応用言語学
第15回　言語哲学と文学

●事前・事後学習の内容

事前学習としては、予め指定された各回のテーマに関する重要な概念を意味する学術用語を、授業に先立って調べて罫線紙に書いて持って来ること。事後学習としては、授業で触れた内容を題材とした宿題を出すので、それに対する解答を準備して次の授業で提出すること。

●評価方法

受講生は、授業中の課題や指名に対して各自で考えて応答するとともに、宿題としての課題への解答を提出する。さらに、その日の講義内容に関して、「興味が持てたこと」と「理解ができなかったこと」（初めのうちは講義に関する要望を可とする場合もある）をまとめることで復習とする。こうした毎回の作業をきちんとこなすことと、規定以上の出席回数を満たすことに基づいて、成績評価を行う。

●受講生へのコメント

我々が日々関わり囲まれている「言葉の世界」には、少し見方を変えることで得られる「小さな発見」がたくさん潜んでいる。言葉は、自分自身の一部であるとともに、他者とつながる架け橋でもある。上に述べた「発見」は、自分とは何者か、自分が接する社会とはどのような存在か、という問題に何かしらの手がかりを与えてくれると思う。進んで言葉の世界へ赴き、探求の旅を楽しんでもらいたい。

●参考文献・教材

テキストは教員が準備して各回の授業に先立って配布する。参考文献は適宜教室で指示するが、以前にこの講義で用

いた以下の本は、参考図書として有用と考える。

・町田健著『町田健のたのしい言語学』2004年、ソフトバンクパブリッシング
・佐久間淳一、加藤重広、町田健著『言語学入門：これから始める人のための入門書』2004年、研究社
・星浩司著『言語学への扉』2006年、慶應義塾大学出版会
・佐久間淳一著『はじめてみよう言語学』2007年、研究社
・大津由紀雄編著『はじめて学ぶ言語学－ことばの世界をさぐる17章』2

授業科目名	科目NO.	LCGEN1503	授業コード	LM00090010	
言語文化学研究Ⅲ Introduction to Language and Culture Ⅲ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	大岩本　幸次				

●科目の主題

漢字の本義や成り立ちに関する諸問題。

●到達目標

漢字の本義や成り立ちについての基本的な知識と、『説文解字』（漢・許慎/100年）などに基づく漢字の研究方法を身につける。

●授業内容・授業計画

漢字の本義や成り立ちについて、受講生各自が対象とする字を選択し、調査・考察を行った上で発表する。

第1回　概説（1）

第2回　概説（2）

第3回　概説（3）と文字の選択に関する相談

第4回　受講生の発表と議論（1）

第5回　受講生の発表と議論（2）

第6回　受講生の発表と議論（3）

第7回　受講生の発表と議論（4）

第8回　受講生の発表と議論（5）

第9回　受講生の発表と議論（6）

第10回　受講生の発表と議論（7）

第11回　受講生の発表と議論（8）

第12回　受講生の発表と議論（9）

第13回　受講生の発表と議論（10）

第14回　レポート相談

●事前・事後学習の内容

予習と復習。発表のための準備。

●評価方法

発表内容（30%）、小テストを含む授業への参加度（40%）、レポート（30%）。

4回以上欠席した場合は評価の対象外とする。

15分を過ぎての遅刻は欠席と判断される。

●受講生へのコメント

授業中の積極的な発言を重視する。

●参考文献・教材

授業中に適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN2501	授業コード	LM09010010
国文学研究Ⅰ Advanced Studies in Japanese Literature Ⅰ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義／演習	久堀　裕朗			

●科目の主題

近世の国文学を対象に、その研究の方法と問題点について解説し、議論を行う。具体的には人形浄瑠璃作品を取り上げ、そのテキストを精読しながら、近世の文献、資料についての基本的な知識を身につけ、作品を注釈する能力と、それに基づく読解力を養う。

●到達目標

近世の文献、資料に関する基本的な知識を身につけ、作品注釈に利用することができる。

●授業内容・授業計画

授業は講義と演習とを組み合わせて進めるが、まず研究上の問題の所在について講義をし、その後、具体的な作品分析に入っていく。テキストとしては人形浄瑠璃作品を取り上げ、その舞台化や、江戸時代から今日に至るまでの上演史についても検討を加える。前期は天明3年(1783)大坂竹本座初演、近松半二ほかによる合作、時代浄瑠璃『伊賀越道中双六』を取り上げ、先行作『伊賀越乗掛合羽』などとも比較しながら作品を分析する。

第1回:本授業のガイダンス／作品解説

第2回:研究上の問題点について

第3回:作品講読(講義＋受講者による発表)

第4回:作品講読(講義＋受講者による発表)

第5回:作品講読(講義＋受講者による発表)／中間整理①

第6回:作品講読(講義＋受講者による発表)

第7回:作品講読(講義＋受講者による発表)

第8回:作品講読(講義＋受講者による発表)／中間整理②

第9回:作品講読(講義＋受講者による発表)

第10回:作品講読(講義＋受講者による発表)

第11回:作品講読(講義＋受講者による発表)／中間整理③

第12回:作品講読(講義＋受講者による発表)

第13回:作品講読(講義＋受講者による発表)

第14回:作品講読(講義＋受講者による発表)／中間整理④

第15回:全体の整理／レポート提出

●事前・事後学習の内容

第1回：取りあげる作品や指定された文献を読む。
第2回：取りあげる作品や指定された文献を読む。
第3回：講読部分に関する事前精読と、問題点の再検討。
第4回：講読部分に関する事前精読と、問題点の再検討。
第5回：講読部分に関する事前精読と、問題点の再検討。中間整理①。
第6回：講読部分に関する事前精読と、問題点の再検討。
第7回：講読部分に関する事前精読と、問題点の再検討。
第8回：講読部分に関する事前精読と、問題点の再検討。中間整理②。
第9回：講読部分に関する事前精読と、問題点の再検討。
第10回：講

●評価方法

到達目標の達成度について、以下の通りの評価を行う。
評価方法とその割合：授業における発表と期末レポート100%

合格（単位修得）のための最低基準：近世の文献、資料に関する基本的な知識を身につけ、発表やレポート作成時にそれを利用することができる。

●受講生へのコメント

担当範囲だけではなく、取り上げる作品全体を読みこみ、毎回積極的に授業参加すること。

●参考文献・教材

教材：プリントを配布する。

参考文献：授業中に詳しく指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN2502	授業コード	LM09020010
国文学研究演習1 Advanced Studies and Seminar in Japanese Literature 1			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義／演習	久堀　裕朗			

●科目の主題

近世の国文学を対象に、その研究の方法と問題点について解説し、議論を行う。具体的には人形浄瑠璃作品を取り上げ、そのテキストを精読しながら、近世の文献、資料についての基本的な知識を身につけ、作品を注釈する能力と、それに基づく読解力を養う。

●到達目標

近世の文学作品を精読しながら、作品注釈能力を高め、担当箇所について適切に発表することができる。

●授業内容・授業計画

授業は講義と演習とを組み合わせて進めるが、まず研究上の問題の所在について講義をし、その後具体的な作品分析に入っていく。テキストとしては人形浄瑠璃作品を取り上げ、その舞台化や、江戸時代から今日に至るまでの上演史についても検討を加える。今期は淡路座の初演作品と推定される『前太平記今様姿』(松竹大谷図書館蔵)の作品分析を行う。

第1回:本授業のガイダンス／作品解説
第2回:研究上の問題点について
第3回:作品講読(講義＋受講者による発表)
第4回:作品講読(講義＋受講者による発表)
第5回:作品講読(講義＋受講者による発表)／中間整理①
第6回:作品講読(講義＋受講者による発表)
第7回:作品講読(講義＋受講者による発表)
第8回:作品講読(講義＋受講者による発表)／中間整理②
第9回:作品講読(講義＋受講者による発表)
第10回:作品講読(講義＋受講者による発表)
第11回:作品講読(講義＋受講者による発表)／中間整理③
第12回:作品講読(講義＋受講者による発表)
第13回:作品講読(講義＋受講者による発表)
第14回:作品講読(講義＋受講者による発表)／中間整理④
第15回:全体の整理／レポート提出

●事前・事後学習の内容

第1回：取りあげる作品や指定された文献を読む。
第2回：取りあげる作品や指定された文献を読む。
第3回：講読箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。
第4回：講読箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。
第5回：講読箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。中間整理①。
第6回：講読箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。
第7回：講読箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。
第8回：講読箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。中間整理②。
第9回：講読箇所に関する事前精読と、問題点の再検討。
第10回：講

●評価方法

到達目標の達成度について、以下の通りの評価を行う。
評価方法とその割合：授業における発表と期末レポート100%

合格（単位修得）のための最低基準：担当箇所について適切に注釈を加え、発表することができる。

●受講生へのコメント

担当範囲だけではなく、取り上げる作品全体を読みこみ、毎回積極的に授業参加すること。

●参考文献・教材

教材：プリントを配布する。

参考文献：授業中に詳しく指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN2503	授業コード	LM09030010	
国文学研究Ⅱ Advanced Studies in Japanese Literature Ⅱ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	小林　直樹				

●科目の主題

中世の伝承と歴史叙述の関係について、『吾妻鏡』を読み解きながら考察していく。

●到達目標

中世の歴史叙述の中の伝承をテクストの文脈の中に位置づけて読み解く基本姿勢の習得を目指す。

●授業内容・授業計画

鎌倉幕府の準公式的な歴史書『吾妻鏡』の実朝将軍記を伝承的記事を中心に注釈的に読み解いていく。

第1回 ガイダンス

第2回『吾妻鏡』講読

第3回『吾妻鏡』講読

第4回『吾妻鏡』講読

第5回『吾妻鏡』講読

第6回『吾妻鏡』講読

第7回『吾妻鏡』講読

第8回『吾妻鏡』講読

第9回『吾妻鏡』講読

第10回『吾妻鏡』講読

第11回『吾妻鏡』講読

第12回『吾妻鏡』講読

第13回『吾妻鏡』講読

第14回『吾妻鏡』講読

第15回『吾妻鏡』講読

●事前・事後学習の内容

事前学習：授業までにテキストの下読みを十分に行い、事前に配布された担当者のレジュメにも目を通し、問題点を認識した上で授業に臨む。

事後学習：授業中に指示された参考文献を読むことで、さらに理解を深めるように努める。

●評価方法

平常点。

●受講生へのコメント

本科目は後期の研究演習2と併せて受講することが極めて望ましい。

●参考文献・教材

教材：プリントによる。

参考書：『現代語訳 吾妻鏡８承久の乱』（吉川弘文館）、坂井孝一『源実朝』（講談社）など。

授業科目名	科目NO.	LCJPN2504	授業コード	LM09040010
国文学研究演習2 Advanced Studies and Seminar in Japanese Literature 2			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	小林　直樹			

●科目の主題

中世の伝承と歴史叙述の関係について、『吾妻鏡』を読み解くことによって考察する。

●到達目標

中世の歴史叙述の中の伝承をテクストの文脈の中に位置づけて読み解く基本姿勢の習得を目指す。

●授業内容・授業計画

『吾妻鏡』実朝将軍記を注釈的に読解する。担当者の報告と受講生全員による討議を経て理解を深めていく。

第1回『吾妻鏡』講読

第2回『吾妻鏡』講読

第3回『吾妻鏡』講読

第4回『吾妻鏡』講読

第5回『吾妻鏡』講読

第6回『吾妻鏡』講読

第7回『吾妻鏡』講読

第8回『吾妻鏡』講読

第9回『吾妻鏡』講読

第10回『吾妻鏡』講読

第11回『吾妻鏡』講読

第12回『吾妻鏡』講読

第13回『吾妻鏡』講読

第14回『吾妻鏡』講読

第15回『吾妻鏡』講読

●事前・事後学習の内容

事前学習：授業までにテキストの下読みを十分に行い、事前に配布された担当者のレジュメにも目を通し、問題点を認識した上で授業に臨む。

事後学習：授業中に指示された参考文献を読むことで、さらに理解を深めるように努める。

●評価方法

平常点。

●受講生へのコメント

本科目は前期の研究Ⅱと併せて受講することが極めて望ましい。

●参考文献・教材

教材：プリントによる。

参考書：『現代語訳 吾妻鏡８承久の乱』（吉川弘文館）、坂井孝一『源実朝』（講談社）など。

授業科目名	科目NO.	LCJPN2505	授業コード	LM09050010
国文学研究Ⅲ Advanced Studies in Japanese LiteratureⅢ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	山本　真由子			

●科目の主題

柿村重松『本朝文粋註釈』（大正11年刊）精読。本書は、平安時代の詩文の精粋を集めた藤原明衡撰『本朝文粋』の注釈書である。詳細な出典注を漢文で施し、『本朝文粋』の研究において今もなお第一に依拠すべき書とされる。本授業では、出典注を訓読、原典にあたって解釈するとともに、その注が付された意味を検討する。また、『本朝文粋』の当該作品について、新たに語釈、通釈を加え、作者や製作状況および和文学との関わりなどを考察することにより、平安時代文学について理解を深める。

●到達目標

平安時代を中心とする漢文学に関する知識を身に付ける。あわせて平安時代文学の研究方法を習得する。

●授業内容・授業計画

受講生の人数に合わせて作品を選び、担当箇所を決めて、訓読、調査、考察を行い、発表する。発表と受講生全員による討議を経て理解を深めていく。

第1回　ガイダンス1『本朝文粋』について

第2回　ガイダンス2『本朝文粋註釈』について

第3回『本朝文粋註釈』(発表と討議1)

第4回『本朝文粋註釈』(発表と討議2)

第5回『本朝文粋註釈』(発表と討議3)

第6回『本朝文粋註釈』(発表と討議4)

第7回『本朝文粋註釈』(発表と討議5)

第8回『本朝文粋註釈』(発表と討議6)

第9回『本朝文粋註釈』(発表と討議7)

第10回『本朝文粋註釈』(発表と討議8)

第11回『本朝文粋註釈』(発表と討議9)

第12回『本朝文粋註釈』(発表と討議10)

第13回『本朝文粋註釈』(発表と討議11)

第14回　まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習

発表の準備は、早めにとりかかること。発表者以外の受講生も毎回『本朝文粋註釈』の当該箇所を十分に下読みしておくこと。

事後学習

発表によって明らかになった問題点などを整理し、内容を検討して、再び調査、考察すること。

●評価方法

発表内容と討議への参加状況。

●受講生へのコメント

平安時代の漢文学についての知識は、訓読をふくめて、物語や和歌などの和文学を読み解く上でも欠かせないものです。授業を通して、漢文学に親しみ、広い視野から、各自の文学に対する問題意識を深めていってほしい。

●参考文献・教材

教材

プリントを配布する。

参考文献

小島憲之校注『本朝文粋』（日本古典文学大系・岩波書店・昭和39年）、大曾根章介・金原理・後藤昭雄校注『本朝文粋』（新日本古典文学大系・岩波書店・平成4年）、後藤昭雄『本朝文粋抄　一～五』（勉誠出版・平成18～30年）※その他、授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN2506	授業コード	LM09060010
国文学研究演習3 Advanced Studies and Seminar in Japanese Literature 3			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	山本　真由子			

●科目の主題

柿村重松『本朝文粋註釈』（大正11年刊）精読。本書は、平安時代の詩文の精粋を集めた藤原明衡撰『本朝文粋』の注釈書である。詳細な出典注を漢文で施し、『本朝文粋』の研究において今もなお第一に依拠すべき書とされる。本授業では、出典注を訓読、原典にあたって解釈するとともに、その注が付された意味を検討する。また、『本朝文粋』の当該作品について、新たに語釈、通釈を加え、作者や製作状況および和文学との関わりを考察することにより、平安時代文学について理解を深める。

●到達目標

平安時代を中心とする漢文学に関する知識を身に付ける。あわせて平安時代文学の研究方法を習得する。

●授業内容・授業計画

受講生の人数に合わせて作品を選び、担当箇所を決めて、訓読、調査、考察を行い、発表する。発表と受講生全員による討議を経て理解を深めていく。

第1回　ガイダンス
第2回『本朝文粋註釈』(発表と討議1)
第3回『本朝文粋註釈』(発表と討議2)
第4回『本朝文粋註釈』(発表と討議3)
第5回『本朝文粋註釈』(発表と討議4)
第6回『本朝文粋註釈』(発表と討議5)
第7回『本朝文粋註釈』(発表と討議6)
第8回『本朝文粋註釈』(発表と討議7)
第9回『本朝文粋註釈』(発表と討議8)
第10回『本朝文粋註釈』(発表と討議9)
第11回『本朝文粋註釈』(発表と討議10)
第12回『本朝文粋註釈』(発表と討議11)
第13回『本朝文粋註釈』(発表と討議12)
第14回　まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習
発表の準備は、早めにとりかかること。発表者以外の受講生も毎回『本朝文粋註釈』の当該箇所を十分に下読みしておくこと。
事後学習
発表によって明らかになった問題点などを整理し、内容を検討して、再び調査、考察すること。

●評価方法

発表内容と討議への参加状況。

●受講生へのコメント

平安時代の漢文学についての知識は、訓読をふくめて、物語や和歌などの和文学を読み解く上でも欠かせないものです。授業を通して、漢文学に親しみ、広い視野から、各自の文学に対する問題意識を深めていってほしい。

●参考文献・教材

教材
プリントを配布する。
参考文献

小島憲之校注『本朝文粋』（日本古典文学大系・岩波書店・昭和39年）、大曾根章介・金原理・後藤昭雄校注『本朝文粋』（新日本古典文学大系・岩波書店・平成4年）、後藤昭雄『本朝文粋抄　一～五』（勉誠出版・平成18～30年）※その他、授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN2507	授業コード	LM09070010
国文学研究Ⅳ Advanced Studies in Japanese LiteratureⅣ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	奥野　久美子			

●科目の主題

井川（恒藤）恭日記の翻刻、注釈。大阪市立大学初代学長で芥川龍之介の親友であった恒藤恭の、松江での療養時代（中学卒業後、一高入学前）の日記（明治40年、3月～夏ごろまで）を題材に、原資料にもとづき翻刻と校注を行う。文学への関心が高かった療養時代の井川恭は、自ら創作活動も行う一方で、毎日さまざまな雑誌や書物を読み、それらについて細かく日記に記している。それは明治末期の若者の教養を知る上でも貴重な資料である。そこに書かれた書物等について確認するなどの細かな作業にあたり、明治期の青年の文学環境・社会環境を研究する

●到達目標

本文校訂と注釈の作業を通じて、明治期の文学環境や恒藤恭の思想形成に対する理解を深める。あわせて近代文学研究の方法を身につける。

●授業内容・授業計画

受講生の人数に合わせて担当箇所を決めて調査研究を行い、発表する。発表者以外の受講生は質疑を行い全員で討論する。

第1回 ガイダンス
第2回 発表と質疑、討論1
第3回 発表と質疑、討論2
第4回 発表と質疑、討論3
第5回 発表と質疑、討論4
第6回 発表と質疑、討論5
第7回 発表と質疑、討論6
第8回 発表と質疑、討論7
第9回 発表と質疑、討論8
第10回 発表と質疑、討論9
第11回 発表と質疑、討論10
第12回 発表と質疑、討論11
第13回 発表と質疑、討論12
第14回 発表と質疑、討論13
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

発表の準備には2～3週間を要する。早めに準備にとりかかること。発表者以外の受講生も毎回の箇所を事前に下読みしておき、事後は疑問点などを整理し内容を検討しておくこと。

●評価方法

発表内容と討論への参加状況。

●受講生へのコメント

毎回とりあげる箇所は各授業前に再度熟読しておくこと。また、質疑、討論には積極的に参加すること。

●参考文献・教材

テキスト：原資料の画像コピーを配布する。
参考文献：関口安義『恒藤恭とその時代』（平一四・五　日本エディタースクール出版部）
山崎時彦編著『恒藤恭の青年時代』（平一五・一〇　未來社）
『向陵記―恒藤恭　一高時代の日記―』（平一五・三　大阪市立大学大学史資料室編）
『袖珍；翡翠記』（井川恭著、宍倉忠臣編及解説、山陰中央新報社、平一六）

『島根の百年』（NHK松江放送局編、昭四三）
『松江市史研究』（松江市教育委員会編）（松江市歴史叢書、平二二～）
『島根県史』（島根県編　名著出版、昭四七）
『人物島根県史』

授業科目名	科目NO.	LCJPN2508	授業コード	LM09080010
国文学研究演習4 Advanced Studies and Seminar in Japanese Literature 4			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	奥野　久美子			

●科目の主題

井川（恒藤）恭日記の翻刻、注釈。大阪市立大学初代学長で芥川龍之介の親友であった恒藤恭の、松江での療養時代（中学卒業後、一高入学前）の日記（明治40年、初夏～秋ごろ）を題材に、原資料にもとづき翻刻と校注を行う。文学への関心が高かった療養時代の井川恭は、自ら創作活動も行う一方で、毎日さまざまな雑誌や書物を読み、それらについて細かく日記に記している。それは明治末期の若者の教養を知る上でも貴重な資料である。そこに書かれた書物等について確認するなどの細かな作業にあたり、明治期の青年の文学環境・社会環境を研究する。

●到達目標

本文校訂と注釈の作業を通じて、明治期の文学環境や恒藤恭の思想形成に対する理解を深める。あわせて近代文学研究の方法を身につける。

●授業内容・授業計画

受講生の人数に合わせて担当箇所を決めて調査研究を行い、発表する。発表者以外の受講生は質疑を行い全員で討論する。

第1回 ガイダンス
第2回 発表と質疑、討論1
第3回 発表と質疑、討論2
第4回 発表と質疑、討論3
第5回 発表と質疑、討論4
第6回 発表と質疑、討論5
第7回 発表と質疑、討論6
第8回 発表と質疑、討論7
第9回 発表と質疑、討論8
第10回 発表と質疑、討論9
第11回 発表と質疑、討論10
第12回 発表と質疑、討論11
第13回 発表と質疑、討論12
第14回 発表と質疑、討論13
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

発表の準備には2～3週間を要する。早めに準備にとりかかること。発表者以外の受講生も毎回の箇所を事前に下読みしておき、事後は疑問点などを整理し内容を検討しておくこと。

●評価方法

発表内容と討論への参加状況。

●受講生へのコメント

毎回とりあげる箇所は各授業前に再度熟読しておくこと。また、質疑、討論には積極的に参加すること。

●参考文献・教材

テキスト：原資料の画像コピーを配布する。
参考文献：関口安義『恒藤恭とその時代』（平一四・五　日本エディタースクール出版部）
山崎時彦編著『恒藤恭の青年時代』（平一五・一〇　未來社）
『向陵記―恒藤恭　一高時代の日記―』（平一五・三　大阪市立大学大学史資料室編）
『袖珍；翡翠記』（井川恭著、宍倉忠臣編及解説、山陰中央新報社、平一六）
『島根の百年』（NHK松江放送局編、昭四三）

『松江市史研究』（松江市教育委員会編）（松江市歴史叢書、平二二～）
『島根県史』（島根県編　名著出版、昭四七）
『人物島根県史』

授業科目名	科目NO.	LCJPN2509	授業コード	LM09190010	
国語学研究 Advanced Studies in Japanese Linguistics				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	丹羽　哲也				

●科目の主題

文法・文体・語彙を中心とする日本語の研究。

●到達目標

国語国文学専修の受講生各自の専門領域に応じて、文法・文体・語彙に関する研究方法を探る。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で行う。

国語学を専門とする受講生は、自らの研究テーマに関わる基本文献を精読する。国文学を専門とする受講生は、自らの研究対象の作家・作品に関わる文体や語彙の問題を設定し、関連文献を精読する。

第1回　発表と議論(1)
第2回　発表と議論(2)
第3回　発表と議論(3)
第4回　発表と議論(4)
第5回　発表と議論(5)
第6回　発表と議論(6)
第7回　発表と議論(7)
第8回　発表と議論(8)
第9回　発表と議論(9)
第10回　発表と議論(10)
第11回　発表と議論(11)
第12回　発表と議論(12)
第13回　発表と議論(13)
第14回　発表と議論(14)

●事前・事後学習の内容

発表者は選んだ文献に基づいてレジュメ・レポートを作成する。他の受講生の選んだ文献も読み、議論に参加する。

●評価方法

平常点による。

●受講生へのコメント

自分の研究テーマに関連する論文を各自でたくさん読んでいくこと。そういう中で、授業で重要文献を精読することが大切である。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN2510	授業コード	LM09200010	
国語学研究演習 Advanced Studies and Seminar in Japanese Linguistics				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	丹羽　哲也				

●科目の主題

文法・文体・語彙を中心とする日本語の研究。

●到達目標

国語国文学専修の受講生各自の専門領域に応じて、文法・文体・語彙に関する研究方法を探る。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で行う。

国語学を専門とする受講生は、自らの研究テーマに関わる基本文献を精読する。国文学を専門とする受講生は、自らの研究対象の作家・作品に関わる文体や語彙の問題を設定し、関連文献を精読する。

第1回　発表と議論(1)
第2回　発表と議論(2)
第3回　発表と議論(3)
第4回　発表と議論(4)
第5回　発表と議論(5)
第6回　発表と議論(6)
第7回　発表と議論(7)
第8回　発表と議論(8)
第9回　発表と議論(9)
第10回　発表と議論(10)
第11回　発表と議論(11)
第12回　発表と議論(12)
第13回　発表と議論(13)
第14回　発表と議論(14)

●事前・事後学習の内容

発表者は選んだ文献に基づいてレジュメ・レポートを作成する。他の受講生の選んだ文献も読み、議論に参加する。

●評価方法

平常点による。

●受講生へのコメント

文献の精読を通じて、各自の研究方法を構築する足がかりを得るように努めることが重要である。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN2511	授業コード	LM09210010	
国語国文学研究 Advanced Studies in Japanese Language and Literature				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	佐野　宏				

●科目の主題

古代日本文学における歌謡及び和歌作品について、後世の歌語以前の「文脈付帯語彙」の形成過程について考察を行う。

●到達目標

萬葉集、古事記、日本書紀、風土記といった上代作品についての基礎知識の確認と、それらを研究対象とする場合の学的方法について説明できることを目的とする。

●授業内容・授業計画

基本、遠隔授業とする。

第1回　上代語概説①語彙

第2回　上代語概説②音韻

第3回　上代語概説③文法(活用)・付;特殊語法

第4回　上代語概説④文法(副助詞と係助詞)

第5回　上代語概説⑤文法(推量の助動詞の解釈をめぐって)

第6回　上代語資料概説①;資料の範囲、木簡及び出土資料群

第7回　上代語資料概説②:日本文学史上の上代文学

第8回　萬葉集研究の諸問題①:和歌の定型

第9回　萬葉集研究の諸問題②:「歌群論」の問題点

第10回　萬葉集研究の諸問題③:「萬葉集」という作品

第11回　萬葉集研究の諸問題④:古事記、日本書紀との関連性

第12回　萬葉集研究の諸問題⑤:享受史について

第13回　萬葉集研究の諸問題⑥:修辞法

第14回　今期のまとめ"

●事前・事後学習の内容

課題を与えるので配付のプリントを参考にして課題について調査と考察を行う。課題は個別作品、あるいは古代語語彙といった個別の課題ですから、具体的な事前事後学習については個別に指示をします。学的方法（個別の研究対象への分析方法と体系的観点からみたその研究に対する評価）について考えて欲しいと思います。

●評価方法

期末のレポート70%、授業評価コメントを含む平常点30%（学部生の小テストに代わり、教員の講義中の板書、説明についての評価を求めます。）

●受講生へのコメント

とくに事前の知識は必要ありません。古代和歌や日本神話に興味のある方を歓迎します。ただし国文学研究に国語学の知識を活用し、国語学研究に国文学の成果を取り入れるようにしたいと思います。なお、受講生にあわせて素材を適宜変更しますので、上記の回数と内容は順序を入れ換えることがあります。

●参考文献・教材

井手至・毛利正守『校注萬葉集』（和泉書院）、『萬葉事始』（和泉書院）、校注萬葉集の代わりに小島憲之他『萬葉集』本文篇（塙書房）を用いてもよい。

授業科目名	科目NO.	LCJPN2512	授業コード	LM09220010
国語国文学研究演習 Advanced Studies and Seminar in Japanese Language and Literature			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	佐野　宏			

●科目の主題

国語学と国文学の見方を踏まえて、研究対象を多角的に分析することを通して、人文科学における知識の継承と「古典」形成の意義について考察する。

●到達目標

萬葉集、古事記、日本書紀、風土記といった上代作品について自ら問題を設定し、解決できるようになることを目指します。

●授業内容・授業計画

基本、対面とするが、遠隔に変更する場合がある。

第1回　演習について

第2回　萬葉集の場合：具体例を示す（譬喩と問答について；文脈付帯語の展相）。

第3回　古事記の場合：具体例を示す（古事記上巻について；天孫降臨の論理）。

第4回　日本書紀の場合：具体例を示す（雄略天皇について；萬葉集巻頭歌の意義）。

第5回　風土記の場合：具体例を示す（三輪山伝説の話形と萬葉集巻13「泣く子守る山」）。

第6回　上代文学研究で今何が問題か（記紀歌謡の諸問題；和歌の次元に措いた時）

第7回　上代語研究で今何が問題か（助動詞の意味分化と事態把握のあり方）

第8回　個別演習①：担当者による研究発表

第9回　個別演習②：担当者による研究発表

第10回　個別演習③：担当者による研究発表

第11回　個別演習④：担当者による研究発表

第12回　個別演習⑤：担当者による研究発表

第13回　個別演習⑥：担当者による研究発表

第14回　今期のまとめ"

●事前・事後学習の内容

課題を与えるので配付のプリントを参考にして課題について調査と考察を行う。課題は個別作品、あるいは古代語語彙といった個別の課題ですから、具体的な事前事後学習については個別に指示をします。学的方法（個別の研究対象への分析方法と体系的観点からみたその研究に対する評価）について考えて欲しいと思います。

●評価方法

期末のレポート70%、授業評価コメントを含む平常点30%（学部生の小テストに代わり、教員の講義中の板書、説明についての評価を求めます。）

●受講生へのコメント

演習科目になりますので、国語国文学研究を履修しておくことが望ましいと考えますが、既に古代語・上代文学について素養のある方はその限りではありません。

●参考文献・教材

井手至・毛利正守『校注萬葉集』（和泉書院）、『萬葉事始』（和泉書院）、校注萬葉集の代わりに小島憲之他『萬葉集』本文篇（塙書房）を用いてもよい。

授業科目名	科目NO.	LCJPN2513	授業コード	LM09130010
国語国文学総合研究Ⅰ Comprehensive Studies in Japanese Language and Literature Ⅰ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	丹羽　哲也／小林　直樹／久堀　裕朗／奥野　久美子／山本　真由子			

●科目の主題

国語学・国文学研究を進めるための基礎的な素養を身につける。それぞれの時代のそれぞれに特殊性を持った研究対象に深く分け入るだけでなく、そうした枠にとらわれることなく、総合的見地に立って、問題の核心に迫る方法を探り、対象を共時的・通時的座標の上に正確に位置づけるセンスを養う。

●到達目標

国語学・国文学に関する総合的な知見を深める。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で行う。

受講生は次のことが求められる。

・指定された課題研究文献について、指導教員と議論し、レポートを作成する。

・自らの研究領域について、指導教員と議論を重ね、研究の課題と方向を探る。

その他、大学院生の研究発表会に参加し、発表や議論の方法について学んだり、学部の授業を聴講し、議論に参加したりするなど、自分の専門領域にとらわれずに、学ぶ機会を見つけること。

●事前・事後学習の内容

課題文献を継続して読み、レポートを作成する。

●評価方法

平常点とレポートによる。

●受講生へのコメント

自分の研究領域だけでなく、関連領域を広く貪欲に吸収していくことが大切である。

●参考文献・教材

課題文献は適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN2514	授業コード	LM09140010
国語国文学総合研究Ⅱ Comprehensive Studies in Japanese Language and Literature Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	丹羽　哲也／小林　直樹／久堀　裕朗／奥野　久美子／山本　真由子			

●科目の主題

「国語国文学総合研究Ⅰ」と同様に、基礎的な素養を身につけるとともに、各自の研究の方向を見定め、修士論文作成に向けて具体的に課題を絞り込んでいく。

●到達目標

修士論文への目標を定める。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で行う。

受講生は次のことが求められる。

・指定された課題研究文献について、指導教員と議論し、レポートを作成する。

・自らの研究領域について、指導教員と議論を重ね、研究テーマを具体的に定めていく。

その他、大学院生の各種の研究発表会に参加し、発表や議論の方法について学んだり、学部の授業を聴講し、議論に参加するなど、自分の専門領域にとらわれずに、学ぶ機会を見つけること。

●事前・事後学習の内容

課題文献を継続して読み、レポートを作成する。

●評価方法

平常点とレポート、および、大学院生の研究発表会への参加による。

●受講生へのコメント

研究テーマを絞っていきつつも、幅広い関心を持ち続けることが大切である。

●参考文献・教材

課題文献は適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LCJPN3601	授業コード	LM09150010
国語国文学研究指導Ⅰ Supervision of Master's Thesis in Japanese Language and Literature Ⅰ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	丹羽　哲也／小林　直樹／久堀　裕朗			

●科目の主題

国語学・国文学の修士論文作成のための指導を行う。

●到達目標

修士論文の構想を立て、具体化する。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で行う。

論文テーマの設定、テーマとそれを追究する方法の適合性、論文の構成など、論文作成に必要な事項について議論する。

学生はそれぞれの研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

（小林直樹教授・久堀裕朗教授） 国文学に関する指導を行う。

（丹羽哲也教授） 国語学に関する指導を行う。

●事前・事後学習の内容

修士論文に向け、研究テーマについての考察を深める。

●評価方法

平常点と修士論文の中間報告による。

●受講生へのコメント

個々の問題に対する調査・考察を丹念に続けていくとともに、論文全体が何をめざすのか、その構想を常に自らに問い続けること。

●参考文献・教材

指導教員が助言もするが、当然ながら、必要な資料や先行研究を博捜することも研究の一環である。

授業科目名	科目NO.	LCJPN3602	授業コード	LM09160010
国語国文学研究指導Ⅱ Supervision of Master's Thesis in Japanese Language and Literature Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	丹羽　哲也／小林　直樹／久堀　裕朗			

●科目の主題

国語学・国文学の修士論文作成のための指導を行う。

●到達目標

修士論文を完成する。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で行う。

論文のテーマ設定の妥当性、テーマとそれを追究する方法の適合性、論文の構成、論文細部の考察の妥当性など、論文作成に必要な事項について議論し、論文完成に至らしめる。

学生はそれぞれの研究テーマに応じて、いずれかの教員の指導を受けるものとする。

（小林直樹教授・久堀裕朗教授） 国文学に関する指導を行う。

（丹羽哲也教授） 国語学に関する指導を行う。

●事前・事後学習の内容

研究テーマについての考察を深め、修士論文を完成させる。

●評価方法

平常点と修士論文の中間報告による。

●受講生へのコメント

個々の問題に対する調査・考察を丹念に続けていくとともに、論文全体が何をめざすのか、その構想を常に自らに問い続けること。論旨が明快であるか、表現が正確であるかといったことを十分に点検すること。

●参考文献・教材

指導教員が助言もするが、当然ながら、必要な資料や先行研究を博捜することも研究の一環である。

授業科目名	科目NO.		授業コード	LM18000090	
修士論文（国語国文学） Master's Thesis				単位数	
授業形態	担当教員名				
演習	丹羽　哲也／小林　直樹／久堀　裕朗				

●科目の主題

修士論文の執筆。

●到達目標

修士論文を完成させる。

●授業内容・授業計画

この授業の指導は対面で行う。

各自の研究領域に応じた指導教員に相談しながら、研究の計画を立て、資料を収集し、作品やデータを読み込み、論文の構想を練り、具体的な内容を固めていって、執筆をする。

●事前・事後学習の内容

論文の完成に必要なあらゆることをする。

●評価方法

論文内容の独創性・論理性・資料解釈の正確さ、全体的な完成度の高さなどを総合的に評価する。

●受講生へのコメント

年間を通じた持続力、執筆に到る集中力、自分の研究を客観的に見て修正していく柔軟性が問われる。

●参考文献・教材

指導教員が助言もするが、当然ながら、必要な資料や先行研究の探索も研究の一環である。

授業科目名	科目NO.	LCCHN2501	授業コード	LM10210010	
中国文学研究 Advanced Studies in Chinese Literature				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	高橋　未来				

●科目の主題

本講義は、中国古典文学研究分野の論文の読解を通して、最近の当該分野における様々な研究テーマを把握するものである。この講義を通して、受講生が自身の研究テーマを掘り下げ、研究方法や扱う資料についての知識を取得し、修士論文の執筆に活かすことを目的とする。

●到達目標

様々な論文の読解と分析を通して、現在の中国古典文学研究分野において、どのような研究テーマが求められ、どのようなアプローチで論証が行われているかを確認する。それにより、自身の研究テーマをたてる、或いは掘り下げて、仮説と論証の方法などの計画をまとめる。

●授業内容・授業計画

対面で行う。六朝から唐、宋代あたりまでにおける、(1)文学と政治、(2)経学と諸子学、(3)兵戦に関する文人の思想と態度――について論じた論文を扱う。受講生に論文の解説、論文中に言及されている作品と資料についての解説を担当してもらい、それに対する意見交換を行う。

第1回 ガイダンス
第2回 文学と政治(六朝)
第3回 文学と政治(唐代)
第4回 文学と政治(唐代)
第5回 文学と政治(宋代)
第6回 経学と諸子学(唐代)
第7回 経学と諸子学(唐代)
第8回 経学と諸子学(宋代)
第9回 経学と諸子学(宋代)
第10回 兵戦に関する文人の思想と態度(詩経から六朝まで)
第11回 兵戦に関する文人の思想と態度(唐代)
第12回 兵戦に関する文人の思想と態度(唐代)
第13回 最近の唐代文学研究における動向及び今後期待されるテーマについて
第14回 自身の研究テーマについて発表

●事前・事後学習の内容

第２回～第５回 文学と政治に関する各論文の下読みと、疑問点の整理。同一著者のその他の論文を調べる。
第６回～第９回 経学と諸子学に関する各論文を下読みし、関連文献を調べる。
第１０回～第１２回 兵戦に関する文人の思想と態度を論じた各論文を下読みし、引用された作品を調べる。
第１３回～第14回　自身の研究テーマについて概要をまとめる。

●評価方法

発表40%、期末課題60%として評価する。

●受講生へのコメント

●参考文献・教材

プリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LCCHN2502	授業コード	LM10220010
中国文学研究演習 Advanced Studies and Seminar in Chinese Literature			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	高橋　未来			

●科目の主題

本講義は、学部の四年間に培った中国古典文学に関する基礎知識を活用し、古典文学作品を正確かつ深く読み、分析する力を養うものである。作品と注釈に引かれる多くの資料の精読を通して、中国古典文学に用いられる語彙、俗語の用法、語法、文人の思考、作風などへの理解を深めることを目的とする。

●到達目標

中国古典文学作品の詩文を正確に読むことができる。作品の特徴と、文学史の中での位置づけについて分析し、解説することができる。

●授業内容・授業計画

対面で行う(予定)。

唐・杜牧撰／清・馮集梧注『樊川詩集注』巻二以降の詩を取り上げる。

第1回 ガイダンス

第2回「華清宮三十韻」(1)

第3回「華清宮三十韻」(2)

第4回「華清宮三十韻」(3)

第5回「長安雑題長句六首」(1)

第6回「長安雑題長句六首」(2)

第7回「長安雑題長句六首」(3)

第8回「河湟」(1)

第9回「河湟」(2)

第10回「許七侍御」(1)

第11回「許七侍御」(2)

第12回「李給事二首」 其一

第13回「李給事二首」 其二

第14回「題永崇西平王」

●事前・事後学習の内容

第１回 杜牧の人生及び主な作品について調べておく
第２回～第4回「華清宮三十韻」本文及び注に引く資料の下調べをする
第５回～第７回「長安雑題長句六首」本文と注の資料の下調べ
第８回～第９回「河湟」河湟の歴史的背景、本文と注の資料の下調べ
第10回～第11回「許七侍御」本文と注の資料の下調べ
第12回～第13回「李給事二首」本文と注の資料の下調べ
第14回 「題永崇西平王」本文と注の資料の下調べ

●評価方法

担当する作品の発表50%、レポート50%として評価する。

●受講生へのコメント

●参考文献・教材

唐・杜牧撰／清・馮集梧注『樊川詩集注』（上海古籍出版社、1962）のプリントを配布する。その他、呉在慶『杜牧集繫年校注』（中華書局、2008）等を授業中に使用する。

授業科目名	科目NO.	LCCHN2503	授業コード	LM10050010
中国文化学研究 Advanced Studies in Chinese Culture			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	張 新民			

●科目の主題

中国の映画界には、「独立電影（電影は映画のこと）」と呼ばれるひとつのジャンルがある。この独立電影とは、国の管理下にあって検閲が行われていた商業映画や映画産業システムからは独立した、自由な精神で製作されたいわゆるインディペンデント映画のことである。この授業では、中国独立電影の代表的な作品のうち主に賈樟柯の作品をとりあげ、それらの作品を実際に鑑賞し、また仔細に分析することを通して、中国独立映画の現状と課題について考察する。

●到達目標

院生が、中国独立映画の現状と課題について解説できるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1回 賈樟柯映画の概説

第2回 賈樟柯作品1

第3回 賈樟柯作品2

第4回 賈樟柯作品3

第5回 賈樟柯作品4

第6回 賈樟柯作品5

第7回 賈樟柯作品6

第8回 賈樟柯作品7

第9回 賈樟柯作品8

第10回 賈樟柯作品9

第11回 賈樟柯作品10

第12回 賈樟柯作品11

第13回 賈樟柯作品12

第14回 賈樟柯13

第15回 総括

●事前・事後学習の内容

授業時に指示する。

●評価方法

授業中の発表（50%）とレポート（50%）による。

単位取得のための最低基準は達成度60%以上を超えることとする。

●受講生へのコメント

中国語ができることが望ましい。

●参考文献・教材

プリント配布

授業科目名	科目NO.	LCCHN2504	授業コード	LM10060010
中国文化学研究演習 Advanced Studies and Seminar in Chinese Culture			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	張　新民			

●科目の主題

中国の映画界には、「独立電影（電影は映画のこと）」と呼ばれるひとつのジャンルがある。この独立電影とは、国の管理下にあって検閲が行われていた商業映画や映画産業システムからは独立した、自由な精神で製作されたいわゆるインディペンデント映画のことである。この授業では、中国独立電影の代表的な作品のうち主に王兵、艾未未の作品をとりあげ、それらの作品を実際に鑑賞し、また仔細に分析することを通して、中国独立映画の現状と課題について考察する。

●到達目標

院生が、中国独立映画の現状と課題について解説できるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1回 王兵映画の概説
第2回 王兵作品1
第3回 王兵作品2
第4回 王兵作品3
第5回 王兵作品4
第6回 王兵作品5
第7回 王兵作品6
第8回 艾未未映画の概説
第9回 艾未未作品1
第10回 艾未未作品2
第11回 艾未未作品3
第12回 艾未未作品4
第13回 艾未未作品5
第14回 艾未未作品6
第15回 総括

●事前・事後学習の内容

授業時に指示する。

●評価方法

授業中の発表（50%）とレポート（50%）による。
単位取得のための最低基準は達成度60%以上を超えることとする。

●受講生へのコメント

中国語ができることが望ましい。

●参考文献・教材

プリント配布

授業科目名	科目NO.	LCCHN2505	授業コード	LM10230010	
中国語学研究 Advanced Studies in Chinese Linguistics				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	大岩本　幸次				

●科目の主題

李栄『漢語音韻講義』を精読し、中古音の基本資料である韻書『切韻』と等韻図『韻鏡』の構成原理や中古音の推定音価に関する基礎的な概念についての理解を目指す。

●到達目標

音韻学の基礎的な用語について理解し、関連論文の読解に活かすことができることを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

第1回 ガイダンス

第2回 精読1

第3回 精読2

第4回 精読3

第5回 精読4

第6回 精読5

第7回 精読6

第8回 精読7

第9回 精読8

第10回 精読9

第11回 精読10

第12回 関連論文読解1

第13回 関連論文読解2

第14回 関連論文読解3

第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習：資料を事前に読み、疑問点などを整理する。

事後学習：学習内容を復習する。

●評価方法

授業中の発表（50%）とレポート（50%）による。単位取得のための最低基準は達成度60%以上を超えることとする。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

コピーを配布する。

授業科目名	科目NO.	LCCHN2506	授業コード	LM10240010	
中国語学研究演習 Advanced Studies and Seminar in Chinese Linguistics				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	大岩本　幸次				

●科目の主題

中国金代に編纂された字書に引用されて内容の一部が確認できる逸書資料について、具体的に整理・分析を行い、現在は失われてしまった資料の内容の一端を確認し、字書史に関する問題について考察する。

●到達目標

中国古代字書の構造について基本的なところを理解し、実際にデータを集めて初歩的な整理・分析・検討を行えるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1回 ガイダンス・資料配付

第2回 字書史概説1

第3回 字書史概説2

第4回 字書史概説3

第5回 書誌調査

第6回 資料整理1

第7回 資料整理2

第8回 資料整理3

第9回 データ分析1

第10回 データ分析2

第11回 データ分析3

第12回 諸問題の検討1

第13回 諸問題の検討2

第14回 諸問題の検討3

第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習：配付された資料に目を通し、付設された問題の答えを考える（第２回～第４回）。配布された資料を比較し差異を見出す（第５回）。配布された資料の要素を整理する（第６回～第８回）。整理したデータを他の字書資料と対照する（第９回～第１１回）。他書との対照結果から当該資料の性格を検討する（第１２回～第１４回）。これまでの作業をまとめ結論を出す（第１５回）。

事後学習（第１回～第１５回）：学習した内容を復習する。

●評価方法

授業中の発表（50%）とレポート（50%）による。単位取得のための最低基準は達成度60%以上を超えることとする。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

プリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LCCHN2510	授業コード	LM10310010	
中国語応用研究 Applied Studies in Chinese				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	張　新民／大岩本　幸次				

●科目の主題

自らが研究に取り組んでいる内容について、学会発表などの場で限られた時間内に効果的に伝えるには、発表内容の構成についての工夫はもちろん、中国学の場合には多言語を研究発表で用いることに習熟するといったことも鍵となる。この授業では、はじめ簡潔に関連内容の講義を行ったのち、担当者を決めて中国語や日本語による口頭発表をさせ、内容に関して参加者で相互に意見を述べあい、受講者全員で検討を加えるなど、実践を通してプレゼンテーション遂行のための能力についての習熟を目指す。

●到達目標

院生が、日本語や中国語による口頭発表、プレゼンテーション遂行のための能力を獲得することを目標とする。

●授業内容・授業計画

毎回、担当者を決め、発表内容に関して相互に意見を述べあい、受講者全員で検討を加える。

第1回 ガイダンス

第2回 発表・討議(1)

第3回 発表・討議(2)

第4回 発表・討議(3)

第5回 発表・討議(4)

第6回 発表・討議(5)

第7回 発表・討議(6)

第8回 発表・討議(7)

第9回 発表・討議(8)

第10回 発表・討議(9)

第11回 発表・討議(10)

第12回 発表・討議(11)

第13回 発表・討議(12)

第14回 発表・討議(13)

第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習：毎回準備される資料について事前に目を通して疑問点等を確認しておく。

事後学習：授業での議論を踏まえ、今後への改善点を見出す。

●評価方法

出席・授業への積極性（50%）、課題の提出内容（50%）に拠る。単位取得のための最低基準は達成度60%以上を超えることとする。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

プリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LCCHN2511	授業コード	LM10130010	
中国語中国文学総合研究Ⅰ Comprehensive Studies in Chinese Language and Literature Ⅰ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	張 新民／大岩本 幸次／高橋 未来				

●科目の主題

この授業では、中国語学・中国文学・中国文化学のそれぞれの研究分野に関連して、研究を遂行する上で身につけるべき知識や研究方法について総合的に修得し、修士論文作成に向けた基礎力を養うことを目標として、各研究分野それぞれ数回ずつに分けて講義する。受講者は、各自の専攻分野に即した課題をえらび、レポートを提出するほか、修士論文の構想発表会や大阪市立大学中国学会に参加して、若手研究者の問題意識や最新の研究動向について学ぶ。

●到達目標

院生が、中国語学・中国文学・中国文化学の研究を進める上で必要な基礎的知識、研究方法を総合的に修得し、修士論文作成に向けた基礎力を養うことを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1回 ガイダンス。中国語学に関する講義(1)
第2回 中国語学に関する講義(2)
第3回 中国語学に関する講義(3)
第4回 中国語学に関する講義(4)
第5回 中国語学に関する講義(5)
第6回 中国文学に関する講義(1)
第7回 中国文学に関する講義(2)
第8回 中国文学に関する講義(3)
第9回 中国文学に関する講義(4)
第10回 中国文化学に関する講義(1)
第11回 中国文化学に関する講義(2)
第12回 中国文化学に関する講義(3)
第13回 中国文化学に関する講義(4)
第14回 中国文化学に関する講義(5)
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習：資料を事前に読み、疑問点などを整理する。
事後学習：学習内容を復習する。

●評価方法

成績評価に関する割合：発表５０％、レポート５０％。
合格（単位修得）のための最低基準：院生が、中国語学・中国文学・中国文化学の基礎的知識、研究方法について概略を説明できること。

●受講生へのコメント

研究の基礎力を養成する授業なので、積極的に取り組んでもらいたい。

●参考文献・教材

教材はプリントを配布する。
参考文献は適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LCCHN2512	授業コード	LM10140010
中国語中国文学総合研究Ⅱ Comprehensive Studies in Chinese Language and Literature Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	張 新民／大岩本 幸次／高橋 未来			

●科目の主題

この授業では、中国語学・中国文学・中国文化学の各分野に関連して、研究を遂行する上で身につけるべき知識や研究方法について総合的に修得し、修士論文作成に向けた基礎力を養うことを目標として、院生各自に研究課題を設定させ、関連する資料の収集や、各研究課題に関する先行研究の整理、また研究成果の発表・討議などを行わせる。また、前期に引き続いて、修士論文の構想発表会、ならびに大阪市立大学中国学会に参加して、若手研究者の問題意識や研究方法を学ばせる。

●到達目標

院生が、中国語学・中国文学・中国文化学の研究を進める上で必要な基礎的知識、研究方法を総合的に修得し、修士論文作成に向けた基礎力を養うことを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1回 ガイダンス
第2回 中国語学に関する発表・討議(1)
第3回 中国語学に関する発表・討議(2)
第4回 中国語学に関する発表・討議(3)
第5回 中国語学に関する発表・討議(4)
第6回 中国文学に関する発表・討議(1)
第7回 中国文学に関する発表・討議(2)
第8回 中国文学に関する発表・討議(3)
第9回 中国文学に関する発表・討議(4)
第10回 中国文化学に関する発表・討議(1)
第11回 中国文化学に関する発表・討議(2)
第12回 中国文化学に関する発表・討議(3)
第13回 中国文化学に関する発表・討議(4)
第14回 中国文化学に関する発表・討議(5)
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

事前に配布する資料の精読は言うまでもないが、さらに質疑応答に備えておくこと。他の報告者に対して意見を述べられるよう準備しておくこと。事後は、自らの研究テーマとのすり合わせを行い、研究方法の見直しに生かすこと。

●評価方法

成績評価に関する割合：発表５０％、レポート５０％。
合格（単位修得）のための最低基準：院生が、特定のテーマに関して限られた時間内で効果的に伝え、また適切な質疑応答ができること。

●受講生へのコメント

研究の基礎力を養成する授業なので、積極的に取り組んでもらいたい。

●参考文献・教材

教材はプリントを配布する。
参考文献は適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LCCHN3601	授業コード	LM10150010	
中国語中国文学研究指導Ⅰ Supervision of Master's Thesis in Chinese Language and Literature Ⅰ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	張　新民／大岩本　幸次				

●科目の主題

本科目では、院生の研究課題に応じて、研究指導の教員の指導を受けつつ、研究分野の先行研究や関連書物の読解を行わせ、課題にかかわる問題点を整理、把握させる。これと並行して、院生が研究対象とする主要なテクストの講読を行い、問題点に関する理解を深化し、修士論文の研究課題を取り扱うために必要な基礎的知識や研究方法の修得に努めつつ、関連する資料の調査、収集にも当たる。また学術論文やレポートの書き方等についても具体的に指導する。

●到達目標

中国語・中国文学・中国文化学に関する諸テーマを専門的に研究するために必要な知識や研究方法を身につけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

修士論文の研究課題を取り扱うために必要な基礎的知識、研究方法の修得に努めさせる。同時に、関連する資料の調査、収集にも当たらせる。学生の研究課題に応じて、その分野の先行研究、関連書物の読解を行わせ、課題にかかわる問題点を整理、把握させる。またそれと並行して、主要なテクストの講読を行い、問題点に関する理解を深化させる。学生はその研究テーマに応じて、研究指導の教員の指導を受けるものとする。

（張　新民）中国文化学分野の課題に関して研究指導を行う。（高橋　未来）中国文学分野の課題に関して研究指導を行う。（大岩　本幸次）中国語学分野の課題に関して研究指導を行う。

●事前・事後学習の内容

毎回、前回の指導内容を踏まえ、修士論文執筆のための報告内容をしっかり用意すること。

●評価方法

修士論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

●受講生へのコメント

修士論文は2年間の修士課程の集大成である。履修モデルとしての中国語中国文学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

「中国語中国文学研究指導1」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、修士論文に主体的に取り組み、修士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LCCHN3602	授業コード	LM10160010
中国語中国文学研究指導Ⅱ Supervision of Master's Thesisin Chinese Language and Literature Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	張　新民／大岩本　幸次			

●科目の主題

中国語中国文学研究指導Ⅰに引き続き、院生の研究課題に応じて、研究指導の教員の指導を受けつつ、研究分野の先行研究や関連書物の読解を行わせ、課題にかかわる問題点を整理、把握させる。これと並行して、院生が研究対象とする主要なテクストの講読を行い、問題点に関する理解を深化し、修士論文の研究課題を取り扱うために必要な基礎的知識や研究方法の修得に努めつつ、関連する資料の調査、収集にも当たる。また学術論文やレポートの書き方等についても具体的に指導する。

●到達目標

中国語学・中国文学・中国文化学に関して、専門的に研究する上で必須の知識や方法を身につけることを目標とする。

●授業内容・授業計画

中国語学・中国文学・中国文化学に関して、専門的に研究する上で必須の知識や方法を身につけることを目標とする。また学術論文やレポートの書き方等を具体的に指導する。

中国語中国文学研究指導Ⅰを受けて、収集した資料、文献の読解と整理を行わせ、主要なテクストの分析を進めさせると同時に、研究課題に即した論述のあり方を指導し、修士論文の完成を目指す。学生はその研究テーマに応じて、研究指導の教員の指導を受けるものとする。

（張　新民）中国文化学分野の課題に関して研究指導を行う。（高橋　未来）中国文学分野の課題に関して研究指導を行う。（大岩本　幸次）中国語学分野の課題に関して研究指導を行う。

●事前・事後学習の内容

毎回、前回の指導内容を踏まえ、修士論文執筆のための報告内容をしっかり用意すること。

●評価方法

修士論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

「中国語中国文学研究指導2」の評価は、「修士論文」の評価と同時期に行われるが、後者が論文の内容そのものの質が評価されるのに対して、前者は、論文作成過程の学修状況が評価の対象となる。ただし、仮に「修士論文」が不可となった場合は、「中国語中国文学研究指導2」も不可となる。

●受講生へのコメント

修士論文は2年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしての中国語中国文学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

「中国語中国文学研究指導2」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、修士論文に主体的に取り組み、学士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

適宜指示する。

授業科目名	科目NO.		授業コード	LM18000100	
修士論文（中文） Master's Thesis				単位数	
授業形態	担当教員名				
演習	張 新民／大岩本 幸次				

●科目の主題

中国語学・中国文学・中国文化に関わる修士論文作成のための指導。

●到達目標

各自が修士論文執筆に向けて解決しなければならない諸課題を取り上げ、２年間で修士論文を書き上げることができるよう指導する。

●授業内容・授業計画

各回の授業内容の記述は「修士論文」にそぐわないので省略する。

●事前・事後学習の内容

毎回、前回の指導内容を踏まえて、論文執筆のための報告内容をしっかり用意すること。

●評価方法

修士論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学研究科内規」にしたがい、研究科教授会において当該専攻の教員から主査1 名、副査2名を審査員として選出した上で審査をおこなう。

２月に実施する面接試験の日時は、各専修から通知する。

修士論文審査については、文学研究科が定める「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがって実施する。

●受講生へのコメント

「修士論文」および「中国語中国文学研究指導1」は、修士論文を提出する年度の前期に、「中国語中国文学研究指導2」は後期の履修登録期間中にWeb履修登録すること。

修士論文は2年間の博士前期課程の集大成である。履修モデルとしての中国語中国文学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

●参考文献・教材

指定しない。

授業科目名	科目NO.	LCENG2503	授業コード	LM11030010
英文学研究Ⅱ Advanced Studies in English LiteratureⅡ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	田中　孝信			

●科目の主題

19世紀イギリス小説の系譜や背景の解説と個別作品の分析を行なう。

●到達目標

文学テクストの精読と多読を通して高度な読解力を培うとともに、文学研究の基本知識や論理的思考力、さらには資料収集法を身につける。

●授業内容・授業計画

ブロンテ姉妹文学の全体像を概観した上で、末娘アンの『ワイルドフェル・ホールの住人』(1848)を読む。アンのモラルと彼女の社会経験を基にした想像力によって展開される主人公ヘレンの人間的成長を通して、作者がいかなる女性観を提示しているかを、その革新性と限界に留意しつつ、同時代の様々な文献にも当たりながら考察する。

第1回 ブロンテ姉妹とヴィクトリア朝社会
第2回 ブロンテ姉妹文学概観
第3回『ワイルドフェル・ホールの住人』を読む① 語り手ギルバート・マーカム
第4回『ワイルドフェル・ホールの住人』を読む② ギルバートの女性観
第5回『ワイルドフェル・ホールの住人』を読む③ ヘレン・グレアム
第6回『ワイルドフェル・ホールの住人』を読む④ 家と住人の関係
第7回『ワイルドフェル・ホールの住人』を読む⑤ ヘレンの息子マーカム
第8回『ワイルドフェル・ホールの住人』を読む⑥ ヘレンとギルバート
第9回『ワイルドフェル・ホールの住人』を読む⑦ ギルバートとフレデリック・ロレンス
第10回『ワイルドフェル・ホールの住人』を読む⑧ 書簡と語り手ヘレン
第11回『ワイルドフェル・ホールの住人』を読む⑨ アーサー・ハンティンドン
第12回『ワイルドフェル・ホールの住人』を読む⑩ アーサーとヘレン
第13回『ワイルドフェル・ホールの住人』を読む⑪ 〈古い男〉と〈新しい男〉
第14回『ワイルドフェル・ホールの住人』を読む⑫ 〈古い女〉と〈新しい女〉
第15回 全体のまとめ

●事前・事後学習の内容

授業までに、教科書の指定された箇所を自分の力で読み解き、要点を整理した上で、コメントを準備しておくこと。授業後はすみやかに、誤読や浅薄な読解をしていた部分を中心に読み直し、理解を深めるようにする。そのため、各授業の前後にそれぞれ2時間程度の予習・復習を行うことが求められる。

●評価方法

レポート（70%）・平常点（30%）

●受講生へのコメント

訳書で構わないので、ブロンテ姉妹の他の作品も読んでおくこと。特に、アンによるもう一冊の小説『アグネス・グレイ』（1847）は必読書である。

●参考文献・教材

Anne Bronte, The Tenant of Wildfell Hall (Penguin Classics, 1996)

授業科目名	科目NO.	LCENG2504	授業コード	LM11040010
英文学研究演習2 Advanced Studies and Seminar in English Literature 2			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	田中　孝信			

●科目の主題

19世紀イギリス小説が孕む様々な問題を、精神分析学、ディコンストラクション、ニューヒストリシズム、フェミニズムといった現代の批評理論を用いて分析し、作品の時代性とともに現代性を明らかにする。

●到達目標

様々な批評理論のテクストへの応用を通して、テクスト分析能力と論理的思考力を培う。

●授業内容・授業計画

前期に引き続きアン・ブロンテの『ワイルドフェル・ホールの住人』(1848)を読み、同時に批評論文を取り上げる。出版当時から現代に至るまでの批評の流れを概観しつつ、特に「女らしさ」「男らしさ」といったジェンダーに着目した論文を検討し、最新のアン・ブロンテ研究の一端に触れる。それらを踏まえた上で、研究発表を通して受講生の問題意識を高める。

第1回『ワイルドフェル・ホールの住人』研究におけるテーマ
第2回『ワイルドフェル・ホールの住人』を読む①　ヘレンのセクシュアリティ
第3回『ワイルドフェル・ホールの住人』を読む②　ヘレンおよびギルバートの人間的成長
第4回『ワイルドフェル・ホールの住人』を読む③　エンディングの解釈
第5回『ワイルドフェル・ホールの住人』を読む④　『ジェイン・エア』との比較検討
第6回『ワイルドフェル・ホールの住人』を読む⑤　『嵐が丘』との比較検討
第7回『ワイルドフェル・ホールの住人』を読む⑥　『アグネス・グレイ』との比較検討
第8回『ワイルドフェル・ホールの住人』批評論文を読む(1)男性性
第9回『ワイルドフェル・ホールの住人』批評論文を読む(2)女性性
第10回　アン・ブロンテ文学批評論文の紹介と討論(1)ジェンダー
第11回　アン・ブロンテ文学批評論文の紹介と討論(2)語り
第12回　アン・ブロンテ文学批評論文の紹介と討論(3)精神分析
第13回　受講生の研究発表と質疑応答(1)
第14回　受講生の研究発表と質疑応答(2)
第15回　全体のまとめ

●事前・事後学習の内容

授業までに、指定された、教科書の個所や学術論文を自分の力で読み解き、要点を整理した上で、コメントを準備しておくこと。授業後は、誤読や浅薄な読解をしていた部分を中心に読み直し、理解を深めるようにする。そのため、各授業の前後にそれぞれ2時間程度の予習・復習を行うことが求められる。さらに、学期後半には研究発表も控えているので、自分なりのテーマを見つける姿勢で予習・復習に臨むこと。

●評価方法

レポート（70%）・平常点（30%）

●受講生へのコメント

アン・ブロンテをジェンダーの観点から論じる際、シャーロット・ブロンテとエミリ・ブロンテはもちろん、ディケンズやエリオットといった同時代作家や、シュライナーやギッシングのような世紀末から20世紀初頭の作家たちとの比較検討も重要なので、彼らの作品についても訳書で構わないので読んでおくこと。

●参考文献・教材

Anne Bronte, The Tenant of Wildfell Hall (Penguin Classics, 1996) およびプリント

授業科目名	科目NO.	LCENG2505	授業コード	LM11050010
英文学研究Ⅲ Advanced Studies in English LiteratureⅢ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	内丸　公平			

●科目の主題

ウィリアム・シェイクスピアの喜劇　A Midsummer Night's Dream

●到達目標

ウィリアム・シェイクスピアの喜劇、A Midsummer Night's Dreamを精読し、学生各自の視点から研究考察する。

●授業内容・授業計画

さまざまな観点から、ウィリアム・シェイクスピアの喜劇、A Midsummer Night's Dreamを精読する。

第1回 A Midsummer Night's Dreamの精読(1) シェイクスピアの経歴

第2回 A Midsummer Night's Dreamの精読(2) シェイクスピア時代の英語の特色

第3回 A Midsummer Night's Dreamの精読(3) 本作品のテキストと参考辞書

第4回 A Midsummer Night's Dreamの精読(4) ギリシャ・ローマ神話との関係

第5回 A Midsummer Night's Dreamの精読(5) 祈願文、命令文、倒置文

第6回 A Midsummer Night's Dreamの精読(6) 誓言、慣用句

第7回 A Midsummer Night's Dreamの精読(7) 特殊な関係代名詞

第8回 A Midsummer Night's Dreamの精読(8) 異常出産の観点から見た本作品

第9回 A Midsummer Night's Dreamの精読(9) 当時の修辞法と本作品の関係

第10回 A Midsummer Night's Dreamの精読(10) 英国妖精伝承

第11回 A Midsummer Night's Dreamの精読(11) 本作品の初演の状況

第12回 A Midsummer Night's Dreamの精読(12) ピーター・ブルックの上演法

第13回 A Midsummer Night's Dreamの精読(13) ヤン・コットの見方

第14回 A Midsummer Night's Dreamの精読(14) ジェンダーから見た本作品

第15回 レポート相談日

●事前・事後学習の内容

授業までに教材の当該箇所を辞書等を用いて一通り読んでおくこと。また、学習内容を理解し、身に着けるためには、授業内容を確認し、自分なりに考えてみることが重要である。そのため、各授業の前後にそれぞれ2時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

平常点とレポート

●受講生へのコメント

しっかり予習すること

●参考文献・教材

William Shakespeare, A Midsummer Night's Dream (Arden Shakespeare Third Series), ed.by　Sukanta Chaudhuri (Bloomsbury Arden, 2017)

授業科目名	科目NO.	LCENG2506	授業コード	LM11060010	
英文学研究演習3 Advanced Studies and Seminar in English Literature 3				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	内丸　公平				

●科目の主題

ウィリアム・シェイクスピアの喜劇、As You Like Itを精読する。

●到達目標

ウィリアム・シェイクスピアのAs You Like Itの機知を理解する。

●授業内容・授業計画

"さまざまな観点に注意しながら、As You Like Itを精読する。

第1回 As You Like It の精読(1) ジェンダーから見た本作品

第2回 As You Like It の精読(2) 創作時期の時代状況

第3回 As You Like It の精読(3) アーデンの森の意味

第4回 As You Like It の精読(4) 森をテーマにした文学の伝統

第5回 As You Like It の精読(5) 本作品と材源との比較

第6回 As You Like It の精読(6) パストラルの伝統

第7回 As You Like It の精読(7) 16世紀英国の財産相続

第8回 As You Like It の精読(8) 本作品における機知

第9回 As You Like It の精読(9) 書物と絵画論争

第10回 As You Like It の精読(10) テクストとその編集、および上演

第11回 As You Like It の精読(11) 本作品における世界劇場のモチーフ

第12回 As You Like It の精読(12) 本作品の英国における上演史

第13回 As You Like It の精読(13) 本作品の英国以外における上演史

第14回 As You Like It の精読(14) 本作品の先行研究

第15回　 レポート相談日

●事前・事後学習の内容

授業までに教材の当該箇所を辞書等を用いて一通り読んでおくこと。また、学習内容を理解し、身に着けるためには、自分が解釈できず、教員によって解釈法を教わった箇所を、授業後に確認することが重要である。そのため、各授業の前後にそれぞれ2時間程度の予習・復習を行うことが望ましい。

●評価方法

平常点とレポート

●受講生へのコメント

きちんと予習に努めること。

●参考文献・教材

William Shakespeare, As You Like It, The Arden Shakespeare, edited by Juliet Dusinberre (Bloomsbury, 2006).

授業科目名	科目NO.	LCENG2507	授業コード	LM11070010	
米文学研究 Advanced Studies in American Literature			単位数	2単位	
授業形態	担当教員名				
講義	古賀　哲男				

●科目の主題

［主題］ 米文学研究上の主要なテーマ（特に現代文学論・詩・批評）。ただし、本年度は昨年度に引き続き、文学史の新たなる構築例（A New Literary History of America [2007] eds. Greil Marcus Werner Sollors）を研究する。

●到達目標

［目標］ 米文学について主要な知識を教授し、受講生が博士課程前期を修了するのに適切な助言等を行う。

●授業内容・授業計画

[授業内容]

主として、講義形式により、テーマについての主要な解説を行うと同時に、演習計式でテーマを議論し、試験やレポート等で受講生のテーマについての理解を確認する。

第1回：イントロダクション：米文学研究とは何か

第2回：米文学研究テーマ1（1507: The name “America” appears on a map）

第3回：米文学研究テーマ2（1521, August 13: Mexico in America）

第4回：米文学研究テーマ3（1536, July 24: Alvar Núñez Cabeza de Vaca）

第5回：米文学研究テーマ4（1585: “Counterfeited according to the truth”）

第6回：米文学研究テーマ5（1607: Fear and love in the Virginia colony）

第7回：米文学研究テーマ6（1630: A city upon a hill）

第8回：米文学研究テーマ7（1643: A nearer neighbor to the Indians）

第9回：米文学研究テーマ8（1666, July 10: Anne Bradstreet）

第10回：米文学研究テーマ9（1670: The American jeremiad）

第11回：米文学研究テーマ10（1670: The stamp of God’s image）

第12回：米文学研究テーマ11（1673: The Jesuit relations）

第13回：米文学研究テーマ12（1683: Francis Daniel Pastorius）

第14回：米文学研究テーマ13（1692: The Salem witchcraft trials）

●事前・事後学習の内容

授業前は配布資料の該当部分について入念に下調べをする。授業後はレポート作成に向けて授業内容を確認する。

●評価方法

最終成績はレポート試験とするが、授業内における口頭発表も参考とする。

●受講生へのコメント

専門的に米文学を研究する以外に、ひろく文学・文化研究の基礎を学ぶつもりで受講されたい。

●参考文献・教材

主としてプリントによる。参考文献については授業中に指示。

授業科目名	科目NO.	LCENG2508	授業コード	LM11080010	
米文学研究演習 Advanced Studies and Seminar in American Literature				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	古賀　哲男				

●科目の主題

［主題］ 米文学研究上の主要なテーマを主題とする。ただし、本年度は昨年度に引き続き、文学史の新たなる構築例（A New Literary History of America [2007] eds. Greil Marcus and Werner Sollors）を研究する。

●到達目標

［目標］ 米文学について主要なテーマを理解し、受講生が博士前期課程修了にふさわしい英語読解力を修得することができるようになる。

●授業内容・授業計画

[授業内容]

主として演習形式により、各テーマについて主要な解説を行い、試験やレポート等で受講生のテーマについての理解を確認する。

第1回：イントロダクション：米文学研究を発展させるために

第2回：米文学研究テーマ1（1693–1694, March 4: Edward Taylor）

第3回：米文学研究テーマ2（1700: Samuel Sewall, The Selling of Joseph ）

第4回：米文学研究テーマ3（1722: Benjamin Franklin, The Silence Dogood Letters）

第5回：米文学研究テーマ4（1740: The Great Awakening）

第6回：米文学研究テーマ5（Late 1740s; 1814, September 13–14: Two national anthems）

第7回：米文学研究テーマ6（1765, December 23: Michel-Guillaume Jean de Crèvecoeur）

第8回：米文学研究テーマ7（1773, September: Phillis Wheatley）

第9回：米文学研究テーマ8（1776: The Declaration of Independence）

第10回：米文学研究テーマ9（1784, June: Charles Willson Peale）

第11回：文学研究テーマ10（1787: James Madison, Notes of the Debates in the Federal Convention ）

第12回：米文学研究テーマ11（1787–1790: John Adams, Discourses on Davila ）

第13回：米文学研究テーマ12（1791: Philip Freneau and The National Gazette）

第14回：米文学研究テーマ13（1796: Washington's farewell address）

●事前・事後学習の内容

授業前には配布資料を入念に下調べをする。授業後はレポート作成に向けて授業内容を確認する。

●評価方法

英語読解力については授業内発表および試験によって評価し、テーマ理解についてはレポートによって評価する。

授業内発表50%　レポート25%　試験25%

総合点の6割以上の成績を単位取得の条件とする。

●受講生へのコメント

専門的に米文学を研究する以外に、ひろく文学・文化研究の基礎を学ぶつもりで受講されたい。

●参考文献・教材

主としてプリントによる。参考文献については授業中に指示。

授業科目名	科目NO.	LCENG2509	授業コード	LM11090010	
英米文化学研究 Advanced Studies in English and American Culture				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	Ian M RICHARDS				

●科目の主題

To improve students' understanding of the themes and styles of classic British and American fiction

●到達目標

Students will be given prints to read each week.

●授業内容・授業計画

Students will be given a weekly reading assignment. There will be a written test on the assignment in class. The remainder of the class will be used for discussion of topics related to the reading assignment.

第1回 Introduction
第2回 Short Story 1
第3回 Short Story 2
第4回 Short Story 3
第5回 Short Story 4
第6回 Short Story 5
第7回 Short Story 6
第8回 Short Story 7
第9回 Short Story 8
第10回 Short Story 9
第11回 Short Story 10
第12回 Short Story 11
第13回 Short Story 12
第14回 Review Test

●事前・事後学習の内容

You will need to bring a dictionary and writing materials to classes.

●評価方法

Attendance. Weekly written tests.

●受講生へのコメント

Students should prepare the reading assignments carefully before class. In class students will be required to speak in detail on their reading assignments.

●参考文献・教材

プリント

授業科目名	科目NO.	LCENG2510	授業コード	LM11100010	
英米文化学研究演習 Advanced Studies and Seminar in English and American Culture				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	Ian M RICHARDS				

●科目の主題

To improve students' understanding of the themes and styles of classic British and American fiction.

●到達目標

Students will be given prints to read each week.

●授業内容・授業計画

Students will receive a novel extract as a reading assignment each week. There will be a weekly written test and the remainder of the class will be used for discussion of topics related to the reading assignment.

第1回 Introduction
第2回 Novel Extract 1
第3回 Novel Extract 2
第4回 Novel Extract 3
第5回 Novel Extract 4
第6回 Novel Extract 5
第7回 Novel Extract 6
第8回 Novel Extract 7
第9回 Novel Extract 8
第10回 Novel Extract 9
第11回 Novel Extract 10
第12回 Novel Extract 11
第13回 Novel Extract 12
第14回 Review Test

●事前・事後学習の内容

You will need to bring a dictionary and writing materials to classes.

●評価方法

Attendance. Weekly tests.

●受講生へのコメント

Students should prepare the reading assignments carefully before class. Regular attendance is essential so as not to fall behind. In class students will be required to speak in detail on their reading assignments.

●参考文献・教材

プリント

授業科目名	科目NO.	LCENG2511	授業コード	LM11110010
英語学研究 I Advanced Studies in English Linguistics I			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	豊田　純一			

●科目の主題

認知言語学で論じられている数々の重要事項を通して、英文法を新たな観点から考察する科目である。人間の言語活動の根底にある認知機能と言語の関係を対象に、認知言語学に見られる研究の方法と問題点について講義し基礎知識や論理的思考を養うとともに、英語の構造や使用を学際的に理解し、言語学の知識を文学などの関連分野の考察へ応用できることを目的とする。

●到達目標

・英文法を認知科学的視点から捉え、言語活動と心の関係性を、視点やメタファーなどの基本概念を用いて説明できる。

・言語学は、理論的な考察に限られたものではなく、人間の内面に常に息づいているものであると認識できる。

・言語学では通常取り上げない文化的活動を、認知言語学の基本概念を用いて学際的に理解できる。

●授業内容・授業計画

毎週特定のテーマを選び、まず重要事項を理解し、その内容に関連する例などを考察していく。

第1回 Introduction

第2回 Basic concepts: construal, perspective, foregrounding

第3回 Basic concepts: metaphor, frame

第4回 Space

第5回 Extension from spatial meanings

第6回 Radial categories

第7回 Constructions

第8回 Mental spaces

第9回 Historical changes

第10回 Count and mass nouns

第11回 Perfective and imperfective aspect

第12回 Causation and agency

第13回 Creativity and nature of meaning: Literature and cognitive linguistics

第14回 Creativity and nature of meaning: The Demon Lover by Elizabeth Bowen

第15回 Summary

●事前・事後学習の内容

教科書で扱う部分を授業の前に目を通しておくこと。さらに、普段から読んだり耳にする英語に対して、授業で扱ったことがどのようにあてはまるかを考えるようにできればさらに望ましい。

●評価方法

試験・レポート（80%）、平常点（20%）

●受講生へのコメント

授業手法は基本遠隔（2. 発展）です。授業は日本語ですが、授業内容・課題に関して会話が普通にできる程度の英語の運営能力は最低限要求されますので、登録前にお考え下さい。本授業ではZoomによる説明・演習（毎回60分ほど）と課題の両方で行います。Zoomを使ったことがない方は、授業までに設定などをしておくこと。Zoomの詳細は、別途掲示する。Zoomによる説明への参加は、内容確認の演習もあるので必須です。説明内で扱う資料などは、各セッション後に配布などはしません（著作権などの諸事情により）。ですので、この授業

●参考文献・教材

授業中に随時指示しする。

授業科目名	科目NO.	LCENG2512	授業コード	LM11120010	
英語学研究演習1 Advanced Studies and Seminar in English Linguistics 1				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	豊田　純一				

●科目の主題

認知言語学から派生したCognitive poeticsを通して、言語学と文学の接点があり、それがどのようなものなのかを、演習を通して理解する科目である。前半は特定の項目に関した文献を読解し、後半では短編作品を、視点・フレーム・メタファーなどの認知言語学上の概念を用いて精読し、それらがいかに文学テクストの内容把握を的確にするかを考察する。認知言語学の学際性に対する理解を深めることを目的とする。

●到達目標

・文学を一つの言語活動と捉え、それを認知言語学的視点から考察し、言語学と文学の密接な関係を説明できる。
・英語の言語構造と英語圏社会の新旧の文化的活動との関係性を説明できる。
・文学作品を認知言語学的視点から考察できるようになる。

●授業内容・授業計画

毎週、特定の項目を選び、講読を通し内容を確認しながら、英語はどのような言語かを考えていく。

第1回　Figure and ground：視覚・聴覚における情報処理に関して
第2回　Figure and ground：図と地の入れ替わりに関して
第3回　Figure and ground：例外があるかないかについて
第4回　Figure and ground：文学作品の展開における図と地
第5回　Summary
第6回　Prototype：各自の「普通」について
第7回　Prototype：育成環境とプロトタイプ
第8回　Prototype：Milka chocolateと紫の牛について
第9回　Prototype：海外文学とプロトタイプ
第10回　Summary
第11回　Metaphor：比喩のない世界
第12回　Metaphor：文法と比喩
第13回　Metaphor：比喩の普遍性と例外
第14回　Metaphor：英語における比喩
第15回　Summary

●事前・事後学習の内容

講読箇所に必ず目を通しておくこと。さらに、普段から読んだり耳にする英語に対して、授業で扱ったことがどのようにあてはまるかを考えるようにできればなお望ましい。

●評価方法

試験・レポート（70%）、平常点（30%）

●受講生へのコメント

状況次第では遠隔授業になるかもしれないので、学期が始まる前に何らかの連絡があるか注意すること 。
出席率が70%に満たないものは、単位の対象外とする。出席点はないので、注意すること。
15分以上遅刻したものは欠席とみなすので、気を付けること。
試験・レポートは定期的にあるので、授業中の指示に従うこと。

●参考文献・教材

授業中に随時指示します。

授業科目名	科目NO.	LCENG2513	授業コード	LM11130010	
英語学研究Ⅱ Advanced Studies in English Linguistics Ⅱ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	藤川　勝也				

●科目の主題

英語の結果構文や所格交替構文といった主要構文から、懸垂分詞構文や所格倒置構文などのいわゆる有標構文を取り上げ、日本語との比較も交えながら解説する。また、概念意味論、構文文法理論、認知文法などの言語理論を紹介し、これらの現象がどのように分析できるのか、またその分析が妥当なのか考察する。

●到達目標

①さまざまな言語現象を知る。
②複数の言語理論の基本的な考え方を理解する。
③実例に基づいて分析の妥当性を検討することが出来る。

●授業内容・授業計画

前半は日英対照研究として、懸垂分詞構文や所格倒置構文などのいわゆる有標構文を取り上げ、日本語と英語の相違について考察する。後半は語彙意味論研究として、結果構文や所格交替を取り上げ、概念意味論や構文文法理論の基本的な考え方を学ぶ。

第1回　日英比較:事態把握の相違
第2回　日英語の事態把握の相違(理論(1))
第3回　日英語の事態把握の相違(理論(2))
第4回　日英語の事態把握の相違(理論(3))
第5回　所格倒置構文
第6回　描出話法
第7回　懸垂分詞構文
第8回　「語り」について
第9回　概念意味論と構文文法理論
第10回　結果構文
第11回　所格交替(概念意味論)
第12回　所格交替(構文文法理論)
第13回　over-接辞化(概念意味論)
第14回　over-接辞化(構文文法理論)

●事前・事後学習の内容

【事前学習】
事前に出す問いについて考えておいて下さい。
【事後学習】
ハンドアウトと、授業中に指定する論文・図書の精読。

●評価方法

授業内コメント（30%）・レポート（70%）

●受講生へのコメント

参考文献であげた論文を積極的に読んでください。
説明で納得の行かない点があれば、遠慮なく質問して下さい。

●参考文献・教材

ハンドアウトを配布します。

授業科目名	科目NO.	LCENG2516	授業コード	LM11150010
英語英米文学総合研究Ⅰ Comprehensive Studies in English and American Language and Literature Ⅰ			単位数	2単位
授業形態 演習	担当教員名 田中 孝信／豊田 純一／古賀 哲男／Ian M RICHARDS ／内丸 公平			

●科目の主題

英語圏の文学・文化・言語分野に関して、研究を進めるうえで必要な基礎的な素養を身につける科目である。それぞれの分野や時代に関わる研究対象に深く分け入るだけでなく、総合的見地に立って、問題の核心に迫る方法を探り、対象を共時的・通時的座標に正確に位置づける感覚を養うことを目的とする。（内丸公平）主に近世英文学（演劇）の研究について指導する。（田中孝信）主に近代英文学（小説）の研究について指導する。（古賀哲男）主に現代米文学（詩）の研究について指導する。（イアン・リチャーズ）主にニュージーランド文学の研究について

●到達目標

文献読解や研究発表を通して、英語圏の文学・文化・言語に関する基本的文献や一般的方法論に関する知識を身につけ、修士論文を作成していくにあたって、それらの知識を自身の研究に応用することができる。

●授業内容・授業計画

第1回 オリエンテーション:英語英米文学研究における視座
第2回 受講生各自の研究テーマに基づいた基本文献・論文の紹介
第3回 受講生各自の研究テーマに基づいた基本文献・論文の紹介
第4回 受講生各自の研究テーマに基づいた基本文献・論文の紹介
第5回 受講生各自の研究テーマに関連した基本文献・論文の読解
第6回 受講生各自の研究テーマに関連した基本文献・論文の読解
第7回 受講生各自の研究テーマに関連した基本文献・論文の読解
第8回 受講生各自の研究テーマに関連した基本文献・論文の読解
第9回 受講生各自の研究テーマに関連した基本文献・論文の読解
第10回 受講生各自の研究テーマに関する基本文献・論文の読解と討議
第11回 受講生各自の研究テーマに関する基本文献・論文の読解と討議
第12回 受講生各自の研究テーマに関する基本文献・論文の読解と討議
第13回 受講生各自の研究テーマに関する基本文献・論文の読解と討議
第14回 受講生各自の研究テーマに関する基本文献・論文の読解と討議
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

第1回 リストにあげられた参考文献・論文に目を通しておく。授業内容を復習し、重要事項を整理する。
第2回 当該文献・論文を読み、疑問点を明確にする。授業内容を復習し、重要事項を整理する。
第3回 当該文献・論文を読み、疑問点を明確にする。授業内容を復習し、重要事項を整理する。
第4回 当該文献・資料を読み、疑問点を明確にする。授業内容を復習し、重要事項を整理する。
第5回 当該文献・資料を読み、要旨を発表するための準備をする。間違っていた点を整理し、理解を深める。
第6回 当該文献・資料を読み、要旨を発表

●評価方法

到達目標の達成度について、レポート（50%）と発表（50%）によって評価を行う。基本的文献・論文の読解力と応用力が培われ、自らの研究課題と適切に関連させることができる能力を求める。

●受講生へのコメント

積極的に参加し、自己の研究領域のみではなく、英語英米文学研究全般における基本的概念などについても習得・確認することを常に意識すること。明確な問題意識を持つこと。

●参考文献・教材

教科書：プリントおよび発表者が準備した教材。
参考文献：適宜資料を配布する。

授業科目名	科目NO.	LCENG2517	授業コード	LM11160010
英語英米文学総合研究Ⅱ Comprehensive Studies in English and American Language and Literature Ⅱ			単位数	2単位
授業形態 演習	担当教員名 田中　孝信／豊田　純一／古賀　哲男／Ian　M　RICHARDS ／内丸　公平			

●科目の主題

「英語英米文学総合研究Ⅰ」と同様に、英語圏の文学・文化・言語研究全般に関する基礎的、かつ総合的な素養を身につける科目である。受講生それぞれが、自身の取り組んでいる研究について紹介・報告し、それぞれの報告について討議を行うことによって、自身の研究内容を客観的に見直し、その内容を批判的に分析することができる能力を培うことを目的とする。そうすることで、各自の研究方向を見定め、修士論文作成に向けて、研究課題を絞り込んでいく。（内丸公平）主に近世英文学（演劇）の研究について指導する。（田中孝信）主に近代英文学（小説

●到達目標

「英語英米文学総合研究Ⅰ」で習得した知識や方法をもとに、さらなる総合的知見を獲得し、自らの研究方向を見定め、修士論文作成に向けて、具体的に研究課題を絞り込み、研究計画を立てることができる。

●授業内容・授業計画

第1回　各自の研究テーマに関する前期の考察・議論のまとめ(1)

第2回　各自の研究テーマに関する前期の考察・議論のまとめ(2)

第3回　各自の研究テーマに関する前期の考察・議論のまとめ(3)

第4回　研究を深めるために必要な文献・資料紹介(1)

第5回　研究を深めるために必要な文献・資料紹介(2)

第6回　研究を深めるために必要な文献・資料紹介(3)

第7回　修士論文における論点についての考察・議論(1)

第8回　修士論文における論点についての考察・議論(2)

第9回　修士論文における論点についての考察・議論(3)

第10回　修士論文における論点についての考察・議論(4)

第11回　修士論文の全体像についての討議(1)

第12回　修士論文の全体像についての討議(2)

第13回　修士論文の全体像についての討議(3)

第14回　修士論文の全体像についての討議(4)

第15回　まとめ

●事前・事後学習の内容

第1回　研究テーマを絞り込み、全体像をまとめる。授業内容をまとめ、重要事項を整理する。
第2回　研究テーマを絞り込み、全体像をまとめる。授業内容をまとめ、重要事項を整理する。
第3回　研究テーマを絞り込み、全体像をまとめる。授業内容をまとめ、重要事項を整理する。
第4回　当該文献・資料を読み、疑問点を整理する。授業内容をまとめ、重要事項を整理する。
第5回　当該文献・資料を読み、疑問点を整理する。授業内容をまとめ、重要事項を整理する。
第6回　当該文献・資料を読み、疑問点を整理する。授業内容をまとめ、重要

●評価方法

到達目標の達成度について、レポート（70%）と発表（30%）によって評価を行う。自らの研究課題が明確であるとともに、研究の方法論が確立されていることを求める。

●受講生へのコメント

積極的に参加し、自己の研究領域のみではなく、英語英米文学研究全般における基本的概念などについても修得することを常に意識すること。明確な問題意識を持つこと。

●参考文献・教材

教科書：プリントおよび発表者が準備した資料。
参考文献：適宜資料を配布する。

授業科目名	科目NO.	LCENG3601	授業コード	LM11170010
英語英米文学研究指導Ⅰ Supervision of MA Thesis in English and American Language and Literature Ⅰ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	田中　孝信／豊田　純一			

●科目の主題

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「英語英米文学研究指導Ⅰ」（前期）、「英語英米文学研究指導Ⅱ」（後期）の指導によって完成させる。

前期の「英語英米文学研究指導Ⅰ」では、1年次までの学修に基づき、修士論文の執筆計画を立て、修士論文構想発表会、修士論文中間発表会といった機会を柱としながら、修士論文に必要な知識、技能を修士論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1) 修士論文執筆計画を立て実施する
(2) 問題意識を整理し、研究課題の学術的意義を提示する
(3) 研究目的に応じた適確な課題を設定する
(4) 研究課題に応じた適切な研究方法を計画する
(5) 研究課題に応じた先行研究の読み込みを行う
(6) 研究課題に応じた調査結果、文献資料を蓄積する
(7) 修士論文研究に関わる研究倫理について考える

●授業内容・授業計画

第1回　オリエンテーション　修士論文とは何か(確認)　英語英米文学の方法論(確認)　修士論文研究・執筆計画について修士論文の評価規準・基準について
第2回　修士論文構想発表会(連続4コマ)
第3回　　テーマに関する問題意識の整理
第4回　　予想される(期待している)結論
第5回　　研究方法の目処　同学年他学年の学生、複数の教員との質疑応答から学ぶ
第6回　研究計画に即して研究倫理を考える
第7回　先行研究の読み込み
第8回　「先行研究の整理」の意義と方法
第9回　修士論文の章立て
第10回　調査、文献分析の計画と結果の予想
第11回　修士論文中間発表会 ―章立ての仮決定のために―(連続4コマ)
第12回　　問題意識の提示　論証しようとしていること(仮の結論)
第13回　　論証のための方法とその目処
第14回　　章立て　これからの課題
第15回　修士論文中間発表会のふりかえり

●事前・事後学習の内容

第1回　修士論文計画を立てて提出する。修士論文構想発表会の準備を行い、レジュメを作成する。
第2回　修士論文構想発表会の議論を踏まえ、自分の修士論構想を練り直す。
第3回　修士論文構想発表会の議論を踏まえ、自分の修士論構想を練り直す。
第4回　修士論文構想発表会の議論を踏まえ、自分の修士論構想を練り直す。
第5回　修士論文構想発表会の議論を踏まえ、自分の修士論構想を練り直す。
第6回　自分の研究計画に即して研究倫理を考え、研究倫理の観点から研究計画を練り上げる。
第7回

●評価方法

修士論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

●受講生へのコメント

修士論文は2年間の修士課程の集大成である。履修モデルとしての英語英米文学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

「英語英米文学研究指導Ⅰ」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、修士論文に主体的に取り組み、修士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

教科書：特に指定しない。

参考文献：特に指定しない。

授業科目名	科目NO.	LCENG3602	授業コード	LM11180010
英語英米文学研究指導Ⅱ Supervision of MA Thesis in English and American Language and LiteratureⅡ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	田中　孝信／豊田　純一			

●科目の主題

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「英語英米文学研究指導Ⅰ」（前期）、「英語英米文学研究指導Ⅱ」（後期）の指導によって完成させる。

後期の「英語英米文学研究指導Ⅱ」では、修士論文の仕上げに向けて、修士論文中間発表会といった機会を柱としながら、修士論文に必要な知識、技能を修士論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1) 修士論文の評価規準と基準を知る。
(2) 執筆途上において、その時点の自分の修士論文を評価基準に準拠して点検する。
(3) 点検の結果を踏まえ、修士論文計画・執筆計画を修正しながら修士論文を完成させる。

●授業内容・授業計画

第1回　修士論文の進捗状況の報告
第2回　修士論文の評価基準の確認
第3回　修士論文中間発表会（4コマ連続）
第4回　　完成に向けての執筆方針の確認
第5回　（研究方法論、課題設定、先行研究の整理章立て等）
第6回　　完成に向けての研究・執筆計画
第7回　修士論文中間発表会の振り返り
第8回　問題意識と学術的意義を扱う部分についての点検
第9回　研究目的に応じた課題設定を扱う部分について点検
第10回　研究手法の説明を扱う部分についての点検
第11回　先行研究を扱う部分についての点検
第12回　調査結果、文献分析を扱う部分についての点検
第13回　論理の組み立てや一貫性に関する点検
第14回　学術論文としての表現、表記法等に関する点検
第15回　研究倫理の側面からの修士論文の点検 修士論文作成全体を通しての振り返り

●事前・事後学習の内容

第1回　修士論文研究進捗状況の報告レジュメ提出。
第2回　修士論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。
第3回　修士論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の修士論研究・執筆計画を練り直す。
第4回　修士論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の修士論研究・執筆計画を練り直す。
第5回　修士論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の修士論研究・執筆計画を練り直す。
第6回　修士論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の修士論研究・執筆計画を練り直す。
第7回　完成までの期間の研究・

●評価方法

修士論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

「英語英米文学研究指導Ⅱ」の評価は、「修士論文」の評価と同時期に行われるが、後者が論文の内容そのものの質が評価されるのに対して、前者は、論文作成過程の学修状況が評価の対象となる。ただし、仮に「修士論文」が不可となった場合は、「英語英米文学研究指導Ⅱ」も不可となる。

●受講生へのコメント

修士論文は2年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしての英語英米文学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員

や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。
「英語英米文学研究指導Ⅱ」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、修士論文に主体的に取り組み、学士課程を集大成させてほしい。

●参考文献･教材

教科書：特に指定しない。
参考文献：特に指定しない。

授業科目名	科目NO.		授業コード	LM18000110	
修士論文（英文） Master's Thesis				単位数	
授業形態	担当教員名				
演習	田中　孝信／豊田　純一				

●科目の主題

文学研究科では、修士論文を通しての学修を重視しており、ディプロマポシシーで定める学修成果を学生が修めることができるよう、修士課程の2年間をとおし、授業科目における指導のほか、専修ごとの修士論文ガイダンス、修士論文構想発表会、修士論文中間発表会など、学生どうしが切磋琢磨できる機会を設け、あわせて、きめこまかな個別指導を行う。

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「英語英米文学研究指導Ⅰ」「英語英米文学研究指導Ⅱ」の指導によって完成させる。

●到達目標

修士論文の審査基準は次のとおりであり、これを到達目標とする。

（1）修士論文は、英語英米文学分野における一定の研究成果を示すものでなければならない。

（2）（評価基準）修士論文は以下の各項目について、英語英米文学分野における十分な水準を満たさなければならない。

(a) 研究課題（テーマ）の学術的意義
明確な問題意識に基づき、英語英米文学分野における研究の学術的意義が述べられていること。

(b) 研究課題の的確性
研究目的に応じた的確な課題が設定されていること。

(c) 研究方法の妥当性
研究を遂行する上で、適切な研究手法がもちいられていること。

(d) 先行研究との関連
当該専門分野における主たる先行研究を踏まえたものであること。

(e) 資料利用の適切性
論旨を展開するうえで、調査結果、文献資料などが適切にもちいられていること。

(f) 論旨の一貫性
論旨が論理的に組み立てられ、一貫して展開されていること。

(g) 学術論文としての体裁
表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、英語英米文学分野の慣例に従ったものであること。

(h) 研究倫理の遵守
研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、英語英米文学分野が定める研究上守るべき倫理基準が満たされていること。

（3）（論文の体裁）修士論文は、論を展開する上で、英語英米文学分野の特性に応じた十分な分量でなければならない。

●授業内容・授業計画

※各回の授業内容の記述は「修士論文」にそぐわないので省略する。なお、「修士論文」に連動するものとして、「英語英米文学研究指導Ⅰ」「英語英米文学研究指導Ⅱ」のシラバスを参照すること。

●事前・事後学習の内容

※各回の事前・事後学習内容の記述は「修士論文」にそぐわないので省略する。なお、「修士論文」に連動するものとして、「英語英米文学研究指導Ⅰ」「英語英米文学研究指導Ⅱ」のシラバスを参照すること。

●評価方法

修士論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学研究科内規」にしたがい、研究科教授会において当該専攻の教員から主査1 名、副査2名を審査員として選出した上で審査をおこなう。

２月に実施する面接試験の日時は、各専修から通知する。

修士論文審査については、文学研究科が定める「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがって実施する。

●受講生へのコメント

「修士論文」および「英語英米文学研究指導Ⅰ」は修士論文を提出する年度の前期に、「英語英米文学研究指導Ⅱ」は後期の履修登録期間中にWeb履修登録すること。

修士論文は2年間の博士前期課程の集大成である。履修モデルとしてのえいご研究方法と専門知識を踏まえ、2年間

の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

●参考文献･教材

教科書：特に指定しない。

参考文献：各自が参考文献一覧を作成することになる。

授業科目名	科目NO.	LCDFX2502	授業コード	LM13220010	
ドイツ語フランス語圏言語文化研究Ⅱ Advanced Studies in German and Francophone Language and Culture Ⅱ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	中條　健志				

●科目の主題

欧米のフランス語圏と言語、文化、社会

●到達目標

カナダ、スイス、フランス、ベルギー、ルクセンブルクをフィールドに、それぞれの地域における言語状況がどのような文化をうみだし、社会を形づくっているかについて、自分なりに論じられるようになることを目標とする。

●授業内容・授業計画

第1回:ヨーロッパのフランス語圏について(概論)

第2回:フランスの地域言語

第3回:スイスのフランス語

第4回:ベルギーの言語と地域

第5回:ベルギーの言語と政治

第6回:ベルギーの言語と国家

第7回:ルクセンブルクの言語と地域

第8回:ルクセンブルクの言語と政治

第9回:ルクセンブルクの言語と国家

第10回:カナダの言語と地域

第11回:カナダの言語と政治

第12回:カナダの言語と国家

第13回:受講者によるプレゼンテーション(1)

第14回:受講者によるプレゼンテーション(2)

第15回:受講者によるプレゼンテーション(3)

●事前・事後学習の内容

授業までに、配付された資料や参考書の指定箇所を読んでおくこと。また、授業後には、学習内容について自分なりに論じられるようにするため、授業内でのプレゼンテーションを前提としながらそれを整理しておく。そのため、各授業の前後にはそれぞれ 2 時間程度の予習・復習をおこなうことが望ましい。

●評価方法

演習への参加度（40%）、各授業回の内容にかんするふりかえりコメント（20%）、ならびにプレゼンテーションの完成度（40%）を総合して評価する。

●受講生へのコメント

演習はグループ学習を通じておこなわれるため、受講生には主体的かつ協働的な参加が求められる。

●参考文献・教材

教科書は使用しない。教材・資料は授業中に配付する。一方で、授業で扱う地域にかんする概論的な文献には、あらかじめ可能な限り目を通しておくことが望ましい。

授業科目名	科目NO.	LCDFD2501	授業コード	LM13230010
ドイツ語圏文学研究Ⅰ Advanced Studies in German Literature Ⅰ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義／演習	髙井　絹子			

●科目の主題

戦後ドイツ文学を牽引した文学集団「47年グループ」に関するドイツ語で書かれたテクストを読み、当時のドイツ文学を取り巻く諸状況について知見を増やします。

●到達目標

中・上級程度のドイツ語で書かれた評論テクストを正確に読み、要点をつかむことができる。テキストを音読したのち、自然な日本語に訳すことができる。戦後ドイツ語圏文学を取り巻く複雑な社会状況について理解し、作品解釈に役立てることができる。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で行います。

ドイツ語テクストを精読しつつ、そこに登場する作家たちの作品も適宜紹介します。

第1回 導入

第2回 Hermut Böttiger: Die Gruppe 47.　Einleitung 1

第3回 Hermut Böttiger: Die Gruppe 47.　Einleitung 2

第4回 Hermut Böttiger: Die Gruppe 47.　Einleitung 3

第5回 Hermut Böttiger: Die Gruppe 47.　Kapital 6 Fräulein Kafka

第6回 Hermut Böttiger: Die Gruppe 47.　Kapital 6 Fräulein Kafka

第7回 Hermut Böttiger: Die Gruppe 47.　Kapital 6 Fräulein Kafka

第8回 Hermut Böttiger: Die Gruppe 47.　Kapital 6 Fräulein Kafka

第9回 Hermut Böttiger: Die Gruppe 47.　Kapital 6 Fräulein Kafka

第10回 Hermut Böttiger: Die Gruppe 47.　Kapital 6 Fräulein Kafka

第11回 Hermut Böttiger: Die Gruppe 47.　Kapital 6 Fräulein Kafka

第12回 Hermut Böttiger: Die Gruppe 47.　Kapital 6 Fräulein Kafka

第13回 Hermut Böttiger: Die Gruppe 47.　Kapital 6 Fräulein Kafka

第14回 Hermut Böttiger: Die Gruppe 47.　Kapital 6 Fräulein Kafka

第15回 試験とまとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習：指定した範囲の日本語訳を作る。

事後学習：授業中指示した関連事項について理解を深める。

●評価方法

授業に対する取り組みの姿勢（50%）、試験（50%）で評価します。

●受講生へのコメント

事前に指定された範囲は必ず予習してきてください。

●参考文献・教材

授業中にプリントを配布します。

授業科目名	科目NO.	LCDFD2502	授業コード	LM13240010	
ドイツ語圏文学研究演習1 Advanced Studies and Seminar in German Literature 1				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	髙井　絹子				

●科目の主題

前期科目ドイツ語圏文学研究Ⅰで得た知見をもとに、「47年グループ」にかかわりの深い作家I. Bachmannの作品を読み、解釈を試みる。

●到達目標

作品の書かれた状況を理解した上でテクストを読み、作家の意図するところを汲み取ることができる。間テクスト性の観点から、複数の作品を比較検討し、暗示やほのめかしを解釈することができる。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で行います。

文学テクストを精読します。そのあと作品論を読みます。

第　1 回　導入:作家紹介

第　2 回　I. Bachmann: Alles　S.138,139

第　3 回　I. Bachmann: Alles　S.140,141

第　4 回　I. Bachmann: Alles　S.142,143

第　5 回　I. Bachmann: Alles　S.144,145

第　6 回　I. Bachmann: Alles　　S.146,147

第　7 回　I. Bachmann: Alles　　S.148,149

第　8 回　I. Bachmann: Alles　　S.150,151

第　9 回　I. Bachmann: Alles　　S.152,153

第10回　I. Bachmann: Alles　　S.154,155

第11回　I. Bachmann: Alles　　S.156,157,158

第12回　作家・作品論講読　1

第13回　作家・作品論講読　2

第14回　作家・作品論講読　3

第15回　まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習：指定した範囲の日本語訳を作る。

事後学習：授業中指示した関連事項を調べ、テキストの理解を深める。

●評価方法

授業への取り組み（50%、）試験（50%）による総合評価です。

●受講生へのコメント

事前に指定した範囲は必ず予習してきてください。

●参考文献・教材

授業中に指示します。

授業科目名	科目NO.	LCDFD2503	授業コード	LM13250010
ドイツ語圏文学研究Ⅱ Advanced Studies in German Literature Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	長谷川　健一			

●科目の主題

ドイツ語圏の近代およびそれ以前の文学について研究する。

●到達目標

ドイツ語のテクスト並びに研究文献の精読を通じて、18世紀ドイツ文学（啓蒙主義からシュトゥルム・ウント・ドラングまで）について理解を深める。

●授業内容・授業計画

本授業は、基本対面とするが遠隔も取り入れる場合がある。この授業では、18世紀ドイツに起こったシュトゥルム・ウント・ドラングと呼ばれる文学運動の特徴とその影響について、Johann Wolfgang von Goethe（1749-1832）の有名な書簡体小説Die Leiden des jungen Werthersの「1774年版」とその後修正が加えられた「1787年版」を手がかりに考察する。とくに第1巻の部分を対象とする。

シュトゥルム・ウント・ドラング研究の文献を参照・検討しつつ、Die Leiden des jungen Werthersを精読する。とりわけ①登場人物の描写、②恋愛と自殺をめぐる議論、③社会批判、④文学作品モティーフに関連した箇所を精読し、2つの版を比較・検討しつつ議論する。受講生には、先行研究についての報告を求める。

第1回　イントロダクション
第2回　シュトゥルム・ウント・ドラングについて（1）
第3回　シュトゥルム・ウント・ドラングについて（2）
第4回　Die Leiden des jungen Werthersとその成立経緯
第5回　Die Leiden des jungen Werthers（第1巻）の精読：登場人物の描写（1）
第6回　Die Leiden des jungen Werthers（第1巻）の精読：登場人物の描写（2）
第7回　Die Leiden des jungen Werthers（第1巻）の精読：登場人物の描写（3）
第8回　Die Leiden des jungen Werthers（第1巻）の精読：恋愛と自殺（1）
第9回　Die Leiden des jungen Werthers（第1巻）の精読：恋愛と自殺（2）
第10回　Die Leiden des jungen Werthers（第1巻）の精読：恋愛と自殺（3）
第11回　Die Leiden des jungen Werthers（第1巻）の精読：社会批判（1）
第12回　Die Leiden des jungen Werthers（第1巻）の精読：社会批判（2）
第13回　Die Leiden des jungen Werthers（第1巻）の精読：文学作品モティーフ（1）
第14回　Die Leiden des jungen Werthers（第1巻）の精読：文学作品モティーフ（2）
第15回　発表と総括

●事前・事後学習の内容

事前に指定した箇所を読み、訳を準備するとともに、概要をまとめておくこと。授業後は、紹介された文献を読み、関連するテーマについての理解を深めること。

●評価方法

平常点（70%：発表、報告、授業への取り組み姿勢）、テスト（30%）による総合評価となる。

●受講生へのコメント

この授業は「ドイツ語圏文学研究演習2」と連動している。あわせて受講すること。また、関連文献を積極的に読むこと。

●参考文献・教材

・適宜、授業資料を配布する。

・テクスト：Johann Wolfgang Goethe: Die Leiden des jungen Werthers. Erste Fassung von 1774. Textausgabe mit Kommentar und Materialien: Reclam XL - Text und Kontext. Stuttgart 2015. : Johann Wolfgang Goethe: Die Leiden des jungen Werthers. Paralle

授業科目名	科目NO.	LCDFD2504	授業コード	LM13260010	
ドイツ語圏文学研究演習2 Advanced Studies and Seminar in German Literature 2				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	長谷川　健一				

●科目の主題

ドイツ語圏の近代およびそれ以前の文学について研究する。

●到達目標

ドイツ語のテクスト並びに研究文献の精読を通じて、18世紀ドイツ文学（啓蒙主義からシュトゥルム・ウント・ドラングまで）について理解を深める。また、先行研究を踏まえて作品を分析・解釈することができる。

●授業内容・授業計画

本授業は、基本対面とするが遠隔も取り入れる場合がある。この授業では、18世紀ドイツに起こったシュトゥルム・ウント・ドラングと呼ばれる文学運動の特徴とその影響について、Johann Wolfgang von Goethe（1749-1832）の有名な書簡体小説Die Leiden des jungen Werthersの「1774年版」とその後修正が加えられた「1787年版」を手がかりに考察する。とくに第2巻と「編者より読者へ」の部分を対象とする。

シュトゥルム・ウント・ドラング研究の文献を参照・検討しつつ、Die Leiden des jungen Werthersを精読する。とりわけ①登場人物の描写、②恋愛と自殺をめぐる議論、③社会批判、④文学作品モティーフに関連した箇所を精読し、2つの版を比較・検討しつつ議論する。受講生には、先行研究についての報告を求める。

第1回　イントロダクション
第2回　シュトゥルム・ウント・ドラング研究の検討（1）
第3回　シュトゥルム・ウント・ドラング研究の検討（2）
第4回　シュトゥルム・ウント・ドラング研究の検討（3）
第5回　Die Leiden des jungen Werthersの精読：登場人物の描写（1）
第6回　Die Leiden des jungen Werthersの精読：登場人物の描写（2）
第7回　Die Leiden des jungen Werthersの精読：登場人物の描写（3）
第8回　Die Leiden des jungen Werthersの精読：自殺に至る過程（1）
第9回　Die Leiden des jungen Werthersの精読：自殺に至る過程（2）
第10回　Die Leiden des jungen Werthersの精読：自殺に至る過程（3）
第11回　Die Leiden des jungen Werthersの精読：社会批判（1）
第12回　Die Leiden des jungen Werthersの精読：社会批判（2）
第13回　Die Leiden des jungen Werthersの精読：文学作品モティーフ（1）
第14回　Die Leiden des jungen Werthersの精読：文学作品モティーフ（2）
第15回　発表と総括

●事前・事後学習の内容

事前に指定した箇所を読み、訳を準備するとともに、概要をまとめておくこと。授業後は、紹介された文献を読み、関連するテーマについての理解を深めること。

●評価方法

平常点（60%：発表、報告、授業への取り組み姿勢）、レポート（40%）による総合評価となる。ただし、レポートが未提出の場合、平常点はカウントされない。

●受講生へのコメント

この授業はドイツ語圏文学研究Ⅱと連動している。あわせて受講すること。また、関連文献を積極的に読むこと。

●参考文献・教材

・適宜、授業資料を配布する。

・テクスト：Johann Wolfgang Goethe: Die Leiden des jungen Werthers. Erste Fassung von 1774. Textausgabe mit Kommentar und Materialien: Reclam XL - Text und Kontext. Stuttgart 2015. : Johann Wolfgang Goethe: Die Leiden des jungen Werthers. Paralle

授業科目名	科目NO.	LCDFD2506	授業コード	LM13280010
ドイツ語圏文化学研究演習 Advanced Studies and Seminar in German Linguistics			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	長谷川　健一			

●科目の主題

18世紀のドイツ語圏における宗教と文学の関係について研究する。

●到達目標

1）ドイツ語圏の文学・文化に関するテクストならびに関連する研究文献の精読を通じてドイツ語の読解力を磨く。
2）宗教と近代ドイツ文学の関係について理解を深める。
3）先行研究を踏まえてテクストを分析・解釈することができる。

●授業内容・授業計画

本授業は、基本対面とするが遠隔も取り入れる場合がある。この授業では、ドイツ語圏文化学研究に引き続き、17・18世紀ドイツ語圏における信仰刷新運動であるPietismusが近代ドイツ文学に与えた影響を検討する。前半はPietismusの概要と近年のPietismus研究をあらためて確認し、後半は作家ユング＝シュティリング（Jung-Stilling 1740-1817）の自伝的小説の第1巻Henrich Stillings Jugend（1777）を精読し、幾つかのテーマとの関連で分析・考察する。

第1回　イントロダクション
第2回　Pietismusの概要：J. Spener とA. H. Francke
第3回　Pietismusの概要：Der radikale Pietismus
第4回　Pietismusの概要：ドイツ北西部のPietismus
第5回　Pietismus研究文献の精読①
第6回　Pietismus研究文献の精読②
第7回　Jung-Stilling: Henrich Stillings Jugendの精読と分析(1) Romanze 1
第8回　Jung-Stilling: Henrich Stillings Jugendの精読と分析(1) Romanze 2
第9回　Jung-Stilling: Henrich Stillings Jugendの精読と分析(2) Die Historie von Joringel und Jorinde 1
第10回　Jung-Stilling: Henrich Stillings Jugendの精読と分析(2) Die Historie von Joringel und Jorinde 2
第11回　Jung-Stilling: Henrich Stillings Jugendの精読と分析(3) Vorsehung
第12回　Jung-Stilling: Henrich Stillings Jugendの精読と分析(4) Schwärmerei/Enthusiasmus 1
第13回　Jung-Stilling: Henrich Stillings Jugendの精読と分析(4) Schwärmerei/Enthusiasmus 2
第14回　Jung-Stilling: Henrich Stillings Jugendの精読と分析(4) Schwärmerei/Enthusiasmus 3
第15回　発表と総括

●事前・事後学習の内容

事前に指定した箇所を読み、訳を準備するとともに、概要をまとめておくこと。授業後は、紹介された文献を読み、関連するテーマについて理解を深めること。

●評価方法

平常点（70%：発表、報告、授業への取り組み姿勢）、レポート（30%）による総合評価となる。ただし、レポートが未提出の場合、平常点はカウントされない。

●受講生へのコメント

関連文献を積極的に読むこと。

●参考文献・教材

・適宜、授業資料を配布する。
・テクスト：Johann Heinrich Jung-Stilling: Henrich Stillings Jugend, Jünglingsjahre, Wanderschaft und häusliches Leben. Mit einem Nachw. und Anm. von Dieter Cunz.(UB 18475) Stuttgart 2013.
・参考文献：Veronika Albrecht-Birkner(Hg.): Pietismus: Eine Ant

授業科目名	科目NO.	LCDFD2508	授業コード	LM12100010
ドイツ語学研究演習 Advanced Studies and Seminar in German Linguistics			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	神竹　道士			

●科目の主題

ドイツ語をインド・ヨーロッパ語族の歴史的変遷のプロセスの中で捉え、ドイツ語という個別言語の体系化の流れを概観する。

●到達目標

個別の言語規則をより大きな言語体系の中に位置づけ、その歴史的変化の流れの中で言語規則が体系化され、同時に変遷していく過程を、理論に則して理解することが本講義の目標である。

●授業内容・授業計画

本講義では、主に次の様な項目について取り上げる。

第1回:導入(ドイツ語の通時的研究について概説)

第2回:インド・ヨーロッパ語族

第3回:ゲルマン祖語とゲルマン諸語

第4回:第一次子音推移

第5回:第二次子音推移

第6回:音韻変化の規則性と類推形式

第7回:古高ドイツ語(750～1050年)

第8回:中高ドイツ語(1050～1350年)

第9回:初期新高ドイツ語(1350～1650年)

第10回:新高ドイツ語(1650～1950年)

第11回:現代ドイツ語(1950年～)

第12回:低地ドイツ語と高地ドイツ語

第13回:文法化と逸脱

第14回:規範と変種

●事前・事後学習の内容

事前学習：使用するテクストの下調べをする。
事後学習：授業で取り上げた項目について整理する。

●評価方法

テクストの読解力（70%）とテーマに関する理解度（30%）により評価する。

●受講生へのコメント

毎回必ず下調べをすること。

●参考文献・教材

Augustin Speyer: Deutsche Sprachgeschichte. 2010.

授業科目名	科目NO.	LCDFF2501	授業コード	LM13290010
フランス語圏文学研究 Advanced Studies in Francophone Culture			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	原野　葉子			

●科目の主題

フランス語圏文学の古典的諸作品を経時的に取り上げ、原文の抜粋を精読する。高度なフランス語読解能力の錬成とともに、同時代の社会・歴史・思想・文化をめぐる総合的かつ立体的な知識の獲得を目指す。

●到達目標

高度なフランス語で書かれた文学テクスト（詩、小説、戯曲等）を理解できる。

個々の作品を取り巻く社会的・文化的背景、フランス語圏文学史、文学研究史、現代文学理論について概要を理解し、それについて議論できる。

●授業内容・授業計画

ルネサンス期～近現代にかけて、主要なフランス語圏文学作品の抜粋をフランス語で読む。また適宜、各受講生の関心のあるテーマについての発表とディスカッションを行う。

なお、取り上げる作家や内容については、参加者と協議の上、変更する場合もある。

1 オリエンテーション
2 モンテーニュ
3 パスカル
4 ラシーヌ
5 ルソー
6 ディドロ
7 スタンダール
8 フローベール
9 ランボー
10 プルースト
11 サルトル
12 コルテス
13 デュラス
14 マリーズ・コンデ
15 まとめ

●事前・事後学習の内容

テクストの予習、各作家についての事前調査、各自の発表準備に毎回2時間程度を充てること。

●評価方法

1）到達目標の達成度に基づいて評価を行う。
2）評価方法とその割合：授業への参加度（予習、討論）60%および発表40%。
3）単位取得の最低基準：
①５回以上欠席した場合、単位取得の資格を失う。
②到達目標に掲げた以下の２点を総合的に判断して、60%以上に達していること。
・高度なフランス語で書かれた文学テクスト（詩、小説、戯曲等）を理解できる。
・個々の作品を取り巻く社会的・文化的背景、フランス語圏文学史、文学研究史、現代文学理論について概要を理解し、それについて議論できる。

●受講生へのコメント

輪読形式で、しかも多くのテクストをどんどん読みすすめていきますので、必ず予習をしてきてください。重要なの

は、まずしっかり辞書を引くこと、そしてフランス語の文法的な枠組みを正確につかまえたうえで訳文を組み立てることです。ざっくばらんに話し合いながら、原文ならではの面白さを一緒に味わっていきましょう。

●参考文献・教材

Nicole Blondeau, Fweeoudja Allouache, Littérature progressive du Français : niveau avancé, CLE international, 2005. その他は授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LCDFF2502	授業コード	LM13300010
フランス語圏文学研究演習 Advanced Studies and Seminar in Francophone Literature			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	原野　葉子			

●科目の主題

現代フランス語圏文学作品をとりあげ、特定のテーマに沿って深く考究することで、文学研究の基本姿勢と方法論を実践的に身に着ける。分析と討論を通じて文学テクストの多様な構成を精緻に解読するためのフランス語読解力および批判的思考法を養い、フランス語圏文学の思想的・文化的特質についての理解を深める。

今年度は20世紀後半のフランス人作家ジョルジュ・ペレックのテクストのなかから、おもに同名の映画台本をもとにした『エリス島物語：移民たちの彷徨と希望』Récits d'Ellis Island : histoires d

●到達目標

高度なフランス語で書かれた文学作品、歴史的資料および研究論文を読解し、それについて議論できる。

文学研究の基礎知識および基本的な方法論を身に着け、文学テクストに対してオリジナルな視点から分析を加えることができる。

現代フランス語圏文学を取り巻く思想的・文化的状況および主要な問題系を理解した上で、議論できる。

●授業内容・授業計画

テクストの抜粋を読み、『エリス島物語』については映画も鑑賞しながら、ディスカッション形式で考察を進めてゆく。

なお授業の具体的な進め方については、参加者の希望も取り入れながら決定する。

1　オリエンテーション：第二次世界大戦とフランス語圏の作家
2『エリス島物語』読解と討論①
3『エリス島物語』読解と討論②
4『エリス島物語』読解と討論③
5『エリス島物語』読解と討論④
6『エリス島物語』読解と討論⑤
7『日常以下のもの』読解と討論①
8『日常以下のもの』読解と討論②
9『日常以下のもの』読解と討論③
10『日常以下のもの』読解と討論④
11『僕は生まれた』読解と討論①
12『僕は生まれた』読解と討論②
13『僕は生まれた』読解と討論③
14『僕は生まれた』読解と討論④
15　まとめ

●事前・事後学習の内容

テクストの予習、各作品および各テーマに関連した読書と考察の時間として毎回2時間程度をあててください。

●評価方法

1）到達目標の達成度に基づいて評価を行う。
2）評価方法とその割合：授業への参加度（予習、討論）60％および発表40％。
3）単位取得の最低基準：
①５回以上欠席した場合、単位取得の資格を失う。
②到達目標に掲げた以下の３点を総合的に判断して、60％以上に達していること。
・高度なフランス語で書かれた文学作品、歴史的資料および研究論文を読解し、それについて議論できる。

・文学研究の基礎知識および基本的な方法論を身に着け、文学テクストに対してオリジナルな視点から分析を加えることができる。
・現代フランス語圏

●受講生へのコメント

事前に配布されるプリントを予習した上で出席してください。

●参考文献・教材

Georges Perec, Récit d'Ellis island, P.O.L, 2019.
Georges Perec, L'infra-ordinaire ; je suis né ; Cantatrix Sopranica L. Seuil, 1994.その他は授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LCDFF2503	授業コード	LM13310010
フランス語圏文化学研究 Advanced Studies in Francophone Linguistics			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	白田　由樹			

●科目の主題

19世紀後半から20世紀転換期にかけてのフランス、ベルギーを中心とする万国博覧会について扱った研究書や当時の報道資料に当たりながら、大衆消費社会の到来や差異化の欲求、ナショナリズムの台頭の中で、さまざまな異文化が影響または反発しあい、混交し、受容されていく経緯について考察する。

●到達目標

フランス語圏文化学の研究書や論文から研究の視点と方法論を学び取るとともに、必要に応じてフランス語または英語の一次資料を遡及して読むための力をつける。

●授業内容・授業計画

1851年のロンドン万博以降、欧米の各都市で開催された国際博覧会、とくにパリやブリュッセルで行われたものを中心に、その背景にある社会状況や思想、文化事象の研究書を読み、研究の視点や方法について議論する。

各回の内容は以下のように予定している。ただし、順番やトピックスは変更される場合がある。

第1回 オリエンテーション：19世紀フランスと国際博覧会
第2回 1851年　ロンドン万博と各国への影響、ニューヨーク万博（1853年）
第3回 第二帝政のフランスとサン＝シモン主義、第1回パリ万博（1855年）
第4回 オスマンの都市改造、第2回パリ万博（1867年）とユートピア思想
第5回 パリ都市改造の影響、ウィーン万博（1873年）
第6回 アメリカとフランス、フィラデルフィア万博（1876年）
第7回 第3回パリ万博（1878年）と普仏戦争の影響
第8回 異国趣味の中のジャポニスム
第9回 第4回パリ万博（1889年）とエッフェル塔
第10回 国際市場・技術競争と国民国家アイデンティティ、」シカゴ万博（1893年）
第11回 アントワープ（1894年）とブリュッセル（1897年）万博
第12回 1900年　第5回パリ万博とアール・ヌーヴォー
第13回 19世紀末から20世紀初頭の植民地博覧会
第14回 「他者」と近代的「国民文化」のポリティクス
第15回 レポート・総括

●事前・事後学習の内容

毎回必ず資料の下読みをしてくるとともに、必要に応じてその背景に関する参考資料にも目を通しておくこと。

●評価方法

授業への取り組み（80%）とレポート（20%）による。

●受講生へのコメント

19世紀末から20世紀転換期のフランス語圏文化に関する事象だけでなく、自らの生きる時代と社会の中でこうした研究主題を扱う意味を問い直してください。

●参考文献・教材

授業で指示する。

授業科目名	科目NO.	LCDFF2504	授業コード	LM13320010	
フランス語圏文化学研究演習 Advanced Studies and Seminar in Francophone Culture				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	白田　由樹				

●科目の主題

受講生各自のテーマに沿いながら、修士論文の執筆を視野に入れた基礎調査、文献の読解、先行研究の分析と報告の演習をおこなう。

●到達目標

各自の研究テーマに沿ってフランス語で書かれた先行研究や文献資料を読みこなす力、研究や論文の執筆に必要となる作法を身につける。

●授業内容・授業計画

先行研究や二次文献の収集と講読、それらの分析や検討をおこない、またそれを総合的に報告する実践をおこなう。

第1回 オリエンテーション、各自のテーマ紹介

第2回 フランス語資料の調査・検索ツール

第3回 基礎調査と文献リスト(先行研究等)、分野ごとの書式

第4回 文献の検討1:フランス語学・教育系

第5回 講読1:フランス語学系

第6回 講読2:フランス語教育系

第7回 文献の検討2:フランス文学・文化系

第8回 講読3:フランス文学系

第9回 講読4:フランス文化系

第10回 先行研究の分析・検討

第11回 報告1:フランス語学系

第12回 報告2:フランス語教育系

第13回 報告3:フランス文学系

第14回 報告4:フランス文化系

第15回 最終レポート・総括

●事前・事後学習の内容

毎回の課題準備（文献資料のリスト、テクストの入手、レジュメの作成、文献講読など）のほか、その回の課題のふり返りや修正を次回までにおこなうこと。

●評価方法

毎回の授業への参加と発表等の課題（70%）、最終レポート（30%）による。

●受講生へのコメント

情報収集や資料の検討、報告は大学以外の世界でも必要とされることが多くなっています。また、自分の専門だけでなく、他者の関心や研究内容を理解しようとする姿勢も大切です。そうした基本に立ち戻りつつ、それぞれの研究を進展させてください。

●参考文献・教材

授業の中で指示する。

授業科目名	科目NO.	LCDFF2505	授業コード	LM13090010
フランス語学研究 Advanced Studies in French Linguistics			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	福島　祥行			

●科目の主題

近代言語学者たちの足跡をたどりつつ、言語学研究の方法論と思想について考察するとともに、フランス言語学の方法論を学ぶ。

●到達目標

言語学の基礎的概念を身につけ、言語研究のよってたつ思想と方法論について深く思弁するなかで、人間存在についての思索方法を身につける。

●授業内容・授業計画

受講生とともに、言語研究者たちにかんする概説的なフランス語のテクストを読みつつ、その内容について考察し、各自の意見をのべてゆく。

第1回:イントロダクション

第2回:フェルディナン・ド・ソシュール

第3回:プラハ学派

第4回:ロマーン・ヤーコブソン

第5回:ルイ・イェルムスレウ

第6回:ギュスタヴ・ギヨーム

第7回:リュシアン・テニエール

第8回:レナード・ブルームフィールド

第9回:ノーム・チョムスキー

第10回:ミハイル・バフチン

第11回:ジョン・L・オースティン

第12回:ルートヴィッヒ・ヴィトゲンシュタイン

第13回:ポール・グライス

第14回:ふりかえりとまとめ

●事前・事後学習の内容

事前に配布文章を読んでおくこと、および、事後のふりかえり等により、1回の授業あたり2時間の自習時間をとること。

●評価方法

ポートフォリオと自己評価、相互評価

●受講生へのコメント

言語に憑かれたひとびとの姿をとおして、言語そのもの、そして人間そのものについて思弁されたい。
また、受講生の関心にあわせて、テキストを変更することもある。

●参考文献・教材

■参考文献

ソシュール『一般言語学講義』岩波書店
ポティエ『一般言語学』岩波書店
レイコフ『認知意味論』紀伊國屋書店
チョムスキー『ミニマリスト・プログラム』翔泳社
ハートル『数詞と内部空間』勁草書房
グライス『論理と会話』勁草書房.

授業科目名	科目NO.	LCDFF2506	授業コード	LM13100010
フランス語学研究演習 Advanced Studies and Seminar in French Linguistics			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	福島　祥行			

●科目の主題

近代言語学の歴史をたどりつつ、言語学の基礎を身につけるとともに、フランス言語学の方法論を学ぶ。

●到達目標

言語学の基礎的概念を身につけ、言語研究のよってたつ思想と方法論について深く思弁するなかで、人間存在についての思索方法を身につける。

●授業内容・授業計画

受講生とともに、言語学にかんする概説的なフランス語のテクストを読みつつ、その内容について考察し、各自の意見をのべてゆく。

第1回:イントロダクション

第2回:一般文法

第3回:歴史言語学・比較言語学

第4回:文献学

第5回:方言学・地理言語学

第6回:社会言語学

第7回:音声学

第8回:音韻論

第9回:語彙論

第10回:形態論

第11回:統辞論

第12回:意味論

第13回:語用論

第14回:ふりかえりとまとめ

●事前・事後学習の内容

事前に配布文章を読んでおくこと、および、事後のふりかえり等により、1回の授業あたり2時間の自習時間をとること。

●評価方法

ポートフォリオと自己評価、相互評価

●受講生へのコメント

言語学の諸相から、言語そのもの、そして人間そのものについて思弁されたい。
また、受講生の関心にあわせて、テキストを変更することもある。

●参考文献・教材

■参考文献

ソシュール『一般言語学講義』岩波書店
ポティエ『一般言語学』岩波書店
レイコフ『認知意味論』紀伊國屋書店
チョムスキー『ミニマリスト・プログラム』翔泳社
ハートル『数詞と内部空間』勁草書房
グライス『論理と会話』勁草書房

授業科目名	科目NO.	LCDFF2507	授業コード	LM13330010
フランス語圏言語文化論Ⅰ Higher Studies in Francophone Language and Culture Ⅰ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	原野　葉子			

●科目の主題

フランス語圏にはどんな国々があるのだろう？そこで人々はどんな言葉を使い、どのような信仰をもち、どういった暮らしをしているのだろうか？ フランス語圏の多種多様な社会と文化のありようについて、音楽、料理や言語といったさまざまなテーマを取り上げ、フランス語のドキュメント（テクストおよび視聴覚資料）の精読・分析を通じて学んでいく。とはいえ一方向的な講義ではなく学生による発表と討議を中心とし、参加者の主体的な発見と学びを追究する。そこから、我々が暮らす日本の言語、社会と文化を逆照射する。

●到達目標

修論執筆をみすえ、フランス語の多様な文献を論理的かつ分析的に読み解く力を身に着ける。

フランス語圏文化の豊饒さと多様性を理解するとともに、日常の風俗や社会をめぐる幅広い知見と問題意識を身に着ける。フランス語圏の歴史と「今」を知ることで、西欧中心主義に偏らないグローバルかつ多角的な視座を獲得する。

●授業内容・授業計画

授業はフランス語ドキュメントの精読・視聴、および解釈をめぐるディスカッションによって進めてゆく。

基本的な計画は以下の通りだが、受講者からのリクエストにも柔軟に応じつつ論を進めてゆく予定である。また、各受講生の関心領域についての発表とディスカッションを適宜行ってもらう。

なお、本演習の枠内でトゥール大学大学院とのSkypeを介した合同語学研修を行う場合がある。

第1回 オリエンテーション：世界に広がるフランス語圏（地理と歴史）

第2回 クレオールとは？

第3回 ダンス

第4回 音楽

第5回 祭り

第6回 伝統

第7回 住居

第8回 共同体

第9回 宗教

第10回 料理

第11回 母語

第12回 商業

第13回 モード

第14回 文学

第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

テクストの予習、各テーマについての事前調査および各自の発表準備に毎回2時間程度をあててください。

●評価方法

平常点60%および発表40%。

●受講生へのコメント

事前に配布されるプリントを予習した上で出席してください。

●参考文献・教材

Jackson Noutchié Njiké, Civilisation progressive de la francophonie, CLE international 他。授業中に指示します。

授業科目名	科目NO.	LCDFF2508	授業コード	LM13340010	
フランス語圏言語文化論Ⅱ Higher Studies in Francophone Language and Culture Ⅱ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	白田　由樹				

●科目の主題

フランスの文化や社会、時事問題などに関するフランス語資料の読解・聴解とコミュニケーションの実践を通じて、複言語・複文化についての視野を広げる。

●到達目標

フランス語圏の研究に必要となる読解・聴解と、自らの視点や考えを表現するフランス語力を身につける。また、それぞれの文化比較を通じて多様な言語と文化のあり方について視点を深める。

●授業内容・授業計画

フランスの文化や社会、時事問題などに関するフランス語のドキュメント(記事やニュース動画など)を扱い、フランス語の総合力とフランス語圏文化についての知識を広げる。

なお、この授業ではトゥール大学との交流協定に基づいて、相手校の大学院生によるFLE(外国人のためのフランス語教育)の実習を予定しており、受講生が自分のフランス語圏に関する関心や研究テーマを説明するほか、日本の社会や生活、文化紹介のプレゼン等を行うといったプログラムが想定される。

以下はこれまでトゥール大学と共同でおこなった遠隔授業のプログラムを参考にしたものであり、内容や順序は必ずしもこの通りではない。

1. Orientation
2. Présentation des étudiants
3. Préparation d'un questionnaire pour connaître les stagiaires français
4. Découvrir la France et Tours
5. Guide du Japon et d'Osaka
6. Le Japon vu de la France
7. La France vu du Japon
8. Préparation d'un exposé sur un centre d'intérêt
9. Exposé sur un centre d'intéret
10. Préparation d'un exposé sur un sujet actuel
11. Exposé d'un sujet actuel et discussion
12. Initiation à la pratique théâtrale
13. Création un skech et représentation
14. Entretien oral, discussion et reflexion
15. Compte-rendu sur le stage

●事前・事後学習の内容

指定された次回までの授業準備（作文、発表の準備や練習）を毎回行うこと。

●評価方法

平常点（毎回の報告準備と資料作成35%、質疑応答・意見交換への参加35%、最終発表30%）でおこなう。なお、事情なく3回以上の遅刻および5回以上の欠席をした者については、評価の対象としない。

●受講生へのコメント

フランス語圏に関する研究をする人は、なんらかの形でその国や地域、あるいは自らが属する文化を紹介することがあるはずです。本や資料の中だけでなく、現在のリアルな情報に触れながら自分の見解を表す言葉を探してください。また、外国語でのコミュニケーションというのは常に思い通りにはいかないものですが、だからこそ経験値が大事にな

ります。この機会を積極的に活用してください。

●参考文献･教材

必要な教材（授業に関する指示、添削原稿、スライド資料等）は適宜、WebClassにアップロード、または受講者にメールで送付する。

授業科目名	科目NO.	LCDFX2503	授業コード	LM13350010
ヨーロッパ言語文化学研究 Advanced Studies in European Language and Culture			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	Simon　OERTLE			

●科目の主題

This lecture is on European languages and history, with special focus on the Latin, French, German and English languages. Although most European languages can be described as branches and sub-branches of a big genealogical tree, the tree metaphor is only

●到達目標

This lecture aims at a better understanding of how different European languages have been influenced by and are influencing each other. It aims at a greater awareness of the fact that and how every single European language has been shaped by different cultures and languages. By offering numerous comparisons of major European languages (Latin, French, English, German, and Russian in particular), this lecture aims at enabling the students to grasp the relations between them, inviting them to further comparison.

●授業内容・授業計画

この授業は対面で実施します。

第1回　Introduction

第2回　Loanwords in the world's languages

第3回　Greek language and European civilization

第4回　Latin language and European civilization (I)

第5回　Latin language and European civilization (II)

第6回　The impact of the Arabs on European culture and languages

第7回　The Italians, the Portuguese, and the Spanish

第8回　French Europe (I)

第9回　French Europe (II)

第10回　German Europe (I)

第11回　German Europe (II)

第12回　English and the American century (I)

第13回　English and the American century (II)

第14回　Some minor influences

第15回　Conclusion

●事前・事後学習の内容

Review of previous lecture. Reading of texts provided during the lecture.

●評価方法

Reports (about 30%), final exam (about 70%), details being given on the first lecture.

●受講生へのコメント

Office hour: Friday 10:50-12:30

Contact address: simonoe@yahoo.com

●参考文献・教材

No textbook required. Texts will be provided.

授業科目名	科目NO.	LCDFX2506	授業コード	LM13380010
地域社会文化学研究Ⅱ Advanced Area Studies in Society and Culture Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	岩本　和子			

●科目の主題

ベルギーの文化と芸術

●到達目標

文化的多様性やマイノリティ文化への理解を深めるために、フランコフォニー（フランス語圏）の一つとしてベルギーを対象とし、歴史社会的背景と芸術文化の形成について学び理解する。

●授業内容・授業計画

本講義は、基本的に対面で実施する。

EU の中心であり、多言語・多文化国家であるベルギー。その多様性・多層性を、芸術作品（言語芸術や視覚芸術など）を通して紹介し、文化の交錯や共存について考える糸口としたい。第1回はイントロダクション、第2～7回は都市とその「物語＝記憶」、第8～14回は様々な芸術ジャンルの「現在」をテーマとする。

第1回　ベルギーの成り立ち、多言語・多文化状況

第2回　ブリュッセル　:独立革命と王立モネ劇場

第3回　コルトレイク　:黄金拍車の戦いと「フラーンデレンの獅子」

第4回　ダム　:スペイン支配と「ウーレンシュピーゲル伝説」

第5回　アントウェルペン　:「フランダースの犬」の舞台

第6回　ブルッヘ　:世紀末象徴主義と「死都ブリュージュ」

第7回　ヘント　:メーテルランク「青い鳥」

第8回　アール・ヌーヴォー　:建築とその名残り

第9回　シュルレアリスム　:文化戦略としてのマグリット

第10回　小説　:ジャン＝フィリップ・トゥーサンと日本

第11回　小説　:アメリー・ノートンと日本

第12回　映画　:ダルデンヌ兄弟など

第13回　マンガ（BD）　:「タンタン」や風刺画など

第14回　移民の文化　:移民芸術家の活躍、「ベルギー文化」とは？

第15回　試験

●事前・事後学習の内容

授業１週間前に、次回の講義に関する資料（テキスト）を配布する。それを事前に読んで内容を把握しコメントを用意してくること。授業の最後には講義内容についてのコメントや質問を書いて提出してもらう。次回の初めにそれについても討論する。

●評価方法

学年末試験　70%

出席点（授業中のアンケートや提出物など）　30%

●受講生へのコメント

英語圏やフランスなどの大国だけでなく、周縁文化にも目を向け、多角的な視点を持つようにしてください。チョコやワッフルだけでないベルギーの深くて多様で示唆に富んだ文化・芸術に興味を持ってもらえると嬉しいです。質疑応答で積極的に参加してください。

●参考文献・教材

資料の配布と参考文献の紹介を、授業中に行います。補助資料や映像なども使い、言語や文化、芸術作品にできるだけ直接触れてもらえるようにします。

授業科目名	科目NO.	LCDFX2507	授業コード	LM13390010
ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究Ⅰ Comprehensive Studies in German and Francophone Language and Culture Ⅰ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	髙井　絹子／福島　祥行／白田　由樹／長谷川　健一／原野　葉子			

●科目の主題

ドイツ語圏およびフランス語圏の文学・語学・文化に関する基本的な問題について、担当教員がそれぞれの専門分野におけるテーマを取り上げて講じる。それと平行して各種研究方法について概説し、研究資料の扱いについても講じる。また受講生からレポートや研究報告を求め、それに基づく討議をする。

●到達目標

受講生が広い総合的見地に立った研究を行えるよう、その基礎を与えることを目的とする。

●授業内容・授業計画

Ⅰでは、主として、ドイツ語圏の文学・語学・文化に関する問題を取り上げる。

●事前・事後学習の内容

事前に発表の準備をすること、および、事後のふりかえり等により、1回の授業あたり2時間以上の自習時間をとること。

●評価方法

平常点とレポートにより、総合的に評価する。

●受講生へのコメント

出席を重視します。

●参考文献・教材

適宜、プリントを配布し、参考文献を紹介する。

授業科目名	科目NO.	LCDFX2508	授業コード	LM13400010
ドイツ語フランス語圏言語文化学総合研究Ⅱ Comprehensive Studies in German and Francophone Language and Culture Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	髙井　絹子／福島　祥行／白田　由樹／長谷川　健一／原野　葉子			

●科目の主題

ドイツ語圏およびフランス語圏の文学・語学・文化に関する基本的な問題について、担当教員がそれぞれの専門分野におけるテーマを取り上げて講じる。それと平行して各種研究方法について概説し、研究資料の扱いについても講じる。また受講生からレポートや研究報告を求め、それに基づく討議をする。

●到達目標

受講生が広い総合的見地に立った研究を行えるよう、その基礎を与えることを目的とする。

●授業内容・授業計画

Ⅱでは、主として、フランス語圏の文学・語学・文化に関する問題を取り上げる。

●事前・事後学習の内容

事前に発表の準備をすること、および、事後のふりかえり等により、1回の授業あたり2時間以上の自習時間をとること。

●評価方法

平常点とレポートにより、総合的に評価する。

●受講生へのコメント

出席を重視します。

●参考文献・教材

適宜、プリントを配布し、参考文献を紹介する。

授業科目名	科目NO.	LCDFX3601	授業コード	LM13410010
ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅰ Supervision of MA Thesis in German and Francophone Language and Culture Ⅰ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	髙井 絹子／福島 祥行／白田 由樹			

●科目の主題

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「ドイツ語フランス語現文化学研究指導Ⅰ」（前期）、「ドイツ語フランス語言語文化学研究指導Ⅱ」（後期）の指導によって完成させる。前期の「ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅰ」では、1年次までの学修に基づき、修士論文の執筆計画を立て、修士論文構想発表会、修士論文中間発表会といった機会を柱としながら、修士論文に必要な知識、技能を修士論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1) 修士論文執筆計画を立て実施する
(2) 問題意識を整理し、研究課題の学術的意義を提示する
(3) 研究目的に応じた適確な課題を設定する
(4) 研究課題に応じた適切な研究方法を計画する
(5) 研究課題に応じた先行研究の読み込みを行う
(6) 研究課題に応じた実験結果、調査結果、文献資料を蓄積する
(7) 修士論文研究に関わる研究倫理について考える

●授業内容・授業計画

（髙井絹子教授）ドイツ語圏学に関して、歴史的あるいは現代的問題意識をもち、広い視野に立った修士論文が作成できるよう、適切な指導を行う。

（福島祥行教授）フランス語圏学に関して、社会的、文化的、歴史的問題意識をもち、広い視野に立った修士論文が作成できるよう、適切な指導を行う。

（白田由樹教授）　フランス語圏学に関して、歴史的、社会的、文化的問題意識をもち、広い視野に立った修士論文作成ができるよう、適切な指導を行う。

第1回オリエンテーション

修士論文とは何か（確認）

ドイツ語フランス語圏言語文化学の方法論（確認）

修士論文研究・執筆計画について

修士論文の評価規準・基準について修士論文計画を立てて提出する。

修士論文構想発表会の準備を行い、レジュメを作成する。第2回修士論文構想発表会（連続4コマ）

テーマに関する問題意識の整理

予想される（期待している）結論

研究方法の目処

同学年他学年の学生、複数の教員との質疑応答から学ぶ修士論文構想発表会の議論を踏まえ、自分の修士論構想を練り直す。第3回第4回第5回第6回研究計画に即して研究倫理を考える自分の研究計画に即して研究倫理を考え、研究倫理の観点から研究計画を練り上げる。第7回先行研究の読み込み研究課題に応じた先行研究の読み込みを計画し、読み込んだ結果を発表する。第8回「先行研究の整理」の意義と方法自分の修士論文に必要な「先行研究の整理」を行ってみる。第9回修士論文の章立て修士論文の章立てを考える。第10回実験、調査、文献分析の計画と結果の予想修士論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。第11回修士論文中間発表会

―章立ての仮決定のために―（連続4コマ）

問題意識の提示

論証しようとしていること(仮の結論)

論証のための方法とその目処

章立て

これからの課題修士論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の修士論文研究・執筆計画を練り直す。第12回第13回第14回第15回修士論文中間発表会のふりかえり7月以降の修士論文執筆計画を立てる。

●事前・事後学習の内容

各自、テーマの考察を行う。

●評価方法

修士論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

●受講生へのコメント

修士論文は2年間の修士課程の集大成である。ドイツ語フランス語圏言語文化学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。「ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅰ」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、修士論文に主体的に取り組み、修士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

とくに指定しない。

授業科目名	科目NO.	LCDFX3602	授業コード	LM13420010
ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅱ Supervision of MA Thesis in German and Francophone Language and Culture Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	髙井 絹子／福島 祥行／白田 由樹			

●科目の主題

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅰ」（前期）、「ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅱ」（後期）の指導によって完成させる。後期の「ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅱ」では、修士論文の仕上げに向けて、修士論文中間発表会といった機会を柱としながら、修士論文に必要な知識、技能を修士論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1) 修士論文の評価規準と基準を知る
(2) 執筆途上において、その時点の自分の修士論文を評価基準に準拠して点検する
(3) 点検の結果を踏まえ、修士論文計画・執筆計画を修正しながら修士論文を完成させる

●授業内容・授業計画

（髙井絹子教授）ドイツ語圏学に関して、歴史的あるいは現代的問題意識をもち、広い視野に立った修士論文が作成できるよう、適切な指導を行う。

（福島祥行教授） フランス語圏学に関して、社会的、文化的、歴史的問題意識をもち、広い視野に立った修士論文が作成できるよう、適切な指導を行う。

（白田由樹教授） フランス語圏学に関して、歴史的、社会的、文化的問題意識をもち、広い視野に立った修士論文作成ができるよう、適切な指導を行う。

第1回修士論文の進捗状況の報告修士論文研究進捗状況の報告レジュメ提出。第2回修士論文の評価基準の確認修士論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。第3回修士論文中間発表会（4コマ連続）

完成に向けての執筆方針の確認

（研究方法論、課題設定、先行研究の整理

章立て等）

完成に向けての研究・執筆計画修士論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の修士論研究・執筆計画を練り直す。第4回第5回第6回第7回修士論文中間発表会の振り返り完成までの期間の研究・執筆計画を立てる。第8回問題意識と学術的意義を扱う部分についての点検点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。第9回研究目的に応じた課題設定を扱う部分について点検点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。第10回研究手法の説明を扱う部分についての点検点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。第11回先行研究を扱う部分についての点検点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。第12回実験結果、調査結果、文献分析を扱う部分についての点検点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。第13回論理の組み立てや一貫性に関する点検点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。第14回学術論文としての表現、表記法等に関する点検点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。第15回研究倫理の側面からの修士論文の点検

修士論文作成全体を通しての振り返り振り返りのための発表の準備をする。

●事前・事後学習の内容

各自、テーマの考察を行う。

●評価方法

修士論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。「ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅱ」の評価は、「修士論文」の評価と同時期に行われるが、後者が論文の内容そのものの質が評価されるのに対して、前者は、論文作成過程の学修状況が評価の対象となる。ただし、仮に「修士論文」が不可となった場合は、「ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅱ」も不可となる。

●受講生へのコメント

修士論文は2年間の学士課程の集大成である。ドイツ語フランス語圏言語文化学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。「ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅱ」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、修士論文に主体的に取り組み、学士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

とくに指定しない。

授業科目名	科目NO.		授業コード	LM18000120
修士論文（独仏） Master's Thesis			単位数	
授業形態	担当教員名			
演習	髙井　絹子／福島　祥行／白田　由樹			

●科目の主題

文学研究科では、修士論文を通しての学修を重視しており、ディプロマポシシーで定める学修成果を学生が修めることができるよう、修士課程の2年間をとおし、授業科目における指導のほか、専修ごとの修士論文ガイダンス、修士論文構想発表会、修士論文中間発表会など、学生どうしが切磋琢磨できる機会を設け、あわせて、きめこまかな個別指導を行う。修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅰ」「ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅱ」の指導によって完成さ

●到達目標

修士論文の審査基準は次のとおりであり、これを到達目標とする。

（1）修士論文は、ドイツ語フランス語圏言語文化学分野における一定の研究成果を示すものでなければならない。

（2）（評価基準）修士論文は以下の各項目について、ドイツ語フランス語圏言語文化学における十分な水準を満たさなければならない。

(a) 研究課題（テーマ）の学術的意義

明確な問題意識に基づき、ドイツ語フランス語圏言語文化学分野における研究の学術的意義が述べられていること。

(b) 研究課題の的確性

研究目的に応じた的確な課題が設定されていること。

(c) 研究方法の妥当性

研究を遂行する上で、適切な研究手法がもちいられていること。

(d) 先行研究との関連

当該専門分野における主たる先行研究を踏まえたものであること。

(e) 資料利用の適切性

論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などが適切にもちいられていること。

(f) 論旨の一貫性

論旨が論理的に組み立てられ、一貫して展開されていること。

(g) 学術論文としての体裁

表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、ドイツ語フランス語圏言語文化学分野の慣例に従ったものであること。

(h) 研究倫理の遵守

研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、ドイツ語フランス語圏言語文化学分野が定める研究上守るべき倫理基準が満たされていること。

（3）（論文の体裁）修士論文は、論を展開する上で、ドイツ語フランス語圏言語文化学分野の特性に応じた十分な分量でなければならない。

●授業内容・授業計画

各回の授業内容の記述は「修士論文」にそぐわないので省略する。なお、「修士論文」に連動するものとして、「ドイツ語フランス語言語文化学研究指導Ⅰ」「ドイツ語フランス語言語文化学研究指導Ⅱ」のシラバスを参照すること。

●事前・事後学習の内容

各自、論文執筆を進める。

●評価方法

修士論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学研究科内規」にしたがい、研究科教授会において当該専攻の教員から主査1 名、副査2名を審査員として選出した上で審査をおこなう。２月に実施する面接試験の日時は、各専修から通知する。修士論文審査については、文学研究科が定める「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがって実施する。

●受講生へのコメント

「修士論文」および「ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅰ」は、修士論文を提出する年度の前期に、「ドイツ語フランス語圏言語文化学研究指導Ⅱ」は後期の履修登録期間中にWeb履修登録すること。修士論文は2年間の博士前期課程の集大成である。ドイツ語フランス語圏言語文化学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

●参考文献･教材

指定しない。

授業科目名	科目NO.	LCLNG2501	授業コード	LM14210010	
言語応用学研究 I Advanced Studies in Linguistics Applied I				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	山崎　雅人				

●科目の主題

本講義は、初めてこの学問に接する人が、多岐に渡る言語学の知識を取得することで、その知的な面白さを感じ取れるように、言語学を構成するさまざまな分野を理解することを主題とする。

●到達目標

受講生が言語学の基本概念に関する知識を習得することを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

テキストは、受講生の既存の知識を確認しながら理解が深まるように工夫された自作教材を用いる。そこでは、受講者は与えられた課題への自分の考えをまずまとめ、後に解説を聞くことで自分の考えの当否を確認しながら、言語研究の基礎的知識を獲得してゆく。

第1回　言語学への招待　その1
第2回　言語学への招待　その2
第3回　構造について　その1
第4回　構造について　その2
第5回　研究方法について　その1
第6回　研究方法について　その2
第7回　比較言語学　その1
第8回　比較言語学　その2
第9回　類型論　その1
第10回　類型論　その2
第11回　記号論
第12回　社会言語学
第13回　心理言語学
第14回　応用言語学
第15回　言語哲学と文学

●事前・事後学習の内容

事前学習としては、予め指定された各回のテーマに関する重要な概念を意味する学術用語を、授業に先立って調べて罫線紙に書いて持って来ること。事後学習としては、授業で触れた内容を題材とした宿題を出すので、それに対する解答を準備して次の授業で提出すること。

●評価方法

受講生は、授業中の課題や指名に対して各自で考えて応答するとともに、宿題としての課題への解答を提出する。さらに、その日の講義内容に関して、「興味が持てたこと」と「理解ができなかったこと」（初めのうちは講義に関する要望を可とする場合もある）をまとめることで復習とする。こうした毎回の作業をきちんとこなすことと、規定以上の出席回数を満たすことに基づいて、成績評価を行う。

●受講生へのコメント

我々が日々関わり囲まれている「言葉の世界」には、少し見方を変えることで得られる「小さな発見」がたくさん潜んでいる。言葉は、自分自身の一部であるとともに、他者とつながる架け橋でもある。上に述べた「発見」は、自分とは何者か、自分が接する社会とはどのような存在か、という問題に何かしらの手がかりを与えてくれると思う。進んで言葉の世界へ赴き、探求の旅を楽しんでもらいたい。

●参考文献・教材

テキストは教員が準備して各回の授業に先立って配布する。参考文献は適宜教室で指示するが、以前にこの講義で用

いた以下の本は、参考図書として有用と考える。

・町田健著『町田健のたのしい言語学』2004年、ソフトバンクパブリッシング
・佐久間淳一、加藤重広、町田健著『言語学入門：これから始める人のための入門書』2004年、研究社
・星浩司著『言語学への扉』2006年、慶應義塾大学出版会
・佐久間淳一著『はじめてみよう言語学』2007年、研究社
・大津由紀雄編著『はじめて学ぶ言語学－ことばの世界をさぐる17章』2

授業科目名	科目NO.	LCLNG3601	授業コード	LM14310010
言語応用学研究指導 I Research Guidance in Linguistics Applied I			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	山崎　雅人／田中　一彦			

●科目の主題

本講義は、初めてこの学問に接する人が、多岐に渡る言語学の知識を取得することで、その知的な面白さを感じ取れるように、言語学を構成するさまざまな分野を理解することを主題とする。

●到達目標

受講生が言語学の基本概念に関する知識を習得することを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

テキストは、受講生の既存の知識を確認しながら理解が深まるように工夫された自作教材を用いる。そこでは、受講者は与えられた課題への自分の考えをまずまとめ、後に解説を聞くことで自分の考えの当否を確認しながら、言語研究の基礎的知識を獲得してゆく。

第1回　言語学への招待　その1
第2回　言語学への招待　その2
第3回　構造について　その1
第4回　構造について　その2
第5回　研究方法について　その1
第6回　研究方法について　その2
第7回　比較言語学　その1
第8回　比較言語学　その2
第9回　類型論　その1
第10回　類型論　その2
第11回　記号論
第12回　社会言語学
第13回　心理言語学
第14回　応用言語学
第15回　言語哲学と文学

●事前・事後学習の内容

事前学習としては、予め指定された各回のテーマに関する重要な概念を意味する学術用語を、授業に先立って調べて罫線紙に書いて持って来ること。事後学習としては、授業で触れた内容を題材とした宿題を出すので、それに対する解答を準備して次の授業で提出すること。

●評価方法

受講生は、授業中の課題や指名に対して各自で考えて応答するとともに、宿題としての課題への解答を提出する。さらに、その日の講義内容に関して、「興味が持てたこと」と「理解ができなかったこと」（初めのうちは講義に関する要望を可とする場合もある）をまとめることで復習とする。こうした毎回の作業をきちんとこなすことと、規定以上の出席回数を満たすことに基づいて、成績評価を行う。

●受講生へのコメント

我々が日々関わり囲まれている「言葉の世界」には、少し見方を変えることで得られる「小さな発見」がたくさん潜んでいる。言葉は、自分自身の一部であるとともに、他者とつながる架け橋でもある。上に述べた「発見」は、自分とは何者か、自分が接する社会とはどのような存在か、という問題に何かしらの手がかりを与えてくれると思う。進んで言葉の世界へ赴き、探求の旅を楽しんでもらいたい。

●参考文献・教材

テキストは教員が準備して各回の授業に先立って配布する。参考文献は適宜教室で指示するが、以前にこの講義で用

いた以下の本は、参考図書として有用と考える。

・町田健著『町田健のたのしい言語学』2004年、ソフトバンクパブリッシング
・佐久間淳一、加藤重広、町田健著『言語学入門：これから始める人のための入門書』2004年、研究社
・星浩司著『言語学への扉』2006年、慶應義塾大学出版会
・佐久間淳一著『はじめてみよう言語学』2007年、研究社
・大津由紀雄編著『はじめて学ぶ言語学－ことばの世界をさぐる17章』2

授業科目名	科目NO.	LCLNG2502	授業コード	LM14220010	
言語応用学研究演習1 Advanced Studies and Seminar in Linguistics Applied 1				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	山崎　雅人				

●科目の主題

本講義は、初めてこの学問に接する人が、多岐に渡る言語学の知識を取得することで、その知的な面白さを感じ取れるように、言語学を構成するさまざまな分野を理解することを主題とする。

●到達目標

受講生が言語学の基本概念に関する知識を習得することを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

テキストは、受講生の既存の知識を確認しながら理解が深まるように工夫された自作教材を用いる。そこでは、受講者は与えられた課題への自分の考えをまずまとめ、後に解説を聞くことで自分の考えの当否を確認しながら、言語研究の基礎的知識を獲得してゆく。

第1回　言語学への招待　その1
第2回　言語学への招待　その2
第3回　構造について　その1
第4回　構造について　その2
第5回　研究方法について　その1
第6回　研究方法について　その2
第7回　比較言語学　その1
第8回　比較言語学　その2
第9回　類型論　その1
第10回　類型論　その2
第11回　記号論
第12回　社会言語学
第13回　心理言語学
第14回　応用言語学
第15回　言語哲学と文学

●事前・事後学習の内容

事前学習としては、予め指定された各回のテーマに関する重要な概念を意味する学術用語を、授業に先立って調べて罫線紙に書いて持って来ること。事後学習としては、授業で触れた内容を題材とした宿題を出すので、それに対する解答を準備して次の授業で提出すること。

●評価方法

受講生は、授業中の課題や指名に対して各自で考えて応答するとともに、宿題としての課題への解答を提出する。さらに、その日の講義内容に関して、「興味が持てたこと」と「理解ができなかったこと」（初めのうちは講義に関する要望を可とする場合もある）をまとめることで復習とする。こうした毎回の作業をきちんとこなすことと、規定以上の出席回数を満たすことに基づいて、成績評価を行う。

●受講生へのコメント

我々が日々関わり囲まれている「言葉の世界」には、少し見方を変えることで得られる「小さな発見」がたくさん潜んでいる。言葉は、自分自身の一部であるとともに、他者とつながる架け橋でもある。上に述べた「発見」は、自分とは何者か、自分が接する社会とはどのような存在か、という問題に何かしらの手がかりを与えてくれると思う。進んで言葉の世界へ赴き、探求の旅を楽しんでもらいたい。

●参考文献・教材

テキストは教員が準備して各回の授業に先立って配布する。参考文献は適宜教室で指示するが、以前にこの講義で用

いた以下の本は、参考図書として有用と考える。

・町田健著『町田健のたのしい言語学』2004年、ソフトバンクパブリッシング
・佐久間淳一、加藤重広、町田健著『言語学入門：これから始める人のための入門書』2004年、研究社
・星浩司著『言語学への扉』2006年、慶應義塾大学出版会
・佐久間淳一著『はじめてみよう言語学』2007年、研究社
・大津由紀雄編著『はじめて学ぶ言語学－ことばの世界をさぐる17章』2

授業科目名	科目NO.	LCLNG3602	授業コード	LM14320010	
言語応用学研究指導Ⅱ Research Guidance in Linguistics AppliedⅡ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	山崎　雅人／田中　一彦				

●科目の主題

本講義は、初めてこの学問に接する人が、多岐に渡る言語学の知識を取得することで、その知的な面白さを感じ取れるように、言語学を構成するさまざまな分野を理解することを主題とする。

●到達目標

受講生が言語学の基本概念に関する知識を習得することを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

テキストは、受講生の既存の知識を確認しながら理解が深まるように工夫された自作教材を用いる。そこでは、受講者は与えられた課題への自分の考えをまずまとめ、後に解説を聞くことで自分の考えの当否を確認しながら、言語研究の基礎的知識を獲得してゆく。

第1回　言語学への招待　その1
第2回　言語学への招待　その2
第3回　構造について　その1
第4回　構造について　その2
第5回　研究方法について　その1
第6回　研究方法について　その2
第7回　比較言語学　その1
第8回　比較言語学　その2
第9回　類型論　その1
第10回　類型論　その2
第11回　記号論
第12回　社会言語学
第13回　心理言語学
第14回　応用言語学
第15回　言語哲学と文学

●事前・事後学習の内容

事前学習としては、予め指定された各回のテーマに関する重要な概念を意味する学術用語を、授業に先立って調べて罫線紙に書いて持って来ること。事後学習としては、授業で触れた内容を題材とした宿題を出すので、それに対する解答を準備して次の授業で提出すること。

●評価方法

受講生は、授業中の課題や指名に対して各自で考えて応答するとともに、宿題としての課題への解答を提出する。さらに、その日の講義内容に関して、「興味が持てたこと」と「理解ができなかったこと」（初めのうちは講義に関する要望を可とする場合もある）をまとめることで復習とする。こうした毎回の作業をきちんとこなすことと、規定以上の出席回数を満たすことに基づいて、成績評価を行う。

●受講生へのコメント

我々が日々関わり囲まれている「言葉の世界」には、少し見方を変えることで得られる「小さな発見」がたくさん潜んでいる。言葉は、自分自身の一部であるとともに、他者とつながる架け橋でもある。上に述べた「発見」は、自分とは何者か、自分が接する社会とはどのような存在か、という問題に何かしらの手がかりを与えてくれると思う。進んで言葉の世界へ赴き、探求の旅を楽しんでもらいたい。

●参考文献・教材

テキストは教員が準備して各回の授業に先立って配布する。参考文献は適宜教室で指示するが、以前にこの講義で用

いた以下の本は、参考図書として有用と考える。

・町田健著『町田健のたのしい言語学』2004年、ソフトバンクパブリッシング
・佐久間淳一、加藤重広、町田健著『言語学入門：これから始める人のための入門書』2004年、研究社
・星浩司著『言語学への扉』2006年、慶應義塾大学出版会
・佐久間淳一著『はじめてみよう言語学』2007年、研究社
・大津由紀雄編著『はじめて学ぶ言語学－ことばの世界をさぐる17章』2

授業科目名	科目NO.	LCLNG2503	授業コード	LM14230010	
言語応用学研究Ⅱ Advanced Studies in Linguistics AppliedⅡ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義／演習	田中　一彦				

●科目の主題

英語、日本語の意味論、語用論に関する講義、および文献講読を通じて、ことばの分析力を養うことを目的とする。

●到達目標

講義、および文献の精読により、事実観察の仕方、データ収集、およびその分析方法を身につける。

●授業内容・授業計画

廣瀬・長谷川(2010)『日本語から見た日本人』を精読しながら、日本人の中の「集団主義」を問い直し、具体的な日本語の表現データを元に、彼らの主張の是非を問う。

第1回 授業概要の説明
第2回 日本人は「集団主義的」か ―言語学からの批判的検討―伝聞と情報のなわ張り part1
第3回 日本人は「集団主義的」か ―言語学からの批判的検討―伝聞と情報のなわ張り part2
第4回 日本人は「集団主義的」か ―言語学からの批判的検討―伝聞と情報のなわ張り part3
第5回 日本語における独り言 part1
第6回 日本語における独り言 part2
第7回 日本語における独り言 part3
第8回 第5回から第6回のまとめ
第9回 伝聞と情報の縄張り part 1
第10回 伝聞と情報の縄張り part 2
第11回 伝聞と情報の縄張り part 3
第12回 言語使用の形態と公的性の度合い part1
第13回 言語使用の形態と公的性の度合い part2
第14回 第9回から第13回のまとめ
第15回 授業の総括

●事前・事後学習の内容

事前に論文を精読し、必要に応じて、参考文献も参照しながら、当該のトピックに関して積極的に議論できるように準備をしておく。また、授業後には、自分の議論展開の妥当性を他の受講生の議論と比較しながら検討する。

●評価方法

授業中の議論への積極的な参加態度（50%）および、レポートの成績（50%）を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

たえず、「ことば」に対してアンテナをはっていてもらいたい。

●参考文献・教材

資料を配布、もしくはLMSにアップする。

授業科目名	科目NO.	LCLNG2504	授業コード	LM14240010	
言語応用学研究演習2 Advanced Studies and Seminar in Linguistics Applied 2				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	田中　一彦				

●科目の主題

英語、日本語の意味論、語用論に関する講義、文献購読を通じて、ことばの分析力を養う。

●到達目標

講義、文献購読により、事実観察の仕方、データ収集、およびその分析方法を理解し、自らの研究に応用する力をつける。

●授業内容・授業計画

Willは時制表現かモダリティー表現かを扱った論文を批判的に購読し、それに関するディスカッションを行う。

Sarkar, A. (1998) “The Conflict Between Future Tense and Modality: The Case of Will in English”, U. Penn Working Papers in Linguistics 5: 91-117.

Salkie, R. (2010) "Will: tense or modal or both?", English Language and Linguistics 14.2: 187-215.

第1回　Introduction

第2回　Sarkar, A. (1998)1

第3回　Sarkar, A. (1998)2

第4回　Sarkar, A. (1998)3

第5回　Sarkar, A. (1998)4

第6回　Sarkar, A. (1998)5

第7回　Sarkar, A. (1998)6

第8回　　Salkie, R. (2010)1

第9回　Salkie, R. (2010)2

第10回　Salkie, R. (2010)3

第11回　Salkie, R. (2010)4

第12回　Salkie, R. (2010)5

第13回　Salkie, R. (2010)6

第14回　Salkie, R. (2010)7

第15回　まとめ

●事前・事後学習の内容

事前に論文を精読し、必要に応じて、参考文献も参照しながら、当該のトピックに関して積極的に議論できるように準備をしておく。また、授業後には、自分の議論展開の妥当性を他の受講生の議論と比較しながら検討する。

●評価方法

授業中の議論への積極的な参加態度（50%）および、レポートの成績（50%）を総合的に評価する。

●受講生へのコメント

たえず、「ことば」に対してアンテナをはっていてもらいたい。

●参考文献・教材

資料を配布、もしくはLMSにアップする。

授業科目名	科目NO.	LCLNG2505	授業コード	LM14250010	
言語応用学研究Ⅲ Advanced Studies in Linguistics AppliedⅢ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義／演習	辻　香代				

●科目の主題

専門領域に対する理解を深めると共に、問いを立て解決する姿勢、情報や考えを英語で伝える能力等を鍛える。
また、先行研究文献の精読により、事実観察の仕方、データ収集、および分析方法を身につける。

●到達目標

下記３点の達成を目指します。

1. 言語の多様性や言語の社会的・文化的側面を理解し、包括的な視点で言語教育・言語習得を捉える。
2. 言語教育・習得に関する論考を通じ、グローバル化における新たな言語教育を探究する姿勢を身につける。
3. 上記２点で得られた知識を深める文献を精読し、そこから事実観察の仕方、データ収集、および分析方法を身につける。

●授業内容・授業計画

How Languages are learned（Fourth Edition）Oxford (Patsy M. Lightbown & Nina Spada) を精読しながら、言語学習・習得に関する通説を再考し、言語教育の在り方を批判的に問う。

第1回 授業概要の説明
第2回 幼児期の言語習得ー母語獲得ー
第3回 第二言語習得
第4回 言語学習の個人差
第5回 言語習得の理論
第6回 言語の教授法
第7回 国内外の実践事例
第8回 言語習得に関する通説
第9回 先行研究の精読(1):言語と文化
第10回 先行研究の精読(2):言語とアイデンティティ
第11回 先行研究の精読(3):言語と教育
第12回 先行研究の精読(4):バイリンガリズム
第13回 学生の発表
第14回 学生の発表
第15回 授業の総括:通説の再考

●事前・事後学習の内容

事前に論文を精読し、必要に応じて、参考文献も参照しながら、当該のトピックに関して積極的に議論できるように準備をしておく。
また、授業後には、自分の議論展開の妥当性を他の受講生の議論と比較しながら検討する。

●評価方法

課題の提出・学びへの態度（課題の期限厳守・WebClassの指示に目を通しているか等）・課題のクオリティ・期末レポートを総合的に評価する。
本授業では、課題の３分の２以上の提出（期限が厳守されたものに限る）を単位認定の条件とします。なお、基本的に課題の期限は「翌週の授業日」とする。

●受講生へのコメント

本授業は、言語教育・言語習得に関わる専門書（入門書）を英語で読み、英語で発表し、英語で議論するという英語圏の大学院で実践されている授業を展開する。

●参考文献･教材

教科書：How Languages are learned （Fourth Edition） Oxford (Patsy M. Lightbown & Nina Spada)：ISBN:9780194541268

授業科目名	科目NO.	LCLNG2506	授業コード	LM14260010
言語応用学研究演習3 Advanced Studies and Seminar in Linguistics Applied 3			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	辻　香代			

●科目の主題

注)本コースの担当者変更に伴い、シラバス記載事項は3月11日に修正されている。

応用言語学の領域に対する見解を深める科目であり、各受講者の研究が発展することを目的とする。

自らの専門領域に対する理解を深めると共に、問いを立て解決する姿勢、情報や考えを英語で伝える能力等を鍛える。

また、先行研究文献の精読により、事実観察の仕方、データ収集、および分析方法を身につけ、修士論文の土台を築く。

●到達目標

次の2点を目標とする。

1. 学生は、応用言語学に関連する領域の知見を新たな視点から捉え直す姿勢を身につけることができる。

2. 学生は、言事実観察の仕方、データ収集、および分析方法を身につけ、修士論文に求められる技能・能力を身につけることができる。

●授業内容・授業計画

本コースの授業は、基本的に「対面」で実施する。

第1回　コース概要の説明等
第2回　文献の精読・議論(1)
第3回　文献の精読・議論(2)
第4回　文献の精読・議論(3)
第5回　文献の精読・議論(4)
第6回　文献の精読・議論(5)
第7回　学習者の発表1:グループ発表
第8回　文献の精読・議論(6)
第9回　文献の精読・議論(7)
第10回　文献の精読・議論(8)
第11回　文献の精読・議論(9)
第12回　文献の精読・議論(10)
第13回　学習者の発表2:個人発表
第14回　振り返り

●事前・事後学習の内容

事前に、講義で扱う文献・資料をしっかり読み込む。事後に、修士論文に関連する知見を整理しておく。

●評価方法

発表準備・発表内容・授業への取り組みを総合的に評価する。

(1)到達目標の達成度について評価を行う

(2)評価方法とその割合

発表内容　40%(グループ発表: 20%, 個人発表: 20%)試験　30%、小テスト・レポート20%

授業への参加態度　10%

(3)合格(単位修得)のための最低基準言語習得理論に関する基本的な知識を習得すること。　言語習得研究領域に関する基本的な知識を習得すること。言語学習に関する知見を再考する姿勢を獲得すること。

●受講生へのコメント

下記2点に留意する。

・指定した文献・資料を十分に読み込み、内容について批判的に検討し、議論に参加する準備を整えておく

・テキストを読み進める中で、応用言語学に関連する諸相を多面的に深く考察する

●参考文献・教材

毎回、レジュメを配付する。言語の習得論を扱った資料および英語による文献等を扱う。

参考文献・資料

・山内進（編著）（2003）『言語教育学入門』 大修館書店

・キース・モロウ（編）和田稔他（訳）（2013）『ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）から学ぶ英語教育』 研究社

・泉水浩隆（編）（2018）『ことばを教える・ことばを学ぶ－複言語・複文化・ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）と言語教育』行路社

・欧州評議会　言語政策局（著）　山本冴里（訳）（2016）『言語の多様性から複言語教育へ ヨーロッパ言語教育政策策定ガイド』 くろしお書店

授業科目名	科目NO.	LCLNG2507	授業コード	LM14270010
言語応用学研究Ⅳ Advanced Studies in Linguistics AppliedⅣ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	井狩　幸男			

●科目の主題

神経心理学と心理言語学の学際領域である神経心理言語学分野の問題を取り上げ、人間と言語の関係を、脳における言語処理の共時的観点、並びに言語発達の通時的観点から考察し、人間にとって言語とは何かという問題を検討しながら、従来の言語研究とは異なった視点から、言語の本質に迫ることを目的とする。

●到達目標

次の2つを目標とする。

(1) 神経心理言語学に関わる様々な問題について、基本的な知識を得る。

(2) 修士論文のテーマとの関係性を探る。

●授業内容・授業計画

博士論文を使用し、神経心理言語学に関する問題について深く考察する。

第1回 本講義の進め方について

第2回 母語獲得研究の基礎と先行研究

第3回 言語習得を支える諸条件

第4回 意味の処理過程

第5回 音声言語の処理過程

第6回 言語習得と意識・注意・気づき

第7回 言語習得と記憶

第8回 言語習得とワーキングメモリモデル

第9回 言語習得のための神経基盤－同期－

第10回 言語習得のための神経基盤－統合－

第11回 言語習得のための神経基盤－調整－

第13回 「同期」「統合」「調整」と英語教育

第14回 母語獲得理論と第2言語習得理論の融合

第15回 本講義の総括

●事前・事後学習の内容

事前に、講義で扱う章をしっかり読み込む。事後に、扱った章について十分理解できているか確認する。

●評価方法

発表準備、発表内容、授業・課題への取り組みを総合的に評価する。具体的には、平常点(70%)、課題(30%)とする。

●受講生へのコメント

博士論文を読み進める中で、言語現象に関わる諸相を多面的に深く考察する姿勢が培われることを願う。

●参考文献・教材

井狩幸男（2009）『生きたことばを習得するための英語教育－母語獲得と脳科学の研究成果を踏まえて－』

授業科目名	科目NO.	LCLNG2508	授業コード	LM14280010	
言語応用学研究演習4 Advanced Studies and Seminar in Linguistics Applied 4				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	井狩　幸男				

●科目の主題

発達心理言語学と神経言語学の観点から乳幼児の発達過程において観察される諸現象を分析する書物を読み解きながら、言語習得に関わる諸条件について考察する。

●到達目標

次の2つを目標とする。

(1) 発達心理言語学と神経言語学に関わる様々な問題について詳しく調べ、発表する。

(2) 修士論文のテーマを絞り込む。

●授業内容・授業計画

発達心理言語学と神経言語学の観点から書かれた専門書を読み解く。

第1回 本講義の進め方について

第2回 早期のカテゴリー表象と概念

第3回 早期のカテゴリー表象と概念

第4回 初期の語彙

第5回 初期の語彙

第6回 脳と認知の発達

第7回 脳と認知の発達

第8回 子どもの文法理解の発達

第9回 子どもの文法理解の発達

第10回 小児期における実行機能:発達と障害

第11回 心の理解

第12回 数学的・科学的思考

第13回 数学的・科学的思考

第14回 学習と認知発達における社会認知的見解

第15回 本講義の総括

●事前・事後学習の内容

事前に、講義で扱う章をしっかり読み込む。事後に、扱った章について十分理解できているか確認する。

●評価方法

発表準備、発表内容、授業・課題への取り組みを総合的に評価する。具体的には、平常点(70%)、課題(30%)とする。

●受講生へのコメント

言語現象を多面的に深く考察する姿勢を身につけることにより、修士論文の執筆に役立てることを期待する。

●参考文献・教材

ジョン・オーツ 他 (2010) 『子どもの認知と言語はどう発達するか』 松柏社

授業科目名	科目NO.	LCLNG2509	授業コード	LM14290010	
言語応用学総合研究 I Advanced Comprehensive Studies in Linguistics Applied I				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	山崎 雅人／小倉 雅明／田中 一彦／辻 香代				

●科目の主題

本講義は、初めてこの学問に接する人が、多岐に渡る言語学の知識を取得することで、その知的な面白さを感じ取れるように、言語学を構成するさまざまな分野を理解することを主題とする。

●到達目標

受講生が言語学の基本概念に関する知識を習得することを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

テキストは、受講生の既存の知識を確認しながら理解が深まるように工夫された自作教材を用いる。そこでは、受講者は与えられた課題への自分の考えをまずまとめ、後に解説を聞くことで自分の考えの当否を確認しながら、言語研究の基礎的知識を獲得してゆく。

第1回 言語学への招待 その1
第2回 言語学への招待 その2
第3回 構造について その1
第4回 構造について その2
第5回 研究方法について その1
第6回 研究方法について その2
第7回 比較言語学 その1
第8回 比較言語学 その2
第9回 類型論 その1
第10回 類型論 その2
第11回 記号論
第12回 社会言語学
第13回 心理言語学
第14回 応用言語学
第15回 言語哲学と文学

●事前・事後学習の内容

事前学習としては、予め指定された各回のテーマに関する重要な概念を意味する学術用語を、授業に先立って調べて罫線紙に書いて持って来ること。事後学習としては、授業で触れた内容を題材とした宿題を出すので、それに対する解答を準備して次の授業で提出すること。

●評価方法

受講生は、授業中の課題や指名に対して各自で考えて応答するとともに、宿題としての課題への解答を提出する。さらに、その日の講義内容に関して、「興味が持てたこと」と「理解ができなかったこと」（初めのうちは講義に関する要望を可とする場合もある）をまとめることで復習とする。こうした毎回の作業をきちんとこなすことと、規定以上の出席回数を満たすことに基づいて、成績評価を行う。

●受講生へのコメント

我々が日々関わり囲まれている「言葉の世界」には、少し見方を変えることで得られる「小さな発見」がたくさん潜んでいる。言葉は、自分自身の一部であるとともに、他者とつながる架け橋でもある。上に述べた「発見」は、自分とは何者か、自分が接する社会とはどのような存在か、という問題に何かしらの手がかりを与えてくれると思う。進んで言葉の世界へ赴き、探求の旅を楽しんでもらいたい。

●参考文献・教材

テキストは教員が準備して各回の授業に先立って配布する。参考文献は適宜教室で指示するが、以前にこの講義で用

いた以下の本は、参考図書として有用と考える。

・町田健著『町田健のたのしい言語学』2004年、ソフトバンクパブリッシング
・佐久間淳一、加藤重広、町田健著『言語学入門：これから始める人のための入門書』2004年、研究社
・星浩司著『言語学への扉』2006年、慶應義塾大学出版会
・佐久間淳一著『はじめてみよう言語学』2007年、研究社
・大津由紀雄編著『はじめて学ぶ言語学－ことばの世界をさぐる17章』2

授業科目名	科目NO.	LCLNG2510	授業コード	LM14300010	
言語応用学総合研究Ⅱ Advanced Comprehensive Studies in Linguistics Applied Ⅱ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	山崎　雅人／小倉　雅明／田中　一彦／辻　香代				

●科目の主題

本講義は、初めてこの学問に接する人が、多岐に渡る言語学の知識を取得することで、その知的な面白さを感じ取れるように、言語学を構成するさまざまな分野を理解することを主題とする。

●到達目標

受講生が言語学の基本概念に関する知識を習得することを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

テキストは、受講生の既存の知識を確認しながら理解が深まるように工夫された自作教材を用いる。そこでは、受講者は与えられた課題への自分の考えをまずまとめ、後に解説を聞くことで自分の考えの当否を確認しながら、言語研究の基礎的知識を獲得してゆく。

第1回　言語学への招待　その1
第2回　言語学への招待　その2
第3回　構造について　その1
第4回　構造について　その2
第5回　研究方法について　その1
第6回　研究方法について　その2
第7回　比較言語学　その1
第8回　比較言語学　その2
第9回　類型論　その1
第10回　類型論　その2
第11回　記号論
第12回　社会言語学
第13回　心理言語学
第14回　応用言語学
第15回　言語哲学と文学

●事前・事後学習の内容

事前学習としては、予め指定された各回のテーマに関する重要な概念を意味する学術用語を、授業に先立って調べて罫線紙に書いて持って来ること。事後学習としては、授業で触れた内容を題材とした宿題を出すので、それに対する解答を準備して次の授業で提出すること。

●評価方法

受講生は、授業中の課題や指名に対して各自で考えて応答するとともに、宿題としての課題への解答を提出する。さらに、その日の講義内容に関して、「興味が持てたこと」と「理解ができなかったこと」（初めのうちは講義に関する要望を可とする場合もある）をまとめることで復習とする。こうした毎回の作業をきちんとこなすことと、規定以上の出席回数を満たすことに基づいて、成績評価を行う。

●受講生へのコメント

我々が日々関わり囲まれている「言葉の世界」には、少し見方を変えることで得られる「小さな発見」がたくさん潜んでいる。言葉は、自分自身の一部であるとともに、他者とつながる架け橋でもある。上に述べた「発見」は、自分とは何者か、自分が接する社会とはどのような存在か、という問題に何かしらの手がかりを与えてくれると思う。進んで言葉の世界へ赴き、探求の旅を楽しんでもらいたい。

●参考文献・教材

テキストは教員が準備して各回の授業に先立って配布する。参考文献は適宜教室で指示するが、以前にこの講義で用

いた以下の本は、参考図書として有用と考える。

・町田健著『町田健のたのしい言語学』2004年、ソフトバンクパブリッシング
・佐久間淳一、加藤重広、町田健著『言語学入門：これから始める人のための入門書』2004年、研究社
・星浩司著『言語学への扉』2006年、慶應義塾大学出版会
・佐久間淳一著『はじめてみよう言語学』2007年、研究社
・大津由紀雄編著『はじめて学ぶ言語学－ことばの世界をさぐる17章』2

授業科目名	科目NO.		授業コード	LM18000130	
修士論文（言応） Master's Thesis				単位数	
授業形態	担当教員名				
講義	山崎　雅人／田中　一彦				

●科目の主題

本講義は、初めてこの学問に接する人が、多岐に渡る言語学の知識を取得することで、その知的な面白さを感じ取れるように、言語学を構成するさまざまな分野を理解することを主題とする。

●到達目標

受講生が言語学の基本概念に関する知識を習得することを到達目標とする。

●授業内容・授業計画

テキストは、受講生の既存の知識を確認しながら理解が深まるように工夫された自作教材を用いる。そこでは、受講者は与えられた課題への自分の考えをまずまとめ、後に解説を聞くことで自分の考えの当否を確認しながら、言語研究の基礎的知識を獲得してゆく。

第1回　言語学への招待　その1
第2回　言語学への招待　その2
第3回　構造について　その1
第4回　構造について　その2
第5回　研究方法について　その1
第6回　研究方法について　その2
第7回　比較言語学　その1
第8回　比較言語学　その2
第9回　類型論　その1
第10回　類型論　その2
第11回　記号論
第12回　社会言語学
第13回　心理言語学
第14回　応用言語学
第15回　言語哲学と文学

●事前・事後学習の内容

事前学習としては、予め指定された各回のテーマに関する重要な概念を意味する学術用語を、授業に先立って調べて罫線紙に書いて持って来ること。事後学習としては、授業で触れた内容を題材とした宿題を出すので、それに対する解答を準備して次の授業で提出すること。

●評価方法

受講生は、授業中の課題や指名に対して各自で考えて応答するとともに、宿題としての課題への解答を提出する。さらに、その日の講義内容に関して、「興味が持てたこと」と「理解ができなかったこと」（初めのうちは講義に関する要望を可とする場合もある）をまとめることで復習とする。こうした毎回の作業をきちんとこなすことと、規定以上の出席回数を満たすことに基づいて、成績評価を行う。

●受講生へのコメント

我々が日々関わり囲まれている「言葉の世界」には、少し見方を変えることで得られる「小さな発見」がたくさん潜んでいる。言葉は、自分自身の一部であるとともに、他者とつながる架け橋でもある。上に述べた「発見」は、自分とは何者か、自分が接する社会とはどのような存在か、という問題に何かしらの手がかりを与えてくれると思う。進んで言葉の世界へ赴き、探求の旅を楽しんでもらいたい。

●参考文献・教材

テキストは教員が準備して各回の授業に先立って配布する。参考文献は適宜教室で指示するが、以前にこの講義で用

いた以下の本は、参考図書として有用と考える。

・町田健著『町田健のたのしい言語学』2004年、ソフトバンクパブリッシング
・佐久間淳一、加藤重広、町田健著『言語学入門：これから始める人のための入門書』2004年、研究社
・星浩司著『言語学への扉』2006年、慶應義塾大学出版会
・佐久間淳一著『はじめてみよう言語学』2007年、研究社
・大津由紀雄編著『はじめて学ぶ言語学－ことばの世界をさぐる17章』2

授業科目名	科目NO.	LDASA3601	授業コード	LM16220010	
アジア都市文化学研究指導Ⅰ Instruction for Studies in Asian Culture and Urbanism I				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	菅原　真弓／多和田　裕司／増田　聡				

●科目の主題

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「アジア都市文化学研究指導Ⅰ」（前期）、「アジア都市文化学研究指導Ⅱ」（後期）の指導によって完成させる。

前期の「アジア都市文化学研究指導Ⅰ」では、1年次までの学修に基づき、修士論文の執筆計画を立て、修士論文構想発表会、修士論文中間発表会といった機会を柱としながら、修士論文に必要な知識、技能を修士論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1) 修士論文執筆計画を立て実施する
(2) 問題意識を整理し、研究課題の学術的意義を提示する
(3) 研究目的に応じた適確な課題を設定する
(4) 研究課題に応じた適切な研究方法を計画する
(5) 研究課題に応じた先行研究の読み込みを行う
(6) 研究課題に応じた実験結果、調査結果、文献資料を蓄積する
(7) 修士論文研究に関わる研究倫理について考える

●授業内容・授業計画

第1回　オリエンテーション

修士論文とは何か（確認）

アジア都市文化学の方法論（確認）

修士論文研究・執筆計画について

修士論文の評価規準・基準について

第2回～第5回　修士論文構想発表会（連続4コマ）

テーマに関する問題意識の整理

予想される（期待している）結論

研究方法の目処

同学年他学年の学生、複数の教員との質疑応答から学ぶ

第6回　研究計画に即して研究倫理を考える

第7回　先行研究の読み込み

第8回　「先行研究の整理」の意義と方法

第9回　修士論文の章立て

第10回　実験、調査、文献分析の計画と結果の予想

第11回～第14回　修士論文中間発表会―章立ての仮決定のために―（連続4コマ）

問題意識の提示

論証しようとしていること（仮の結論）

論証のための方法とその目処

章立て

これからの課題

第15回　修士論文中間発表会のふりかえり

●事前・事後学習の内容

第1回　修士論文計画を立てて提出する
　　修士論文構想発表会の準備を行い、レジュメを作成する。
第2回～第5回　修士論文構想発表会の議論を踏まえ、自分の修士論構想を練り直す。
第6回　自分の研究計画に即して研究倫理を考え、研究倫理の観点から研究計画を練り上げる。
第7回　研究課題に応じた先行研究の読み込みを計画し、読み込んだ結果を発表する。
第8回　自分の修士論文に必要な「先行研究の整理」を行ってみる。
第9回　修士論文の章立てを考える。
第10回　修士論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。

●評価方法

修士論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

●受講生へのコメント

修士論文は2年間の修士課程の集大成である。アジア都市文化学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

「アジア都市文化学研究指導Ⅰ」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、修士論文に主体的に取り組み、修士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

特に指定しない。

授業科目名	科目NO.	LDASA3602	授業コード	LM16230010	
アジア都市文化学研究指導Ⅱ Instruction for Studies in Asian Culture and Urbanism Ⅱ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	菅原 真弓／多和田 裕司／増田 聡				

●科目の主題

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「アジア都市文化学研究指導Ⅰ」（前期）、「アジア都市文化学研究指導Ⅱ」（後期）の指導によって完成させる。

後期の「アジア都市文化学研究指導Ⅱ」では、修士論文の仕上げに向けて、修士論文中間発表会といった機会を柱としながら、修士論文に必要な知識、技能を修士論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1) 修士論文の評価規準と基準を知る
(2) 執筆途上において、その時点の自分の修士論文を評価基準に準拠して点検する
(3) 点検の結果を踏まえ、修士論文計画・執筆計画を修正しながら修士論文を完成させる

●授業内容・授業計画

第1回 修士論文の進捗状況の報告
第2回 修士論文の評価基準の確認
第3回～第6回 修士論文中間発表会（4コマ連続）
　完成に向けての執筆方針の確認
　（研究方法論、課題設定、先行研究の整理章立て等）
　完成に向けての研究・執筆計画
第7回 修士論文中間発表会の振り返り
第8回 問題意識と学術的意義を扱う部分についての点検
第9回 研究目的に応じた課題設定を扱う部分について点検
第10回 研究手法の説明を扱う部分についての点検
第11回 先行研究を扱う部分についての点検
第12回 実験結果、調査結果、文献分析を扱う部分についての点検
第13回 論理の組み立てや一貫性に関する点検
第14回 学術論文としての表現、表記法等に関する点検
第15回 研究倫理の側面からの修士論文の点検
　修士論文作成全体を通しての振り返り

●事前・事後学習の内容

第1回 修士論文研究進捗状況の報告レジュメ提出
第2回 修士論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。
第3回～第6回 修士論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の修士論研究・執筆計画を練り直す。
第7回 完成までの期間の研究・執筆計画を立てる。
第8回 点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。
第9回 点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。
第10回 点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補

●評価方法

修士論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

「アジア都市文化学研究指導Ⅱ」の評価は、「修士論文」の評価と同時期に行われるが、後者が論文の内容そのも

のの質が評価されるのに対して、前者は、論文作成過程の学修状況が評価の対象となる。ただし、仮に「修士論文」が不可となった場合は、「アジア都市文化学研究指導Ⅱ」も不可となる。

●受講生へのコメント

修士論文は2年間の学士課程の集大成である。アジア都市文化学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

「アジア都市文化学研究指導Ⅱ」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、修士論文に主体的に取り組み、学士課程を集大成させてほしい。

●参考文献･教材

特に指定しない。

授業科目名	科目NO.		授業コード	LM18000150	
修士論文（アジア） Master's Thesis			単位数		
授業形態	担当教員名				
演習	菅原 真弓／多和田 裕司／増田 聡				

●科目の主題

文学研究科では、修士論文を通しての学修を重視しており、ディプロマポシシーで定める学修成果を学生が修めることができるよう、修士課程の2年間をとおし、授業科目における指導のほか、専修ごとの修士論文ガイダンス、修士論文構想発表会、修士論文中間発表会など、学生どうしが切磋琢磨できる機会を設け、あわせて、きめこまかな個別指導を行う。修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「アジア都市文化学研究指導Ⅰ」「アジア都市文化学研究指導Ⅱ」の指導によって完成させる。

●到達目標

修士論文の審査基準は次のとおりであり、これを到達目標とする。

（1）修士論文は、アジア都市文化学分野における一定の研究成果を示すものでなければならない。

（2）（評価基準）修士論文は以下の各項目について、アジア都市文化学分野における十分な水準を満たさなければならない。

(a) 研究課題（テーマ）の学術的意義
明確な問題意識に基づき、教育学分野【←専修に応じて書き換えてください】における研究の学術的意義が述べられていること。

(b) 研究課題の的確性
研究目的に応じた的確な課題が設定されていること。

(c) 研究方法の妥当性
研究を遂行する上で、適切な研究手法がもちいられていること。

(d) 先行研究との関連
当該専門分野における主たる先行研究を踏まえたものであること。

(e) 資料利用の適切性
論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などが適切にもちいられていること。

(f) 論旨の一貫性
論旨が論理的に組み立てられ、一貫して展開されていること。

(g) 学術論文としての体裁
表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、アジア都市文化学分野の慣例に従ったものであること。

(h) 研究倫理の遵守
研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、アジア都市文化学分野が定める研究上守るべき倫理基準が満たされていること。

（3）（論文の体裁）修士論文は、論を展開する上で、アジア都市文化学分野の特性に応じた十分な分量でなければならない。

●授業内容・授業計画

※各回の授業内容の記述は「修士論文」にそぐわないので省略する。なお、「修士論文」に連動するものとして、「アジア都市文化学研究指導Ⅰ」「アジア都市文化学研究指導Ⅱ」のシラバスを参照すること。

●事前・事後学習の内容

※各回の事前・事後学習の内容の記述は「修士論文」にそぐわないので省略する。なお、「修士論文」に連動するものとして、「アジア都市文化学研究指導Ⅰ」「アジア都市文化学研究指導Ⅱ」のシラバスを参照すること。

●評価方法

修士論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学研究科内規」にしたがい、研究科教授会において当該専攻の教員から主査1 名、副査2名を審査員として選出した上で審査をおこなう。２月に実施する面接試験の日時は、各専修から通知する。修士論文審査については、文学研究科が定める「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがって実施する。

●受講生へのコメント

「修士論文」および「アジア都市文化学研究指導Ⅰ」は、修士論文を提出する年度の前期に、「アジア都市文化学研

究指導Ⅱ」は後期の履修登録期間中にWeb履修登録すること。修士論文は2年間の博士前期課程の集大成である。アジア都市文化学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

●参考文献･教材

指定しない。

授業科目名	科目NO.	LEGEN1501	授業コード	LM00130010
文化構想学研究a(表現文化) Advanced Studies in Cultural Management:a(Culture and Representation)			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	増田　聡／野末　紀之／高島　葉子／海老根　剛			

●科目の主題

本講義では、現代文化としての表現文化（映画、演劇、文芸、アート、音楽、マンガ、ゲーム、ファッション、建築や都市景観、インターネットアプリケーションなど）を考えるための基礎的な論点を講じる。カルチュラル・スタディーズや大衆文化論、批判理論、表象文化論、文学理論などからの表現文化へのアプローチを概説するとともに、担当教員が専門とする表現文化ジャンルについて文化構想学の観点から論じる。講義科目であるが、随時、テーマに関して討論を行う。

●到達目標

文化構想学の観点から現代文化としての表現文化を考察するにための理論と基礎的な論点を学ばせることを目的とする。

●授業内容・授業計画

第1回～第3回:増田聡担当

ポピュラー文化研究の近年のトピックを概観するとともに、ポピュラー文化諸ジャンルの相互関係についてメディア論的な観点より講義する。さらにポピュラー音楽の領域を対象に、今日の文化実践における諸問題について検討を行い、文化を構想す手法への導入とする。

第4回～第7回:野末紀之担当

文学の表象とその制度化の歴史、作品読解の規範化とその変遷を対象とする研究について講義する。

第8回～第10回:高島葉子担当

民間説話・伝承に関する研究方法とこれらの題材が創作作品(児童文学など)の中でどのように表現され、変容しているか、時代や社会との関係のなかで考察する方法を講義する。

第11回～第14回:海老根剛担当

映画やアニメーション、ゲームといった映像文化の今日的動向とそれを考察する諸理論について講義する。

第15回:まとめ

●事前・事後学習の内容

第1回～第3回：授業前は、指定されたポピュラー文化に関する文献・資料を読んでおく。
授業後は、講義内容の論点を整理し、受講生の関心に応じて参考文献を参照する。

第4回～第7回：授業前は、文学の表象と文学の表象による制度化、作品読解の規範化についての指定された文献・資料を読んでおく。
授業後は、講義内容の論点を整理し、受講生の関心に応じて参考文献を参照する。

第8回～第10回：授業前は、民間説話・伝承の改変、アダプテーションに関する指定された文献

●評価方法

授業での討論30%、期末レポート70%により総合的に評価する。講義内容を踏まえて、受講生自身の関心を基に独自の観点から論を展開しているかいなかを評価基準とする。討論において必ず発言し、指定した字数を満たした論理的に破綻のないレポート作成することが、合格の最低基準である。

●受講生へのコメント

自己の研究領域のみではなく、表現文化学研究全般における基本概念についても習得・確認することを常に心がけること。

●参考文献・教材

各担当者が授業中、あるいはHPで指示する。

授業科目名	科目NO.	LEGEN1502	授業コード	LM00140010	
文化構想学研究b(アジア文化) Advanced Studies in Cultural Management:b (Asian Culture)				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	多和田　裕司／松浦　恆雄／堀　まどか				

●科目の主題

本講義では、地域文化研究、比較文化研究の立場から、文化の実践的、課題解決的な活用に向けての方策について考察する。文化の実践的活用には、他地域との対比のなかで地域の文化的文脈を適切に理解するとともに、地域性を踏まえた活用方法をもちいなければならない。講義においては、日本を含めた東アジアおよび東南アジアにおける地域に根ざした文化の活用可能性について、具体的な実践例を踏まえて検討する。あわせて、受講者に、文化の実践的活用にたいして、相対的、比較文化的な視点を持たせることを目的とする。

●到達目標

東アジアおよび東南アジアにおける地域に根ざした文化の活用可能性について、実践例などを踏まえて説明することができる。文化の実践的活用を相対的、比較文化的な視点からとらえることができる。

●授業内容・授業計画

この授業は対面によって実施する。

第1回　東アジア中華圏における伝統演劇を中心とする伝統文化を対象とし、その現代的な文化活用のあり方について講義する。

第2回　同上

第3回　同上

第4回　同上

第5回　同上

第6回　東南アジアのイスラーム圏を例に、イスラーム文化の活用による国家運営が多文化・多宗教社会における国民統合や共生的社会の確立に及ぼしてきた影響について講義する。

第7回　同上

第8回　同上

第9回　同上

第10回　同上

第11回　日本をアジアのなかの地方として把握し、文芸文化の交渉の歴史や実態、比較文化研究の方法と意義について講義する。

第12回　同上

第13回　同上

第14回　同上

第15回　同上

●事前・事後学習の内容

授業中に配布される資料等をもとに、基本的概念や用語などについて事前、事後に確認しておくこと。

●評価方法

到達目標への達成度をもとに評価する。評価は、期末レポートによって行う。

●受講生へのコメント

文化の実践的活用に関する自らの研究を、相対的、比較文化的にとらえるための視点を身につけてほしい。

●参考文献・教材

授業中に適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LEGEN1503	授業コード	LM00150010
文化構想学研究c（文化資源） Advanced Studies in Cultural Management:c(Cultural Resources)			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	菅原　真弓／沼田　里衣／小田中　章浩／天野　景太			

●科目の主題

文化構想学研究の基礎に関する科目のうち、文化資源学分野の事項を主たる内容とした講義科目である。文化構想学の主要な対象である文化の創造・創発に関する事象、および文化の社会的運用のあり方について、多様な事例に基づきつつ原理的な考察をおこなう。文化資源学専攻に所属する4名の教員によるオムニバス講義とする。

●到達目標

文化の創造・創発に関する多様な事象、および文化の社会的運用のあり方に関する基礎的な研究および手法について理解することができる。さらに、自らの研究テーマと関連づけながら具体的な事例を想起し、考察を展開することができる。

●授業内容・授業計画

第1回：ガイダンス（天野）

第2回：文化および文化構想学に関する基礎研究（天野）

第3回：文化政策（政治・制度的視点）に関する研究（天野）

第4回：文化政策（経済・経営的視点）に関する研究（天野）

第5回：視覚芸術と文化資源（1）：文化資源学の考え方（菅原）

第6回：視覚芸術と文化資源（2）：美術史学と文化資源学（菅原）

第7回：博物館と文化資源（1）：文化資源を収集、保存、研究、公開する「ハコ」として（菅原）

第8回：博物館と文化資源（2）：文化資源としての博物館（菅原）

第9回：演劇と文化資源（1）：演劇の起源と共同体の形成（小田中）

第10回：演劇と文化資源（2）：演劇の上演と共同体の維持（小田中）

第11回：演劇と文化資源（3）：ショービジネスと共同体（小田中）

第12回：文化構想における福祉的観点（沼田）

第13回：音楽教育と文化実践（沼田）

第14回：文化構想に関する実践研究（沼田）

第15回：まとめ（天野）

●事前・事後学習の内容

事前学習として、毎回次の回のテーマに関する文献・論文を指示する。次回までに、それらを熟読した上で、疑問点や論点を整理し、ノートに記録しておくこと。事後学習として、授業を通じて得られた知識に関連する具体例を文献やWEB等を通じて調べておくこと。

●評価方法

文化構想学研究に関する理論的・方法論的知識の理解度、およびそれらの応用能力により評価する。毎回の講義後に提出してもらう小レポート（40%）および、期末レポート（60%）によって行う。自らが研究テーマとする文化事象を文化構想学的な視点から考察するための基礎的能力を獲得することが、単位取得の最低要件である。

●受講生へのコメント

本授業は、文化資源学専修の教員が担当するが、履修にあたり文化資源学研究に関する前提知識は必要としない。文化資源学専修所属の院生のみならず、幅広い専修からの履修を歓迎する。

●参考文献・教材

毎回ごとに指示する。また、プリントを配布する場合もある。

授業科目名	科目NO.	LEART2501	授業コード	LM19010010	
テクスト文化論研究 Advanced Studies in Culture Theory				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	野末　紀之				

●科目の主題

19世紀半ばから20世紀半ばごろまでの欧米の代表的なカルチャー（文化、教養）論を取上げて、その主張および背景を理解するとともに、現代につながる問題点について考察する。

●到達目標

欧米でポピュラー文化（大衆文化）が発展する1920年代以後、カルチャーをめぐるさまざま議論が活発になった。それらの精読を通じ、大学院生が各自関心をもつ文化現象や表現を考察するさいに踏まえておくべき有益な知見や視点を獲得することが目標である。

●授業内容・授業計画

第1回:イントロダクション

第2回:「カルチャー」への基本的視点

第3回:「文化と教養」(M・アーノルド)

第4回:「大衆文化論」の基本的立場

第5回:「読書の衰退」(Q・D・リーヴィス)

第6回:「文化と文明」(F・R・リーヴィス)

第7回:「大衆文化論」(D・マクドナルド)

第8回:批判理論(T・アドルノ)(1)

第9回:批判理論(T・アドルノ)(2)

第10回:批判理論(W・ベンヤミン)

第11回:左派の文化論(G・オーウェル、R・ホガート)

第12回:左派の文化論(R・ウィリアムズ)(1)

第13回:左派の文化論(R・ウィリアムズ)(2)

第14回:まとめ

第15回:試験

●事前・事後学習の内容

辞書を綿密に引き、内容を理解する事前学習に2時間、内容確認と問題点の整理および考察のための事後学習に1時間必要。

●評価方法

必要な出席回数を満たしたうえで、平常点（30%）、レポート（35%）、試験（35%）による。

●受講生へのコメント

同じようなテーマを扱った作品を積極的に読んでほしい。

●参考文献・教材

プリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LEART2502	授業コード	LM19020010	
テクスト文化論研究演習 Advanced Seminar in Culture Theory				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	野末　紀之				

●科目の主題

現代のポピュラー文化にかんする代表的な英語論文を精読することで、文化領域への視野をひろげ、かつ考察を深める。

●到達目標

さまざまな文化領域にかんする論文を緻密に読み、考察を深めることで、各自の専門研究を発展するさいに有益な知見と視点とを身につけることが目標である。

●授業内容・授業計画

第1回:イントロダクション

第2回:ファッションをめぐる論文(1)

第3回:ファッションをめぐる論文(2)

第4回:ツーリズムをめぐる論文(1)

第5回:ツーリズムをめぐる論文(2)

第6回:広告写真をめぐる論文(1)

第7回:広告写真をめぐる論文(2)

第8回:広告写真をめぐる論文(3)

第9回:映画をめぐる論文(1)

第10回:映画をめぐる論文(2)

第11回:映画をめぐる論文(3)

第12回:ポピュラー音楽をめぐる論文(1)

第13回:ポピュラー音楽をめぐる論文(2)

第14回:まとめ

第15回:試験

●事前・事後学習の内容

辞書を綿密に引いて内容理解に迫るための事前学習に2時間、内容確認と問題点の整理の事後学習に1時間必要。

●評価方法

必要な出席回数を満たしたうえで、平常点（30%）、レポート（35%）、試験（35%）による。

●受講生へのコメント

さまざまな文化領域への関心を育んでほしい。

●参考文献・教材

プリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LEART2503	授業コード	LM19030010
比較表現論研究 Advanced Studies in Comparative Representation			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	高島　葉子			

●科目の主題

本講義では、物語、特に民話、神話など本来口承文芸であった物語を中心に、その研究のための理論的枠組みと方法論を講義する。口承文芸は人類最古の物語形式であるが、無文字社会を含む様々な構造と体制の社会の中で、いかに物語が構想され、表現され、受容され、改変されてきたのか、物語を語る行為の持つ意味と役割、そして社会と物語のダイナミックな関係について、口承文芸学のみならず、比較文化・比較文学、文化人類学、歴史学、ジェンダー論等学際的観点から検討する方法を、研究書、論文の講読を通して学ぶ。

●到達目標

文化・社会と説話の関係、説話の変容、改変を研究する視点と方法を身につける。今年度は、Jack Zipsの著作を講読することを通して文化社会学的視点からの説話の研究方法を学ぶ。

●授業内容・授業計画

第1回:オリエンテーション

第2回:文献講読と質疑応答・解説

第3回:文献講読と質疑応答・解説

第4回:受講生による問題提起と討論

第5回:文献講読と質疑応答・解説

第6回:文献講読と質疑応答・解説

第7回:受講生による問題提起と討論

第8回:文献講読と質疑応答・解説

第9回:文献講読と質疑応答・解説

第10回:文献講読と質疑応答・解説

第11回:受講生による問題提起と討論

第12回:文献講読と質疑応答・解説

第13回:文献講読と質疑応答・解説

第14回:文献講読と質疑応答・解説

第15回:受講生による問題提起と討論

●事前・事後学習の内容

毎回、授業前には講読箇所の予習を行い、要点をまとめておく。授業後は、講読箇所の理解を深める。

●評価方法

授業への参加40%、学期末レポート60%で評価する。毎回の授業では、文献講読の正確さを質擬応答により評価し、期末レポートでは、文献講読を通して得た知見を踏まえて、独自の見解を展開することができているかによって評価する。毎回の予習と、指示した字数を満たし論理的に展開した期末レポートの提出を、合格のための最低基準とする。

●受講生へのコメント

グリム、ペローの童話、イギリス民話の代表的話を読み、民間説話の基本的な知識は予め学習しておく必要がある。随時、日本の民話についても考察する機会を設けるので、代表的な日本の民話、昔話を確認しておいてほしい。

●参考文献・教材

Jack Zipes, Fairy Tale as Myth: Myth as Fairy Tale (1993)抜粋でプリントを配布する

授業科目名	科目NO.	LEART2504	授業コード	LM19040010	
比較表現論研究演習 Advanced Seminar in Comparative Representation				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	高島　葉子				

●科目の主題

民間伝承、民間説話のに関する海外の論文、研究書（英語と日本語翻訳）を読むことを通じて、フォークロア研究に関係する学説、理 論、研究方法などについて学ぶ。

●到達目標

修士論文のテーマ設定を意識しつつ文献を講読することで、研究方法について学ぶとともに、各自の関心領域についての知識を深める。演習の後半には、それぞれの関心に応 じた個人報告を求める。学会発表における報告スタイル、プレセンテーション能力を身につける。

●授業内容・授業計画

フォークロア（民間伝承）、民間説話のに関する論文、研究書（英語と日本語）を輪読する。担当者にレジュメを作成して報告してもらった後、受講生全員で討論し理解を深める。 学期末には各自のテーマで発表し、レポートにまとめてもらう。（対面授業を予定しているが、状況により遠隔授業あるいは混合授業に変更する可能性もある。）

第1回 ガイダンス
第2回 文献講読と討論
第3回 文献講読と討論
第4回 文献講読と討論
第5回 文献講読と討論
第6回 文献講読と討論
第7回 文献講読と討論
第8回 文献講読と討論
第9回 文献講読と討論
第10回 文献講読と討論
第11回 各自のテーマに基づく研究報告
第12回 各自のテーマに基づく研究報告
第13回 各自のテーマに基づく研究報告
第14回 各自のテーマに基づく研究報告
第15回 まとめ

●事前・事後学習の内容

事前に文献を読み込み、事後に学んだ知識を定着させ、それに基づいて各自で考察を行う。

●評価方法

授業での報告および議論への参加50%、レポート50%で評価する。

●受講生へのコメント

授業に積極的に参加し、発言することを心がけてほしい。

●参考文献・教材

受講生と相談の上、プリント配布する。

授業科目名	科目NO.	LEART2505	授業コード	LM19050010
ポピュラー文化論研究 Advanced Studies in Popular Culture			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	増田　聡			

●科目の主題

本講義では、音楽をはじめとしたポピュラー文化の表現と構造を研究するための学際的方法論を学ぶ。「ポピュラー文化」概念の史的理解を踏まえつつ、主として （1）文化研究・大衆文化論（2）芸術学・美学（3）メディア論の三領域におけるポピュラー文化研究の理論と方法を概観するとともに、受講生の研究関心に応じて主要研究や最新研究のリサーチを行い、ポピュラー文化研究に必要な素養を養成する。また、都市空間やネット空間におけるポピュラー文化の現状調査の方法を身につけ、新たな文化表現・文化実践を構想するための基礎的知見を養う。

●到達目標

ポピュラー文化研究に関する理論的視点の概要を身につけ、自身の研究テーマに応じて的確な理論を取り入れ、自身の研究の研究史的位置付けについて的確に説明できるようになること。

●授業内容・授業計画

第1回:オリエンテーション

第2回:ポピュラー文化概念の歴史

第3回:大衆文化論(1)

第4回:大衆文化論(2)

第5回:大衆文化論(3)

第6回:メディア論(1)

第7回:メディア論(2)

第8回:メディア論(3)

第9回:ポピュラー文化の美学(1)

第10回:ポピュラー文化の美学(2)

第11回:カルチュラル・スタディーズ(1)

第12回:カルチュラル・スタディーズ(2)

第13回:ポピュラー文化の調査法(1)

第14回:ポピュラー文化の調査法(2)

第15回:まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習：毎回提示されるテキストの該当箇所を事前に精読し、内容を把握するとともに疑問点をメモしておく。第１３回、第１４回については、調査対象に関する知見を指示された方法で身につけ、調査に備える。

事後学習：授業内の討議を踏まえて、テキストを再読し、理論的要点を把握する。第１３回、第１４回については、調査を踏まえて明らかになった知見をまとめておく。

●評価方法

ポピュラー文化研究に関する理論的視点の概要を身につけ、自身の研究テーマに応じて的確な理論を取り入れ、自身の研究を研究史的に位置付ける能力について評価を行う。授業での報告や討議への貢献に基づいて総合的に評価する（100%）。ポピュラー文化研究の理論史の概要の把握、および自身の研究テーマとの関連について解説できることを合格の最低基準とする。

●受講生へのコメント

授業内容の理解を確認しつつ進むので、積極的に発言を行うことが望まれる。また、受講生の関心と能力に応じて都市空間やネット空間における実践調査を行うこともある。

●参考文献・教材

渡辺裕監訳『アドルノ　音楽・メディア論集』（平凡社）、Th.W.アドルノ『音楽社会学序説』（平凡社）、毛利嘉孝『ポピュラー音楽と資本主義』（せりか書房）。その他、授業内で指示する。

授業科目名	科目NO.	LEART2506	授業コード	LM19060010	
ポピュラー文化論研究演習 Advanced Seminar in Popular Culture				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	増田　聡				

●科目の主題

音楽をはじめとしたポピュラー文化、現代文化の表現と構造を研究するための観点と方法論の訓練を行う。（1）文化研究・大衆文化論（2）芸術学・美学（3）メディア論の領域から、受講生の能力と関心に基づいて選択された日本語あるいは英語文献を精読することで、ポピュラー文化研究に必要となる研究手法と理論的思考力を発展させ、各自の関心に応じた研究対象に対して適切に用いることができる能力を養成する。また、理論的な研究を文化実践へと展開させる構想力を獲得すべく、必要に応じて都市空間やネット空間におけるポピュラー文化実践の現状

●到達目標

ポピュラー文化研究に関する理論的視点の最新の研究動向について把握し、自身の研究テーマに応じて的確な理論を取り入れ、適切な理論的観点を用いて説明できるようになること。

●授業内容・授業計画

第1回:オリエンテーション

第2回:文献購読と討議(文化研究・大衆文化論)

第3回:文献購読と討議(文化研究・大衆文化論)

第4回:文献購読と討議(文化研究・大衆文化論)

第5回:文献購読と討議(文化研究・大衆文化論)

第6回:文献購読と討議(ポピュラー音楽の美学)

第7回:文献購読と討議(ポピュラー音楽の美学)

第8回:文献購読と討議(ポピュラー音楽の美学)

第9回:文献購読と討議(ポピュラー音楽の美学)

第10回:文献購読と討議(メディア論)

第11回:文献購読と討議(メディア論)

第12回:文献購読と討議(メディア論)

第13回:文献購読と討議(メディア論)

第14回:文献購読と討議(メディア論)

第15回:まとめ

●事前・事後学習の内容

事前学習：毎回提示されるテキストの該当箇所を事前に精読し、内容を把握するとともに疑問点をメモしておく。

事後学習：授業内の討議を踏まえて、テキストを再読し、理論的要点を把握する。

●評価方法

ポピュラー文化研究に関する理論的視点の最新の研究動向について把握し、自身の研究テーマに応じて的確な理論を取り入れ、適切な理論的観点を用いて説明できる能力について評価を行う。授業での報告や討議への貢献を総合的に評価する（100%）。ポピュラー文化研究の近年の動向の把握、および自身の研究テーマとの関連について解説できることを合格の最低基準とする。

●受講生へのコメント

授業内容の理解を確認しつつ進むので、積極的に発言を行うことが望まれる。また、受講生の関心と能力に応じて都市空間やネット空間における実践調査を行うこともある。

●参考文献・教材

毛利嘉孝（編）『アフター・ミュージッキング』（東京藝術大学出版会）、石田英敬『現代思想の教科書』（ちくま学芸文庫）を予定するが、履修者の関心に応じて変更する可能性がある。授業内で適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LEART2507	授業コード	LM19070010	
表象文化構造論研究 Advanced Studies in Culture and Representation				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	海老根 剛				

●科目の主題

現在、さまざまな表現ジャンルを横断する形で「人形」という主題が注目を集めている。ポピュラーカルチャー、アニメーション、映画、現代美術、パフォーマンスから日本の伝統芸術である人形浄瑠璃まで、人形にかかわる多様な表現が生み出されているだけでなく、ジャンル横断的なコラボレーションの試みもなされている。今年度の授業では、人形をめぐる理論と表現を多面的に考察する。具体的には人形をめぐる多様な分野の学術的文献の購読と人形をモチーフとした様々なジャンルの作品の考察を平行して行う。

●到達目標

人形をめぐる様々な学術的研究の購読と文化的表現の分析を通して表現文化研究の手法を学び、そこで得られた知見をみずからの研究に役立てる。

●授業内容・授業計画

第1回 イントロダクション
第2回 人形文化論(1)
第3回 人形文化論(2)
第4回 人形文化論(3)
第5回 作品分析とディスカッション
第6回 哲学的人形論(1)
第7回 哲学的人形論(2)
第8回 哲学的人形論(3)
第9回 作品分析とディスカッション
第 10 回 人形と文学(1)
第 11 回 人形と文学(2)
第 12 回 人形と文学 (3)
第 13 回 作品分析とディスカッション
第 14 回 前期のまとめ

●事前・事後学習の内容

各回の授業で購読する文献を読んで授業に参加すること。また各自で文献で論じられている作品などを鑑賞することが望ましい。

●評価方法

授業中に行う発表にもとづいて評価する。

●受講生へのコメント

各自の研究関心に引き寄せて文献を読み、みずからの研究に役立ててください。

●参考文献・教材

適宜、プリントなどを配布する。

授業科目名	科目NO.	LEART2508	授業コード	LM19080010	
表象文化構造論研究演習 Advanced Seminar in Culture and Representation				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	海老根 剛				

●科目の主題

後期の授業も前期に引き続いて人形をめぐる言説と表現を考察する。

現在、さまざまな表現ジャンルを横断する形で「人形」という主題が注目を集めている。ポピュラーカルチャー、アニメーション、映画、現代美術、パフォーマンスから日本の伝統芸術である人形浄瑠璃まで、人形にかかわる多様な表現が生み出されているだけでなく、ジャンル横断的なコラボレーションの試みもなされている。今年度の授業では、人形をめぐる理論と表現を多面的に考察する。具体的には人形をめぐる多様な分野の学術的文献の購読と人形をモチーフとした様々なジャンルの作

●到達目標

人形をめぐる様々な学術的研究の購読と文化的表現の分析を通して表現文化研究の手法を学び、そこで得られた知見をみずからの研究に役立てる。

●授業内容・授業計画

第1回 イントロダクション

第2回 人形と映画(1)

第3回 人形と映画(2)

第4回 人形と映画(3)

第5回 作品分析とディスカッション

第6回 人形とアニメーション(1)

第7回 人形とアニメーション(2)

第8回 人形とアニメーション(3)

第9回 作品分析とディスカッション

第 10 回 人形浄瑠璃をめぐって(1)

第 11 回 人形浄瑠璃をめぐって(2)

第 12 回 人形浄瑠璃をめぐって (3)

第 13 回 作品分析とディスカッション

第 14 回 後期のまとめ

●事前・事後学習の内容

各回の授業で購読する文献を読んで授業に参加すること。また各自で文献で論じられている作品などを鑑賞することが望ましい。

●評価方法

授業中に行う発表にもとづいて評価する。

●受講生へのコメント

各自の研究関心に引き寄せて文献を読み、みずからの研究に役立ててください。

前期の授業の続きなので、前期の「表象文化構造論研究」を履修していることが望ましい。

●参考文献・教材

適宜、プリントなどを配布する。

授業科目名	科目NO.	LEART2509	授業コード	LM19090010	
表現文化学特別講義a Advanced Studies on Specific Issues in Culture and Representation:a				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	山中　千恵				

●科目の主題

本授業では、主に日本で発展してきたマンガというメディアの特性とそれが生み出す文化について考察する。マンガ史、マンガ産業論、表現論などのマンガ・コミックス研究の成果を整理し、社会学的な観点も踏まえつつ、マンガ文化について理解していくこととする。

●到達目標

マンガ研究の基本的理論を理解し、研究を行う上で必要な知識を習得する。

●授業内容・授業計画

基本対面とするが遠隔も取り入れる場合がある。

第1回　イントロダクション:授業スケジュールと注意事項を確認し，この授業での到達目標や身につく力についての説明を行なう。また，この授業で扱う「マンガ研究」の特性について，簡単に学習する。さらに，事前・事後学習として使う書籍等についても説明する。

第2回～3回マンガの歴史:マンガはいかに社会的に位置づけられてきたのか。言説および産業構造からこれを考察する。

第4回～7回マンガ表現論:マンガ表現論の議論及び、役割語の議論に基づきマンガ表現の特質について考察する。

第8回マンガと教育:学習マンガをとりあげ、その歴史とイデオロギーについて考察する。

第9回マンガと戦争の記憶:戦争・災害を描くマンガをとりあげ、リアリティとマンガ表現の関係について考察する。

第10回　少女マンガ:少女マンガの歴史を確認し、その特徴を考察する。

第11回～14回(京都国際マンガミュージアムでの授業)　マンガとミュージアム:マンガの展示やマンガとミュージアムの関係について考察する。

第15回授業のまとめ

●事前・事後学習の内容

各授業回に以下の事前事後学習を行うこと。

［事前学習］大学の授業支援システムWebClassにアクセスし、配付プリント等を印刷・参照し、授業内容を理解しておく。

［事後学習］配布プリントを読み返し、学んだ内容に関連する参考資料にあたって理解を深めるとともに、新しく学んだ語彙や概念を要約し、自分なりに説明できるようにしておく。

●評価方法

平常点（授業時レポート・小テストなど）100%

●受講生へのコメント

集中講義最終日は京都国際マンガミュージアムでの学外実習を行います。

●参考文献・教材

授業中に指示・配布

授業科目名	科目NO.	LEART2510	授業コード	LM19100010	
表現文化学特別講義b Advanced Studies on Specific Issues in Culture and Representation:b				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	木村　覚				

●科目の主題

笑いを哲学的に考察することが本科目の主題である。その際に、「パフォーマンスとしての笑い」にフォーカスし、笑いを表現の問題として取り扱い、ときにダンスのような他のパフォーマンス表現との違いにも視点を向けながら考察してゆく。笑いはこれまで西洋の哲学者たちによって様々に論じられてきた。とくに際立ったものとしては、三つあげられる。優越の理論、不一致の理論、ユーモアの理論である。本講義では、それらを一つずつ取り上げながら、漫才、コント、モノマネなどの具体的事例に照らし合わせつつ、研究を深めてゆく。そこでは、それら具

●到達目標

笑いという身近なテーマにアクセスしながら、哲学的な考察が展開できるようにする。現象とそれに対する思考とをダイナミックに往還しながら考える力を身につける。最終的に、各自が哲学的知見を得ながら、各自の笑い論が展開できるようになることを目指す。

●授業内容・授業計画

本講義は対面で行う（予定）

1. イントロダクション
2. 美しいとかわいいと滑稽
3. ホラーと滑稽
4. 優越の理論（1）ホッブズの議論
5. 優越の理論（2）ベルクソンの議論（ダンスとお笑いの違い）
6. 優越の理論（3）笑われたいという気持ちをめぐって
7. 不一致の理論（1）機知について（ナイツとサンドウィッチマン）
8. 不一致の理論（2）シニフィアン／シニフィエあるいは物真似論
9. 不一致の理論（3）カントの笑い論
10. 不一致の理論（4）フロイトの機知論とシュールな笑い
11. ユーモアの理論（1）ユーモアの定義
12. ユーモアの理論（2）ユーモアの事例
13. ユーモアの理論（3）ユーモアのある社会に向けて
14. 笑いと社会（まとめ）

●事前・事後学習の内容

事前にまた事後に、教材となる『笑いの哲学』を読んでおくことを勧める。

●評価方法

３～４回程度の小レポートの総計（100%）

●受講生へのコメント

研究対象は身近なものですけれども、それをどこまで深度をもって思考できるか、みなさんと試してみたいです。

●参考文献・教材

木村覚『笑いの哲学』（講談社、2020年）

授業科目名	科目NO.	LEART2511	授業コード	LM19110010
表現文化学総合研究 I Comprehensive Studies in Culture and Representation I			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	増田　聡／野末　紀之／高島　葉子			

●科目の主題

表現文化学という新しい領域横断的な学問の成立の過程と、研究の前提となる知識（文化理論など）について総合的に習得させる。また言語テクスト、民間説話、ポピュラー音楽、映画、アニメーション等の文化的コンテンツを研究するにあたって必要な基礎的方法論についても習熟させる。専修所属教員全員による集団指導体制のもと、受講生による研究発表や討議を通して、受講生個々の問題関心を表現文化学分野の中で研究課題として具体化させるとともに、研究発表のためのプレゼンテーション技術も学習させる。

（野末紀之）言語テクスト、文学の表象お

●到達目標

表現文化学研究にあたって必要とされる知見、研究方法論習得するとともに、研究発表や討議を通して、独自の見解を説得力をもってプレゼンテーションできるスキルを身につける。

●授業内容・授業計画

第1回:オリエンテーション

第2回:受講生各自の研究テーマに基づいて基本文献、論文の紹介

第3回:受講生各自の研究テーマに基づいて基本文献、論文の紹介

第4回:受講生各自の研究テーマに基づいて基本文献、論文の紹介

第5回:受講生各自の研究テーマに基づいて基本文献、論文の紹介

第6回:各自の研究テーマに関連した基本文献、論文の考察

第7回:各自の研究テーマに関連した基本文献、論文の考察

第8回:各自の研究テーマに関連した基本文献、論文の考察

第9回:各自の研究テーマに関連した基本文献、論文の考察

第10回:各自の研究テーマに関する基本文献、論文、文献の考察

第11回:各自の研究テーマに関する基本文献、論文について議論を深める

第12回:各自の研究テーマに関する基本文献、論文について議論を深める

第13回:各自の研究テーマに関する基本文献、論文について議論を深める

第14回:各自の研究テーマに関する基本文献、論文について議論を深める

第15回:まとめ、今後の研究方針を示す

●事前・事後学習の内容

発表担当者は、毎回、発表のために事前に文献資料の精読のうえレジュメ作成を作成すること。また、事後は、指導教員からのコメントを整理し、理解を深めておくこと。

●評価方法

到達目標への到達度を基に評価する。授業における発表60%、議論への参加40%により評価する。

合格のための最低基準は、毎回の議論に参加し、表現文化学研究において必要とされる基本的知見を用いて、明確かつ説得的に各自のテーマに関するプレゼンテーションを行うことである。

●受講生へのコメント

自己の研究領域のみではなく、表現文化研究全般における基本的概念などについても習得・確認することを常に意識すること。

●参考文献・教材

随時指示する。

授業科目名	科目NO.	LEART2512	授業コード	LM19120010	
表現文化学総合研究Ⅱ Comprehensive Studies in Culture and Representation Ⅱ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	増田　聡／野末　紀之／高島　葉子				

●科目の主題

表現文化学という新しい領域横断的な学問の成立の過程と、研究の前提となる知識（文化理論など）について総合的に習得させる。また言語テクスト、民間説話、ポピュラー音楽、映画、アニメーション等の文化的コンテンツを研究するにあたって必要な基礎的方法論についても習熟させる。専修所属教員全員による集団指導体制のもと、受講生による研究発表や討議を通して、受講生個々の問題関心を表現文化学分野の中で研究課題として具体化させるとともに、研究発表のためのプレゼンテーション技術も学習させる。

（野末紀之）言語テクスト、文学の表象お

●到達目標

総合研究Ⅰで修得した知見・スキルの基礎の上に立って、さらに修士論文執筆に向けて総合的知見を獲得し、これに基づいて論文の具体的テーマを設定し、執筆のための計画を立てる。

●授業内容・授業計画

第1回:オリエンテーション

第2回:各自の研究テーマに関する前期の議論、考察のまとめ

第3回:各自の研究テーマに関する前期の議論、考察のまとめ

第4回:各自の研究テーマに関する前期の議論、考察のまとめ

第5回:研究を深めるために必要な資料、文献を紹介、整理

第6回:研究を深めるために必要な資料、文献を紹介、整理

第7回:研究を深めるために必要な資料、文献を紹介、整理

第8回:修士論文にまとめる論点についての考察、議論

第9回:修士論文にまとめる論点についての考察、議論

第10回:修士論文にまとめる論点についての考察、議論

第11回:修士論文にまとめる論点についての議論を深める

第12回:修士論文にまとめる論点についての議論を深める

第13回:修士論文にまとめる論点についての議論を深める

第14回:修士論文にまとめる論点についての議論を深める

第15回:各自の課題を整理、修士論文執筆の計画をたてる

●事前・事後学習の内容

発表担当者は、毎回の発表のために事前に文献資料の精読のうえレジュメ作成を作成すること。また、事後は、指導教員からのコメントを整理し、理解を深めておくこと。

●評価方法

到達目標への到達度を基に評価する。授業における発表60%、議論への参加40%により評価する。

合格のための最低基準としては、毎回の議論に参加し、前期で習得した知見とスキルに基づいた発表と議論を通して、最終的に修士論文のテーマを設定し、執筆計画を立てることが求められる。

●受講生へのコメント

自己の研究領域のみではなく、表現文化研究全般における基本的概念などについても習得・確認することを常に意識すること。

●参考文献・教材

随時指示する。

授業科目名	科目NO.	LEART3601	授業コード	LM19130010	
表現文化学研究指導 I Supervision of Master's Thesis inCulture and Representation I			単位数	2単位	
授業形態	担当教員名				
演習	増田　聡／野末　紀之／高島　葉子				

●科目の主題

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「表現文化学研究指導1」（前期）、「表現文化学研究指導2」（後期）の指導によって完成させる。

前期の「表現文化学研究指導1」では、1年次までの学修に基づき、修士論文の執筆計画を立て、修士論文構想発表会、修士論文中間発表会といった機会を柱としながら、修士論文に必要な知識、技能を修士論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1)修士論文執筆計画を立て実施する
(2)問題意識を整理し、研究課題の学術的意義を提示する
(3)研究目的に応じた適確な課題を設定する
(4)研究課題に応じた適切な研究方法を計画する
(5)研究課題に応じた先行研究の読み込みを行う
(6)研究課題に応じた実験結果、調査結果、文献資料を蓄積する
(7)修士論文研究に関わる研究倫理について考える

●授業内容・授業計画

第1回 オリエンテーション

修士論文とは何か(確認)表現文化学の方法論(確認)、修士論文研究・執筆計画について、 修士論文の評価規準・基準について

第2回~第5回 修士論文構想発表会(連続4コマ)

テーマに関する問題意識の整理、予想される(期待している)結論、研究方法の目処、同学年他学年の学生、複数の教員との質疑応答から学ぶ

第6回 研究計画に即して研究倫理を考える

第7回 先行研究の読み込み

第8回「先行研究の整理」の意義と方法

第9回 修士論文の章立て

第10回 調査、文献分析の計画と結果の予想

第11回~第14回 修士論文中間発表会―章立ての仮決定のために―(連続4コマ)

問題意識の提示、論証しようとしていること(仮の結論)、論証のための方法とその目処、章立て、これからの課題

第15回 修士論文中間発表会のふりかえり

●事前・事後学習の内容

第1回 修士論文計画を立てて提出する。修士論文構想発表会の準備を行い、レジュメを作成する。
第2回~第5回 修士論文構想発表会の議論を踏まえ、自分の修士論構想を練り直す。
第6回 自分の研究計画に即して研究倫理を考え、研究倫理の観点から研究計画を練り上げる。
第7回 研究課題に応じた先行研究の読み込みを計画し、読み込んだ結果を発表する。
第8回 自分の修士論文に必要な「先行研究の整理」を行ってみる。
第9回 修士論文の章立てを考える。
第10回 修士論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。

●評価方法

修士論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

●受講生へのコメント

修士論文は2年間の修士課程の集大成である。履修モデルとしての表現文化学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の 学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

「表現文化学研究指導1」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、修士論文に主体的に取り組み、修士課程を集大成させてほしい。修士論文作成にあたっては、指導教員と相談しつつ綿密な計画

●参考文献･教材

授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LEART3602	授業コード	LM19140010	
表現文化学研究指導Ⅱ Supervision of Master's Thesis inCulture and RepresentationⅡ			単位数	2単位	
授業形態	担当教員名				
演習	増田　聡／野末　紀之／高島　葉子				

●科目の主題

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「表現文化学研究指導1」(前期)、「表現文化学研究指導2」(後期)の指導によって完成させる。

後期の「表現文化学研究指導2」では、修士論文の仕上げに向けて、修士論文中間発表会といった機会を柱としながら、修士論文に必要な知識、技能を修士論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1)修士論文の評価規準と基準を知る。

(2)執筆途上において、その時点の自分の修士論文を評価基準に準拠して点検する。

(3)点検の結果を踏まえ、修士論文計画・執筆計画を修正しながら修士論文を完成させる研究指導Iで習得した知見・方法論の基礎の上に立って、修士論文を完成させる。

●授業内容・授業計画

第1回 修士論文の進捗状況の報告

第2回 修士論文の評価基準の確認

第3回~第6回 修士論文中間発表会(4コマ連続)

完成に向けての執筆方針の確認(研究方法論、課題設定、先行研究の整理章立て等)、完成に向けての研究・執筆計画

第7回 修士論文中間発表会の振り返り

第8回 問題意識と学術的意義を扱う部分についての点検

第9回 研究目的に応じた課題設定を扱う部分について点検

第10回 研究手法の説明を扱う部分についての点検

第11回 先行研究を扱う部分についての点検

第12回 調査結果、文献分析を扱う部分についての点検

第13回 論理の組み立てや一貫性に関する点検

第14回 学術論文としての表現、表記法等に関する点検

第15回 研究倫理の側面からの修士論文の点検、修士論文作成全体を通しての振り返り

●事前・事後学習の内容

第1回 修士論文研究進捗状況の報告レジュメ提出する。

第2回 修士論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。

第3回～第6回 修士論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の修士論研究・執筆計画を練り直す。

第7回 完成までの期間の研究・執筆計画を立てる。

第8回 点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第9回 点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。

第10回 点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分

●評価方法

修士論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

「表現文化学研究指導2」の評価は、「修士論文」の評価と同時期に行われるが、後者が論文の内容そのものの質が評価されるのに対して、前者は、論文作成過程の学修状況が評価の対象となる。

ただし、仮に「修士論文」が不可となった場合は、「表現文化学研究指導2」も不可となる。

●受講生へのコメント

修士論文は2年間の学士課程の集大成である。履修モデルとしての表現文化学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や

同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。
「表現文化学研究指導2」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、修士論文に主体的に取り組み、学士課程を集大成させてほしい。

●参考文献･教材

授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LEASA2501	授業コード	LM20010010
アジア文化構想学研究演習 Advanced Seminar in Cultural Managementin Asia			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	多和田　裕司／松浦　恆雄／堀　まどか			

●科目の主題

本演習では、「文化構想学研究ｂ」での学修を深化させるべく、日本を含めた東アジアおよび東南アジア地域における文化の実践的、課題解決的な活用を主題とする内外の先行研究を演習形式で講読する。国民統合や対外的なナショナルイメージの創出、集客や地域振興、公共的意識の醸成など、現在、アジア諸地域においても、政治、経済、社会の各領域で文化の活用が図られている。本演習では、先行研究の講読を通して、さまざまな文化や文化的コンテンツの活用方法、それがもたらした結果やその功罪などを把握する。

●到達目標

東アジアおよび東南アジアにおける文化活用に関する文献をもとに、文化の実践的活用について自ら検討することができる。

●授業内容・授業計画

第1回　東アジア諸文化における文化活用についての文献講読

第2回　同上

第3回　同上

第4回　同上

第5回　同上

第6回　東南アジア諸文化における文化活用についての文献講読

第7回　同上

第8回　同上

第9回　同上

第10回　同上

第11回　日本文化における文化活用についての文献講読

第12回　同上

第13回　同上

第14回　同上

第15回　同上

●事前・事後学習の内容

毎回指定される課題文献について、内容の要約、質疑への準備などを行っておくこと。

●評価方法

到達目標への達成度をもとに評価する。評価は、受講生による各回の発表や討議内容など、平常点によって行う。

●受講生へのコメント

受講生の報告と議論を中心とする授業であり、受講生には積極的な授業参加を求める。

●参考文献・教材

授業中に適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LEASA2502	授業コード	LM20020010
アジア地域文化創造論研究 Advanced Studies in Region and CulturalCreation in Asia			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	松浦　恆雄			

●科目の主題

本科目の主題は、アジア地域文化、特に中華圏の文化状況に関する理解に基づく文化創造に就いて、深い知見を獲得することにある。

●到達目標

本科目の今年度の到達目標は、中華圏の文学芸術に対する理解に基づく文化創造に就いて、深く理解するための視野を身につけることである。

●授業内容・授業計画

授業では、第三代の詩人たちを対象とする。『第三代詩新編』(長江文芸出版社、2006)を参考に、主に張棗、韓東、陳東東などの詩人を取りあげる予定。

第一回:ガイダンス。

第二回:韓東(1)

第三回:韓東(2)

第四回:韓東(3)

第五回:韓東(4)

第六回:陳東東(1)

第七回:陳東東(2)

第八回:陳東東(3)

第九回:陳東東(4)

第十回:張棗(1)

第十一回:張棗(2)

第十二回:張棗(3)

第十三回:張棗(4)

第十四回:まとめ。

●事前・事後学習の内容

事前に、授業で取り扱うテキストについて十分な準備をして臨むこと。事後には、授業で配布した資料などをきちんと整理し、読み直すこと。

●評価方法

平常点（出席、報告、議論）

●受講生へのコメント

第一回の授業で、具体的な授業の進め方や受講生の担当の仕方についての説明を行うので、必ず出席すること。

●参考文献・教材

プリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LEASA2503	授業コード	LM20030010
アジア地域文化創造論研究演習 Advanced Seminar on Region and CulturalCration in Asia			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	松浦　恆雄			

●科目の主題

本科目の主題は、アジア地域文化、特に中華圏の文化状況に関する理解に基づく文化創造に就いて、より深い知見を獲得することにある。

●到達目標

本科目の到達目標は、アジア地域文化、特に中華圏の文学芸術について、より深く理解するための視野を身につけることである。

●授業内容・授業計画

授業では、台湾を代表する演劇研究者である王安祈氏の著述を読む。受講生の報告と教員の説明とを織り交ぜて行う。受講生による議論も重視する。

第一回:ガイダンス。

第二回:『為京劇表演体系発声』国家出版社、2006年(1)

第三回:同上(2)

第四回:同上(3)

第五回:同上(4)

第六回:『性別、政治与京劇表演文化』台大出版中心、2011年(1)

第七回:同上(2)

第八回:同上(3)

第九回:同上(4)

第十回:『録音留声　名伶争鋒一一戯曲物質載体研究』国家出版社、2016年(1)

第十一回:同上(2)

第十二回:同上(3)

第十三回:同上(4)

第十四回:まとめ。

●事前・事後学習の内容

事前に、授業で扱うテキストを十分に読んでおくこと、爾後には、授業で配布する資料などをきちんと整理して、テキストもう一度読み直すこと。

●評価方法

平常点（出席、報告、議論）

●受講生へのコメント

第一回目の授業で、授業の進め方や受講生の報告の仕方についての説明をするので、必ず出席すること。

●参考文献・教材

プリントを配布する。

授業科目名	科目NO.	LEASA2504	授業コード	LM20040010	
アジア共生文化政策論研究 Advanced Studies in Multicultural Policyin Asia				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	多和田　裕司				

●科目の主題

東アジア、東南アジアにおける文化的共生を主題とする文献の講読とそれをもとにした討論を通して、グローバルな文化交流と伝統の変容、経済発展と消費社会化、宗教の復興とナショナリズムの昂揚などが進むアジア諸社会における様々な共生と対立の諸相を把握する。そのうえで、典型的な多文化社会とされるマレーシアにおける多文化共生の理念と実践について考察する。

●到達目標

東アジア、東南アジアにおける多文化共生の現状、課題や問題点などを説明できる。共生文化構築のための方策を、現実の社会状況との関連のなかで考えることができる。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で実施する。

授業は、上記主題に即した日本語ないし英語の文献をテキストとしながら、講義および演習によって実施する。各回の授業は、教員による解説の後、受講生による文献内容についての報告、全員での討論によって進めていく。文献の選択は、受講生の研究テーマも考慮した上で、第1回目の授業時に決定する。

第1回 オリエンテーション
第2回 グローバルな文化交流と伝統の変容(1)
第3回 グローバルな文化交流と伝統の変容(2)
第4回 グローバルな文化交流と伝統の変容(3)
第5回 経済発展と消費社会化(1)
第6回 経済発展と消費社会化(2)
第7回 経済発展と消費社会化(3)
第8回 宗教の復興とナショナリズムの昂揚(1)
第9回 宗教の復興とナショナリズムの昂揚(2)
第10回 宗教の復興とナショナリズムの昂揚(3)
第11回 マレーシアにおける共生の諸相(1)
第12回 マレーシアにおける共生の諸相(2)
第13回 マレーシアにおける共生の諸相(3)
第14回 共生文化の実現に向けて
第15回 授業のまとめ

●事前・事後学習の内容

毎回設定される課題文献を熟読し、論点の整理や問題点の洗い出し、自らの研究テーマとの関連の上での評価などを行っておくこと。

●評価方法

到達目標への達成度をもとに評価する。評価は、平常点によっておこなう。合格のための最低基準として、アジアおける多文化共生の現状や政策、課題や問題点などを説明できること、ならびに共生文化構築のための方策を、現実の社会状況との関連のなかで検討できることを求める。

●受講生へのコメント

「アジア共生文化政策論研究演習」とあわせて受講することが望ましい。

●参考文献・教材

授業中に指示する。

授業科目名	科目NO.	LEASA2505	授業コード	LM20050010	
アジア共生文化政策論研究演習 Advanced Seminar in Multicultural Policyin Asia				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	多和田　裕司				

●科目の主題

本講義では、文化的多様性に富む東南アジア諸社会を対象としながら、多文化共生の実際と課題について、とくに文化人類学および関連領域の代表的文献の講読と受講生による発表ならびに討論をもとに検討する。東南アジアにおける多文化共生の現状を深く知ることによって、共生文化の構想に向けた理論と方策について受講生とともに考える。

●到達目標

専門文献をもとに、共生文化の構想に向けた方策を自ら考えることができる。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で実施する(予定)。

上記主題に即した日本語ないし英語の文献を演習形式で読み進める。授業は受講生による文献内容についての報告、全員での討論によって進めていく。文献の選択は、受講生の研究テーマも考慮した上で、第1回目の授業時に決定する。

第1回:オリエンテーション

第2回:多文化政策にかんする文献の講読

第3回:同上

第4回:同上

第5回:同上

第6回:グローバル化と文化変容にかんする文献の講読

第7回:同上

第8回:同上

第9回:同上

第10回:共生文化の創造にかんする文献の講読

第11回:同上

第12回:同上

第13回:同上

第14回:受講生による発表

第15回:受講生による発表

●事前・事後学習の内容

毎回指定される課題文献について、内容の要約、質疑への準備などをおこなっておくこと。

●評価方法

到達目標への達成度をもとに評価する。評価は、平常点によっておこなう。合格のための最低基準として、共生文化の構想について、自らの見解をまとめ発表できることを求める。

●受講生へのコメント

受講生の報告と議論を中心とする授業であり、受講生には積極的な授業参加を求める。「アジア共生文化政策論研究」とあわせて受講することが望ましい。

●参考文献・教材

授業中に適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LEASA2506	授業コード	LM20060010	
アジア比較文化実践論研究 Advanced Comparative Studies and Practice in Asian Culture				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義／演習	堀　まどか				

●科目の主題

比較文化学の研究方法の基礎と課題について、領域横断的・複合領域的な研究とその可能性を実践的に学ぶ。日本を含めたアジアのなかにみられる〈境界〉と〈越境〉をキーワードにして、境界の文学・文学の境界について検討する。個々のテキストや作家について調査・分析するなかで、一国文学史観を超えて、国際的な文脈のなかで再構築する意義を問い、文化相対主義の観点から、従来の文学史の陥穽についても考えていく。近代日本を軸に「内」と「外」の影響関係や相互交流を考え、そこにまつわる境界性や臨界点を問うことで、アジア文化に対する未来志

●到達目標

学生が、比較文化学の研究方法の基礎と歴史を理解し把握することができる。また、領域横断的・複合領域的な文化研究のその可能性を実践的に応用的に考え、独自の観点を説明できる。

●授業内容・授業計画

第1回:「境界者」のまなざし/イントロダクション

第2回:文学の証言性①

第3回:文学の証言性②

第4回:文学の象徴性と寓話性①

第5回:文学の象徴性と寓話性②

第6回:文学研究から文化研究へ①

第7回:文学研究から文化研究へ②

第8回:アジアの文化と文学①

第9回:アジアの文化と文学②

第10回:アジアの文化と文学③

第11回:多文化主義の現在①

第12回:多文化主義の現在②

第13回:比較の視点と課題

第14回:総括・まとめ

●事前・事後学習の内容

前回までに配布された作品、論文、記事を事前に読み、疑問点や課題点を整理しておくこと。

●評価方法

（1）到達目標の達成度について評価をおこなう。
（2）評価方法は、授業内での演習発表（質疑、ディスカッションを含む）（60%）、レポート（40%）
（3）合格のための最低基準は70%

●受講生へのコメント

自主的に、積極的に、問いをたて、調べ、学ぶ姿勢が求められる。

●参考文献・教材

毎回、レジュメを配布する。参考書は、受講生の到達度に合わせて、授業内で指示する。

授業科目名	科目NO.	LEASA2507	授業コード	LM20070010	
アジア比較文化実践論研究演習 Advanced Comparative Seminar and Practice in Asian Culture				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義／演習	堀　まどか				

●科目の主題

日本語の（もしくは日本語に翻訳された）文学・文芸をテキストに、アジア諸地域の文化表象を読み解き、研究分析する。歴史、政治、時事問題、地理風土を合わせて、「文化」の諸相について分析し、研究発表、討論を行う。現代から未来へとつながるアジアの共通理解・共通認識のために何が必要なのか。アジアの複雑な歴史や文化風俗的な差異と齟齬に気を配りながら、多種混交な近現代の文化現象に対する認識を再構築することをめざす。国際社会で活躍するために必要となる知識と態度を身につけながら、同時に効果的な学術発表や、実践的なプレゼンテー

●到達目標

学生がアジアの共通理解・共通認識に向けて、歴史や文化風俗的な差異と齟齬に気を配りながら、多種混交な近現代の文学・文芸に対する知識を理解することができる。また、文学研究を、文化の諸相とともに分析することの意義を理解し説明することができる。社会で活躍するための基礎的知識を身につけ、効果的な学術発表や、実践的なプレゼンテーションをおこなうことができる。

●授業内容・授業計画

第1回:演習授業の目的と方法/イントロダクション

第2回:演習の課題設定と構想について/講義・項別相談

第3回:演習と討論/研究の対象と範囲①

第4回:演習と討論/研究の対象と範囲②

第5回:演習と討論/範囲と評価基準①

第6回:演習と討論/範囲と評価基準②

第7回:演習と討論/文化研究の動き①

第8回:演習と討論/文化研究の動き②

第9回:演習と討論/文化の諸相の分析①

第10回:演習と討論/文化の諸相の分析②

第11回:演習と討論/文化の諸相の分析③

第12回:演習と討論/文化の諸相の分析④

第13回:演習と討論/新しい方法の模索

第14回:最終まとめ

●事前・事後学習の内容

前回まで指導や討論で伝えられた課題点をもとに、演習発表のための十全な準備をすること。次の時間に扱う資料や作品を読み、疑問や課題点を整理し分析しておくこと。

●評価方法

（1）到達目標の達成度について評価をおこなう。
（2）評価方法は、授業内での演習発表（質疑、ディスカッションを含む）（60%）、レポート（40%）
（3）合格のための最低基準は70%

●受講生へのコメント

自主的に積極的に、学ぶ姿勢が求められます。

●参考文献・教材

毎回、レジュメを配布する。参考書や文献は、受講生の到達度に合わせて、授業内で指示する。

授業科目名	科目NO.	LEASA2508	授業コード	LM20080010
アジア文化学特別講義a Special Lecture on Asian Culture: a			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	Shulatov Yaroslav			

●科目の主題

日露関係を中心として、東アジアにおける国際関係史について考える

●到達目標

あるひとつの地域の文化的特性を包括的にとらえることの意味や当該専門分野における方法論を学ぶ

●授業内容・授業計画

本講義は遠隔で実施する。

第1回:ガイダンス。アジアにおけるロシア、東アジア・極東政策の歴史的背景、概要と構造

第2回:日露関係の概要、全体構造と相互イメージ。「初顔合わせ」

第3回:東アジアにおけるロシアと日露関係の黎明。「官民」交流の実態と「相互発見」

第4回:映画観賞(「おろしあ国酔夢譚」)

第5回:江戸時代における日露関係と対露観。「救難者」、「脅威」、「文明国」のロシア

第6回:衝突から国交樹立へ。19世紀前半における東アジアと日露関係

第7回:幕末の危機:動揺する対露観。(「幕末のスパシーボ」)

第8回:明治維新から19世紀末まで。「先生」から「敵」へ

第9回:日露戦争への道、戦争経過と結果。「第0次世界大戦」と東アジアにおける新秩序

第10回:近代における文化交流:技術・学問・芸術など

第11回:近代における文化交流:文学を中心に

第12回:「敵国」から「同盟国」へ。日露関係の「黄金時代」の内外要因と

第13回:ロシア革命と東アジア。ソヴィエト・ロシアと日本

第14回:戦前期における日ソ関係と東アジア。

第15回:まとめ・試験(レポート)

●事前・事後学習の内容

＊　講義で使われるテーマに関する参考資料（オンデマンド資料の文献など）を授業HPにアップするので、授業の前に各自でダウンロードして、必ず事前に読むこと。

＊　それ以外、適宜紹介する

●評価方法

授業への参加（出席／コメントペーパー）　40 %
期末レポート　60 %

●受講生へのコメント

＊　初回授業（4月14日（水）4限）には、必ずWebclassを確認して、双方向の初回講義に出席してください。授業の受講方法や日時について指導・確認をする。

＊　積極的に参加して、しっかりとノートを取り、授業中でも質問することを歓迎する。

●参考文献・教材

＊　参考書：五百旗頭 真（編集), 下斗米 伸夫（編集), A.V.トルクノフ（編集)『日ロ関係史:パラレル・ヒストリーの挑戦』東京大学出版会、2015年。

＊　参考資料（オンデマンド文献など）をWebClassまたは別のソースにアップロードする。詳しくは初回の授業で紹介する。

授業科目名	科目NO.	LEASA2509	授業コード	LM20090010	
アジア文化学特別講義b Special Lecture on Asian Culture: b				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義／演習	王　静				

●科目の主題

現代中国における「茶文化」を事例として、ナショナル化とグローバル化の反復を特徴とする現代文化の生産・消費のメカニズムを検証するとともに、今日における文化の動態を捉える方法について考察する。

●到達目標

文化の生成をめぐる多様なメカニズムについて、日常生活におけるごく「ありきたり」の事象をもとに具体的に検討していく過程を示すことで、受講生に文化研究の一つの方向性とそのための方法を理解させる。

●授業内容・授業計画

本授業については「対面で行なう」。現代中国における茶文化の様態を概説した上で、茶文化の生成から拡大、定着へと至るメカニズムを政治・学術研究・外交・経済活動等の側面から講義とディスカッションの形式で検討する。

第1回　オリエンテーション、中国茶文化の概要
第2回　文化と政治①:新中国の茶葉生産
第3回　文化と政治②:茶葉経済を支えるための茶文化創造
第4回　文化と政治③:中華文化の復興と台湾茶芸の構築
第5回　文化と政治④:中国茶芸の再構築
第6回　文化と学術研究①:「茶文化」の提唱
第7回　文化と学術研究②:飲茶と健康
第8回　文化と学術研究③:茶文化を対象とした研究・教育
第9回　文化と外交①:茶葉生産を通した国交締結
第10回　文化と外交②:茶芸を中心とした茶文化交流
第11回　文化と経済活動①:茶芸館
第12回　文化と経済活動②:茶文化観光
第13回　文化と経済活動③:「中国茶」の経済価値
第14回　文化の伝播と受容、アジア茶文化圏の現在
第15回　期末レポートの討論

●事前・事後学習の内容

毎回次回の授業に関する参考文献の予習箇所を指定する。各自で事前に読んでおくとともに、内容の整理や疑問点の洗い出しなど、ディスカッションに備えた準備をしておくこと。なお、各回の準備には４時間以上の学習を行なうことが望ましい。

●評価方法

平常点（授業内の質問やディスカッション）50%、期末レポート50%で総合的に評価する。

●受講生へのコメント

・第１回目の授業はオリエンテーションを行なうため、受講予定者は第１回授業には必ず出席すること。
・第２回目の授業からは、講義の内容や教科書の指定箇所を踏まえたディスカッションを行うため、予習が必須である。

●参考文献・教材

王静（2017）『現代中国茶文化考』（思文閣出版）

授業科目名	科目NO.	LEASA2510	授業コード	LM20100010	
アジア文化学総合研究Ⅰ Comprehensive Studies in Asian Culture I				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	多和田　裕司／松浦　恆雄／堀　まどか				

●科目の主題

専修所属教員全員による集団指導体制のもと、受講生による研究発表や討議を通して、受講生個々の問題関心をアジア文化学分野の中で研究課題として具体化させる。

●到達目標

東アジア、東南アジアの芸能、芸術、文芸、民族文化、宗教文化などアジア諸文化を研究するために必要な基礎的方法論と比較研究という観点を総合的に習得し、自らの研究に活かすことができる。

●授業内容・授業計画

第1回:オリエンテーション

第2回:受講生による発表と教員・学生全員による討議:研究課題の設定

第3回:同上

第4回:同上

第5回:同上

第6回:受講生による発表と教員・学生全員による討議:研究方法について

第7回:同上

第8回:同上

第9回:同上

第10回:同上

第11回:受講生による発表と教員・学生全員による討議:研究の構成と研究計画

第12回:同上

第13回:同上

第14回:同上

第15回:総合討議

●事前・事後学習の内容

発表の準備（配付資料の作成、プレゼンテーション資料の作成などを含む）をしておくこと。

●評価方法

到達目標への達成度をもとに評価する。評価は、期末レポートによっておこなう。合格のための最低基準として、自らの研究課題が明確であるとともに、研究の方法論が確立されていることを求める。

●受講生へのコメント

オリエンテーション時に、発表順の決定や、ＰＣ、プロジェクター、コピー機等機器の操作ガイダンスをおこなう。

●参考文献・教材

発表者が資料等を事前に作成して配布する。

授業科目名	科目NO.	LEASA2511	授業コード	LM20110010	
アジア文化学総合研究Ⅱ Comprehensive Studies in Asian CultureⅡ				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	多和田　裕司／松浦　恆雄／堀　まどか				

●科目の主題

専修所属教員全員による集団指導体制のもと、受講生による発表や討議を通して、受講生個々の研究課題の特徴や問題点を明確にさせながら修士論文作成のための準備を整えさせる。

●到達目標

東アジア、東南アジアの芸能、芸術、文芸、民族文化、宗教文化などアジア諸文化を研究するために必要な実践的方法論を習得し、自らの研究に活かすことができる。

●授業内容・授業計画

第1回:オリエンテーション

第2回:受講生による発表と教員・学生全員による討議:研究の進捗状況報告

第3回:同上

第4回:同上

第5回:同上

第6回:受講生による発表と教員・学生全員による討議:先行研究の概要と課題

第7回:同上

第8回:同上

第9回:同上

第10回:同上

第11回:受講生による発表と教員・学生全員による討議:修士論文作成に向けての研究計画の策定

第12回:同上

第13回:同上

第14回:同上

第15回:総合討議

●事前・事後学習の内容

発表の準備（配付資料の作成、プレゼンテーション資料の作成などを含む）をしておくこと。

●評価方法

到達目標への達成度をもとに評価する。評価は、期末レポートによっておこなう。合格のための最低基準として、研究課題と方法論の双方において、修士論文作成のための準備が整っていることを求める。

●受講生へのコメント

オリエンテーション時に、発表順を決定する。

●参考文献・教材

発表者が資料等を事前に作成して配布する。

授業科目名	科目NO.	LEASA3601	授業コード	LM20120010
アジア文化学研究指導Ⅰ Supervision of Master's Thesis in AsianStudies Ⅰ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	多和田　裕司／松浦　恆雄／堀　まどか			

●科目の主題

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「アジア文化学研究指導Ⅰ」（前期）、「アジア文化学研究指導Ⅱ」（後期）の指導によって完成させる。前期の「アジア文化学研究指導Ⅰ」では、1年次までの学修に基づき、修士論文の執筆計画を立て、修士論文構想発表会、修士論文中間発表会といった機会を柱としながら、修士論文に必要な知識、技能を修士論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1) 修士論文執筆計画を立て実施する。
(2) 問題意識を整理し、研究課題の学術的意義を提示する。
(3) 研究目的に応じた適確な課題を設定する。
(4) 研究課題に応じた適切な研究方法を計画する。
(5) 研究課題に応じた先行研究の読み込みを行う。
(6) 研究課題に応じた実験結果、調査結果、文献資料を蓄積する。
(7) 修士論文研究に関わる研究倫理について考える。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で実施する。授業の予定は以下の通り。

第1回　オリエンテーション

・修士論文とは何か（確認）

・アジア文化学の方法論（確認）

・修士論文研究・執筆計画について

・修士論文の評価規準・基準について

第2回～第5回　修士論文構想発表会（連続4コマ）

・テーマに関する問題意識の整理

・予想される（期待している）結論

・研究方法の目処

・同学年他学年の学生、複数の教員との質疑応答から学ぶ

第6回　研究計画に即して研究倫理を考える

第7回　先行研究の読み込み

第8回　「先行研究の整理」の意義と方法

第9回　修士論文の章立て

第10回　調査、文献分析の計画と結果の予想

第11回～第14回　修士論文中間発表会―章立ての仮決定のために―（連続4コマ）

・問題意識の提示

・論証しようとしていること（仮の結論）

・論証のための方法とその目処

・章立て

・これからの課題

第15回　修士論文中間発表会のふりかえり

●事前・事後学習の内容

第1回　修士論文計画を立てて提出する。

第2回～第5回　修士論文構想発表会の準備を行い、レジュメを作成する。修士論文構想発表会の議論を踏まえ、自分の修士論構想を練り直す。

第6回　自分の研究計画に即して研究倫理を考え、研究倫理の観点から研究計画を練り上げる。

第7回　研究課題に応じた先行研究の読み込みを計画し、読み込んだ結果を発表する。

第8回　自分の修士論文に必要な「先行研究の整理」を行ってみる。

第9回　修士論文の章立てを考える。

第10回　修士論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。

第11回

●評価方法

修士論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。

●受講生へのコメント

修士論文は2年間の修士課程の集大成である。アジア文化学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。「アジア文化学研究指導Ⅰ」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、修士論文に主体的に取り組み、修士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

とくに指定しない。

授業科目名	科目NO.	LEASA3602	授業コード	LM20130010
アジア文化学研究指導Ⅱ Supervision of Master's Thesis in AsianStudies Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	多和田　裕司／松浦　恆雄／堀　まどか			

●科目の主題

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「アジア文化学研究指導Ⅰ」（前期）、「アジア文化学研究指導Ⅱ」（後期）の指導によって完成させる。後期の「アジア文化学研究指導Ⅱ」では、修士論文の仕上げに向けて、修士論文中間発表会といった機会を柱としながら、修士論文に必要な知識、技能を修士論文の執筆を通して身に付けるようにする。

●到達目標

(1) 修士論文の評価規準と基準を知る。
(2) 執筆途上において、その時点の自分の修士論文を評価基準に準拠して点検する。
(3) 点検の結果を踏まえ、修士論文計画・執筆計画を修正しながら修士論文を完成させる。

●授業内容・授業計画

この授業は対面で実施する(予定)。授業の予定は以下の通り。

第1回　修士論文の進捗状況の報告

第2回　修士論文の評価基準の確認

第3回～第6回　修士論文中間発表会(4コマ連続)

・完成に向けての執筆方針の確認(研究方法論、課題設定、先行研究の整理章立て等)

・完成に向けての研究・執筆計画

第7回　修士論文中間発表会の振り返り

第8回　問題意識と学術的意義を扱う部分についての点検

第9回　研究目的に応じた課題設定を扱う部分について点検

第10回　研究手法の説明を扱う部分についての点検

第11回　先行研究を扱う部分についての点検

第12回　調査結果、文献分析を扱う部分についての点検

第13回　論理の組み立てや一貫性に関する点検

第14回　学術論文としての表現、表記法等に関する点検

第15回　研究倫理の側面からの修士論文の点検、修士論文作成全体を通しての振り返り

●事前・事後学習の内容

第1回　修士論文研究進捗状況の報告レジュメを提出する。
第2回　修士論文中間発表の準備を行い、レジュメを作成する。
第3回～第6回　修士論文中間発表会の議論を踏まえ、自分の修士論研究・執筆計画を練り直す。
第7回　完成までの期間の研究・執筆計画を立てる。
第8回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。
第9回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修正し、補足ための研究計画を立てる。
第10回　点検の対象になる部分を執筆する。点検を受けた部分を修

●評価方法

修士論文中間発表会等の発表内容、議論への貢献、および、文献一覧の作成等、各回で指定する課題の内容などにより評価する。「アジア文化学研究指導Ⅱ」の評価は、「修士論文」の評価と同時期に行われるが、後者が論文の内容そのものの質が評価されるのに対して、前者は、論文作成過程の学修状況が評価の対象となる。ただし、仮に「修士論文」が不可となった場合は、「アジア文化学研究指導Ⅱ」も不可となる。

●受講生へのコメント

修士論文は2年間の学士課程の集大成である。アジア文化学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。「アジア文化学研究指導Ⅱ」は授業科目のひとつであるが、この科目の演習を基盤としながら、修士論文に主体的に取り組み、学士課程を集大成させてほしい。

●参考文献・教材

とくに指定しない。

授業科目名	科目NO.	LECRS2501	授業コード	LM21010010	
国際文化資源論研究 Advanced Studies of Global Cultural Resources				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	小田中　章浩				

●科目の主題

本科目は文化資源学専修の大学院前期博士課程科目のうち、演劇分野における文化資源のあり方について考察するものである。この研究では演劇を題材として、それが世界の中で文化資源としてどのように活用されているのかを検証する。今日、世界各地でさまざまな演劇祭が開催され、多いものは数十万規模の観客を動員している。ただしこの種の演劇フェスティヴルの現象面に捕らわれることなく、この講義ではその根底にある「公共の演劇」のあり方について理論的な検討を行う。より具体的には演劇とコミュニティの関係について歴史的な理解を深めつつ、そ

●到達目標

世界各地で行われている演劇祭について、その社会、歴史的な背景の違いから生じる特性について理解を深めること。

●授業内容・授業計画

第1回:イントロダクション:演劇祭の社会・歴史的機能

第2回:演劇祭に関する文献購読とディスカッション(1)

第3回:演劇祭に関する文献購読とディスカッション(2)

第4回:演劇祭に関する文献購読とディスカッション(3)

第5回:演劇祭に関する文献購読とディスカッション(4)

第6回:演劇祭に関する文献購読とディスカッション(5)

第7回:演劇祭に関する文献購読とディスカッション(6)

第8回:演劇祭に関する文献購読とディスカッション(7)

第9回:演劇祭に関する文献購読とディスカッション(8)

第10回:演劇祭に関する文献購読とディスカッション(9)

第11回:演劇祭に関する文献購読とディスカッション(10)

第12回:演劇祭に関する文献購読とディスカッション(11)

第13回:演劇祭に関する文献購読とディスカッション(12)

第14回:演劇祭に関する文献購読とディスカッション(13)

第15回:授業の総括

●事前・事後学習の内容

授業参加者は事前に指定された文献について予備学習するために、少なくとも毎週4時間の事前学習を必要とする。

●評価方法

世界各地で行われている演劇祭の中から、少なくとも三つを取り上げ、それらの社会的な機能の違いについて学術的なスタイルで記述できること。評価は期末レポート（100%）によって行う。

●受講生へのコメント

授業は、受講者による発表、ならびにその後教員を交えて行われるディスカッションによって進行する。

●参考文献・教材

講義開始時に指示する。

授業科目名	科目NO.	LECRS2502	授業コード	LM21020010	
国際文化資源論研究演習 Advanced Seminar on Global Cultural Resources				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	小田中　章浩				

●科目の主題

本科目は文化資源学専修の大学院前期博士課程科目のうち、演劇分野における文化資源のあり方について考察するものである。この演習は前期の研究を基礎として、演劇とコミュニティの関係について考察を行う。より具体的には世界各地のアマチュア演劇を含んだ「コミュニティ・シアター」のあり方と、日本の各地で行われている同種の（しかしその実態は必ずしも同じではない）「地域演劇」の事例を比較することによって、演劇の担い手と観客との関係、求められる演劇の美的性質の違い、さらに演劇が共同体を活性化、あるいは再生するためにどのような機

●到達目標

世界的なコミュニティ・シアターの多様なあり方について理解すること。

●授業内容・授業計画

第1回:イントロダクション:コミュニティ・シアターの歴史と社会的機能

第2回:コミュニティ・シアターに関する文献購読とディスカッション(1)

第3回:コミュニティ・シアターに関する文献購読とディスカッション(2)

第4回:コミュニティ・シアターに関する文献購読とディスカッション(3)

第5回:コミュニティ・シアターに関する文献購読とディスカッション(4)

第6回:コミュニティ・シアターに関する文献購読とディスカッション(5)

第7回:コミュニティ・シアターに関する文献購読とディスカッション(6)

第8回:コミュニティ・シアターに関する文献購読とディスカッション(7)

第9回:コミュニティ・シアターに関する文献購読とディスカッション(8)

第10回:コミュニティ・シアターに関する文献購読とディスカッション(9)

第11回:コミュニティ・シアターに関する文献購読とディスカッション(10)

第12回:コミュニティ・シアターに関する文献購読とディスカッション(11)

第13回:コミュニティ・シアターに関する文献購読とディスカッション(12)

第14回:コミュニティ・シアターに関する文献購読とディスカッション(13)

第15回:授業の総括

●事前・事後学習の内容

授業参加者は事前に指定された文献について下調べをするために、少なくとも毎週4時間の事前学習を必要とする。

●評価方法

さまざまなコミュニティ・シアターの中から、少なくとも三つを取り上げ、それらの社会的な機能の違いについて学術的なスタイルで記述できること。評価は期末レポート（100%）によって行う

●受講生へのコメント

授業は、受講者による発表、ならびにその後教員を交えて行われるディスカッションによって進行する。

●参考文献・教材

講義開始時に指示する。

授業科目名	科目NO.	LECRS2503	授業コード	LM21030010	
芸術文化資源論研究 Advanced Studies of Fine Arts as Cultural Resources				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	菅原 真弓				

●科目の主題

芸術分野における文化資源は、最も強く従来の価値評価の影響下にある。ここでは、ありとあらゆる目に見えるモノ（ヴィジュアルイメージ）を等しく文化資源として定義し直し、これらを検討し評価する手法を説く。これまでに行われてきた美術史学の研究手法を取り入れつつ、美術史学が従来、研究の対象としてこなかったモノ（≒文化資源）の新たな価値づけを行うための学びを提示する。

具体的には本研究の主題に基づき、担当教員が課題として提示する研究論文の精読を行う。そして各回、担当者を決めて文献の要約（小発表）を行い、担当者の司会に

●到達目標

芸術分野における文化資源について理解し、これを評価検討する手法を得る。

●授業内容・授業計画

第1回: イントロダクション

第2回: ブレイク～関連文献の収集方法と講読文献策定

第3回 :文献講読および討論1

第4回 :文献講読および討論2

第5回 :文献講読および討論3

第6回 :フィールドワーク 1

第7回 :文献講読および討論4

第8回 :文献講読および討論5

第9回 :文献講読および討論6

第10回 :フィールドワーク 2

第11回 :文献講読および討論7

第12回 :文献講読および討論8

第13回 :文献講読および討論9

第14回 :フィールドワーク 3

●事前・事後学習の内容

第3回以降は、文献の要約（小発表）および討論を実施するので、履修者は全員、各回の対象となる文献を事前に通読しておくことが求められる。また各回の振り返りを各自行い、その成果を授業内で求める。

●評価方法

授業参加意欲および小発表、討論への参加。

●受講生へのコメント

芸術文化資源に関する授業である。授業内あるいは授業曜日時限以外の日程でもフィールドワーク（主に展覧会見学実習）を行うので、必ず出席すること。

●参考文献・教材

授業内で適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LECRS2504	授業コード	LM21040010	
芸術文化資源論研究演習 Advanced Seminar on Fine Arts as Cultural Resources				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	菅原 真弓				

●科目の主題

芸術分野における文化資源についてのより具体的な考察を進める。先行する芸術文化資源の研究を振り返りつつ、それらが拠り所とする価値観について考察し、その功罪を明らかにする。その上で、新たな価値評価基準の創出を試みる演習とする。

具体的には、履修者各自が研究テーマとする文化資源について考察をする研究発表を行い、その上でディスカッションを通じて学びを深めるものとする。

●到達目標

芸術分野における文化資源に関する具体的考察を行い、芸術文化資源研究を進める。また、

1　自らの研究内容を、より分かりやすくプレゼンテーションする能力を培う

2　他者の研究内容に関して、建設的な意見を発することができる能力を養い、かつ他者の研究内容や手法を自らの研究に役立てる能力を培う

を目標とする。

●授業内容・授業計画

第1回:イントロダクション

第2回:　発表テーマと研究手法

第3回　:研究発表とディスカッション1

第4回　:研究発表とディスカッション2

第5回　:研究発表とディスカッション3

第6回　:研究発表とディスカッション4

第7回　:研究発表とディスカッション5

第8回　:研究発表とディスカッション6

第9回　:研究発表とディスカッション7

第10回　:研究発表とディスカッション8

第11回　:研究発表とディスカッション9

第12回　:研究発表とディスカッション10

第13回　:研究発表とディスカッション11

第14回　:研究発表とディスカッション12

●事前・事後学習の内容

受講者各自の研究発表に際しては、事前に予告レジュメ（発表内容を要約したもの+発表に際しての主たる参考文献を記したもの）の提出を義務付けるので、発表者以外の受講者は、授業に先立ち予告レジュメと参考文献を読み込み、実り多いディスカッションとなるよう準備を行う。授業後は各回の発表内容に関する理解をより深める学びを行い、かつ発表手法等については自らの発表に役立てるようにしていく。

●評価方法

発表内容および授業参加意欲を以て評価。

●受講生へのコメント

自らの研究内容を、より分かりやすくプレゼンテーションする能力を培うことは自明だが、他者の研究内容に関して、建設的な意見を発することができる能力を養い、かつ他者の研究内容や手法を自らの研究に役立てる能力を培ってほしいと考える。

●参考文献・教材

授業内で適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LECRS2505	授業コード	LM21050010	
観光文化資源論研究 Advanced Studies of Tourism and CulturalResources				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	天野　景太				

●科目の主題

本科目では文化資源研究のうち、観光・まちづくりの領域に関する内容を扱う。まず、観光文化のダイナミズムを捉える理論的枠組みを検討した上で、実際の文化資源の呈示と消費のあり方に関して、観光社会学、観光文化論、観光マーケティング研究の成果等を手がかりとしながら、国際間比較、地域間比較も意識しつつ解読する。現代はグローバリゼーションに伴い国境を越えた人々や資本、モノの移動はますます増加、多様化しているが、その中にあって観光は、最も先鋭的かつ具体的に、異なる社会・文化の接触、交流、衝突等がおこる現場といえる。本科目

●到達目標

いわゆる「観光資源論」を越えて、観光まちづくりの実践を中心とした観光的文脈における文化資源をめぐる社会的動向について、そのリアリティを学際的視点から捉えられるようになる。

●授業内容・授業計画

第1回:イントロダクション

第2回:観光学／観光文化資源論の視点と方法

第3回:文化資源をめぐる観光とまちづくりの展開

第4回:観光振興機関の歴史と現在

第5回:広域観光圏の形成

第6回:都市観光の社会学

第7回:観光開発・観光マネジメントの機能と課題

第8回:MICEと観光拠点都市

第9回:大阪・関西万博のインパクト

第10回:多様化する宿泊形態と民泊の展開

第11回:文化遺産(世界遺産)と地域主導型観光

第12回:災害と観光文化資源

第13回:観光文化資源の今日的仮題

第14回:各自のレポートに基づいたディスカッション

●事前・事後学習の内容

事前学習として、テキストを熟読し、わからない用語等は調べておき、疑問点とレビューをノートに整理しておくこと。

●評価方法

観光文化資源をめぐる今日的動向についての知識を理解することとともに、それらを捉えるセンスが養われたかどうかが、単位取得のための基準である。それらを、各回の授業参画への積極度（50%）、および期末レポート（50%）によって評価を行う。

●受講生へのコメント

日頃から 観光に関するニュースや調査データを親しんでおくことが望ましい。また、自らの観光経験や旅ロケ番組等の視聴経験を振り返り、それらを観光文化資源論学的な視点から省察する習慣をつけておくことが望ましい。また、観光研究は座学だけでなく理論と実際（現場）との往復を繰り返すことが求められる。本年度も必要に応じて観光地域の視察や、他の教員の科目とのジョイントによる大阪の都市文化資源視察、講師が担当する学部の演習系科目の取り組みとのジョイントなども企画予定なので、積極的に参加されたい。

●参考文献・教材

安福恵美子・天野景太『都市・地域観光の新たな展開』古今書院、2020年。

授業科目名	科目NO.	LECRS2506	授業コード	LM21060010	
観光文化資源論研究演習 Advanced Seminar on Tourism and CulturalResources				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	天野　景太				

●科目の主題

「観光文化資源の編成、再編成の現場を読み解く」をテーマとした演習である。日本を含む世界の観光地域の中から複数の事例を選定し、当該地域のデータを収集、分析することを通じて、新たな観光文化の生成、展開の可能性についての検討を行う。これらを通じて、本科目は文化資源を対象とした調査とそれに基づく理論化の技術を養うための演習として位置づけられる。

●到達目標

観光分野における文化資源のあり方に関する実証研究の方法に関して修得できると同時に、現代観光を捉えるための理論構築のための想像力（創造力）を身につけることができる。

●授業内容・授業計画

第1回:イントロダクション

第2回:観光文化資源に関する実証研究の展開(講義形式)

第3回:対象とするフィールドに関する文献・資料の検討【1】

第4回:対象とするフィールドに関する文献・資料の検討【2】

第5回:対象とするフィールドに関する文献・資料の検討【3】

第6回:観光文化資源調査の企画・設計に関する報告【1】

第7回:観光文化資源調査の企画・設計に関する報告【2】

第8回:観光文化資源調査の企画・設計に関する報告【3】

第9回:観光文化資源調査の企画・設計に関する報告【4】

第10回:データの整理と解釈に関する報告【1】

第11回:データの整理と解釈に関する報告【2】

第12回:データの整理と解釈に関する報告【3】

第13回:データの整理と解釈に関する報告【4】

第14回:ラウンドテーブル

●事前・事後学習の内容

第3回～第5回に関しては、授業内で指示する文献、または履修者各自で持ち寄った文献の精読を、第6回～第13回に関しては、現地フィールドワークなどを通じた1次資料の収集や、2次資料の解読などの実査を各自で推進していくことが求められる。

●評価方法

演習における報告や議論への参加度（34%）、プロジェクトワーク（33%）、期末レポート（33%）で評価する。授業の成果を活かして自ら適切なデータ収集が出来ること、およびデータに基づいた分析により、オリジナルな考察ができることが、単位認定の最低基準である。

●受講生へのコメント

日頃から 観光に関するニュースや調査データを親しんでおくことが望ましい。また、自らの観光経験や旅ロケ番組等の視聴経験を振り返り、それらを観光文化資源論学的な視点から省察する習慣をつけておくことが望ましい。また、観光研究は座学だけでなく理論と実際（現場）との往復を繰り返すことが求められる。本年度も必要に応じて観光地域の視察や、他の教員の科目とのジョイントによる大阪の都市文化資源視察、講師が担当する学部の演習系科目の取り組みとのジョイントなども企画予定なので、積極的に参加されたい。

●参考文献・教材

安福恵美子・天野景太『都市・地域観光の新たな展開』古今書院、2020年。

授業科目名	科目NO.	LECRS2507	授業コード	LM21070010	
社会実践文化資源論研究 Advanced Studies of Socially Engaged　Cultural Resources				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	沼田　里衣				

●科目の主題

本科目は、文化資源の社会的運用のありかたを理解する科目群のうち、音楽分野についての諸問題を取り上げ、考察することが目的である。音楽療法やコミュニティ音楽等の実践領域に関連する臨床音楽学の研究知見を理解し、それを自身の研究に生かせるようになることを目標とする。テキストとして、音楽療法、コミュニティ音楽療法、コミュニティ音楽、音楽学、障害学、臨床哲学、アートマネジメント、現代美術批評に関するものを扱う。社会包摂の観点から、一つの事例を詳細かつ多角的な視点から分析し、評価する力を養うことを目的とする。

●到達目標

音楽療法やコミュニティ音楽の実践領域を理論的に考察し、理解すること。

●授業内容・授業計画

第1回:概説:コミュニティと音楽

第2回:コミュニティと音楽に関する文献講読1

第3回:コミュニティと音楽に関する文献講読2

第4回:コミュニティと音楽に関する文献講読3

第5回:コミュニティと音楽に関する文献講読4

第6回:コミュニティと音楽に関する文献講読5

第7回:コミュニティと音楽に関する文献講読6

第8回:コミュニティと音楽に関する文献講読7

第9回:コミュニティと音楽に関する文献講読8

第10回:コミュニティと音楽に関する文献講読9

第11回:コミュニティと音楽に関する文献講読10

第12回:コミュニティと音楽に関する文献講読11

第13回:コミュニティと音楽に関する文献講読12

第14回:総括

授業で取り上げる文献について事前に予習し、そのなかで取り上げられている理論や事例について関連のテキストやウェブ上の動画等で調べておくこと。また、授業内で行ったディスカッションについてまとめておくこと。

●事前・事後学習の内容

コミュニティと音楽に関する活動の企画書を作成できること。授業内で取り上げたポイントを抑えた上で具体的に構想できているかどうかをレポートで評価する（100%）。

●評価方法

各自の研究テーマに即した視点から文献を読み込み、考察すること。

●受講生へのコメント

各授業において、必要な文献を示し、資料を配布する。

●参考文献・教材

別途指示する。

授業科目名	科目NO.	LECRS2508	授業コード	LM21080010	
社会実践文化資源論研究演習 Advanced Seminar on Socially Engaged　Cultural Resources				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
演習	沼田　里衣				

●科目の主題

本科目は、文化資源の社会的運用のありかたを理解する科目群のうち、音楽分野についての諸問題を取り上げ、考察するものである。社会的課題との関連から行われる文化実践について、受講者のニーズを取り入れながら、高度な論究を進める。研究の主眼となる文献の選択から始め、その批判的読解と議論を通して新しい知見の発見へ至ることを目的とする。取り扱う主な領域は、音楽療法、コミュニティ音楽療法、コミュニティ音楽、音楽学、障害学、臨床哲学、アートマネジメント、現代美術批評等である。

●到達目標

社会的課題との関連から行われる文化実践について、文献講読を通して研究手法を学ぶ。

●授業内容・授業計画

第1回:概説:健康と音楽

第2回:健康と音楽に関する文献講読1

第3回:健康と音楽に関する文献講読2

第4回:健康と音楽に関する文献講読3

第5回:健康と音楽に関する文献講読4

第6回:健康と音楽に関する文献講読5

第7回:健康と音楽に関する文献講読6

第8回:健康と音楽に関する文献講読7

第9回:健康と音楽に関する文献講読8

第10回:健康と音楽に関する文献講読9

第11回:健康と音楽に関する文献講読10

第12回:健康と音楽に関する文献講読11

第13回:健康と音楽に関する文献講読12

第14回:総括

●事前・事後学習の内容

授業で取り上げる文献について事前に予習し、取り上げられている理論や事例について関連のテキストやウェブ上の動画等で調べておくこと。また、授業内で行ったディスカッションについてまとめておくこと。

●評価方法

健康と音楽に関する議論のうち、一つのトピックを取り上げ、それについて論述したものをレポートとして提出すること。現代社会の諸問題と関連づけて音楽を捉えられているかを評価する（100%）。

●受講生へのコメント

各自の研究テーマに即した視点から文献を読み込み、考察すること。

●参考文献・教材

各授業において、必要な文献を示し、資料を配布する。

授業科目名	科目NO.	LECRS2509	授業コード	LM21090010	
文化資源学特別講義 a Special Lectures of Cultural Resource studies:a				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義	木川 剛志				

●科目の主題

文化資源としての映画やテレビ放送、デジタル動画などの映像コンテンツに注目し、それらが社会において果たしてきた役割を歴史的に考察するとともに、現在国内外で行われている映画あるいは映像イベントについて、それらを文化的、社会的、あるいはイデオロギー的なコンテクストの中で読み解くことによって、その意義について検討する。

●到達目標

文化資源としての映画やテレビ放送、デジタル動画などの映像コンテンツの歴史的経緯とその意義について理解を深める。

●授業内容・授業計画

第1回 概説:映像とはなにか。
第2回 映画の誕生:リュミエール兄弟、シネマトグラフと映像の原体験
第3回 メディアとは1:マクルーハン「メディアはメッセージである」
第4回 メディアとは2:ハーバード・J・ガンズ、メディアとコミュニティ
第5回 エンターテイメントとしての映画:チャップリンを中心に
第6回 日本映画の誕生:その歴史と特徴、黒澤明と小津安二郎の比較を通じて
第7回 1-6のまとめ
第8回 映像とジャーナリズム
第9回 日本における映画文化:ATGを中心に
第10回 映画からテレビへ:劇場からお茶の間へ
第11回 テレビからネットへ:アメリカと日本の構造的差異
第12回 映画祭、ローカルから世界へ
第13回 観光映像:マーケティングと動画配信のこれからの形
第14回 5G時代の映像のあり方
第15回 試験

本授業では映像の歴史を扱うので、現在の常識では不適切と思われる表現の映像も閲覧することもある。その際には閲覧前に不適切な理由も説明した上で上映する。また、見ることを望まない受講者の一時退出も認める。

●事前・事後学習の内容

本授業では取り扱うメディア作品や映画などを見たことを前提に授業を進める。短い作品は授業内でも上映するが、多くは授業時間内では鑑賞できない長さの作品なので、受講者は事前に見ておくこと（２時間程度）。また、行った授業に関するReading Listも提供するので事後に復習を行うことが望ましい（２時間程度）。

●評価方法

試験50% レポート30% 毎回の授業で配るコメントシート20%の配分で評価する。

●受講生へのコメント

本授業では、メディア学から映画、情報学と幅広い分野を学ぶ。そのためにもっとも重要なことは好奇心であり、授業内で扱う内容だけでなく、映像全般に興味を持っていることを期待する。また授業内でも興味への動機付けを積極的に行う。

●参考文献・教材

参考文献
吉見俊哉「メディア文化論」有斐閣
伊藤守「よくわかるメディア・スタディーズ」ミネルヴァ書房
吉田喜重「小津安二郎の反映画」岩波現代文庫〞

授業科目名	科目NO.	LECRS2510	授業コード	LM21100010
文化資源学特別講義 b Special Lectures of Cultural Resource studies:b			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
講義	福田 一史			

●科目の主題

文化資源としてのマンガ、アニメ、デジタルゲームの可能性について検討する。これらを対象とした文化振興の方策について、草の根のゲーム博物館の運営や地域組織のコスプレイベントの仕掛けづくりといった、アーカイブやツーリズム分野における実践事例に基づきつつ展望する。

●到達目標

文化資源としてのマンガ、アニメ、デジタルゲームの可能性について検討し、現代における社会的な役割と今後について展望する。

●授業内容・授業計画

第1回:ガイダンス

講義構成や評価ポリシーなど、その枠組みを紹介する。また、本講義で主要なテーマとなる文化資源の定義を整理し、近年の動向を概観する。

第2～3回:文化資源としてのマンガ・アニメ・デジタルゲーム

これまで文化資源研究の主要な対象は、伝統的な文化資源や、学術資源などであった。それらと比較して、本講義で対象となるマンガ・アニメ・デジタルゲームなどは、いくつかの点において性質を異にする。ここでは、これらの文化資源としての特徴について議論する。

第4～6回:文化資源の保存と情報化

2001年に制定された「文化芸術振興基本法」では、マンガ・アニメ・デジタルゲームなどのポピュラー文化も、その対象として想定されている。そのような背景もあり、これらを保存し、活用する施策が各地で行われるようになった。また、各分野の研究・教育なども活発化しつつあり、それらをいかに情報化し、学術的・産業的に利活用する基盤を構築するかということも一つのテーマとなっている。ここではそのような保存や情報基盤構築の現状と、今後の展望などについて議論する。

第7回:文化資源の保存と情報化:海外の動向

文化資源の保存と情報化について、海外の事例などを紹介しつつ、その動向を紹介する。

第8～9回:文化資源の利活用

フィルムコミッションなどに見られる通り、映像などの文化資源を活用した地域振興などの利活用事例は古くから展開されてきた。2000年代以降は、アニメーションをテーマにした町おこしイベントや聖地巡り、ゲームの見本市の開催など、ポピュラー文化に根ざした新しい地域振興やアイデンティティ形成などが行われるようになっている。ここでは、そのような活動の全体像を捉えるとともに、権利者やファンなどとどのように関係性を構築すべきか、といった論点について論じる。

第10～11回:文化資源の利活用(事例研究)

文化資源を用いた地域振興、またポピュラー文化振興のための施策、これらについて事例を取り上げて、具体的に検討を行う。その上で、文化資源を如何にして振興すべきか、またポピュラー文化をそのような施策に用いる上で問題点がどのよう形で生じるか、また以下に文化資源を創造するコミュニティに貢献できるか、講義参加者らとディスカッションを行う。

第12～14回:グループワーク

受講生でグループを組織し、文化資源の保存と情報化、もしくは文化資源の利活用をテーマとする調査を実施する。また、第14回目の講義の際に、各グループの調査結果の発表を実施する。

第15回:総括

ここまでの講義内容を振り返り、包括的な整理を行うほか、ディスカッションによる補完を実施する。

●事前・事後学習の内容

各講義で配布する講義資料やスライドを活用し、事後学習を実施することを推奨する。
また、セッションごとに文献が指定され、その講読が必要となることがある。

●評価方法

以下の割合により評価を実施する。最も大きな割合を占めるのはレポートであるが、出席点や講義での発言など、講義期間全般のコミットメントを重視する。

・講義への出席・グループワークにおけるコミットメント（30%）
・講義での発言や課題の提出（30%）
・レポート（40%）

●受講生へのコメント

講義の後半でグループワークを実施する。

●参考文献・教材

教科書・参考文献は指定しない。ただし、講読すべき文献は随時講義中に指定する。

授業科目名	科目NO.	LECRS2511	授業コード	LM21110010
文化資源学総合研究 I Comprehensive Study of Cultural Resources I			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	菅原 真弓／小田中 章浩／天野 景太／沼田 里衣			

●科目の主題

文化資源学を研究する際の基礎的な視点と方法を確立するための指導を行う。履修者各自の研究課題の発表と、その内容に基づく討論を基本スタイルとし、個々の問題関心の深化、調査・研究方法の確立を促す。

●到達目標

文化資源学を研究する際の基礎的な視点と方法を確立する。

●授業内容・授業計画

第1回:イントロダクション1

第2回:イントロダクション2

第3回:受講学生の発表とディスカッション(1)

第4回:受講学生の発表とディスカッション(2)

第5回:受講学生の発表とディスカッション(3)

第6回:受講学生の発表とディスカッション(4)

第7回:受講学生の発表とディスカッション(5)

第8回:受講学生の発表とディスカッション(6)

第9回:受講学生の発表とディスカッション(7)

第10回:受講学生の発表とディスカッション(8)

第11回:受講学生の発表とディスカッション(9)

第12回:受講学生の発表とディスカッション(10)

第13回:受講学生の発表とディスカッション(11)

第14回:総括

●事前・事後学習の内容

発表準備および事後の指導を踏まえた復習などにおおむね4時間程度を必要とする。

●評価方法

発表内容等により評価。

●受講生へのコメント

文化資源学は学際的な学問であり、範囲は非常に広い。履修者それぞれの発表内容について関心を持ち、自己の研究テーマに活かす努力をすること。また発表後の討論に積極的に参加すること。

●参考文献・教材

授業内で適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LECRS2512	授業コード	LM21120010
文化資源学総合研究Ⅱ Comprehensive Study of Cultural Resources Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	菅原 真弓／小田中 章浩／天野 景太／沼田 里衣			

●科目の主題

修士論文の執筆を見据え、履修者が研究課題の発表を行い、それに関して教員ならびに履修者全員が討論を行うことによって、各自の研究の深化を促す。文化資源学専修の教員全員で指導にあたる。

●到達目標

履修者の研究発表に関し、教員ならびに履修者全員の討論によって各自の研究深化を促す

●授業内容・授業計画

履修者の研究発表に基づき、担当教員が自らの専門の立場から指導を行う。また履修者全員による討論を実施する。

第1回:イントロダクション1

第2回:イントロダクション2

第3回:受講学生の発表とディスカッション(1)

第4回:受講学生の発表とディスカッション(2)

第5回:受講学生の発表とディスカッション(3)

第6回:受講学生の発表とディスカッション(4)

第7回:受講学生の発表とディスカッション(5)

第8回:受講学生の発表とディスカッション(6)

第9回:受講学生の発表とディスカッション(7)

第10回:受講学生の発表とディスカッション(8)

第11回:受講学生の発表とディスカッション(9)

第12回:受講学生の発表とディスカッション(10)

第13回:受講学生の発表とディスカッション(11)

第14回:総括

●事前・事後学習の内容

発表準備および事後の指導を踏まえた復習などにおおむね4時間程度を必要とする。

●評価方法

発表内容等により評価。

●受講生へのコメント

文化資源学は学際的な学問であり、範囲は非常に広い。履修者それぞれの発表内容について関心を持ち、自己の研究テーマに活かす努力をすること。また発表後の討論に積極的に参加すること。

●参考文献・教材

授業内で適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LECRS3601	授業コード	LM21130010
文化資源学研究指導Ⅰ Supervision of Master's Thesis inCultural Resource Study I			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	菅原　真弓／小田中　章浩			

●科目の主題

文化資源学専修において修士論文を執筆する前期博士課程の学生のために、論文作成に関する全般的な指導を行う科目である。履修者が研究テーマに基づく報告を行い、これに担当教員が指導を加える。テーマ設定ならびに論文執筆に関し、必要な先行研究、関連文献等の指示を行い、また方法論、リサーチの妥当性について具体的な助言を行う。さらに論文の構成や論旨の展開についても具体的に助言・指導を行う。

●到達目標

修士論文を完成させるための具体的な学びを得、文化資源学専修にふさわしい修士論文を作成することができる。

●授業内容・授業計画

第一回　イントロダクション　修士論文を書くために

第二回　文化資源学研究の方法論

第三回　受講生の発表とディスカッション

第四回　受講生の発表とディスカッション

第五回　受講生の発表とディスカッション

第六回　受講生の発表とディスカッション

第七回　受講生の発表とディスカッション

第八回　受講生の発表とディスカッション

第九回　受講生の発表とディスカッション

第十回　受講生の発表とディスカッション

第十一回　受講生の発表とディスカッション

第十二回　受講生の発表とディスカッション

第十三回　受講生の発表とディスカッション

第十四回　まとめ　文化資源学専修の修士論文を書くために

●事前・事後学習の内容

各発表のための事前（レジュメ作成を含む）および事後学習（教員からの指導を受けての研究内容の方向性や内容の修正や深化）に、４時間以上の時間を要する。発表担当者以外は、各回の発表内容に関する予習を行い、ディスカッションをより豊かなものとするための準備を行う。事後は各回の発表内容や研究手法を自らの研究に役立たせるよう、復習を行う。こちらに関してもおおむね４時間程度を必要とする。

●評価方法

方法論、リサーチの方法、論文の構成や論旨の展開など修士論文を完成させるための具体的な事柄を理解し、修士論文を書くスキルと修士の学位を得るに足る研究内容としてまとめる能力を持つことが合格基準である。評価は、発表の際にそれぞれが作成する発表資料と発表内容（８０％）、プレゼンテーション能力（自身の研究内容をわかりやすく伝える努力、工夫をしているか、２０％）の総合で行う。

●受講生へのコメント

修士論文作成にあたっては、指導教員と相談しつつ綿密な計画を立ててのぞむこと。

●参考文献・教材

授業内で適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LECRS3602	授業コード	LM21140010
文化資源学研究指導Ⅱ Supervision of Master's Thesis inCultural Resource Study Ⅱ			単位数	2単位
授業形態	担当教員名			
演習	菅原 真弓／小田中 章浩			

●科目の主題

「文化資源学研究指導１」に続き、修士論文を完成させるための具体的な指導を行う科目である。受講者は自らの研究テーマ（修士論文で取り上げるテーマ）について研究発表を行い、各教員の指導を受ける。研究内容に関する指導に加え、論文の構成、引用文献の妥当性、論理展開の一貫性、結論の妥当性等について教員は助言を行う。

●到達目標

「文化資源学研究指導Ⅰ」に引き続き、修士論文を完成させるための具体的な学びを得、修士論文を完成させる。

●授業内容・授業計画

第一回 イントロダクション

第二回 受講学生の発表とディスカッション

第三回 受講学生の発表とディスカッション

第四回 受講学生の発表とディスカッション

第五回 受講学生の発表とディスカッション

第六回 受講学生の発表とディスカッション

第七回 受講学生の発表とディスカッション

第八回 受講学生の発表とディスカッション

第九回 受講学生の発表とディスカッション

第十回 受講学生の発表とディスカッション

第十一回 受講学生の発表とディスカッション

第十二回 受講学生の発表とディスカッション

第十三回 受講学生の発表とディスカッション

第十四回 まとめ、研究内容の総括

●事前・事後学習の内容

各発表のための事前（レジュメ作成を含む）および事後学習（教員からの指導を受けての研究内容の方向性や内容の修正や深化）に、４時間以上の時間を要する。発表担当者以外は、各回の発表内容に関する予習を行い、ディスカッションをより豊かなものとするための準備を行う。事後は各回の発表内容や研究手法を自らの研究に役立たせるよう、復習を行う。こちらに関してもおおむね４時間程度を必要とする。

●評価方法

論文の構成、引用文献の妥当性、論理展開の一貫性、結論の妥当性等、論文作成に関する事柄を深く理解し、これを自ら実践できることが合格基準である。評価は、発表の際にそれぞれが作成する発表資料と発表内容（８０％）、プレゼンテーション能力（自身の研究内容をわかりやすく伝える努力、工夫をしているか、２０％）の総合で行う。

●受講生へのコメント

修士論文作成にあたっては、指導教員と相談のうえ綿密な計画をたててのぞむこと。

●参考文献・教材

授業内で適宜指示する。

授業科目名	科目NO.	LXGEN2501	授業コード	LM17010010	
比較文化交流論 I Comparative Cultural Exchange I				単位数	2単位
授業形態	担当教員名				
講義／実習	Geerhardt KORNATOWSKI				

●科目の主題

The main focus of this course will be on comparative urbanism and the global cultural context surrounding it. In particular, it will explore alternative conceptualizations of the current urban age, and the implications for how we perceive cities and urban

●到達目標

・ The purpose of this course is to get you familiar with the social dimension of urbanization and the commonalities of contemporary urbanism on a global scale. Explicit attention will go out to concurrent issues such as inequality, real estate speculation, migration, informal markets, voluntary care networks, social movements and alternative practices in urban governance.

・ The last 10 minutes of each class will be used for discussion.

・ A one-day fieldwork in the central areas of Osaka City will be organized as a final excercise to connect the theoretical insights provided during this course with your own observations.

●授業内容・授業計画

<All classes will be held in-person>

Day 1 - Class 1: Introduction

Class 2: Theory I

Class 3: Theory II

Day 2 - Class 4: Grey zones I

Class 5: Grey zones II

Class 6: Grey zones III

Day 3 - Class 7: Solidarity I

Class 8: Solidarity II

Class 9: Solidarity II

Day 4 - Class 10 - 14 : Fieldwork in Osaka City

Class 15: Report assignment

●事前・事後学習の内容

In order to get most out of the fieldwork it is advised to review all the class handouts before heading out to the field on the fourth day. I will guide you through the areas of interest.

●評価方法

Active participation in class & fieldwork: 40%

Report assignment: 60%

●受講生へのコメント

This is a introductory course that looks at the social conditions of global urbanization. No prior knowledge of urban studies is required but an active interest in urban issues is appreciated.

●参考文献・教材

Only powerpoint and handouts. Reference sources will also be provided throughout the course.

授業科目名	科目NO.		授業コード	LM18000160
修士論文（表文） Master's Thesis			単位数	
授業形態	担当教員名			
演習	増田　聡／野末　紀之／高島　葉子			

●科目の主題

文学研究科では、修士論文を通しての学修を重視しており、ディプロマポシシーで定める学修成果を学生が修めることができるよう、修士課程の2年間をとおし、授業科目における指導のほか、専修ごとの修士論文ガイダンス、修士論文構想発表会、修士論文中間発表会など、学生どうしが切磋琢磨できる機会を設け、あわせて、きめこまかな個別指導を行う。

修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「表現文化学研究指導1」「表現文化学研究指導2」の指導によって完成させる

●到達目標

修士論文の審査基準は次のとおりであり、これを到達目標とする。

(1)修士論文は、表現文化学分野における一定の研究成果を示すものでなければならない。

(2)(評価基準)修士論文は以下の各項目について、表現文化学分野における十分な水準を満たさなければならない。

(a) 研究課題(テーマ)の学術的意義

明確な問題意識に基づき、表現文化学分野における研究の学術的意義が述べられていること。

(b) 研究課題の的確性

研究目的に応じた的確な課題が設定されていること。

(c) 研究方法の妥当性

研究を遂行する上で、適切な研究手法がもちいられていること。

(d) 先行研究との関連

当該専門分野における主たる先行研究を踏まえたものであること。

(e) 資料利用の適切性

論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などが適切にもちいられていること。

(f) 論旨の一貫性

論旨が論理的に組み立てられ、一貫して展開されていること。

(g) 学術論文としての体裁

表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、表現文化学分野の慣例に従ったものであること。

(h) 研究倫理の遵守

研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、表現文化学分野が定める研究上守るべき倫理基準が満たされていること。

(3)(論文の体裁)修士論文は、論を展開する上で、表現文化学分野の特性に応じた十分な分量でなければならない。

●授業内容・授業計画

各回の授業内容の記述は「修士論文」にそぐわないので省略する。なお、「修士論文」に連動するものとして、「表現文化学研究指導1」「表現文化学研究指導2」のシラバスを参照すること。

●事前・事後学習の内容

各回の事前・事後学習内容の記述は「修士論文」にそぐわないので省略する。なお、「修士論文」に連動するものとして、「表現文化学研究指導1」「表現文化学研究指導2」のシラバスを参照すること。

●評価方法

修士論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学研究科内規」にしたがい、研究科教授会において当該専攻の教員から主査1 名、副査2名を審査員として選出した上で審査をおこなう。

2月に実施する面接試験の日時は、各専修から通知する。

修士論文審査については、文学研究科が定める「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがって実施する。

●受講生へのコメント

「修士論文」および「表現文化学研究指導1」は、修士論文を提出する年度の前期に、「表現文化学研究指導2」は後期の履修登録期間中にWeb履修登録すること。

修士論文は2年間の博士前期課程の集大成である。履修モデルとしての表現文化学の研究方法と専門知識を踏まえ、2年間の学修成果を基盤とした論文を完成させてほしい。また、学術情報総合センターの文献や機能を活用し、複数の教員や同学年・異学年の学生と頻繁に議論を進めながら、互いに切磋琢磨して研究を深めてほしい。

●参考文献・教材

各自が参考文献一覧を作成することになる。

授業科目名	科目NO.		授業コード	LM18000170
修士論文（アジア） Master's Thesis			単位数	
授業形態	担当教員名			
演習	多和田　裕司／松浦　恆雄／堀　まどか			

●科目の主題

文学研究科では、修士論文を通しての学修を重視しており、ディプロマポシシーで定める学修成果を学生が修めることができるよう、修士課程の2年間をとおし、授業科目における指導のほか、専修ごとの修士論文ガイダンス、修士論文構想発表会、修士論文中間発表会など、学生どうしが切磋琢磨できる機会を設け、あわせて、きめこまかな個別指導を行う。修士論文は、2年間にわたる学修の成果であるが、実際の執筆にあたっては、2年次の「アジア文化学研究指導Ⅰ」「アジア文化学研究指導Ⅱ」の指導によって完成させる。

●到達目標

修士論文の審査基準は次のとおりであり、これを到達目標とする。

（1）修士論文は、アジア文化学分野における一定の研究成果を示すものでなければならない。

（2）（評価基準）修士論文は以下の各項目について、アジア文化学分野における十分な水準を満たさなければならない。

(a) 研究課題（テーマ）の学術的意義
明確な問題意識に基づき、アジア文化学分野における研究の学術的意義が述べられていること。

(b) 研究課題の的確性
研究目的に応じた的確な課題が設定されていること。

(c) 研究方法の妥当性
研究を遂行する上で、適切な研究手法がもちいられていること。

(d) 先行研究との関連
当該専門分野における主たる先行研究を踏まえたものであること。

(e) 資料利用の適切性
論旨を展開するうえで、実験結果、調査結果、文献資料などが適切にもちいられていること。

(f) 論旨の一貫性
論旨が論理的に組み立てられ、一貫して展開されていること。

(g) 学術論文としての体裁
表現、表記法などが学術論文として適切であるとともに、アジア文化学分野の慣例に従ったものであること。

(h) 研究倫理の遵守
研究の目的、遂行過程、成果発表のそれぞれについて、アジア文化学分野が定める研究上守るべき倫理基準が満たされていること。

（3）（論文の体裁）修士論文は、論を展開する上で、アジア文化学分野の特性に応じた十分な分量でなければならない。

●授業内容・授業計画

※各回の授業内容の記述は「修士論文」にそぐわないので省略する。なお、「修士論文」に連動するものとして、「アジア文化学研究指導Ⅰ」「アジア文化学研究指導Ⅱ」のシラバスを参照すること。

●事前・事後学習の内容

※各回の事前・事後学習の内容の記述は「修士論文」にそぐわないので省略する。なお、「修士論文」に連動するものとして、「アジア文化学研究指導Ⅰ」「アジア文化学研究指導Ⅱ」のシラバスを参照すること。

●評価方法

修士論文は、「大阪市立大学学位規程に関する文学研究科内規」にしたがい、研究科教授会において当該専攻の教員から主査1 名、副査2名を審査員として選出した上で審査をおこなう。２月に実施する面接試験の日時は、各専修から通知する。修士論文審査については、文学研究科が定める「修士論文ならびに博士論文に関する文学研究科ガイドライン」に示す手順と評価基準にしたがって実施する。

●受講生へのコメント

「修士論文」および「アジア文化学研究指導Ⅰ」は、修士論文を提出する年度の前期に、「アジア文化学研究指導Ⅱ」